

葛飾区男女平等に関する
意識と実態調査
(結果報告書 案)

前回の速報結果からの変更点

(1) 回収数及び回収率増

(前回の審議会時には集計できなかった回答を追加)

(2) 第2章「調査結果のまとめ」を追記

(3) P 2 5 6 「自由回答」を全文明記ではなく、意見集約

※(審議会当日追記)(4)

第4章 葛飾区男女平等に関する意識と実態調査票

令和7年11月12日現在



目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査対象	3
3 抽出方法	3
4 調査方法	3
5 調査時期	3
6 回収結果	3
7 調査項目	4
8 報告書の見方	5
9 調査機関	5
第2章 調査結果のまとめ	7
1 基本属性	8
2 男女平等	8
3 結婚観	8
4 家庭生活	9
5 就労	10
6 ワーク・ライフ・バランス	10
7 セクシュアル・ハラスメント	11
8 DV(ドメスティック・バイオレンス)	11
9 性の表現	12
10 性の多様性	13
11 健康	13
12 学校教育	13
13 女性の社会参画	13
14 防災	14
15 施策や制度など	14
第3章 調査結果	15
1 基本属性	16
(1)性別	16
(2)年齢	16
(3)結婚の有無	17
(4)共働きの有無	18
(5)子どもの有無	19
(6)家族構成	20
2 男女平等	21
(1)男女平等社会の進捗	21
(2)男女の不平等を感じる	24
(3)男女の地位の平等感	27
3 結婚観	38
(1)結婚観	38
4 家庭生活	48
(1)家事などの分担	48
(2)男性の家庭参画の度合い	81
(3)男性の家庭参画に必要なこと	88
5 就労	91
(1)職業	91
(2)職場での男女差別	93
(3)女性の働き方についての意識	96

(4)女性の再就職に対する支援	104
(5)育児休業・介護休業の利用状況	108
(6)育児休業・介護休業の利用期間	113
(7)育児休業・介護休業を利用しなかった理由	115
6 ワーク・ライフ・バランス	121
(1)ワーク・ライフ・バランスの認知状況	121
(2)優先度の希望と現実	124
(3)ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと	130
7 セクシュアル・ハラスメント	136
(1)セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	136
(2)相談の有無	152
(3)相談先	155
(4)相談しなかった、できなかった理由	158
8 DV(ドメスティック・バイオレンス)	161
(1)DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験の有無	161
(2)相談の有無	182
(3)相談先	185
(4)相談しなかった、できなかった理由	187
(5)DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策	190
9 性の表現	194
(1)性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識	194
10 性の多様性	198
(1)性自認について悩んだことの有無	198
(2)LGBT・LGBTQ+の認知状況	202
11 健康	205
(1)性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと	205
12 学校教育	211
(1)男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと	211
13 女性の社会参画	215
(1)区議会議員等に占める女性議員数の評価	215
(2)政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因	218
(3)政治や行政への女性の参画推進に必要なこと	222
14 防災	225
(1)地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと	225
15 施策や制度など	229
(1)葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知状況	229
(2)葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向	232
(3)男女平等社会実現のために充実すべき施策	236
16 自由回答	240
(1)葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望	240
第4章 葛飾区男女平等に関する意識と実態調査票(令和7年度)	242

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

「葛飾区男女平等推進計画(第7次)」の策定にあたり、区民の男女平等に関する意識と実態について把握、分析し、計画改定の基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 調査対象

葛飾区に居住する満15歳以上の男女3,000人住民基本台帳より無作為抽出

3 抽出方法

単純無作為抽出法

4 調査方法

郵送配布－郵送回収またはインターネットによる回答(督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付)

5 調査時期

令和7年7月9日～8月11日

6 回収結果

発送(配布)数	回収数	回収率
3,000	720	24.0%

※葛飾区の人口約47万人に対し、アンケート回答数720件は統計学上有効といえます。母集団が大規模であっても、必要な標本数は誤差許容度で決まります。例えば95%信頼水準で誤差±5%以内に収めるには約400件、±4%以内なら約600件の回答が目安とされます。今回の720件はこれを上回り、誤差は約±3.7%に収まります。したがって本アンケートは、母集団の傾向を把握するのに十分な精度を持つ有効な調査結果と位置付けられます。

7 調査項目

調査項目	問番号	質問内容
基本属性	F1	性別
	F2	年齢
	F3	結婚の有無（付問：共働きの有無）
	F4	子どもの有無（付問：末子の年齢）
	F5	世帯構成
男女平等	問1	男女平等社会の進捗（付問：男女の不平等を感じる事）
	問2	男女の地位の平等感
結婚観	問3	結婚観
家庭生活	問4	家事などの分担
	問5	男性の家庭参画の度合い（付問：回答の理由）
	問6	男性の家庭参画に必要な事
就労	問7	職業（付問：職場での男女差別）
	問8	女性の働き方についての意識（付問：回答の理由）
	問9	女性の再就職に対する支援
	問10	育児休業・介護休業の利用状況 （付問：育児休業・介護休業の期間、利用しなかった理由）
ワーク・ライフ・バランス	問11	ワーク・ライフ・バランスの認知状況
	問12	優先度の希望と現実
	問13	ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な事
セクシュアル・ハラスメント	問14	セクシュアル・ハラスメントの経験の有無
	問15	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
DV(ドメスティック・バイオレンス)	問16	DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験の有無
	問17	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
	問18	DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策
性の表現	問19	性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
性の多様性	問20	性自認について悩んだ事の有無（付問：悩んだ内容＜自由回答＞）
	問21	LGBTの認知状況
健康	問22	性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要な事
学校教育	問23	男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべき事
女性の社会参画	問24	区議会議員等に占める女性議員数の評価
	問25	政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
	問26	政治や行政への女性の参画推進に必要な事
防災	問27	地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要な事
施策や制度など	問28	葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知状況
	問29	葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
	問30	男女平等社会実現のために充実すべき施策
	問31	葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望＜自由回答＞

8 報告書の見方

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示しています。それぞれの質問の回答者数は、N(Number of case)と表記しています。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)があります。
- (3) グラフ中の「全体」とは回答のあった全てを指します。ただし前問の回答で回答者を限定する質問があり、その場合、回答者数Nの数値が変わります。
- (4) 性別、年代別、就労有無別などによるクロス集計について、質問の回答から属性を分類しています。したがって、回答において無回答の方がいるため、属性の回答者数の合計は全体の回答者数と一致しません。
- (5) 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがあります。
- (6) 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略している場合があります。
- (7) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち回答者数が20未満の場合、全体結果と比率に大きな差がある選択肢であっても、本文で触れていないところがあります。

9 調査機関

株式会社グリーンエコ東京事務所

第2章 調査結果のまとめ

1 基本属性

- 性別は、「女性」が60.3%、「男性」が38.5%となっています。
- 年齢は、「60歳代(19.6%)」が最も多く、「50歳代(19.0%)」、「70歳代(18.1%)」が続いています。
- 結婚の有無は、「結婚している(62.5%)」が最も多く、「結婚していない(19.2%)」、「結婚していたが、離別・死別した(16.0%)」が続いています。
- 結婚している、またはパートナーがいる人の共働き有無は、「共働き(56.9%)」が最も多く、「共に働いていない(17.2%)」、「自分だけ働いている(11.9%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている(11.9%)」が続いています。
- 子ども有無では、「いる」が66.4%、「いない」が32.9%となっており、子どもの年齢は、「社会人(61.5%)」が最も多く、「小学生(11.1%)」、「3歳以下(9.6%)」が続いています。
- 家族構成は、「親と未婚の子ども(41.5%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(27.1%)」、「ひとり暮らし(19.0%)」が続いています。(図表1-6)

2 男女平等

- 男女平等社会の進度は、「少しは平等になってきている(46.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている(26.5%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は31.9%です。一方、「ほとんど平等になっていない」は11.9%となっています。
- 男女平等社会の進度が進んでいないと答えた人で、男女の不平等を感じる点は、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(48.8%)」が最も多く、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(48.4%)」、「議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいない(45.8%)」が続いています。
- 男女の地位の平等感について、全体では『政治の場(76.2%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(73.4%)』、『全体として、現在の日本では(75.0%)』で《男性優遇》が7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で《平等(47.6%)》が約5割台で他分野と比べて最も多くなっています。性別でみると、いずれの項目も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。また、女性は『学校教育の場』以外では、《男性優遇》が《平等》を上回っており、『政治の場(79.6%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(78.1%)』、『全体として、現在の日本では(80.2%)』で約8割を占めています。一方、男性は『家庭生活(42.6%)』、『学校教育の場』(59.2%)、『法律や制度の上(42.2%)』、『自治会やNPOなどの地域活動の場(45.5%)』で《平等》が《男性優遇》を上回っています。また、『家庭生活』では男女の差が大きく、《男性優遇》は、女性(57.8%)が男性(39.7%)を18.1%上回っています。

3 結婚観

- 結婚観について6つの考え方をたずねました。全体では、『結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい』が86.9%で最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ(73.4%)』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである(71.4%)』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(69.9%)』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

(66.7%)』となっています。一方、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』は《反対》が84.2%と8割を超えています。

性別でみると、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』は《賛成》が、女性は88.7%、男性は83.7%で、女性が多くなっています。『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対》は女性86.7%、男性80.2%で、女性が多くなっています。『夫も妻も外で働き、家事を分担するべきである』では、《賛成》は女性75.1%、男性66.8%で、女性が多くなっています。『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成》は女性73.0%、男性57.4%で、女性が多くなっています。『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成》は女性77.0%、男性58.8%で、女性が多くなっています。『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成》は女性74.9%、男性71.2%で、大きな差はありません。

4 家庭生活

- 家事などの分担についてたずねました。「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食料品・日用品の買い物(56.8%)』が最も多く、『食事の後片付け(56.4%)』、『洗濯(56.3%)』、『部屋の掃除・片付け(53.5%)』が続いています。
性別でみると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯(79.5%)』が最も多く、『食料品・日用品の買い物(74.6%)』、『食事のしたく(73.7%)』、『部屋の掃除・片付け(70.8%)』が7割台となっています。男性は『ゴミ出し(40.9%)』が4割台で最も多く、『食事の後片付け(35.6%)』、『食料品・日用品の買い物(30.2%)』が続いています。
- 育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『家族の病気の看護・介護(32.7%)』が最も多く、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(32.4%)』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席(30.6%)』が続いています。男性は『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(7.1%)』、『授業参観や保護者会への出席(6.2%)』が1割未満です。
- 家事及び育児や介護の分担について就労の有無別でみると、女性では、すべての項目で「いつもしている」割合は就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。男性では、『食事の片付け』『町内会や自治会への出席』を除いたすべての項目で「いつもしている」割合は就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。
- 男性の家庭参画の度合いについて、全体では、「配偶者・パートナーと分担する(54.4%)」が最も多く、「積極的に取り組む(28.8%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度(10.4%)」が続いています。(図表4-2-1)性別でみると、女性は「積極的に取り組む(女性:32.5%、男性:23.5%)」で男性を上回っています。またこれら回答の理由について、全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(50.7%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(37.1%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(35.8%)」が続いています。
- 男性が家事・育児・介護にさらに参加するために必要なこととして、全体では、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(63.2%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組むたいと思う気持ち(61.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(55.0%)」が続いています。

5 就労

- 就労の状況について、全体では、「正社員・正職員(35.4%)」が最も多く、「パートタイム(12.9%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.8%)」が続いています。「無職」は23.9%です。(図表5-1)性別でみると、女性は「正社員・正職員(31.6%)」が最も多く、「パートタイム(19.6%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.1%)」が続いています。男性は「正社員・正職員(42.2%)」が最も多くなっています。

何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。全体では、「特にない(53.2%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(13.6%)」、「男女の賃金格差(13.0%)」、「女性の配置場所の限定(10.4%)」が続いています。

- 女性の望ましい働き方について、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(43.9%)」が最も多く、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(35.1%)」が続いています。性別でみると、女性は、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(女性:45.9%、男性40.4%)」、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(女性:35.7%、男性:34.7%)」で男性を上回っています。

これらの回答の理由として全体では、「本人が望む働き方をすべきだと思う(74.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思う(30.8%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(30.3%)」が続いています。性別でみると、男女ともに「本人が望む働き方をすべきだと思う(女性:74.0%、男性76.2%)」が最も多く7割を超えています。

- 女性の再就職で必要なこととして、全体では、「働き方の選択肢を多くする(64.3%)」が最も多く、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(62.4%)」、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(60.3%)」、「多様な労働条件(59.4%)」が続いています。
- 育児休業・介護休業の利用状況について、育児休暇では、「利用したことがある」が12.1%、「利用したことはない」が50.6%となっています。性別でみると、「利用したことがある」は女性が16.8%、男性が5.1%となっています。介護休業では、「利用したことがある」が1.5%、「利用したことはない」が48.3%となっています。性別でみると、「利用したことがある」が女性は1.2%、男性は1.8%となっています。
- 育児休業を利用していない人の理由として、「出産前に離職した(23.1%)」が最も多く、「対象ではない(21.7%)」、「前例がない(15.1%)」、「配偶者など自分以外に子どもをみってくれる人がいた(14.6%)」、「職場に代替要員がない(12.6%)」が続いています。介護休業を利用していない人の理由として、「対象ではない(37.6%)」が最も多く、「介護サービス利用など自分以外に介護してくれる人がいた(13.1%)」、「職場に代替要員がない(12.8%)」、「前例がない(12.8%)」が続いています。

6 ワーク・ライフ・バランス

- 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度は、全体では、「内容まで知っている」が38.5%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.6%となっており、両者をあわせた《認知度》は64.1%となっています。一方、「知らない」は34.0%となっています。性別でみると、《認知度》は女性が62.5%、男性が67.2%となっています。
- 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度の希望は、全体では、『「仕事」と「家庭生活」(26.9%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(21.7%)』、『「家庭生活」(15.1%)』が続いています。

- 現実の優先度は、『「仕事」と「家庭生活」(27.9%)』が最も多く、『「仕事」(18.6%)』、『「家庭生活」(16.8%)』が続いています。
- ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なことは、全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(49.3%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(47.9%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.8%)」が続いています。

7 セクシュアル・ハラスメント

- 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(14.0%)」が最も多く、「「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.9%)」、「宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(11.9%)」が続いています。
- 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、「「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(7.2%)」と「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(7.5%)」が多くなっています。
- 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、「「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(6.0%)」、「不必要に身体を触られた(4.9%)」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(4.7%)」が多くなっています。
- SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねたところ、全体では、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(6.1%)」、「「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(4.3%)」が多くなっています。
- 何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。全体では、「相談した」が29.0%、「相談しなかった(できなかった)」が65.9%となっています。性別でみると、「相談した」は女性が34.3%、男性が10.3%で、女性が男性を24.0%上回っています。

相談先は、全体では、「友人・知人に相談した(60.5%)」が最も多く、「家族に相談した(49.4%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(30.9%)」が続いています。

また、相談をしていない人にその理由をたずねたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(45.1%)」、「相談しても無駄だと思ったから(42.4%)」が4割を超えています。(図表7-4-1)

8 DV(ドメスティック・バイオレンス)

- DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験をたずねました。全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(14.1%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(8.4%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(8.2%)』、『何を言っても無視される(7.2%)』が続いています。

性別でみると、女性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(18.9%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(10.6%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(10.4%)』、『何を言っても無視される(9.2%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(8.7%)』、『嫌がっているのに性的行為を強要される(7.6%)』

が続いています。また、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は2.4%、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は2.5%となっています。

男性で『暴力を受けた経験がある』は、『大声で怒鳴られる(6.5%)』が最も多く、『容姿について傷つくようなことを言われる(4.7%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(4.3%)』が続いています。また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は0.7%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.4%となっています。

- DV(ドメスティック・バイオレンス)を見たり聞いたりしたことがあるかをたずねています。全体では『大声で怒鳴られる(3.9%)』が最も多く、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける(3.6%)』、『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(3.6%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(3.5%)』が続いています。

- DV(ドメスティック・バイオレンス)の経験がある人にその時の対応をたずねました。全体では、「相談した」が37.3%、「相談しなかった(できなかった)」が59.8%となっています。

性別でみると、「相談した」は女性が43.4%、男性が8.3%で、女性が男性を35.1%上回っています。相談先は、全体では、「友人・知人に相談した(68.3%)」が6割台で最も多く、「家族や親族に相談した(47.6%)」が続いています。

また、相談をしていない人にその理由をたずねたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思った(41.6%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(36.6%)」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った(21.8%)」、「自分にも悪いところがあると思った(18.8%)」、「相談することによって自分が不快な思いをすと思った(18.8%)」が続いています。

- DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止及び被害者支援のために必要な対策は、全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(72.8%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(60.4%)」、「緊急時の相談体制の充実(53.2%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実(48.2%)」が続いています。

9 性の表現

- 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識は、全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(31.9%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(31.4%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(25.4%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ(24.9%)」が続いています。

性別でみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(37.1%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(35.9%)」、「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ(26.7%)」が続いています。男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(28.2%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(23.5%)」が続いています。男女の違いをみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(女性:37.1%、男性:23.5%)」で13.6%、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(女性:35.9%、男性:23.1%)」で12.8%男性を上回っています。また、男性は「特に問題はない(女性:12.0%、男性:20.6%)」で女性を8.6%上回っています。

10 性の多様性

- 自分の性別に悩んだことについて、全体では、「ある」が4.3%となっています。性別でみると、女性は「ある」が5.1%、男性は「ある」が2.5%となっています。
自分の性別に悩んだことのある人の悩んだ内容は、全体では、「男らしさ・女らしさを求められた(54.8%)」が最も多く、「異性に生まれたかった(35.5%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(35.5%)」が続いています。性別でみると、女性は「男らしさ・女らしさを求められた(女性:63.6%、男性14.3%)」、「異性に生まれたかった(女性:40.9%、男性14.3%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(女性:40.9%、男性14.3%)」が男性よりも上回っています。男性は「性的指向(女性:9.1%、男性:42.9%)」が女性よりも上回っています。(図表10-1-4)
- LGBTとLGBTQ+の認知度は、全体では、「両方とも知っている」が43.6%、『「LGBT」は知っていたが、「LGBTQ+」は初めて知った』が38.5%となっています。

11 健康

- 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なことについて、全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育(66.4%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(58.8%)」、「性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実(41.9%)」、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(40.6%)」が続いています。
性別でみると、「わからない」を除くすべての項目で女性の割合が男性よりも上回っています。特に「更年期についての情報提供・相談体制の充実(女性:43.3%、男性:26.0%)」は17.3%女性が上回っています。

12 学校教育

- 男女平等社会実現のために学校教育の場で力を入れるべきことは、全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(62.1%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(54.4%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(51.3%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(43.6%)」、「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習(40.8%)」が続いています。
性別でみると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(女性:65.0%、男性:57.8%)」、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導女性:56.0%、男性:51.6%」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践女性:51.8%、男性:50.9%」が5割以上となっています。

13 女性の社会参画

- 女性の社会参画について、区議会議員等に占める女性議員数は、全体では、「男女半々くらいまで増えたほうがよい(33.8%)」が最も多く、「もう少し女性が増えたほうがよい(31.3%)」が続いて

います。「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、68.4%となっています。

- 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因は、全体では、「組織運営が男性優位である(46.4%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(35.6%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(32.9%)」、「女性の能力開発の機会が十分でない(25.8%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)(24.7%)」が続いています。
- 政治や行政への女性の参画推進に必要なことは、全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する(47.2%)」が最も多く、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する(30.6%)」、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(28.8%)」が続いています。

14 防災

- 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なことは、全体では、「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(76.5%)」が最も多く、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う(66.1%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(52.5%)」が続いています。

性別でみると、女性は性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(女性:78.3%、男性:73.6%)、食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(女性:56.0%、男性:46.9%)」などで男性を上回っています。

15 施策や制度など

- 葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)の認知度は、全体では、「知っている」が41.1%、「知らない」が55.7%となっています。(図表15-1-1) 性別でみると、女性は「知らない(51.4%)」が「知っている(44.5%)」よりも多くなっています。男性は「知らない(62.5%)」が6割を超えています。
- 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向をたずねたところ、全体では、「特にない(50.8%)」が最も多く、「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(16.1%)」、「パルフェスタ(センターまつり)、啓発誌の発行などの啓発事業(11.1%)」、「男女平等に関する図書資料室(図書や雑誌などの閲覧・利用など)(10.1%)」が続いています。
- 男女平等社会実現のために充実すべき施策は、全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(62.1%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実(48.9%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(48.6%)」が続いています。

性別でみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(女性:66.1%、男性56.0%)」が最も多く、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(50.0%)」、「子育て・育児に関する支援の充実(47.9%)」が続いています。男性は「子育て・育児に関する支援の充実(49.5%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(45.8%)」が続いています。

第3章 調査結果

1 基本属性

(1) 性別

F1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

【全体】

「女性」が60.3%、「男性」が38.5%となっています。(図表1-1)

図表 1-1 性別（全体）



(2) 年齢

F2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)

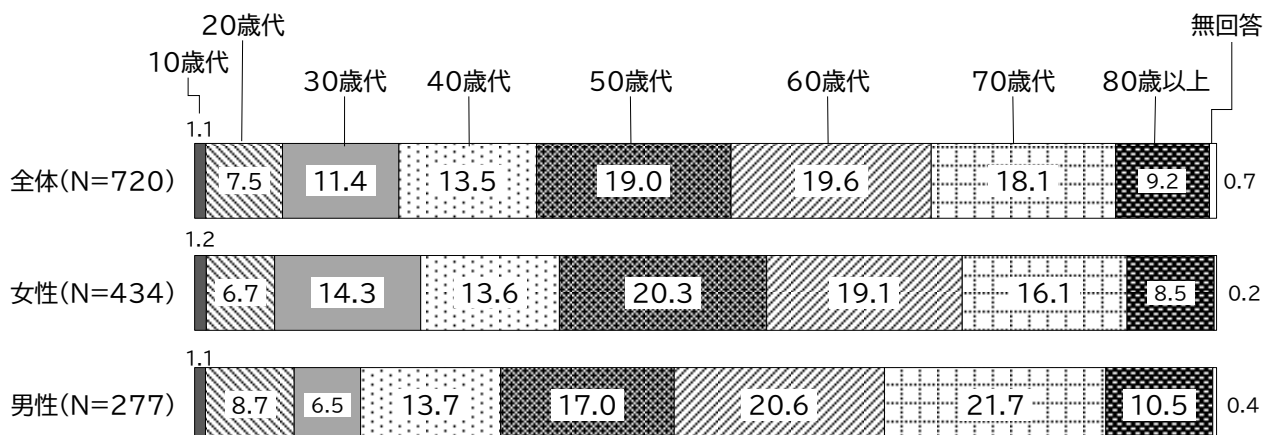
【全体】

全体では、「60歳代(19.6%)」が最も多く、「50歳代(19.0%)」、「70歳代(18.1%)」が続いています。(図表1-2)

【性別】

性別でみると、女性は「50歳代」が20.3%と最も多く、「60歳代(19.1%)」「70歳代(16.1%)」が続いています。男性は「70歳代(21.7%)」が最も多く、「60歳代(20.6%)」、「50歳代(17.0%)」が続いています。(図表1-2)

図表 1-2 年齢（全体、性別）



(3) 結婚の有無

F3 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

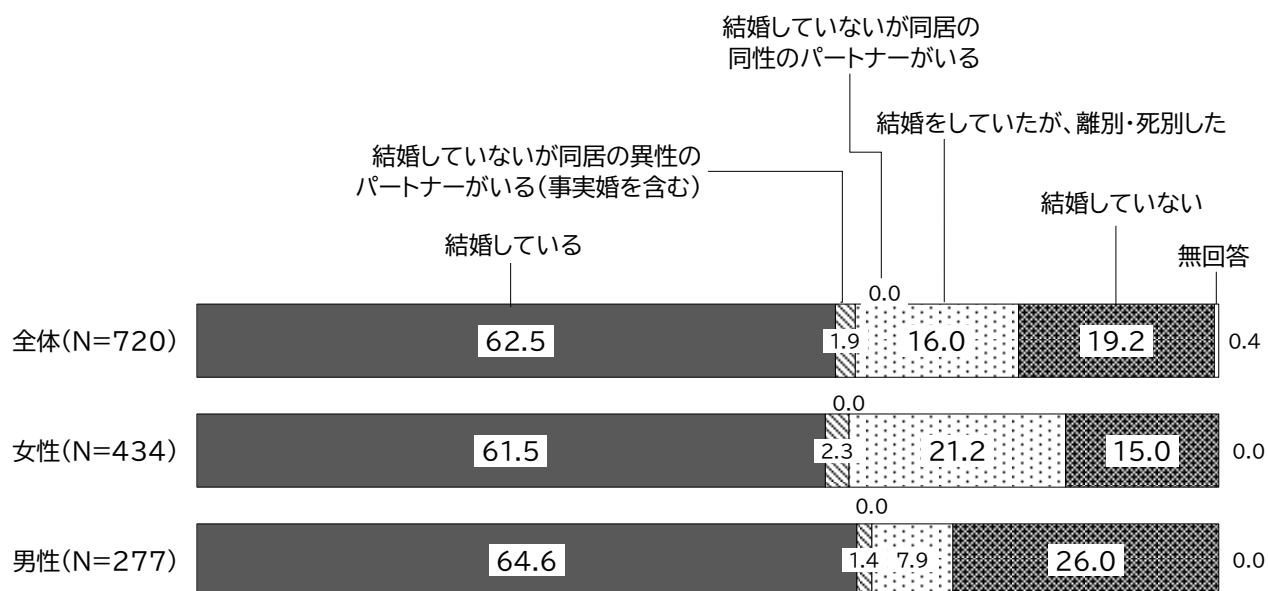
【全体】

全体では、「結婚している(62.5%)」が最も多く、「結婚していない(19.2%)」、「結婚していたが、離別・死別した(16.0%)」が続いています。(図表1-3)

【性別】

性別でみると、男女ともに「結婚している(女性:61.5%、男性:64.6%)」が最も多くなっています。次いで女性では「結婚していたが、離別・死別した(21.2%)」、男性では「結婚していない(26.0%)」が続いています。(図表1-3)

図表 1-3 結婚の有無（全体、性別）



(4) 共働きの有無

F3で1～3のいずれかをお選びの方に
F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(○は1つだけ)

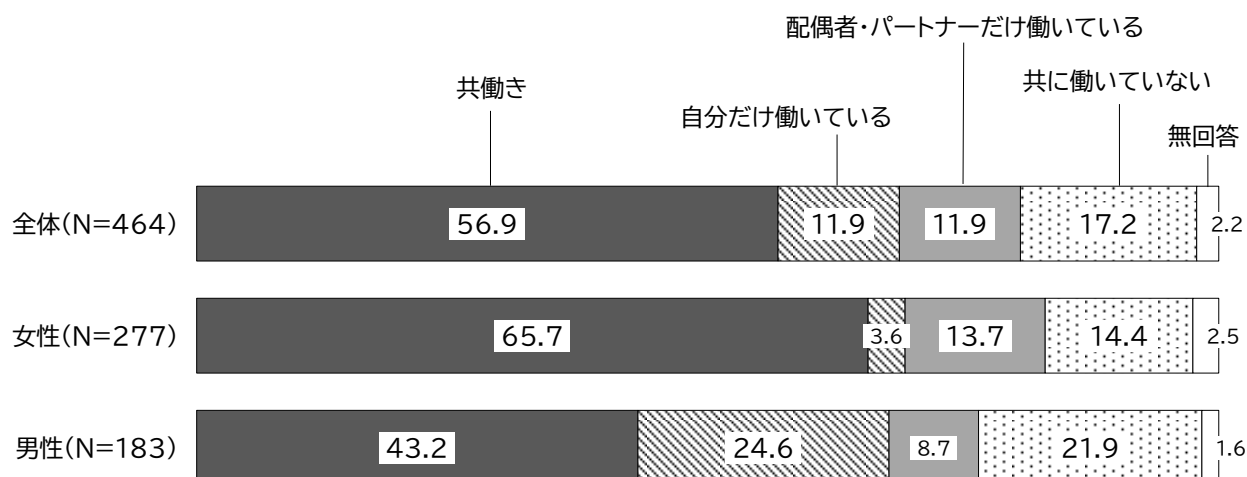
【全体】

全体では、「共働き(56.9%)」が最も多く、「共に働いていない(17.2%)」、「自分だけ働いている(11.9%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている(11.9%)」が続いています。(図表1-4)

【性別】

性別でみると、男女ともに「共働き(女性:65.7%、男性:43.2%)」が最も多くなっています。次いで女性は「共に働いていない」が14.4%、男性は「自分だけ働いている」が24.6%が続いています。(図表1-4)

図表 1-4 共働きの有無（全体、性別）
<結婚している人、結婚していないが同居のパートナーがいる人>



(5) 子どもの有無

F4 お子さんはいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

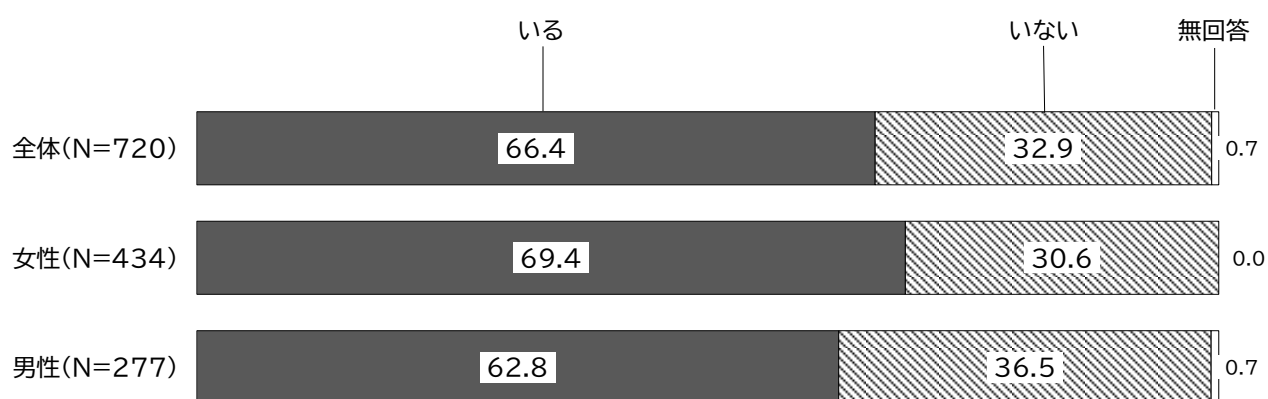
【全体】

全体では、「いる」が66.4%、「いない」が32.9%となっています。(図表1-5-1)

【性別】

性別でみると、「いる」は女性が69.4%、男性が62.8%となっています。(図表1-5-1)

図表 1-5 子どもの有無（全体、性別）



F4で「1.いる」をお選びの方に

F4-1 一番下のお子さんはいくつですか。(○は1つだけ)

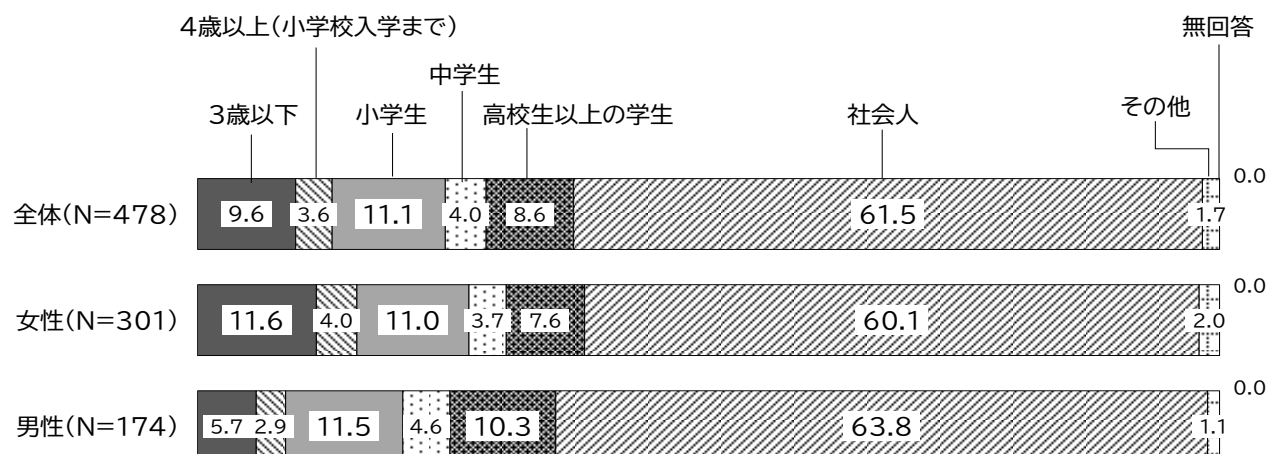
【全体】

全体では、「社会人(61.5%)」が最も多く、「小学生(11.1%)」、「3歳以下(9.6%)」が続いています。(図表1-5-2)

【性別】

性別でみると、男女ともに「社会人(女性:60.1%、男性:63.8%)」が最も多くなっています。次いで女性では「3歳以下(11.6%)」、男性では「小学生(11.5%)」が続いています。(図表1-5-2)

図表 1-5-2 末子の年齢（全体、性別）



(6) 家族構成

F5 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場(自分が親、自分が子ども)にかかわらず、世帯構成をお答えください。(○は1つだけ)

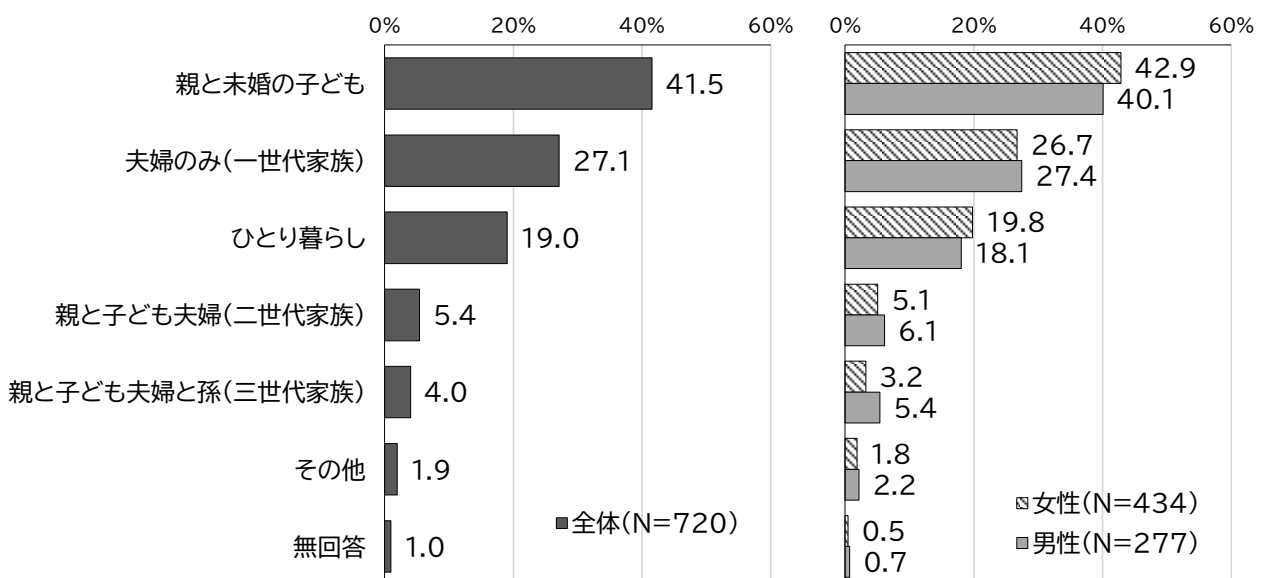
【全体】

全体では、「親と未婚の子ども(41.5%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(27.1%)」、「ひとり暮らし(19.0%)」が続いています。(図表1-6)

【性別】

性別でみると、男女ともに「親と未婚の子ども(女性:42.9%、男性:40.1%)」が最も多く、「夫婦のみ(一世代家族)(女性:26.7%、男性:27.4%)」「ひとり暮らし(女性:19.8%、男性:18.1%)」が続いています。(図表1-6)

図表 1-6 家族構成 (全体、性別)



2 男女平等

(1) 男女平等社会の進捗

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。
(○は1つだけ)

【全体】

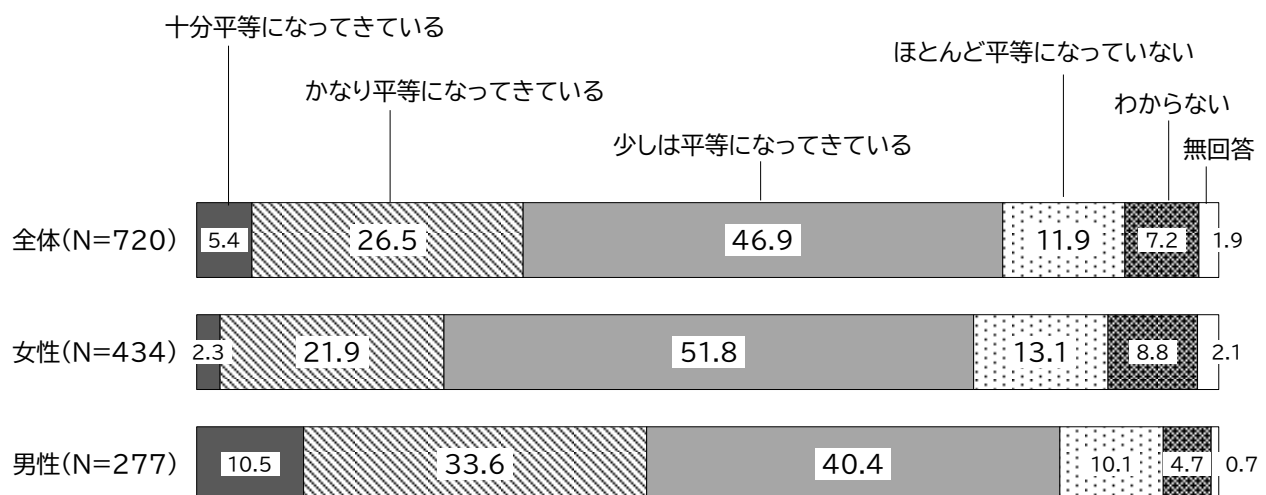
全体では、「少しは平等になってきている(46.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている(26.5%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は31.9%です。一方、「ほとんど平等になっていない」は11.9%となっています。(図表2-1-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「少しは平等になってきている(女性:51.8%、男性40.4%)」が最も多くなっています。

「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、男性(44.1%)が女性(24.2%)を19.9%上回っています。一方、「ほとんど平等になっていない」は女性(13.3%)が男性(10.1%)を3.0%上回っています。(図表2-1-1)

図表 2-1-1 男女平等社会の進捗（全体、性別）

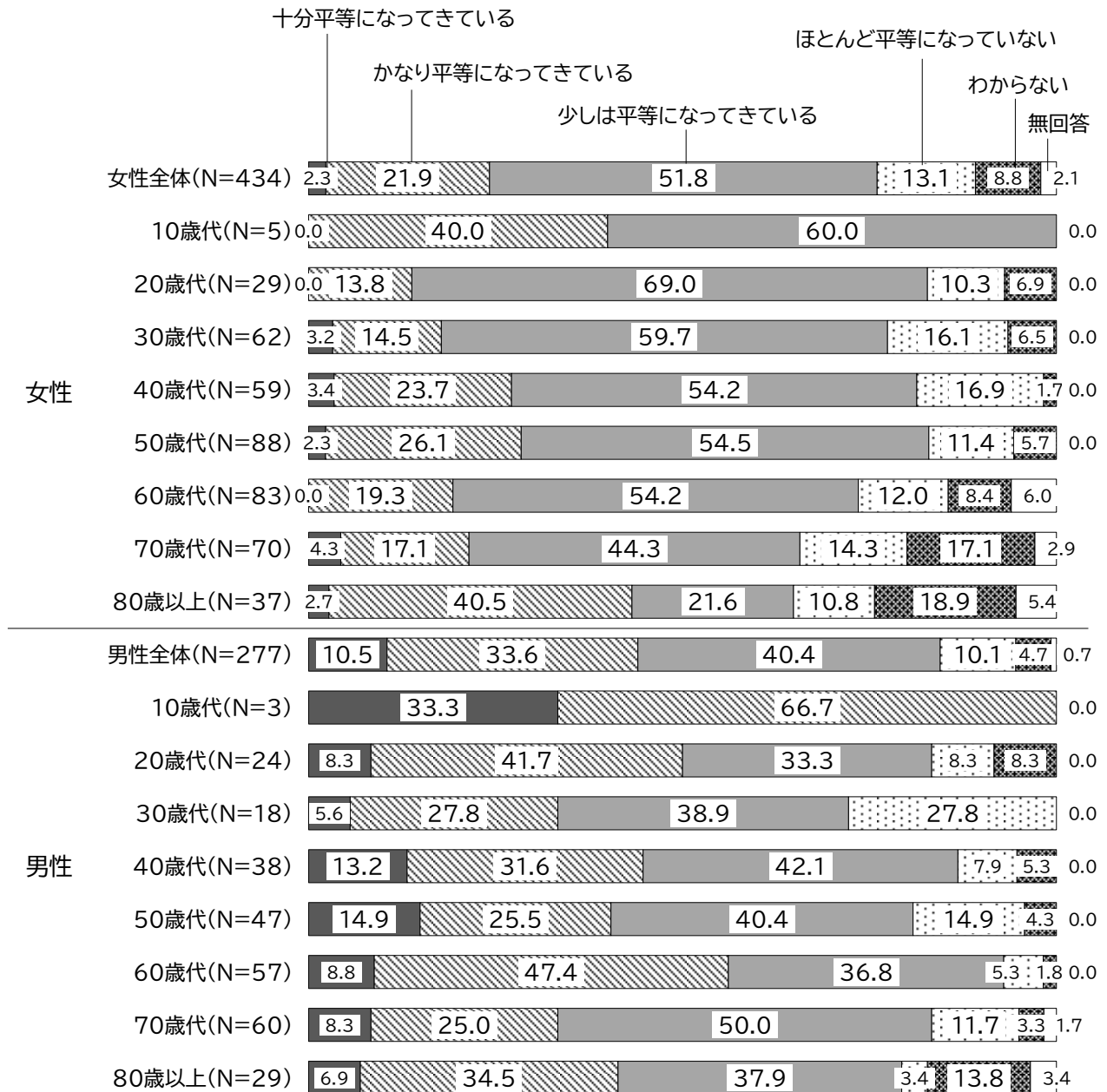


【性・年代別】

性・年代別にみると、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、女性の30歳代と40歳代と60歳代は2割未満となっていますが、男性はすべての年代で3割を超えており、60歳代では56.2%と半数を超えています。

一方、「ほとんど平等になっていない」は、女性では40歳代が16.9%、男性では30歳代が27.8%と他の年代に比べて多くなっています。(図表2-1-2)

図表 2-1-2 男女平等社会の進度（性・年代別）

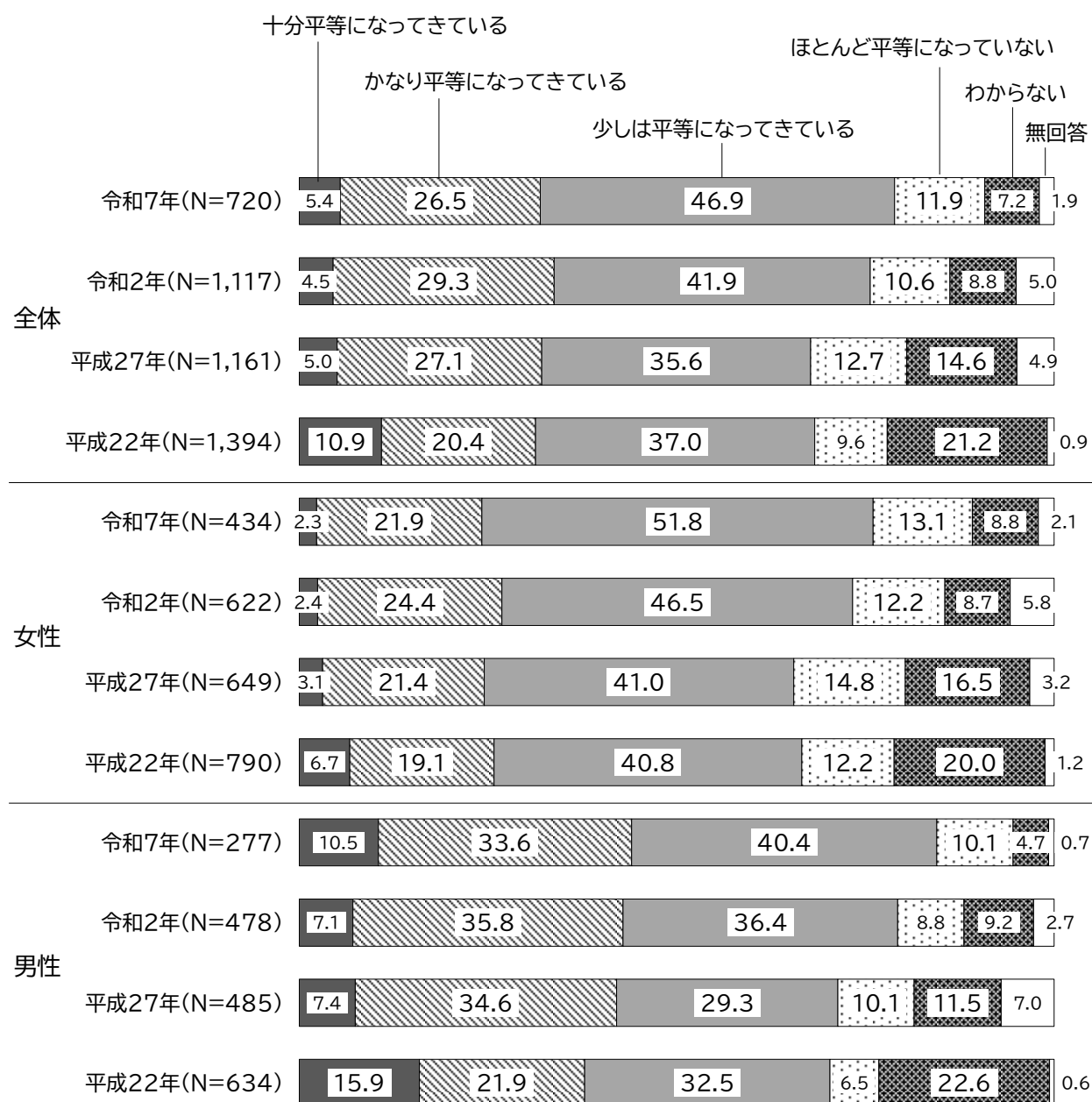


【令和2年調査、平成27年調査、平成22年調査との比較】

令和2年調査、平成27年調査、平成22年調査と比較すると、全体では、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(31.9%)が、過去調査(令和2年調査:33.8%、平成27年調査:32.1%、平成22年調査:31.3%)と大きく変わっていません。一方「少しは平等になってきている(46.9%)」は、過去調査から増えています。

性別でみると、女性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(24.2%)がやや減り、「少しは平等になってきている(51.8%)」が増えています。男性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」と「少しは平等になってきている」の合計(84.5%)が増えています。(図表2-1-3)

図表 2-1-3 男女平等社会の進捗（全体、性別、令和7年・令和2年・平成27年・平成22年調査）



(2) 男女の不平等を感じること

問1で3～4のいずれかをお選びの方に

問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。

(○はあてはまるものすべて)

【全体】

男女平等社会の進捗について、「少しは平等になってきている」「ほとんど平等になっていない」と回答した人に、不平等を感じる点をたずねました。

全体では、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(48.8%)」が最も多く、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(48.4%)」、「議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいない(45.8%)」が続いています。

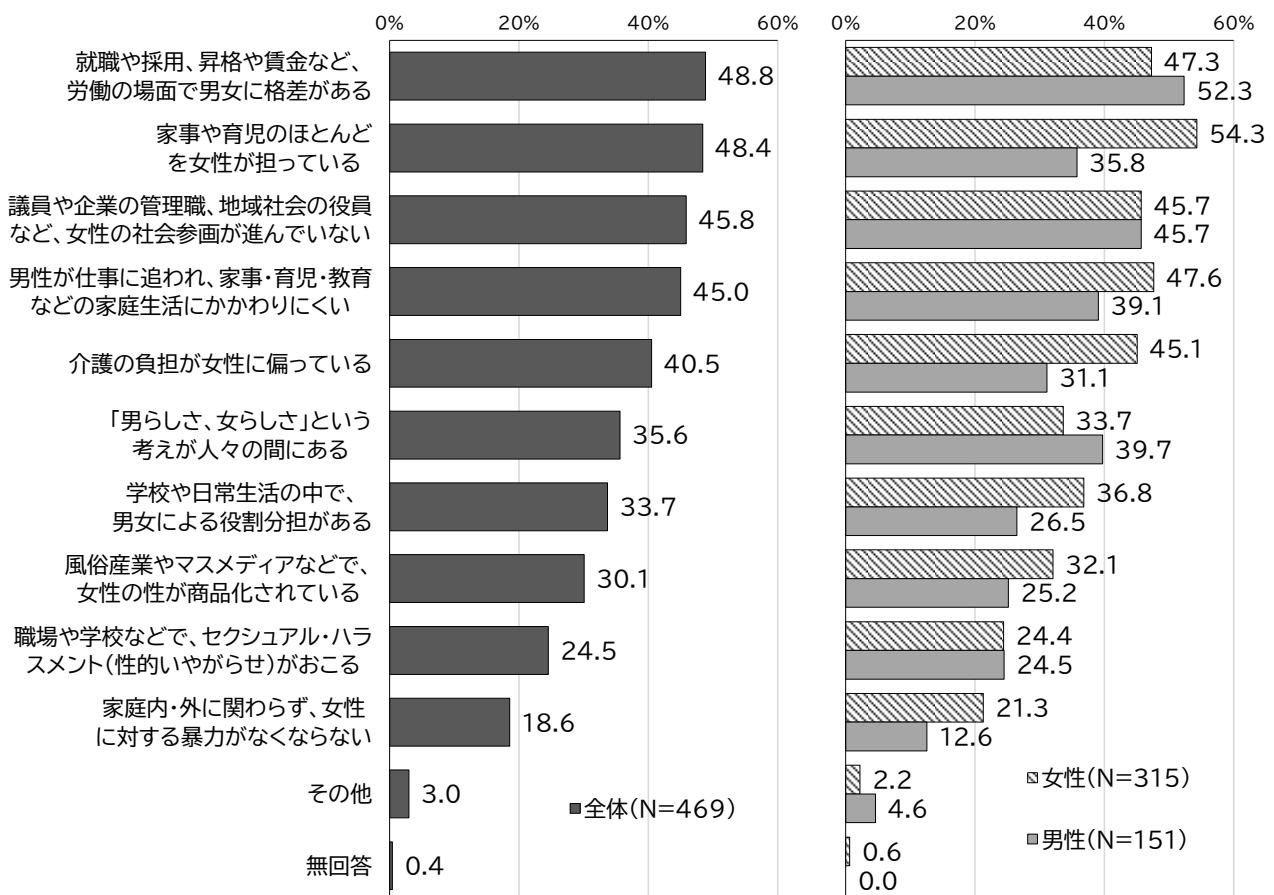
(図表2-2-1)

【性別】

性別でみると、女性は「家事や育児のほとんどを女性が担っている(54.3%)」が最も多く5割を超えています。男性は「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差がある(52.3%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「家事や育児のほとんどを女性が担っている(女性:54.3%、男性:35.8%)」、「介護の負担が女性に偏っている(女性:45.1%、男性:31.1%)」で、女性が男性をそれぞれ18.5%、14.0%上回っています。(図表2-2-1)

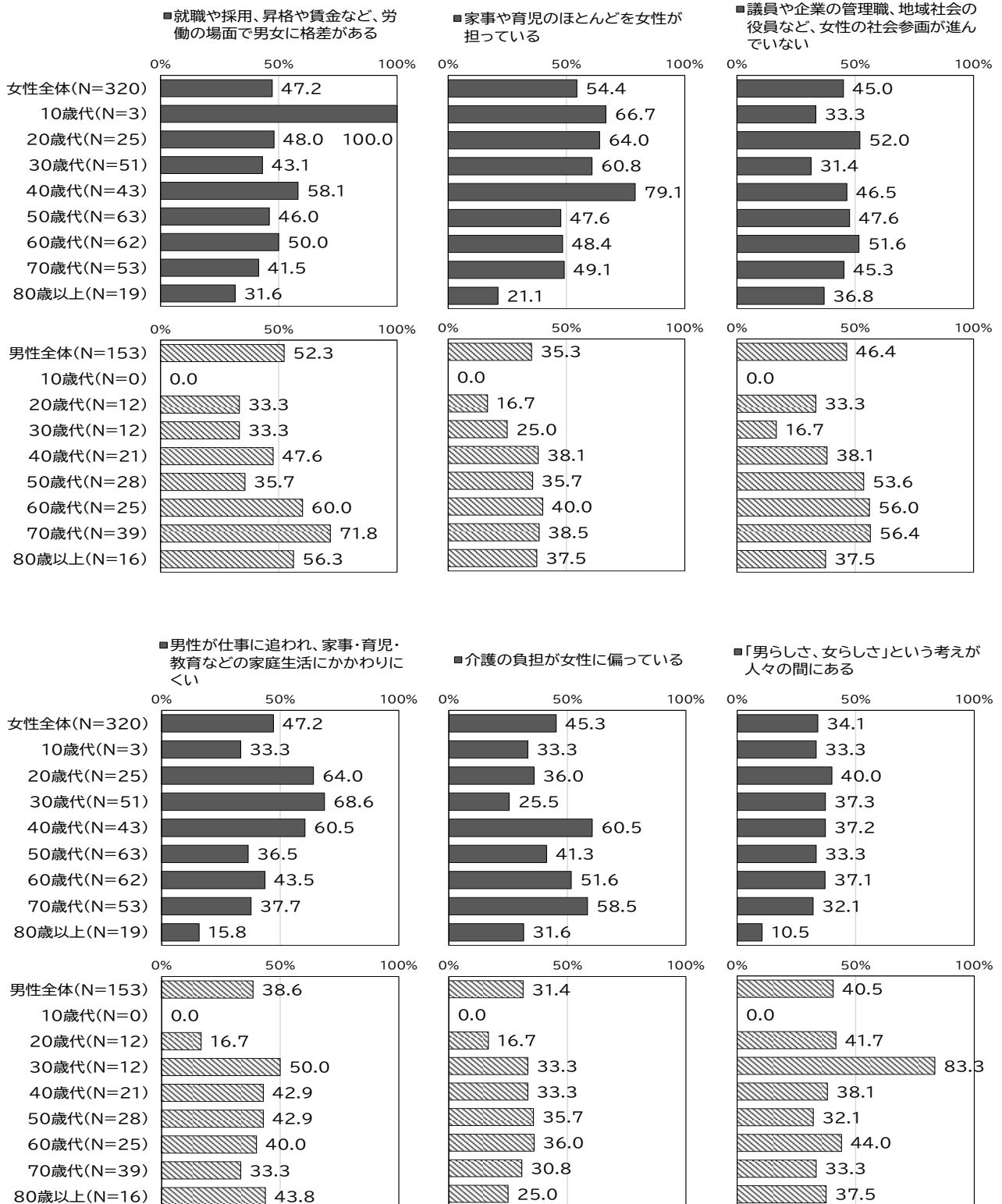
図表 2-2-1 男女の不平等を感じること（全体、性別：複数回答）
＜少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人＞



【性年代別】

性・年代別にみると、女性は40歳代で「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」で約8割となっています。男性は30歳代で「男らしさ、女らしさ」という考えが人々の間にある」が8割を超えています。（図表2-2-2）

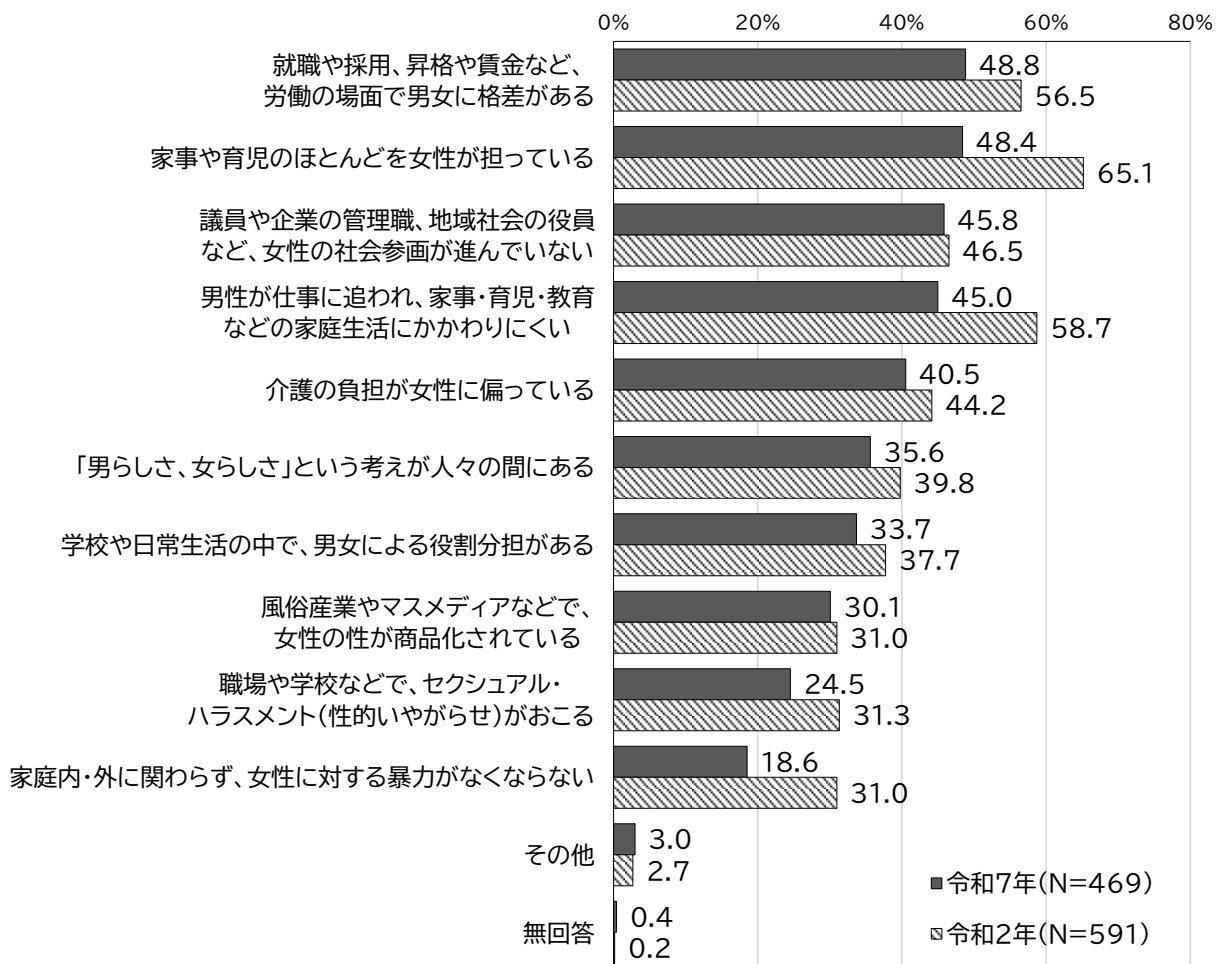
図表 2-2-2 男女の不平等を感じる事（性・年代別、上位6項目：複数回答）
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体として、割合が減少しています。特に、「家事や育児のほとんどを女性が担っている」「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活に関わりにくい」「家庭内・外に関わらず、女性に対する暴力がなくなる」が10%以上減少しています。(図表2-2-3)

図表 2-2-3 男女不平等を感じる事（全体、令和7年・令和2年調査）
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



(3) 男女の地位の平等感

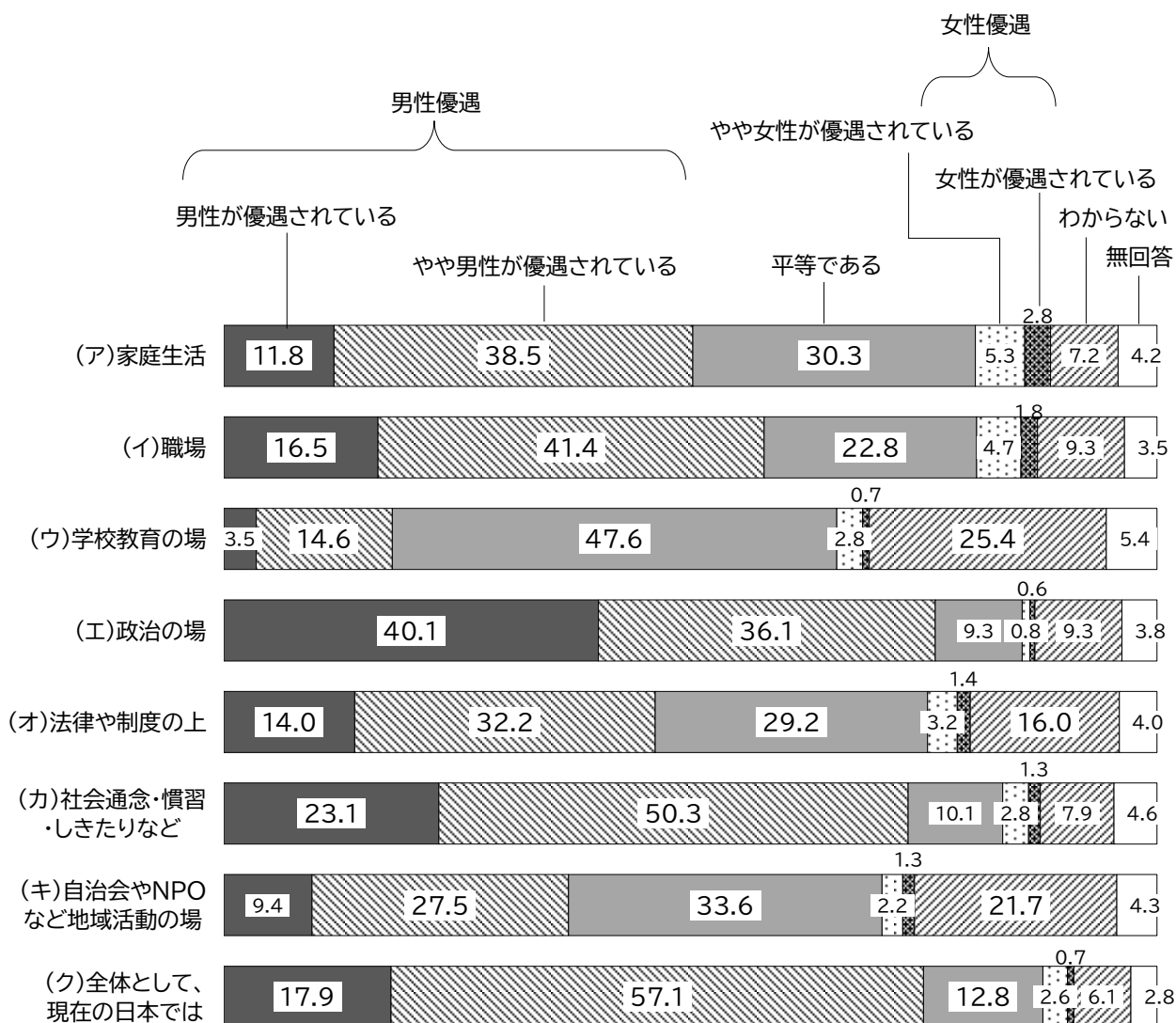
問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

7つの分野および『全体として、現在の日本では』について男女の地位の平等感をたずねました。ここでは、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」の合計を《男性優遇》、「平等である」を《平等》、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、『政治の場(76.2%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(73.4%)』、『全体として、現在の日本では(75.0%)』で《男性優遇》が7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で《平等(47.6%)》が約5割台で他分野と比べて最も多くなっています。(図表2-3-1)

図表 2-3-1 男女の地位の平等感（全体）



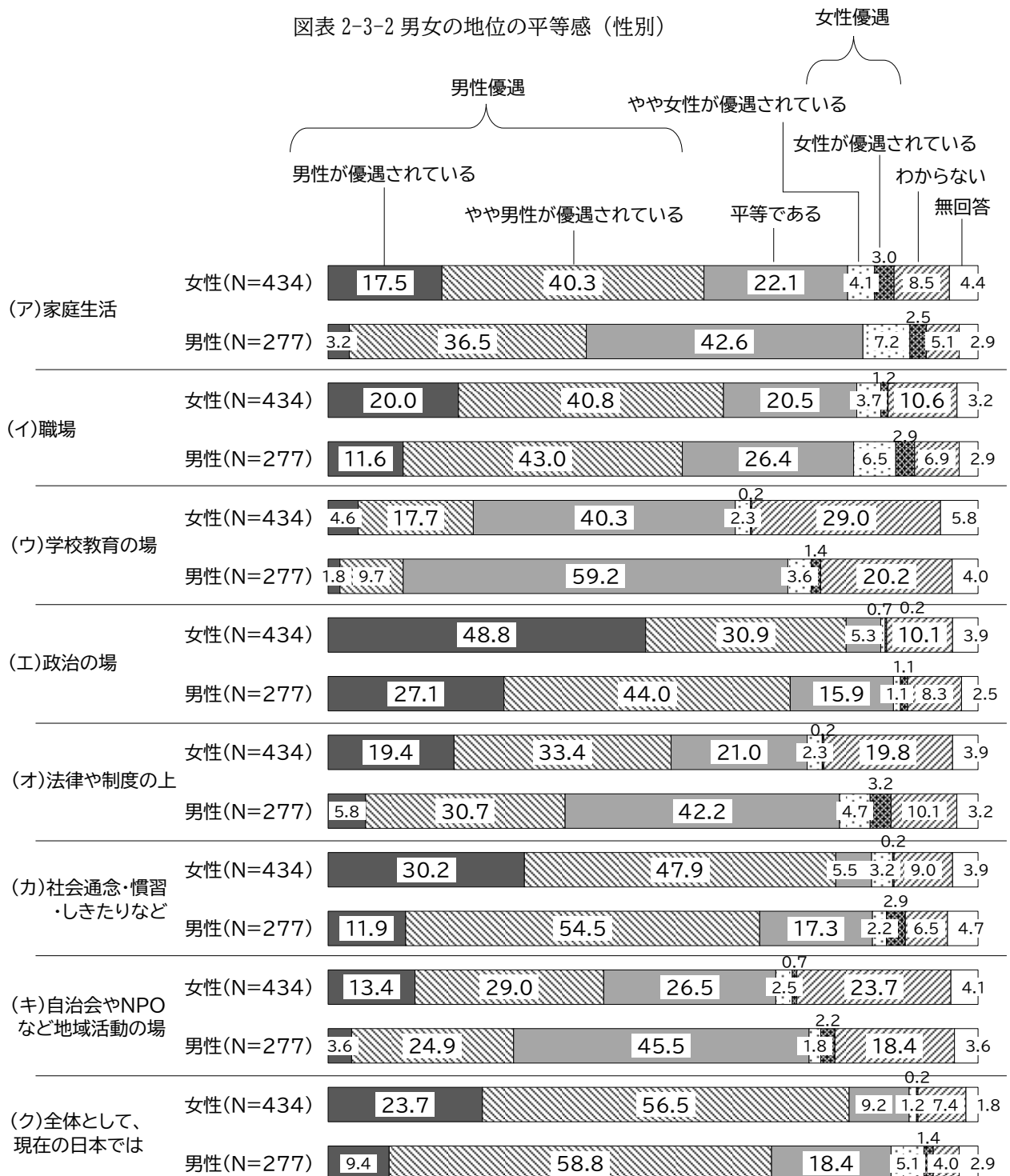
【性別】

性別でみると、いずれの項目も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。

また、女性は『学校教育の場』以外では、《男性優遇》が《平等》を上回っており、『政治の場(79.6%)』『社会通念・慣習・しきたりなど(78.1%)』『全体として、現在の日本では(80.2%)』で約8割を占めています。

一方、男性は『家庭生活(42.6%)』『学校教育の場(59.2%)』『法律や制度の上(42.2%)』『自治会やNPOなどの地域活動の場(45.5%)』で《平等》が《男性優遇》を上回っています。

また、『家庭生活』では男女の差が大きく、《男性優遇》は、女性(57.8%)が男性(39.7%)を18.1%上回っています。(図表2-3-2)

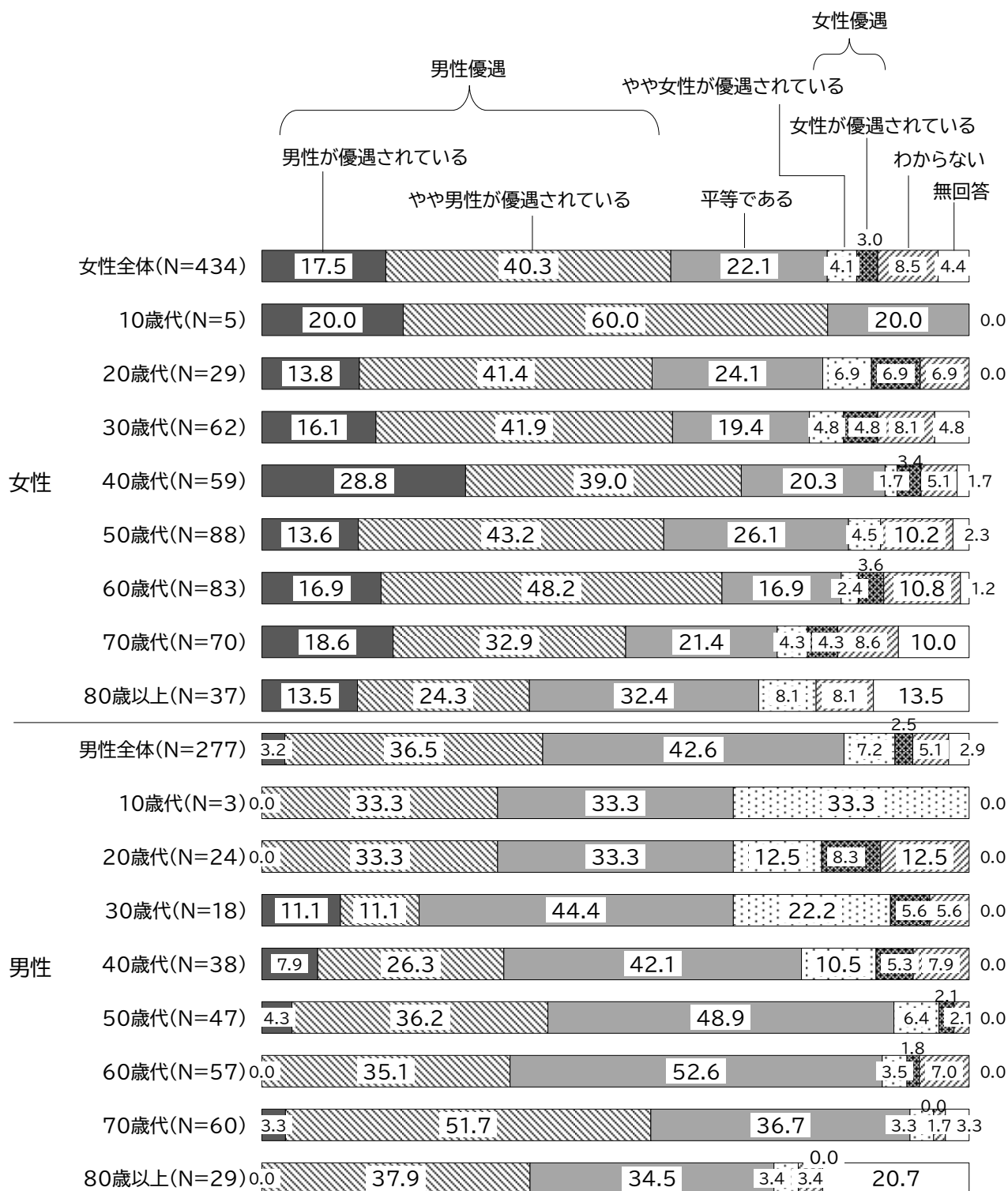


【性・年齢別】

■家庭生活

性・年代別にみると、女性は80歳代を除いたすべての年代で《男性優遇》が5割を超えています。男性は30歳代から50代で《平等》が4割以上と多くなっています。(図表2-3-3-①)

図表 2-3-3-① 男女の地位の平等感：家庭生活（性・年代別）

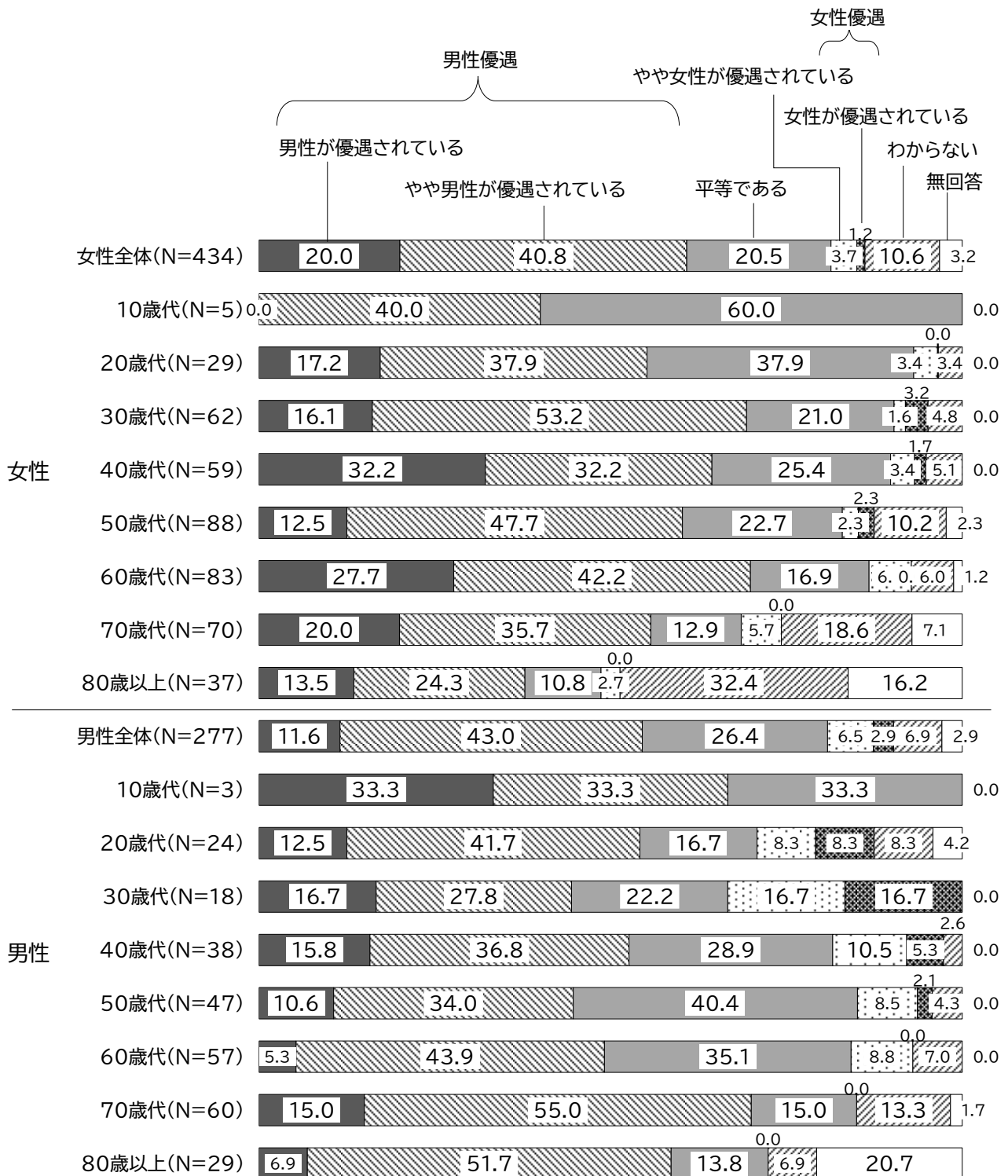


■職場

性・年代別にみると、女性は10歳代と80歳以上を除いたすべての年代で《男性優遇》が5割を超えています。

男性は70歳代で《男性優遇》が70.0%と他の年代と比べて多くなっています。《平等》は50歳代と60歳代で3割台から4割台となっています。(図表2-3-3-②)

図表 2-3-3-② 男女の地位の平等感：職場（性・年代別）

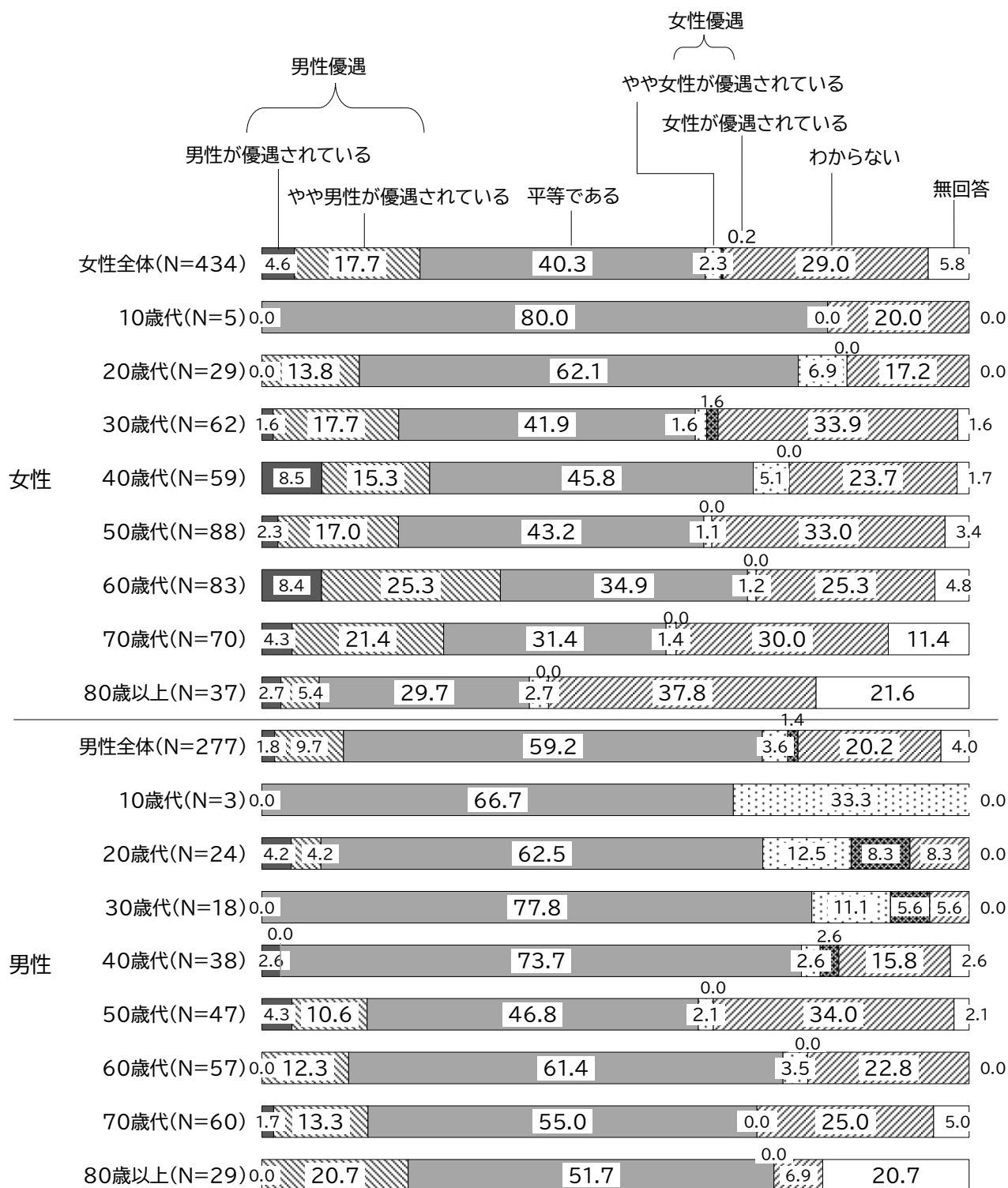


■学校教育の場

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で6割以上、それ以外の年代でも《平等》が3割台から4割台と多くなっています。

男性はすべての年代で《平等》が5割台から7割台と多くなっています。(図表2-3-3-③)

図表 2-3-3-③ 男女の地位の平等感：学校教育の場（性・年代別）

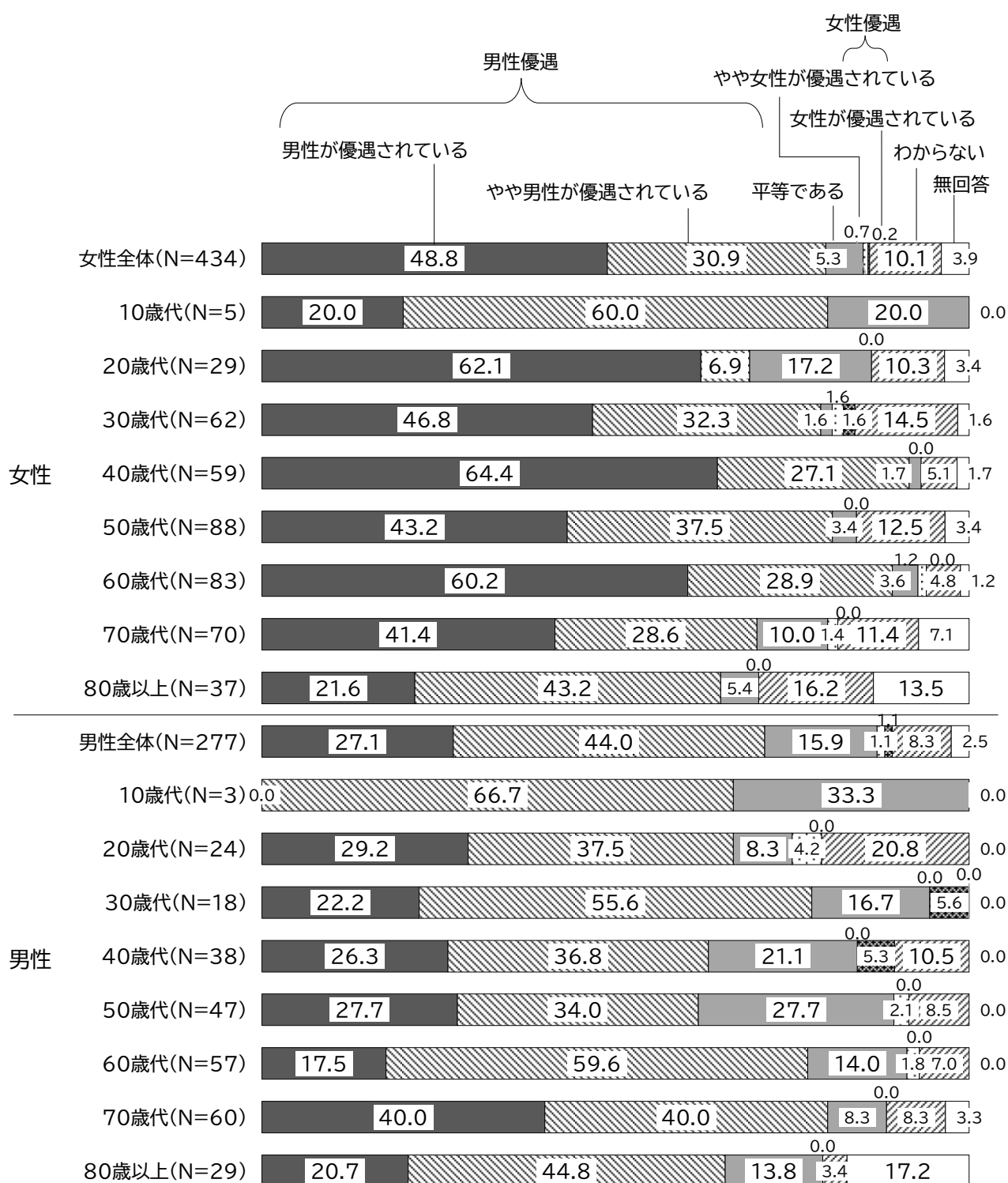


■政治の場

性・年代別にみると、女性はずべての年代で《男性優遇》が6割以上を超えており、特に10歳代・40歳代・50歳代・60歳代で8割を超えています。

男性は80歳代で《男性優遇》が8割、30歳代と60歳代で7割台となっています。(図表2-3-3-④)

図表 2-3-3-④ 男女の地位の平等感：政治の場（性・年代別）

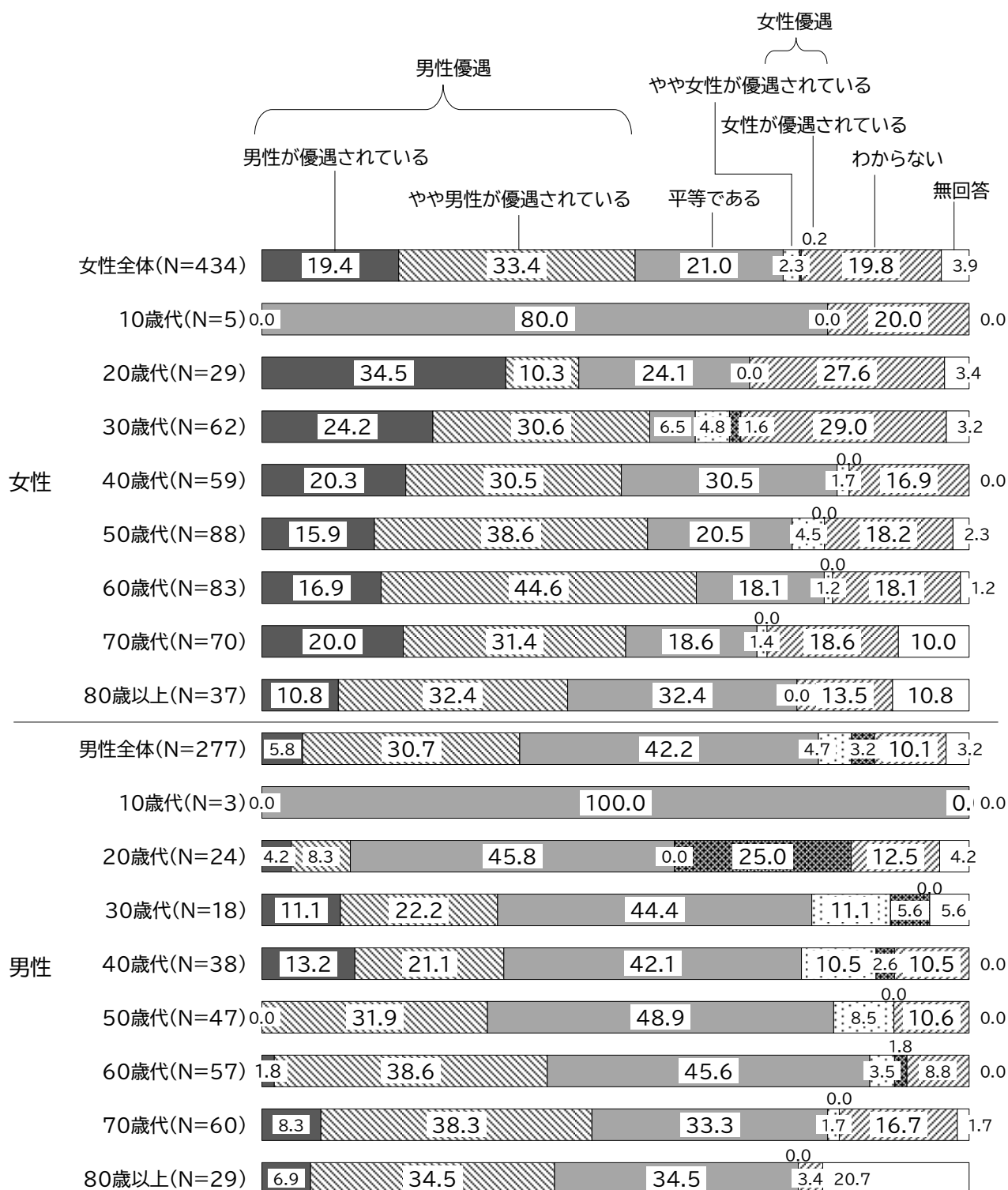


■法律や制度の上

性・年代別にみると、女性は30歳代から70歳代で《男性優遇》が5割を超えています。

男性はすべての年代で《平等》が3割以上となっており、20歳代から60歳代は4割台となっています。
(図表2-3-3-⑤)

図表 2-3-3-⑤ 男女の地位の平等感：法律や制度の上（性・年代別）

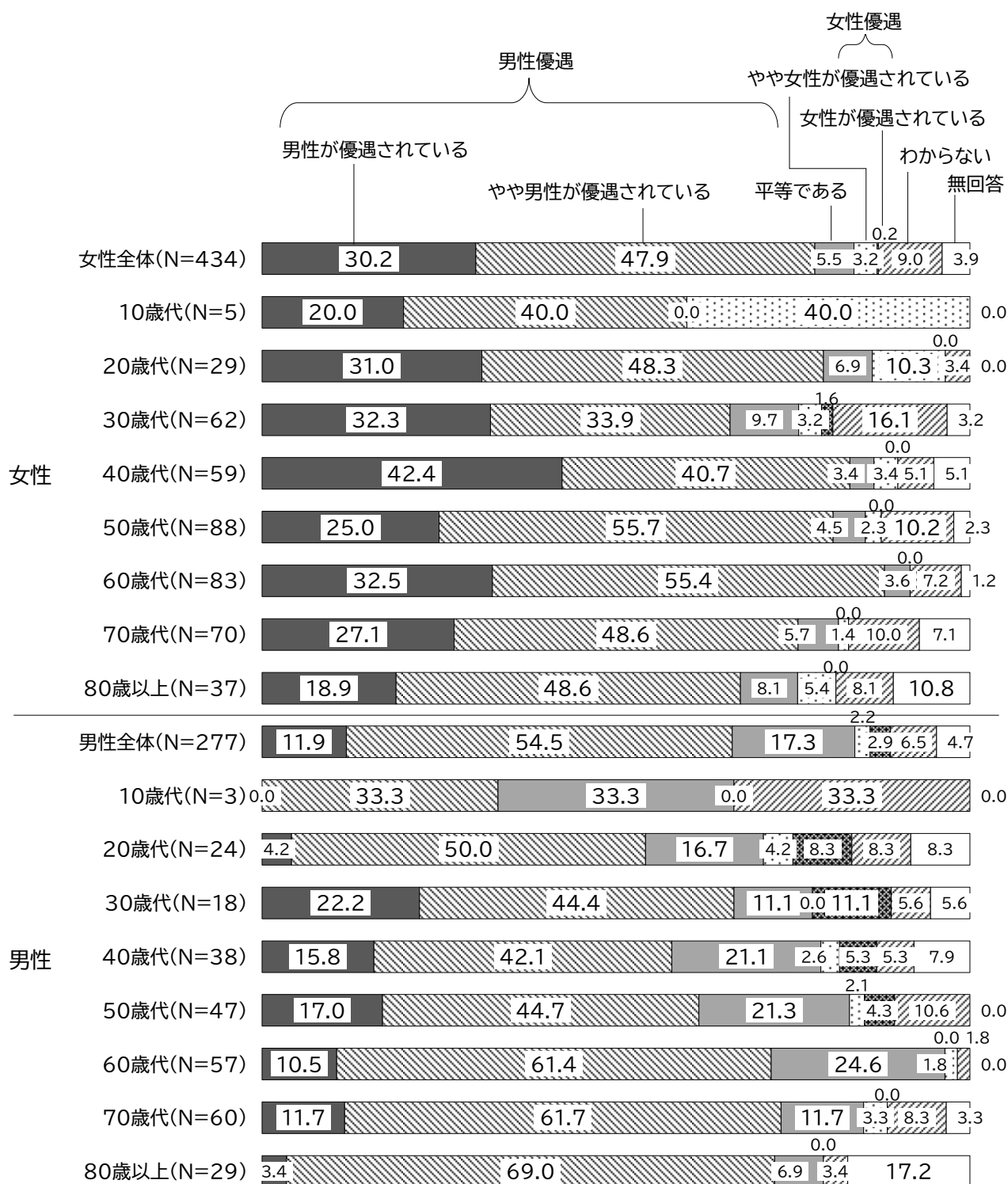


■社会通念・慣習・しきたりなど

性・年代別にみると、女性は40歳代から60歳代で《男性優遇》が8割台となっており、特に60歳代は87.9%と多くなっています。

男性は60歳代から80歳以上で《男性優遇》が7割台と多くなっています。(図表2-3-3-⑥)

図表 2-3-3-⑥ 男女の地位の平等感：社会通念・慣習・しきたりなど（性・年代別）

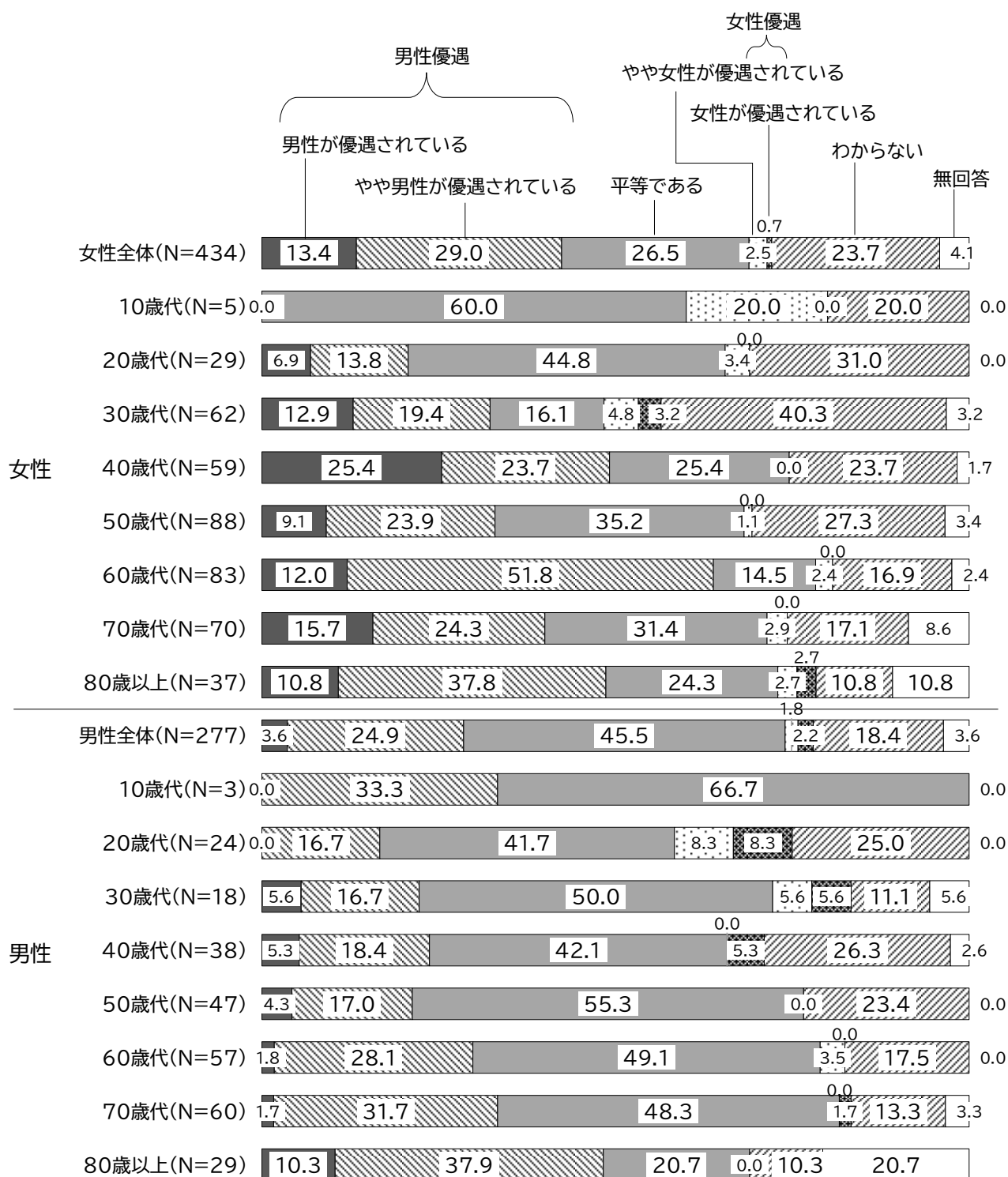


■自治会や NPO など地域活動の場

性・年代別にみると、女性は30歳代で《平等》が16.1%と他の年代と比べて少なく、《男性優遇》は63.8%と多くなっています。

男性は10歳代から70歳代で《平等》が4割以上と多くなっています。(図表2-3-3-⑦)

図表 2-3-3-⑦ 男女の地位の平等感：自治会や NPO など地域活動の場（性・年代別）

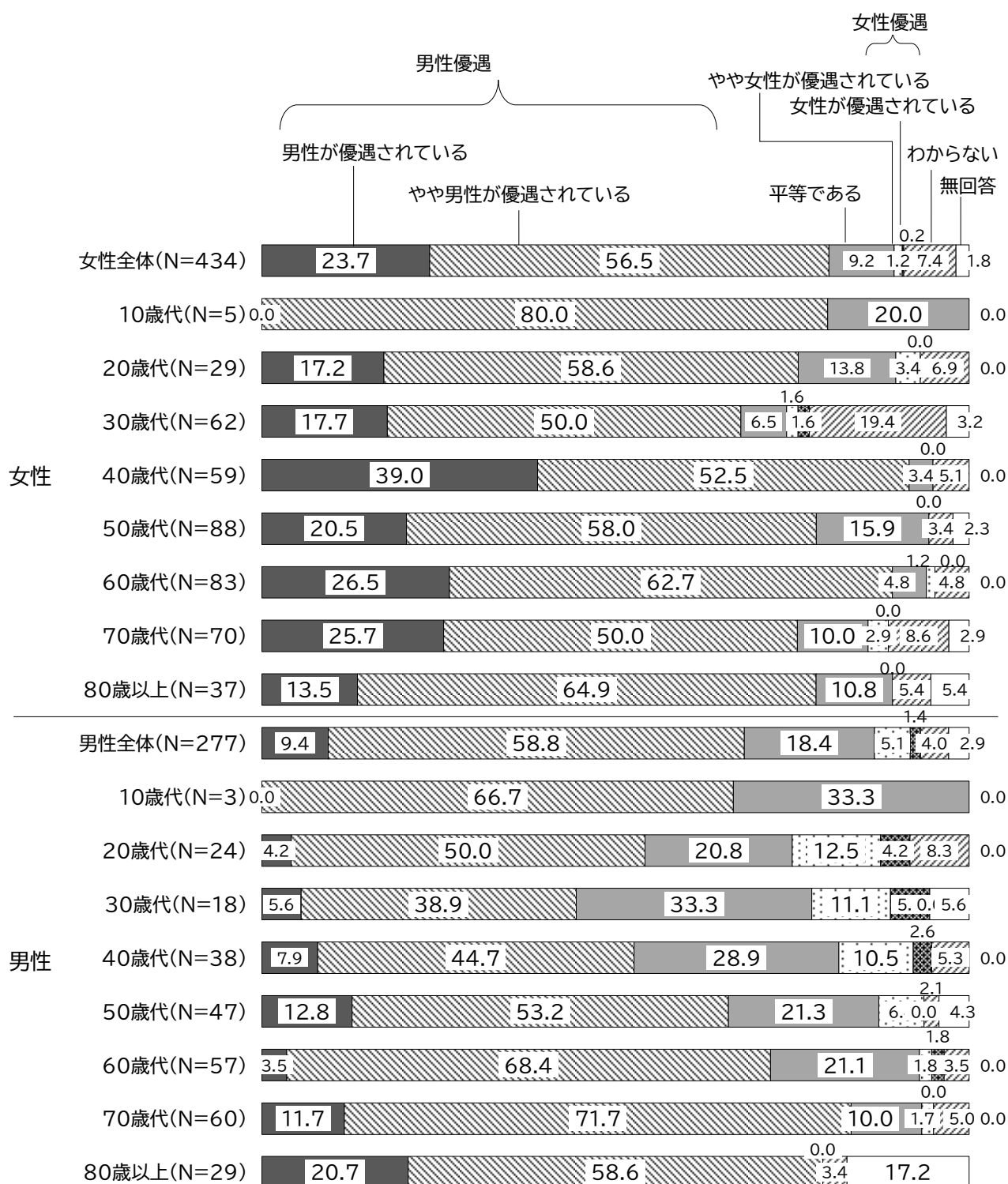


■全体として、現在の日本では

性・年代別にみると、女性はすべての年代で7割以上となっています。

男性は50歳代で《男性優遇》が44.5%と他の年代と比べて少なくなっています。(図表2-3-3-⑧)

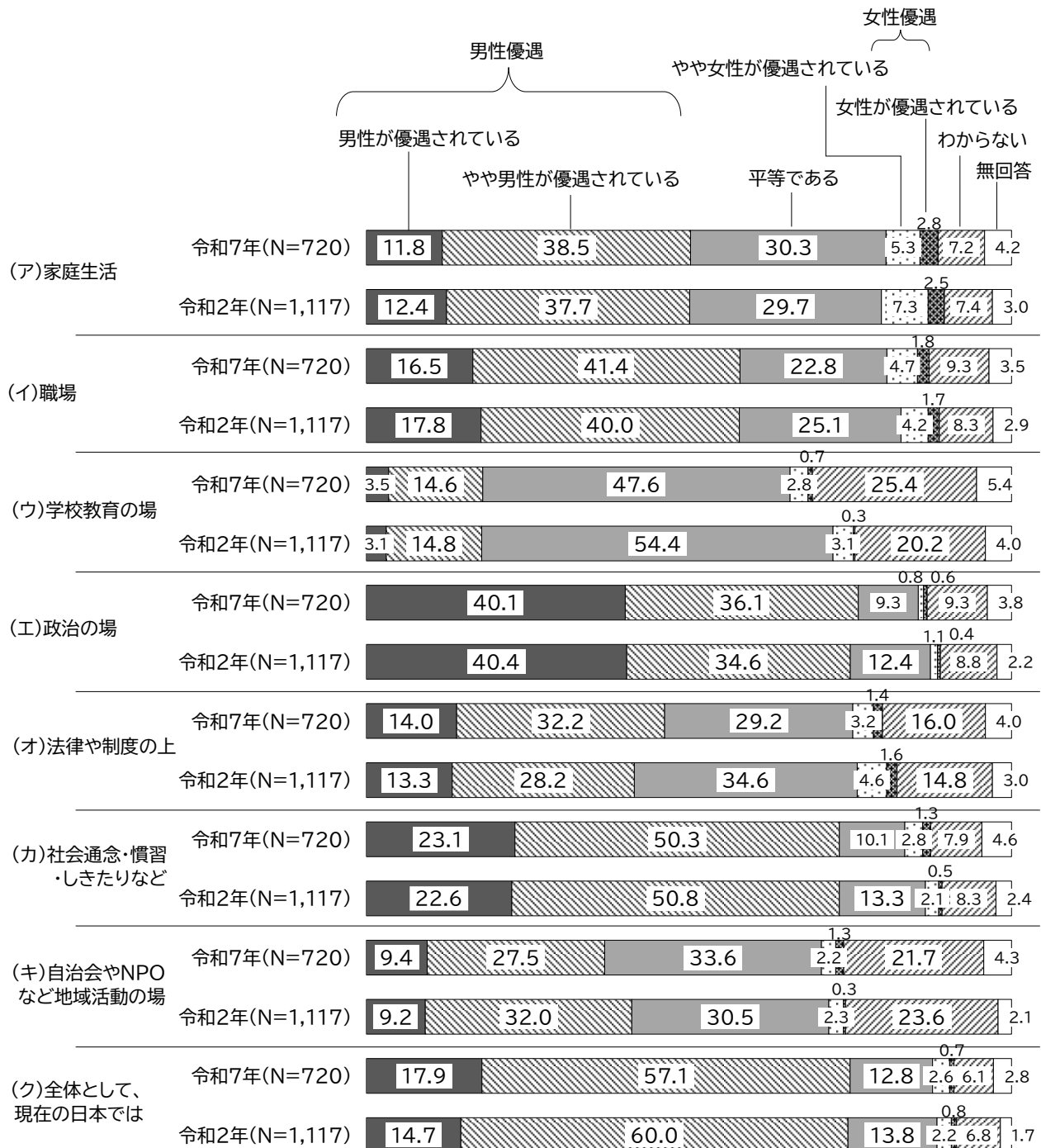
図表 2-3-3-⑧ 男女の地位の平等感：全体として、現在の日本では（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全ての分野で《男性優遇》の割合は大きな差はありませんが、「平等である」の割合が『家庭生活』、『自治会やNPOなどの地域活動の場』を除いて減少しています。（図表2-3-4）

図表 2-3-4 男女の地位の平等感（全体、令和7年・令和2年調査）



3 結婚観

(1) 結婚観

問3 次にあげる(ア)～(カ)の考えについて、あなたはどのように思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

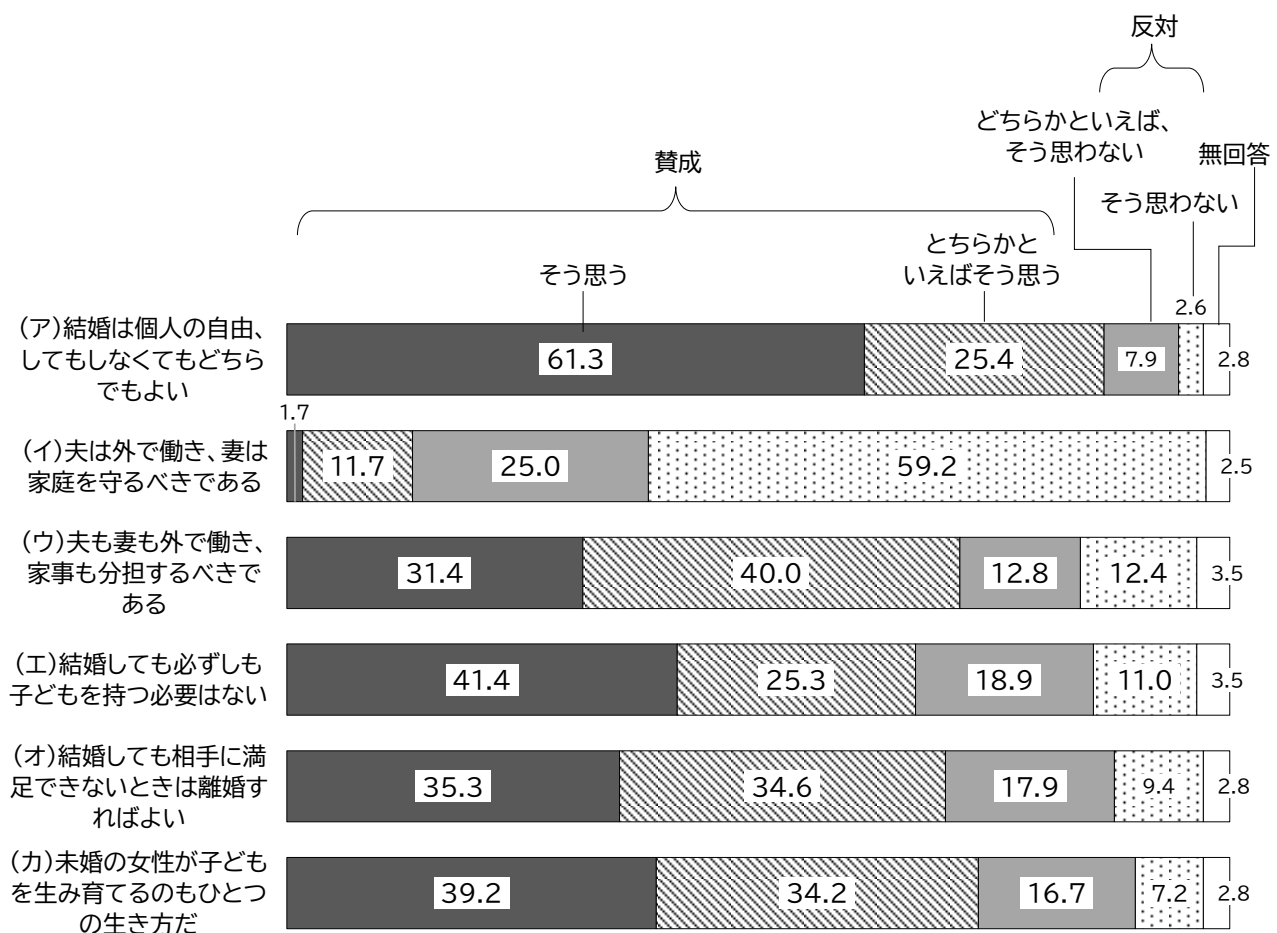
【全体】

結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を《賛成》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を《反対》としています。

《賛成》の多い順でみると、全体では『結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい』が86.9%で最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ(73.4%)』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである(71.4%)』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(69.9%)』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない(66.7%)』となっています。

一方、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』は《反対》が84.2%と8割を超えています。(図表3-1-1)

図表 3-1-1 結婚観（全体）



【性別】

性別でみると、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』は《賛成》が、女性は88.7%、男性は83.7%で、女性が多くなっています。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対》は女性86.7%、男性80.2%で、女性が多くなっています。

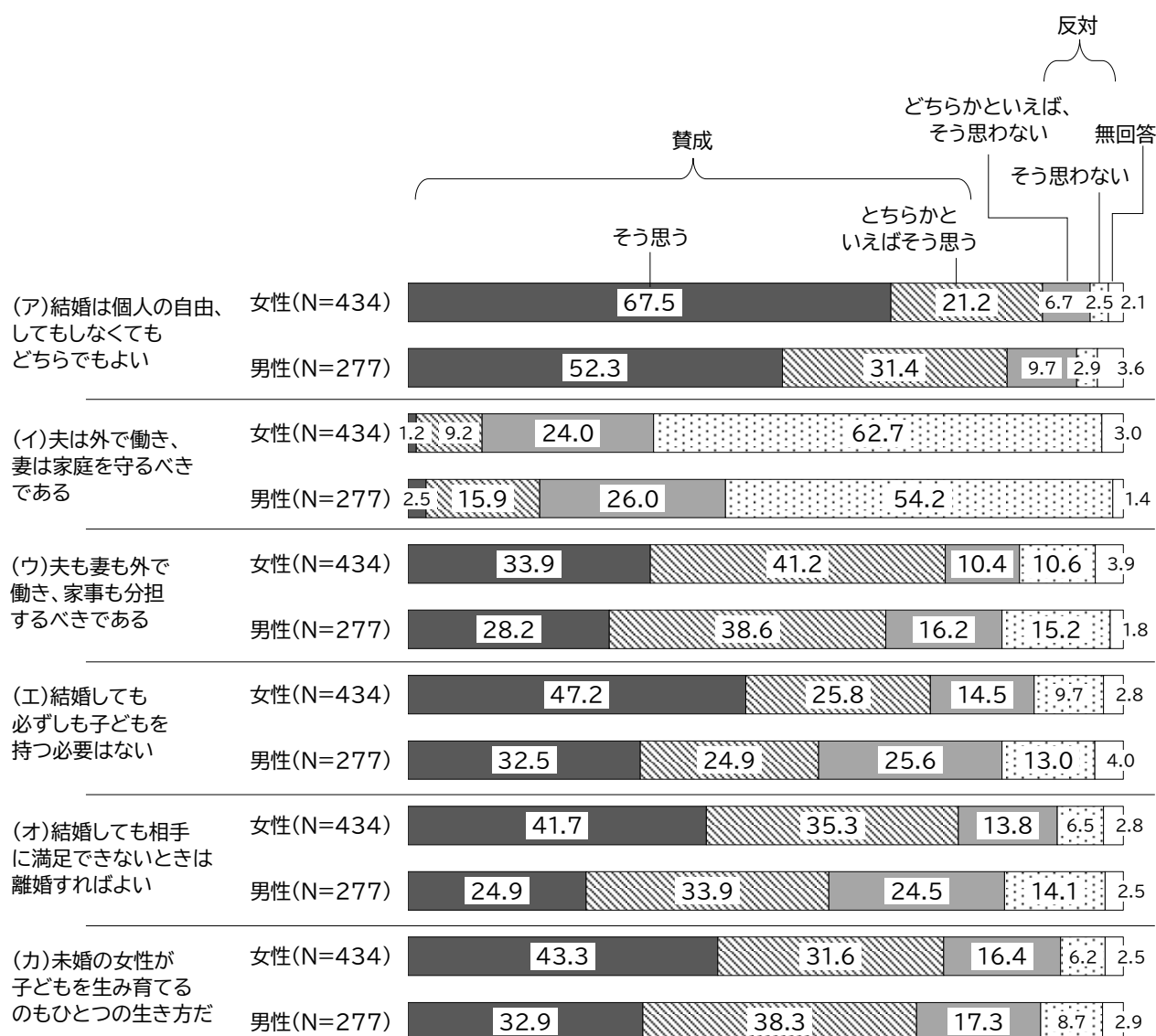
『夫も妻も外で働き、家事を分担するべきである』では、《賛成》は女性75.1%、男性66.8%で、女性が多くなっています。

『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成》は女性73.0%、男性57.4%で、女性が多くなっています。

『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成》は女性77.0%、男性58.8%で、女性が多くなっています。

『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成》は女性74.9%、男性71.2%で、大きな差はありません。(図表3-1-2)

図表 3-1-2 結婚観（性別）

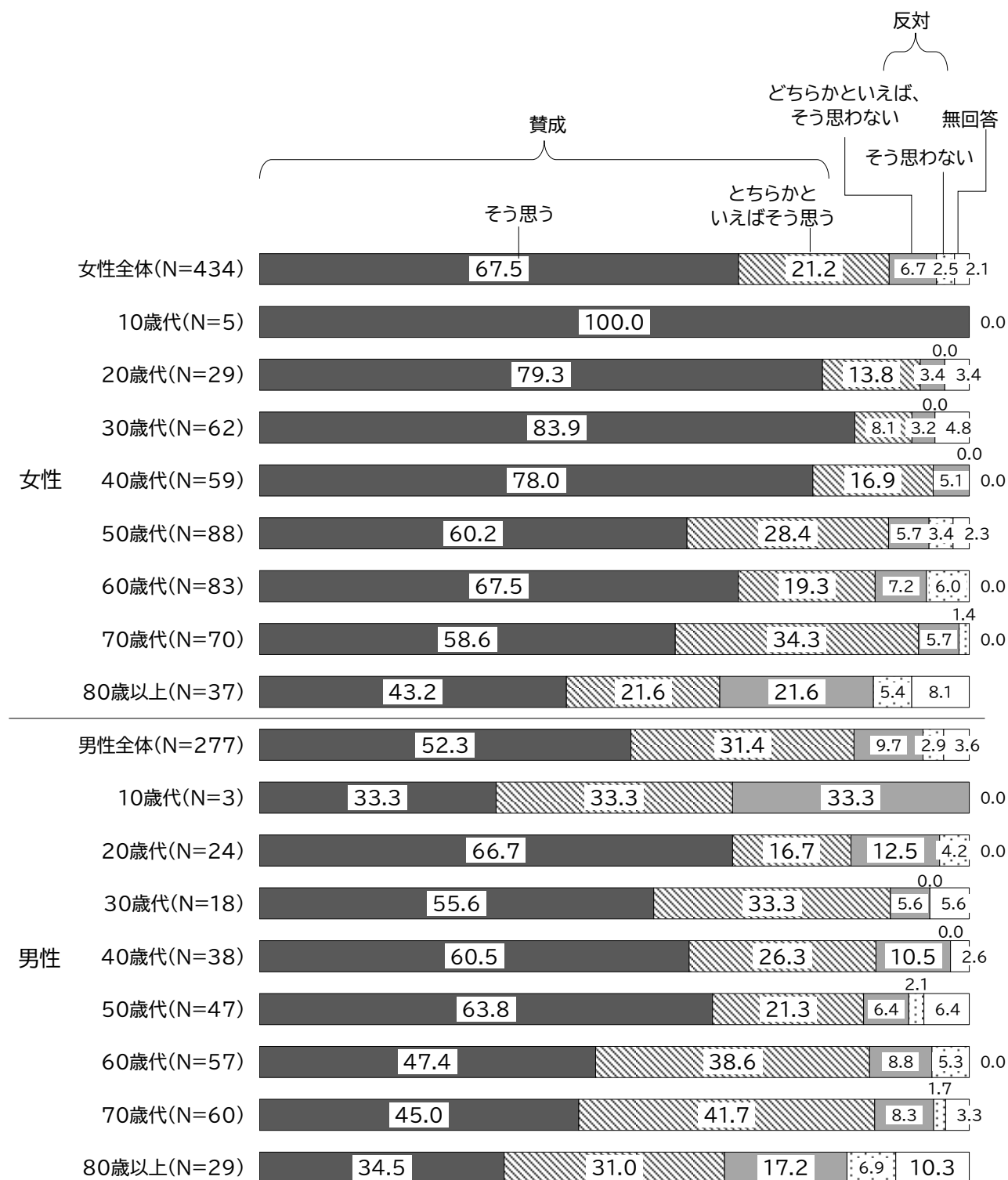


【性・年代別】

■結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい

性・年代別にみると、女性は80歳以上を除いたすべての年代で《賛成》が8割以上となっています。
男性は20歳代から70歳代で《賛成》が8割以上となっています。(図表3-1-3-①)

図表 3-1-3-① 結婚観：結婚は個人の自由、してもしなくてもどちらでもよい（性・年代別）

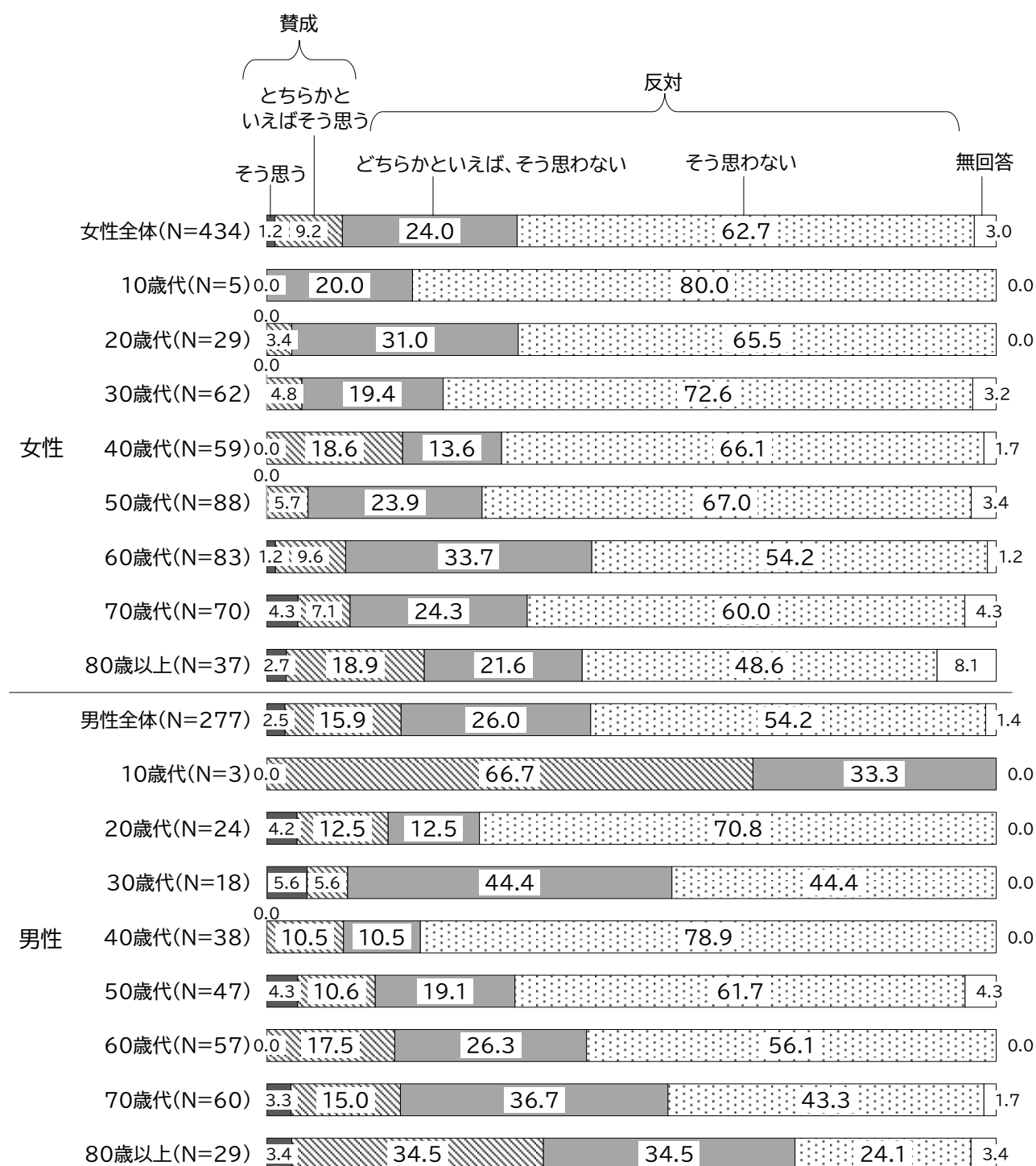


■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

性・年代別にみると、女性は《賛成》が40歳代と80歳以上で2割前後と他の年代と比べて多くなっています。

男性は《賛成》が30歳代以降、年代が上がるほど増加傾向となっており、80歳以上では37.9%となっています。(図表3-1-3-②)

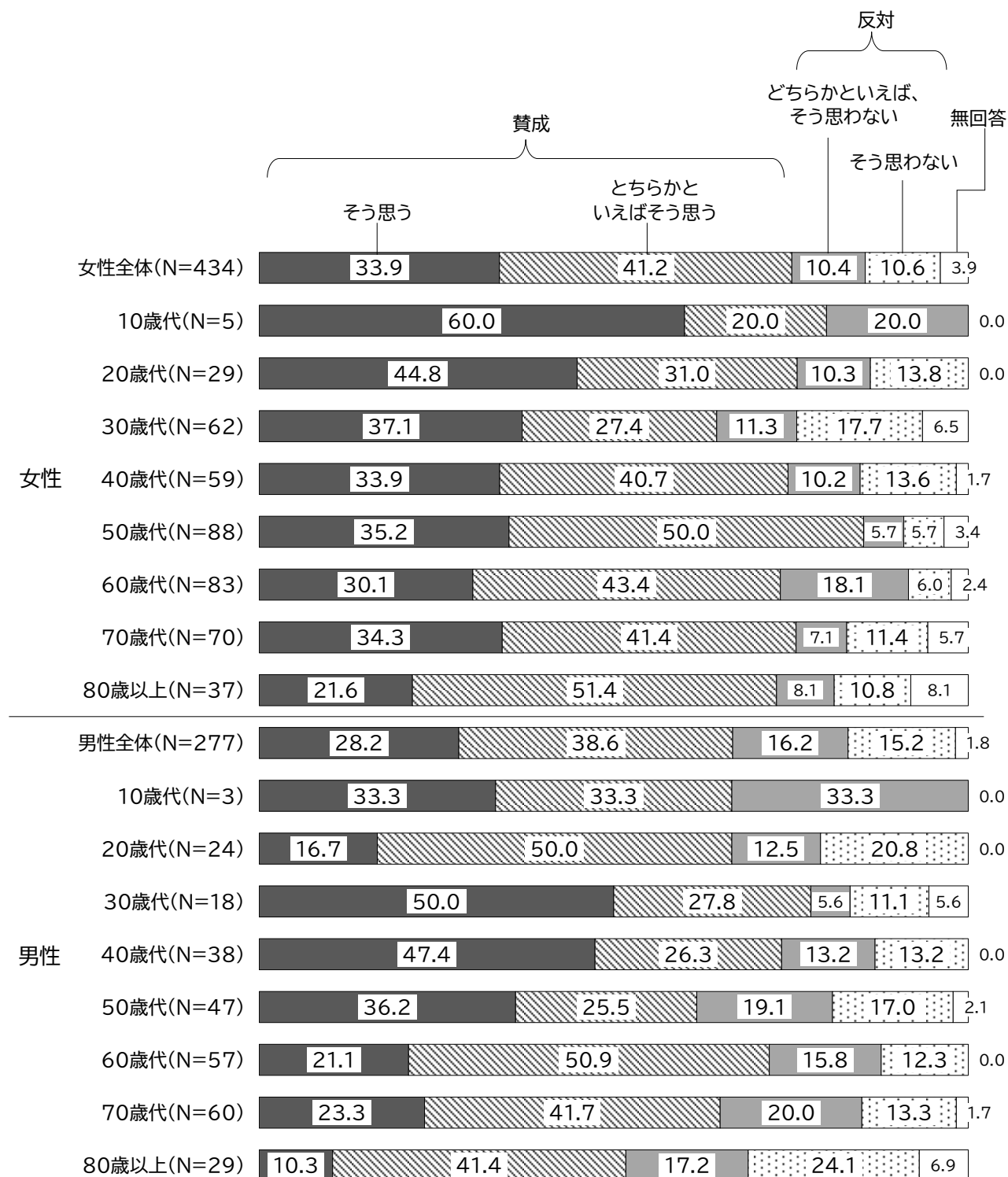
図表 3-1-3-② 結婚観：夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（性・年代別）



■夫も妻も外で働き、家事部分担するべきである

性・年代別にみると、女性は《賛成》が50歳代で85.2%と他の年代と比べて多くなっています。男性は30歳代以降、年代が上がるほど《反対》が増加傾向となっています。(図表3-1-3-③)

図表 3-1-3-③ 結婚観：夫も妻も外で働き、家事部分担するべきである（性・年代別）

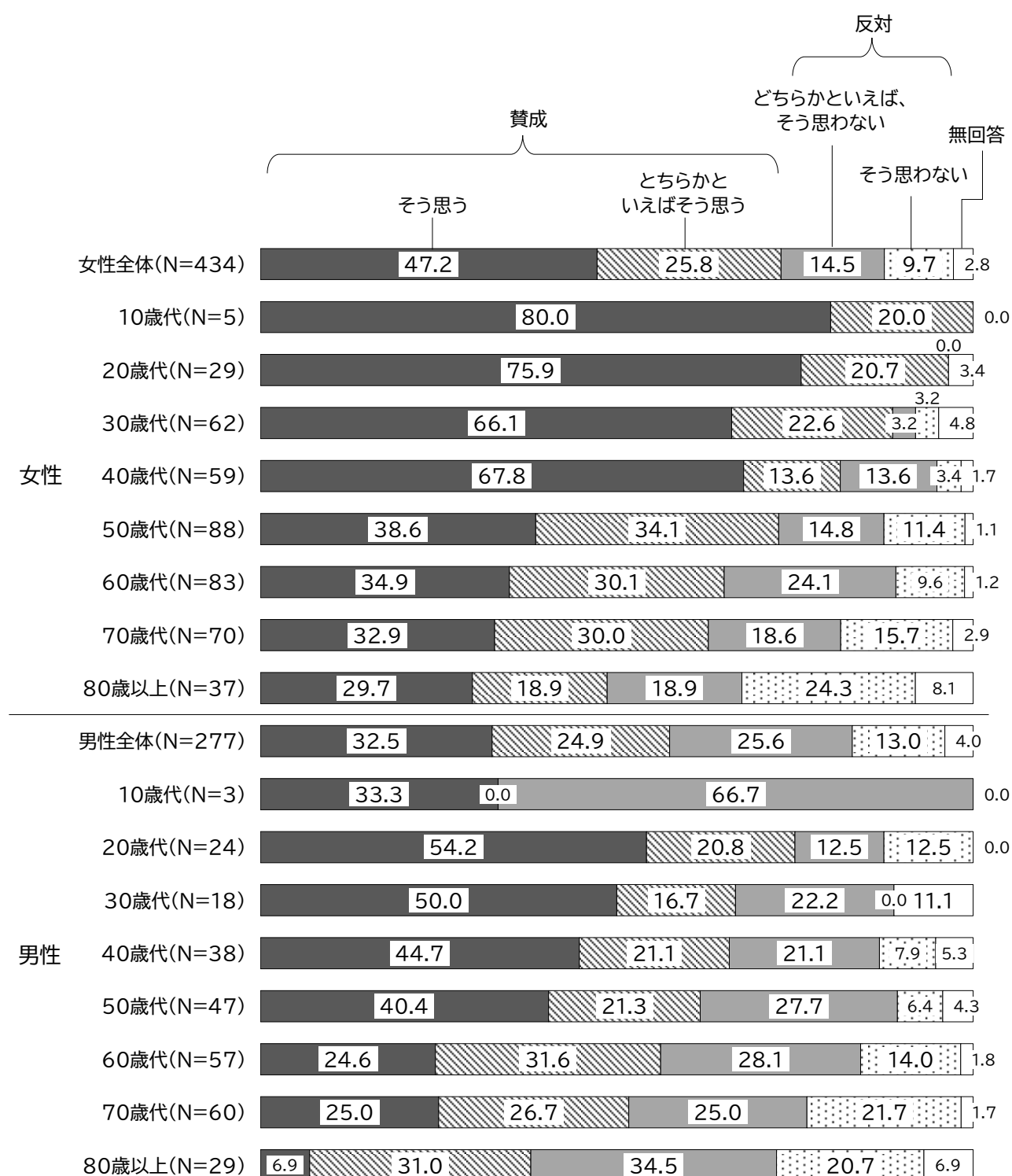


■結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

性・年代別にみると、女性は10歳代から30歳代で《賛成》が8割を超えていますが、以降、年代が上がるほど少なくなっています。

男性は20歳代で《賛成》が75.0%と他の年代と比べて多くなっていますが、年代が上がるほど少なくなっています。(図表3-1-3-④)

図表 3-1-3-④ 結婚観：結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない（性・年代別）

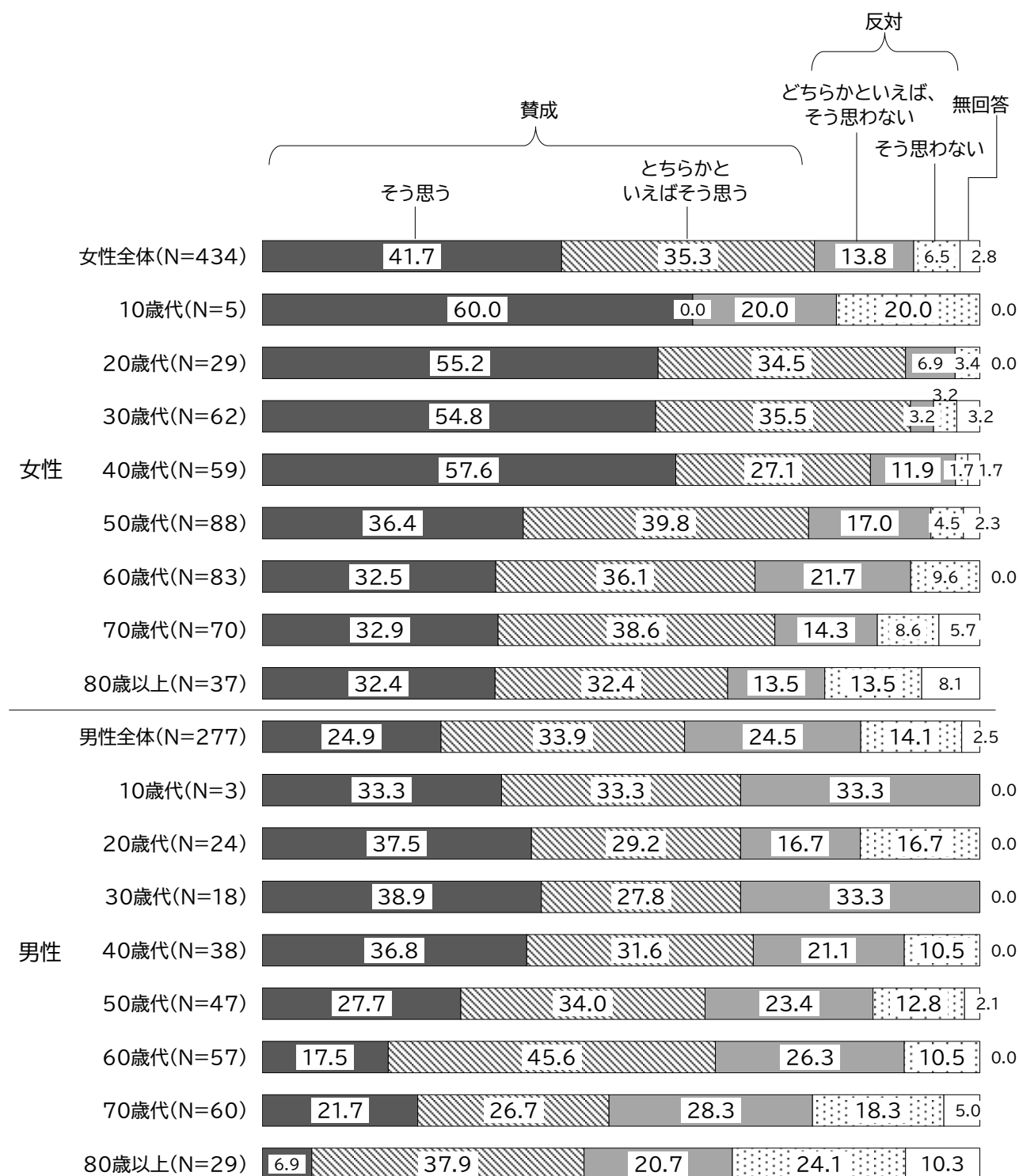


■結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい

性・年代別にみると、女性は30歳代・40歳代で《賛成》が8割台と多くなっていますが、以降、年代が上がるほど少なくなっています。

男性は10歳代から60歳代で《賛成》が6割を超えています。(図表3-1-3-⑤)

図表 3-1-3-⑤ 結婚観：結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい（性・年代別）

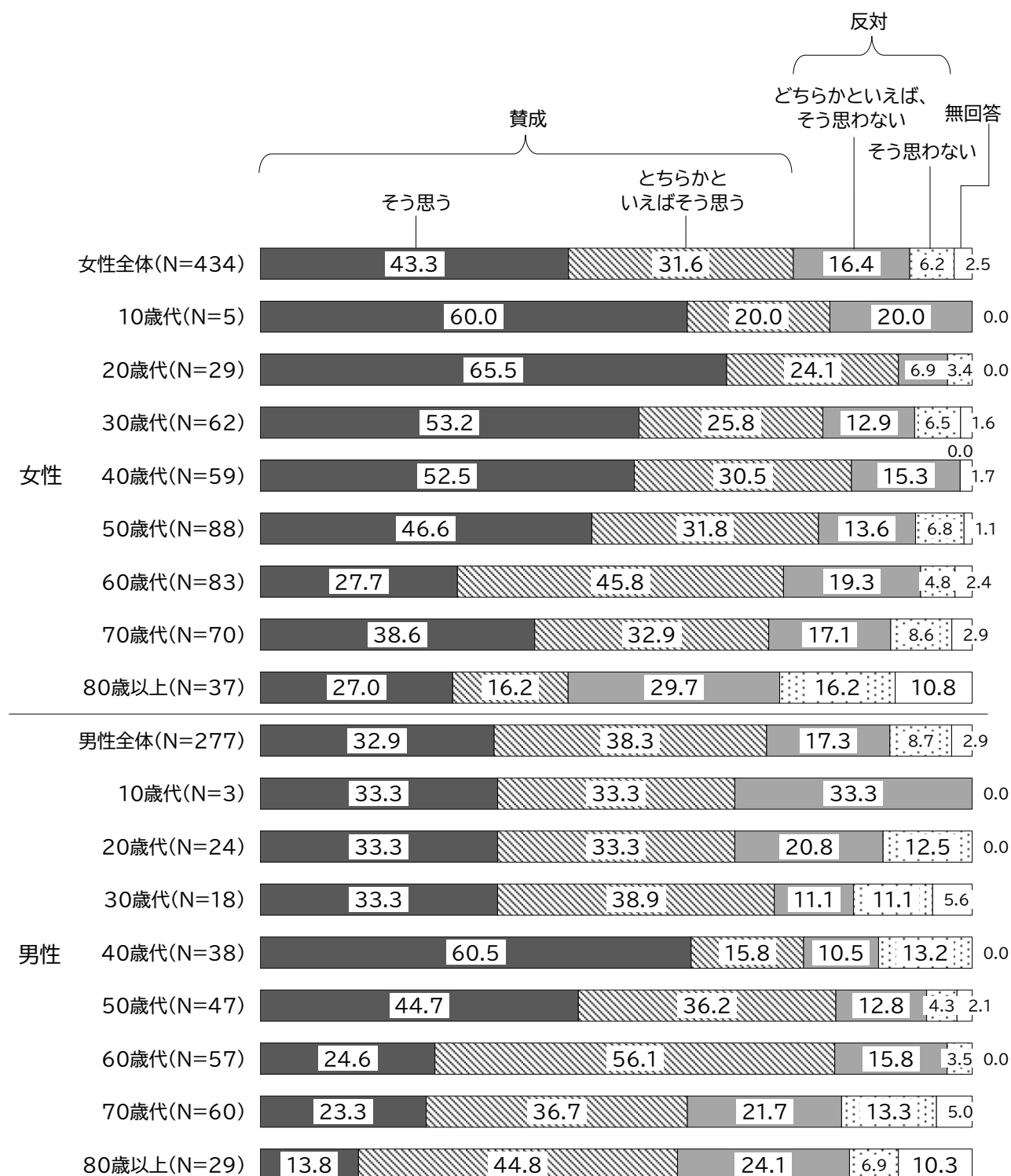


■未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ

性・年代別にみると、女性は20歳代で《賛成》が89.6%と他の年代と比べて多くなっていますが、以降、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は50歳代と60歳代で《賛成》が8割となっています。(図表3-1-3-⑥)

図表 3-1-3-⑥ 結婚観：未婚の女性が子どもを生み育てるのもひとつの生き方だ（性・年代別）

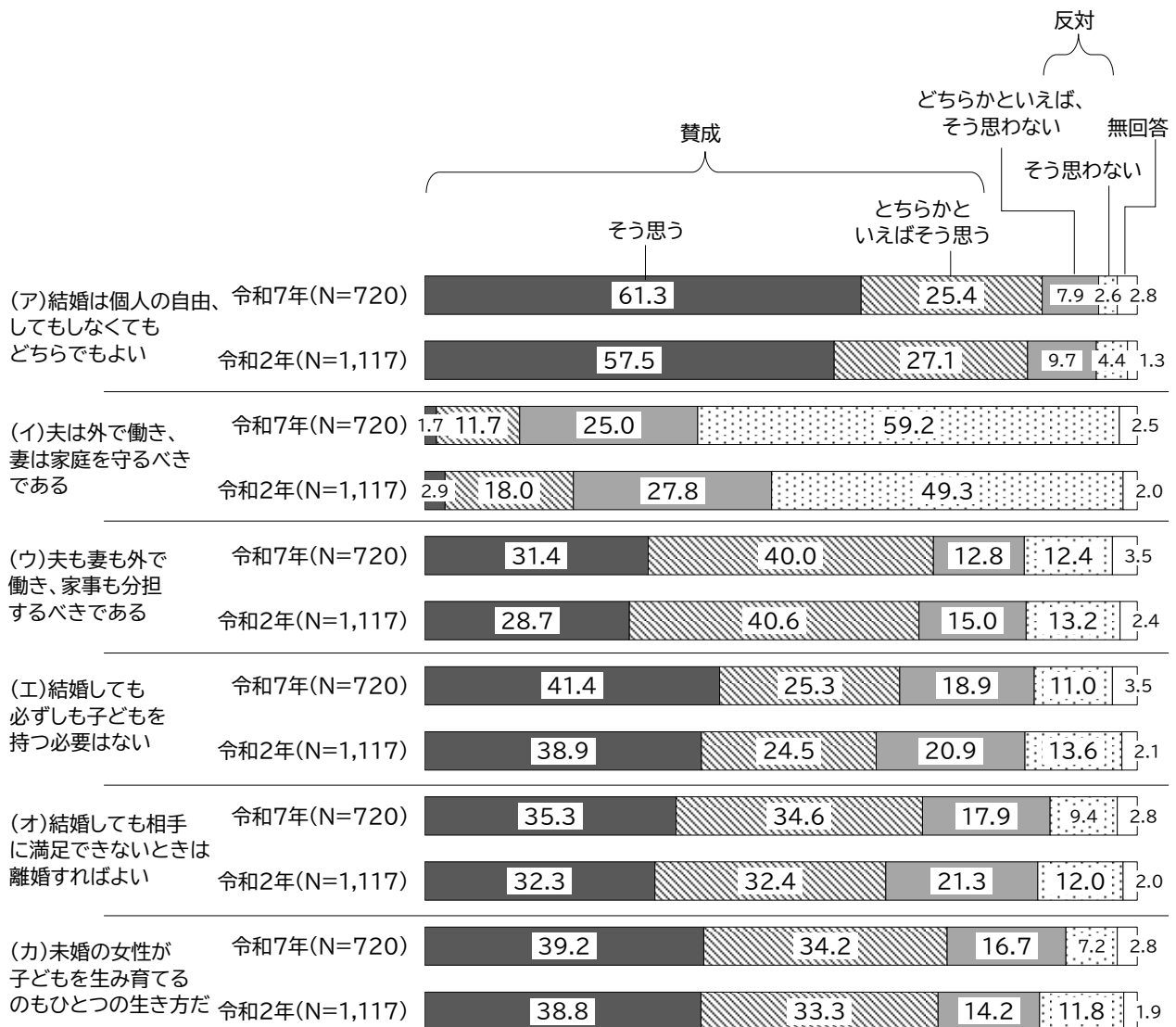


【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』について《反対》は84.2%で令和2年調査(77.1%)より7.1%増えています。

その他の《賛成》は全て令和2年調査より増えています。(図表3-1-4)

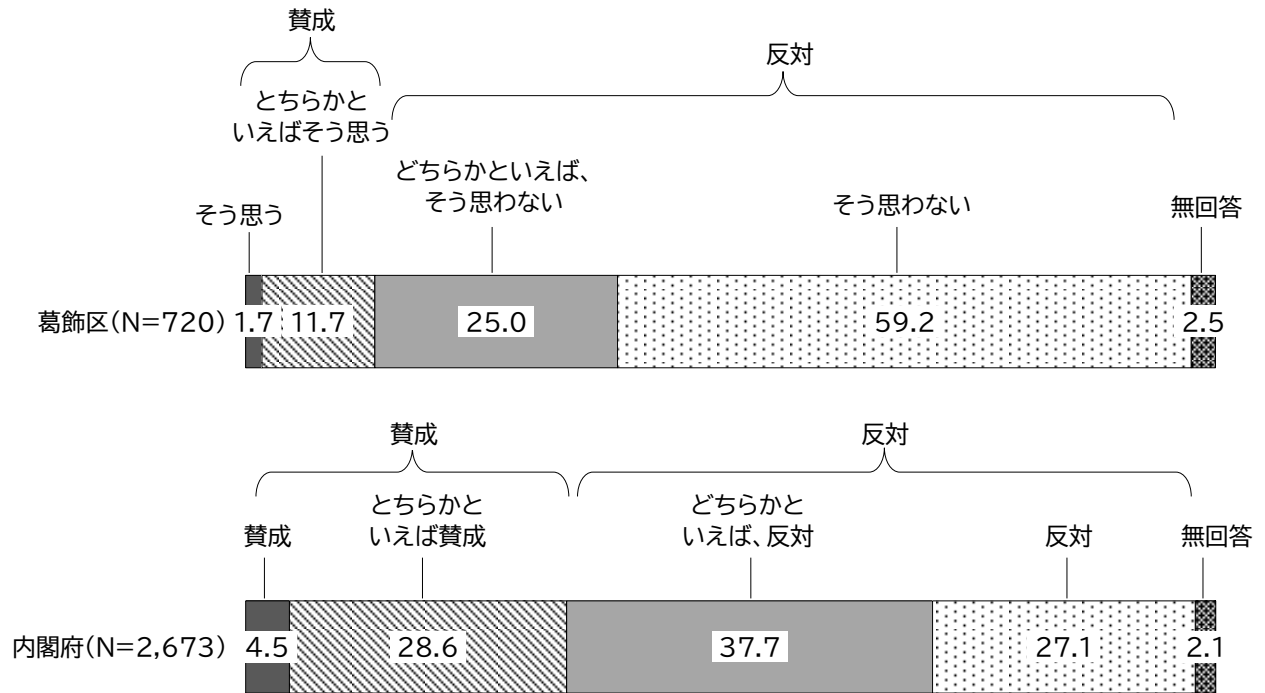
図表 3-1-4 結婚観（全体、令和7年・令和2年調査）



【内閣府との比較】 ※夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について内閣府調査と比較すると、《反対》は、葛飾区84.2%、内閣府調査54.8%で、葛飾区が29.4ポイント高くなっています。(図表3-1-5)

図表 3-1-5 結婚観『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』(全体、内閣府調査)



4 家庭生活

(1) 家事などの分担

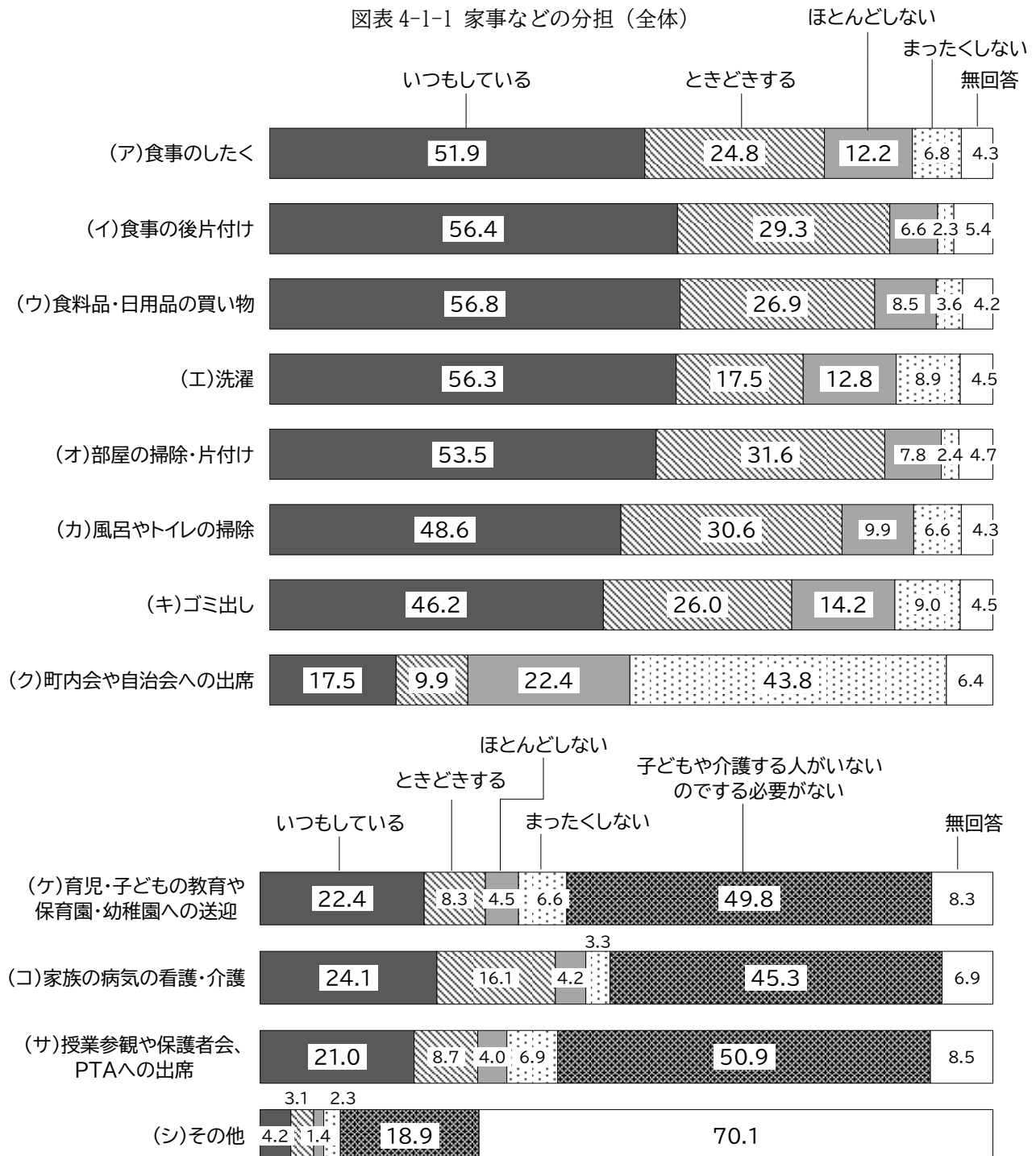
問4 家庭の中で、あなたは(ア)～(シ)にあげることを、どの程度行っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

家事などの分担の頻度についてたずねました。

「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食料品・日用品の買い物(56.8%)』が最も多く、『食事の後片付け(56.4%)』、『洗濯(56.3%)』、『部屋の掃除・片付け(53.5%)』が続いています。(図表4-1-1)

図表 4-1-1 家事などの分担（全体）

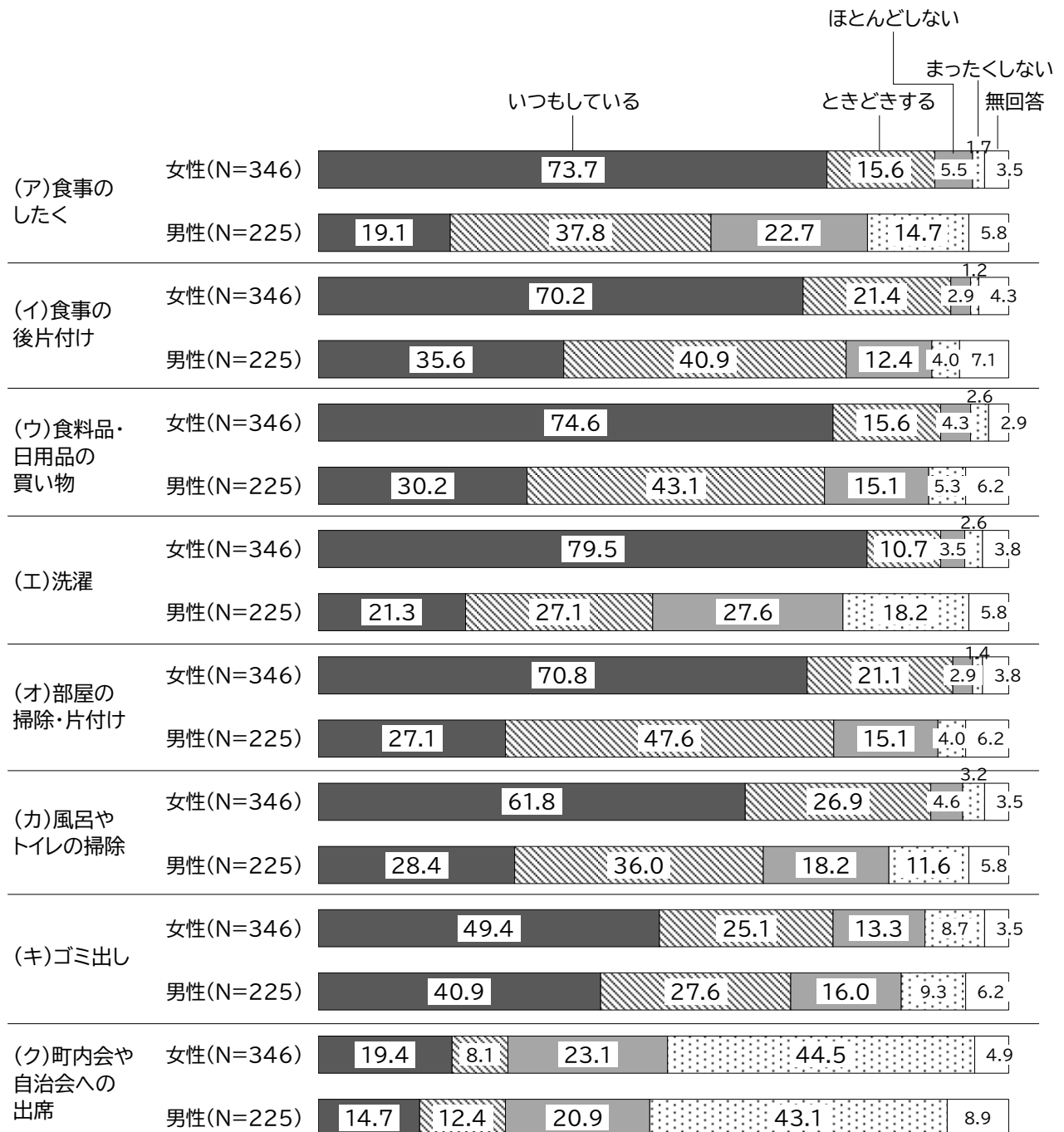


【性別】

性別でみると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。

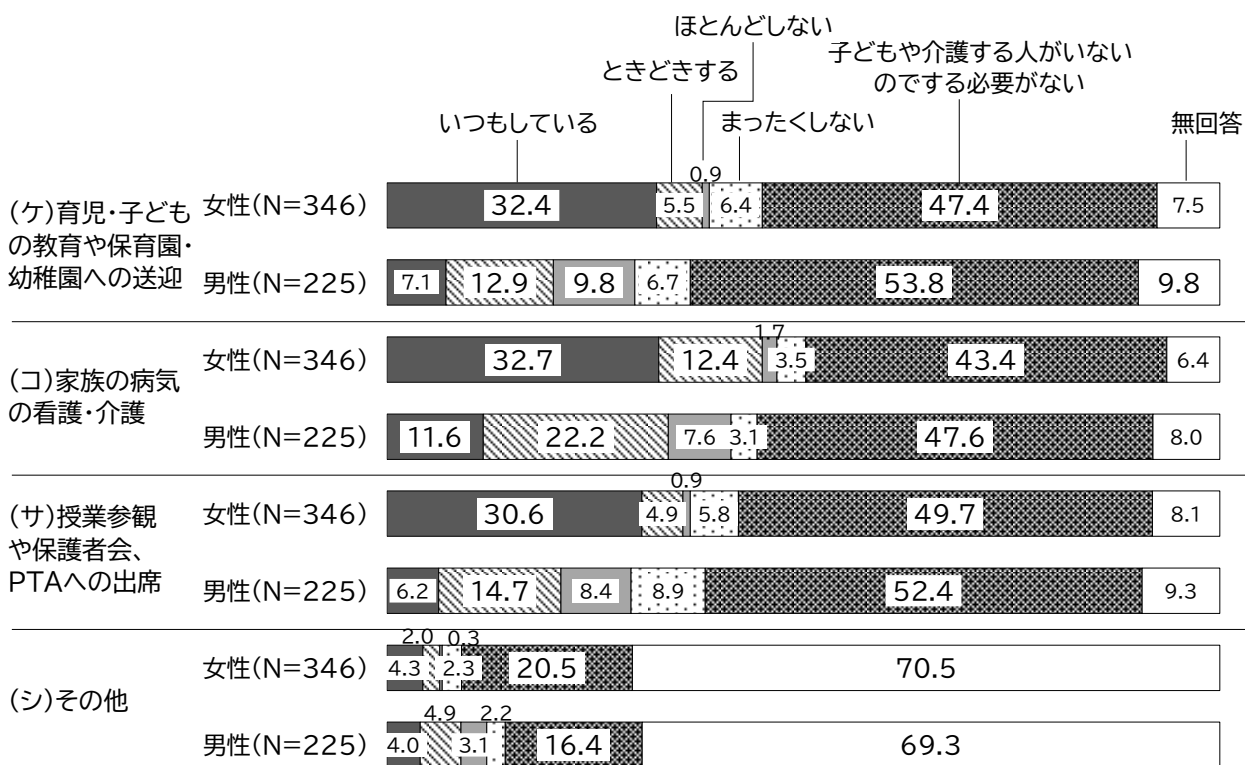
「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯(79.5%)』が最も多く、『食料品・日用品の買い物(74.6%)』、『食事のしたく(73.7%)』、『部屋の掃除・片付け(70.8%)』が7割台となっています。男性は『ゴミ出し(40.9%)』が4割台で最も多く、『食事の後片付け(35.6%)』、『食料品・日用品の買い物(30.2%)』が続いています。(図表4-1-2-①)

図表 4-1-2-① 家事などの分担（性別）



育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『家族の病気の看護・介護(32.7%)』が最も多く、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(32.4%)』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席(30.6%)』が続いています。男性は『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎(7.1%)』、『授業参観や保護者会への出席(6.2%)』が1割未満です。(図表4-1-2-②)

図表 4-1-2-② 家事などの分担（性別）

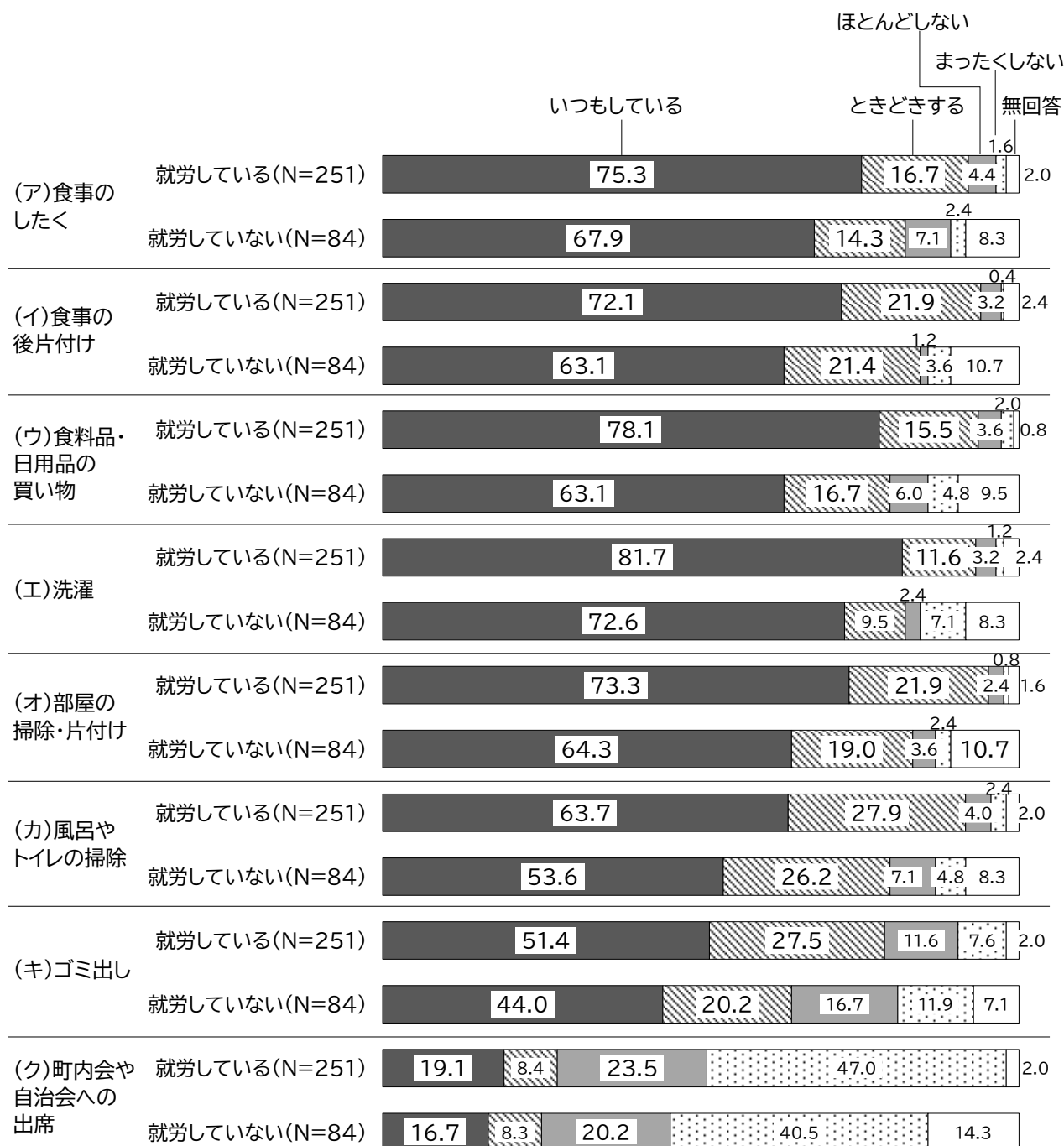


【性・就労の有無別】

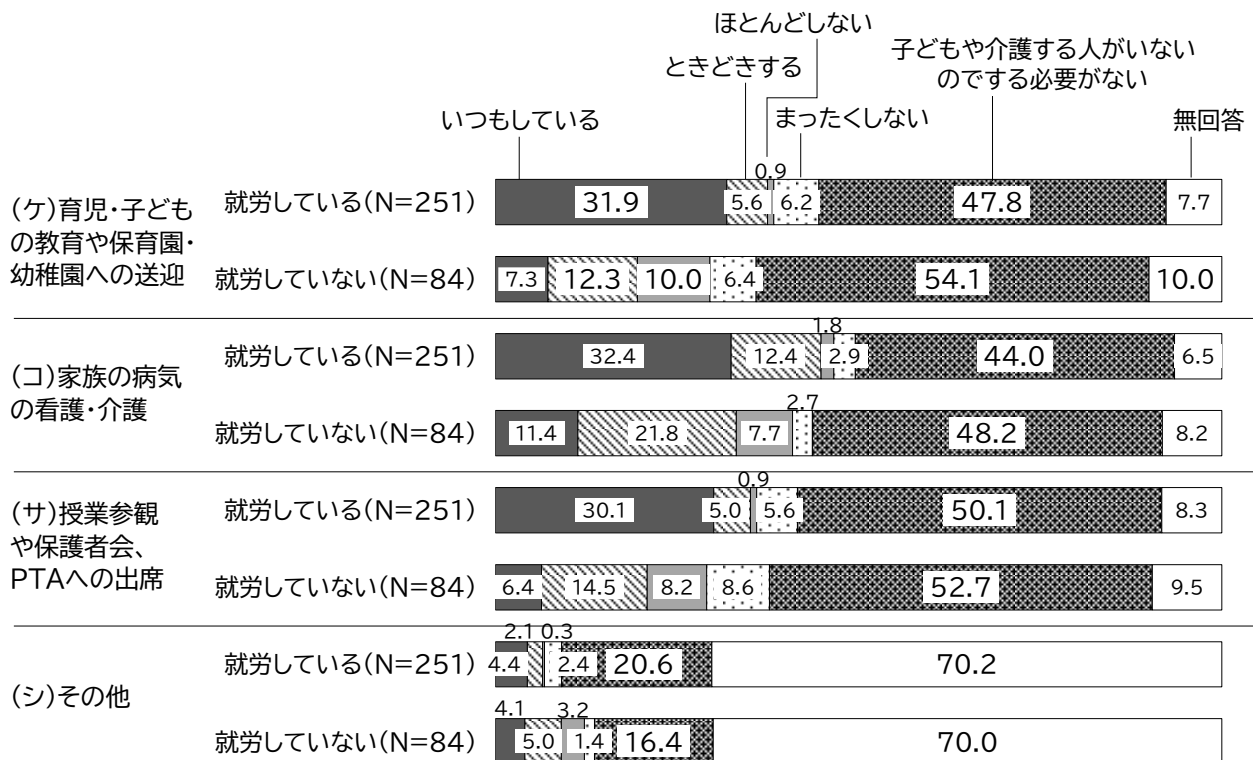
■女性

就労の有無別でみると、すべての項目で「いつもしている」割合は就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。(図表4-1-3-①②)

図表 4-1-3-① 家事などの分担（女性、就労別）



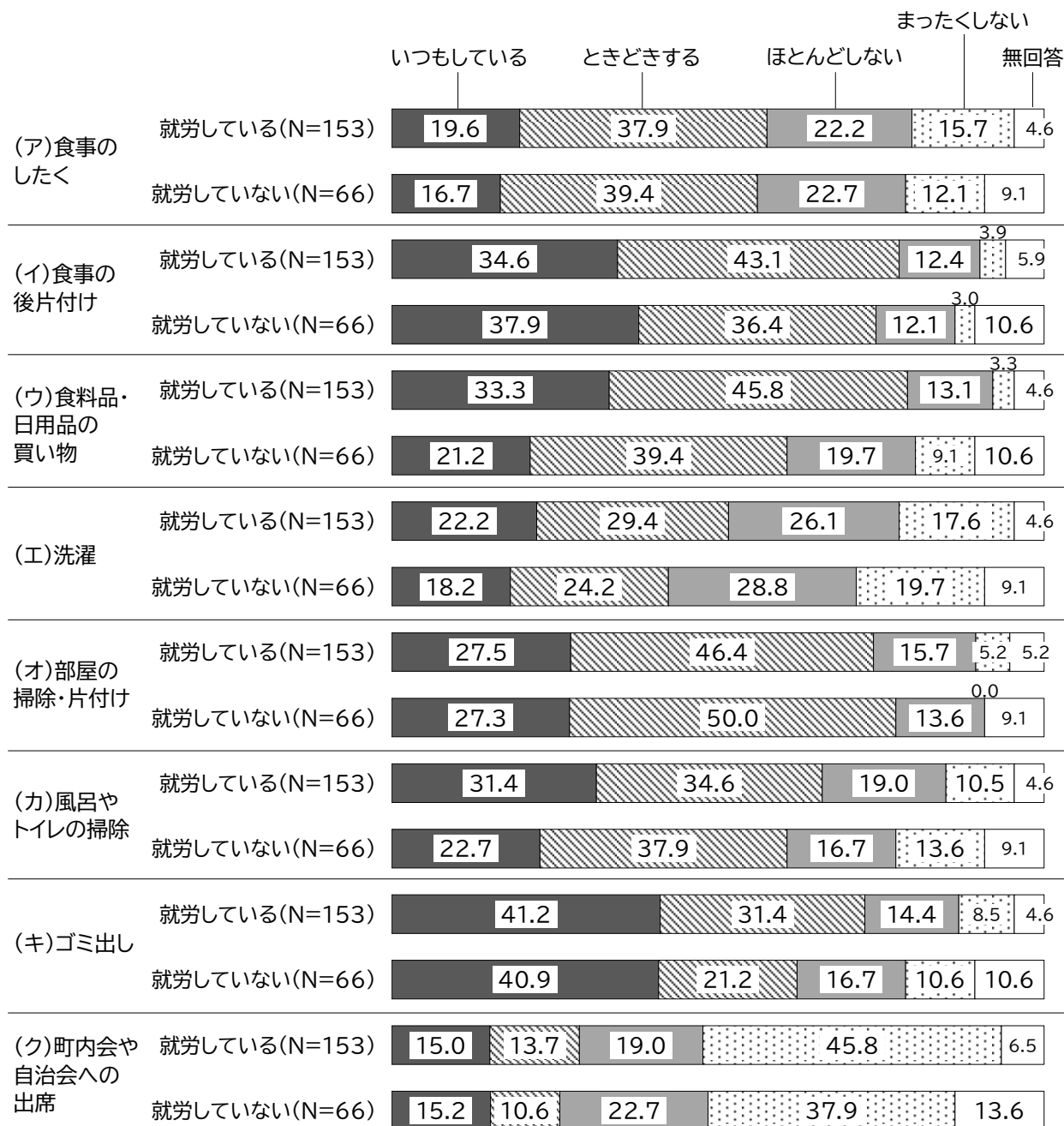
図表 4-1-3-② 家事などの分担（女性、就労別）



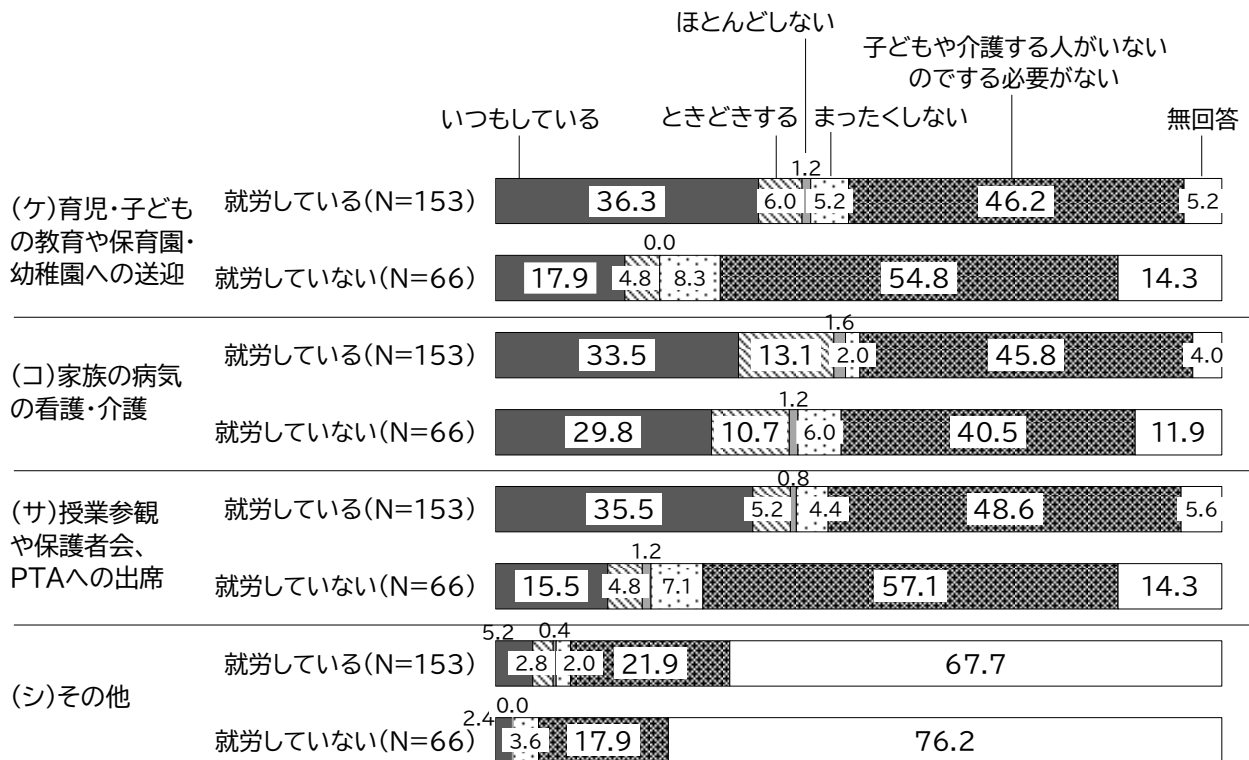
■男性

就労の有無別でみると、『食事の片付け』『町内会や自治会への出席』を除いたすべての項目で「いつもしている」割合は就労していないと回答している方が就労している方よりも下回っています。(図表4-1-4-①②)

図表 4-1-4-① 家事などの分担（男性、就労別）



図表 4-1-4-② 家事などの分担（男性、就労別）



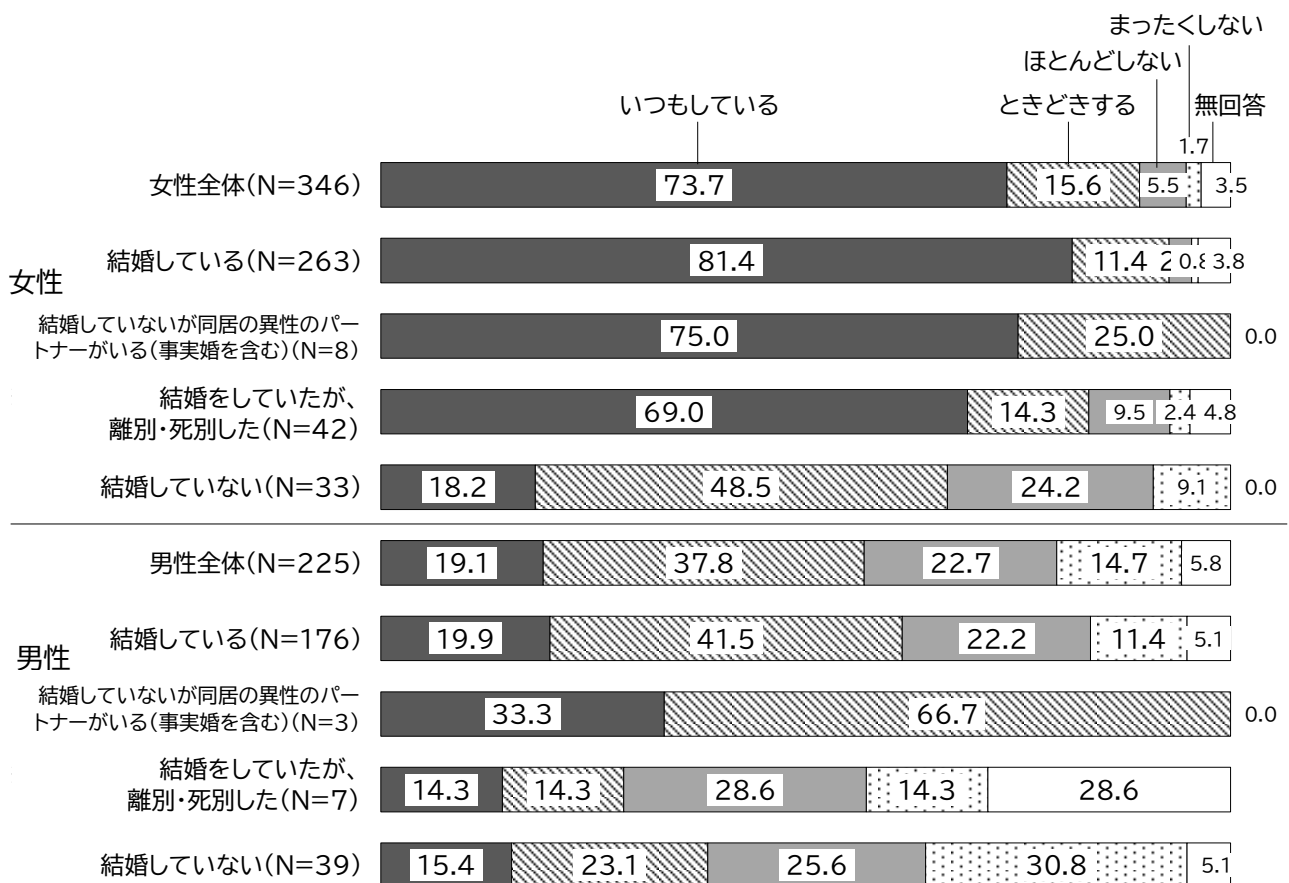
【性・未既婚別】

■食事のしたく

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が81.4%です。

既婚の男性で「いつもしている」は19.9%にとどまり、「ほとんどしない」が22.2%、「まったくしない」が11.4%となっています。(図表4-1-5-①)

図表 4-1-5-① 家事などの分担：食事のしたく（性・未既婚別）

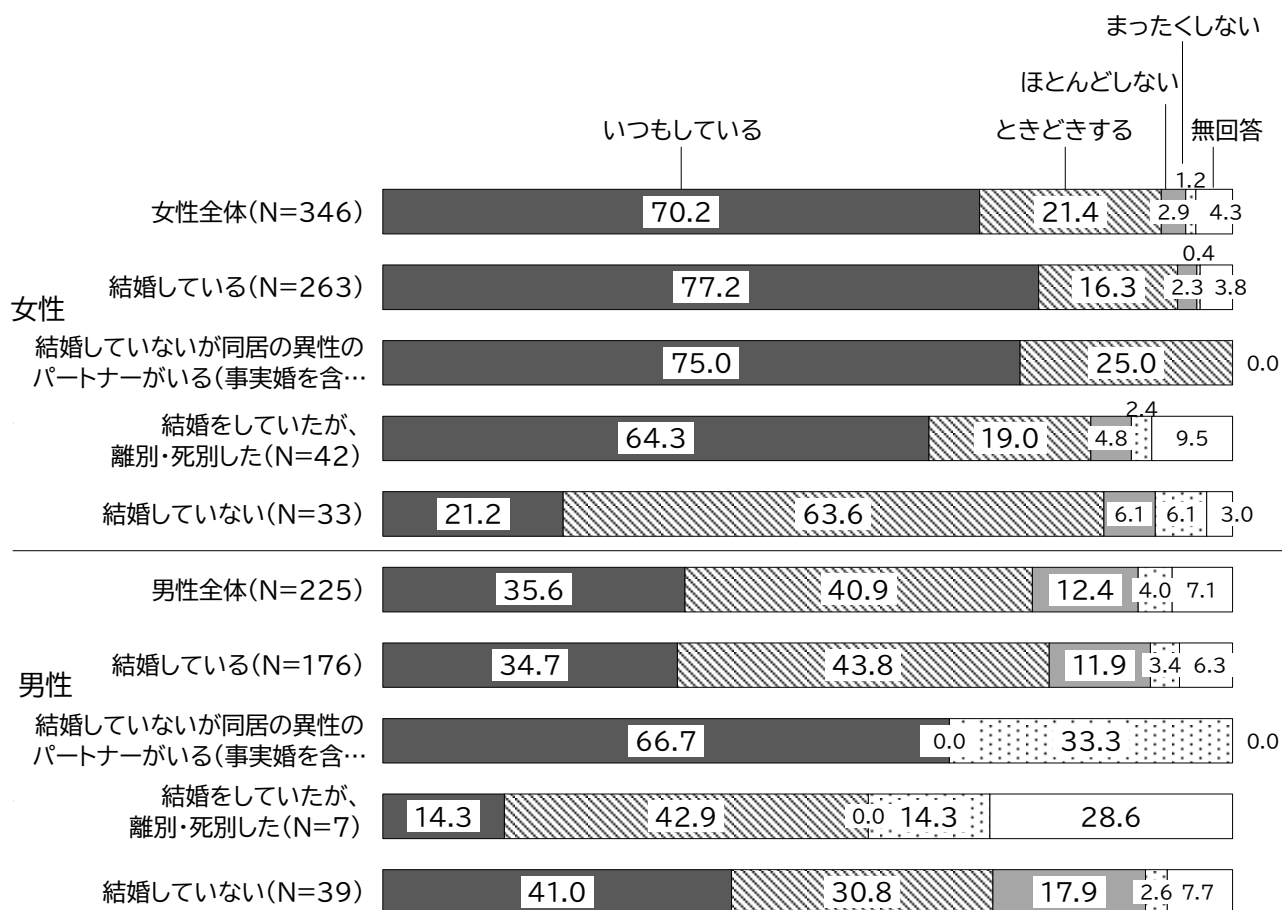


■食事の後片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が77.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は34.7%で、「ほとんどしない」が11.9%、「まったくしない」が3.4%となっています。(図表4-1-5-②)

図表 4-1-5-② 家事などの分担：食事の後片付け（性・未既婚別）

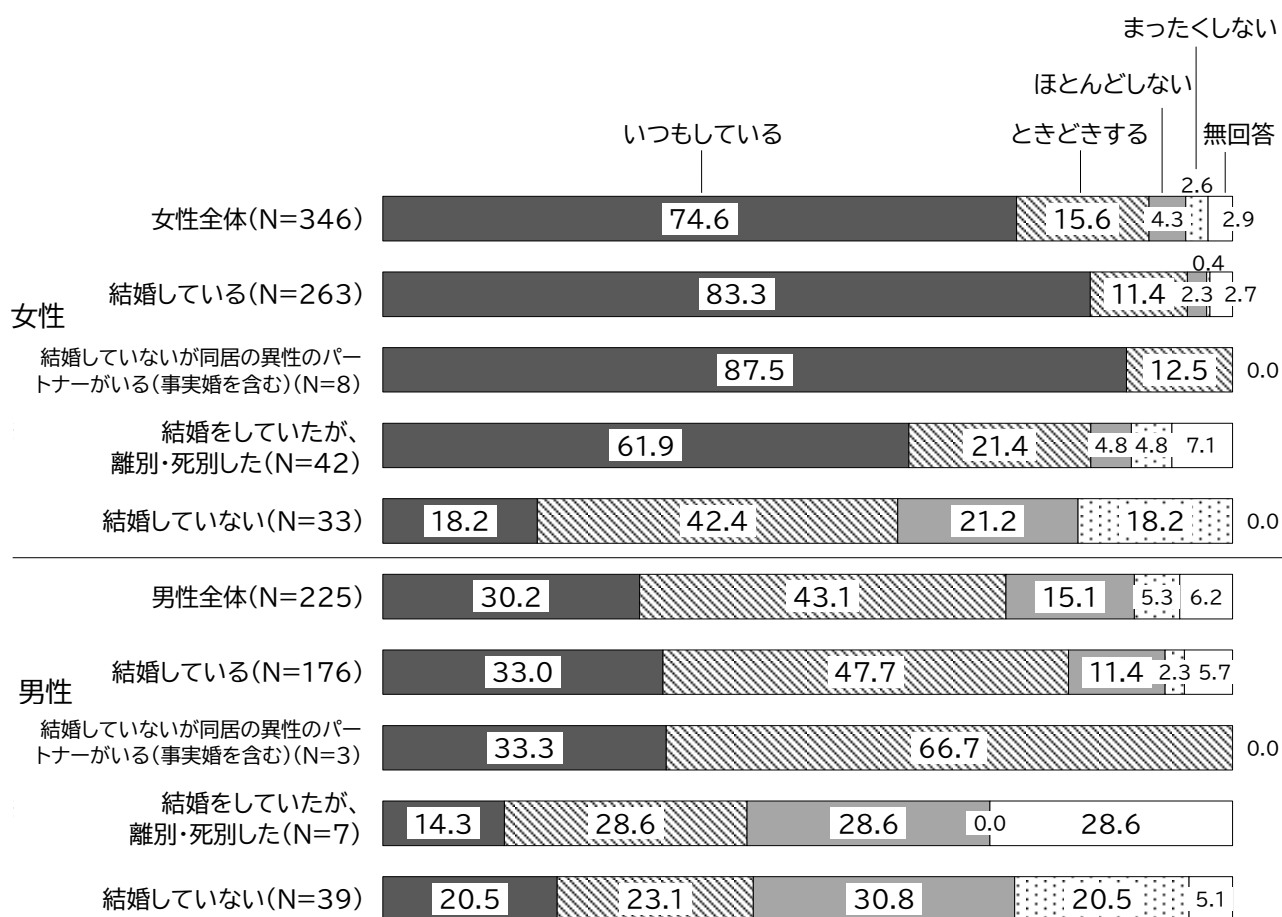


■食料品・日用品の買い物

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が83.3%です。

既婚の男性で「いつもしている」は33.0%で、「ほとんどしない」が11.4%、「まったくしない」が2.3%となっています。(図表4-1-5-③)

図表 4-1-5-③ 家事などの分担：食料品・日用品の買い物（性・未既婚別）

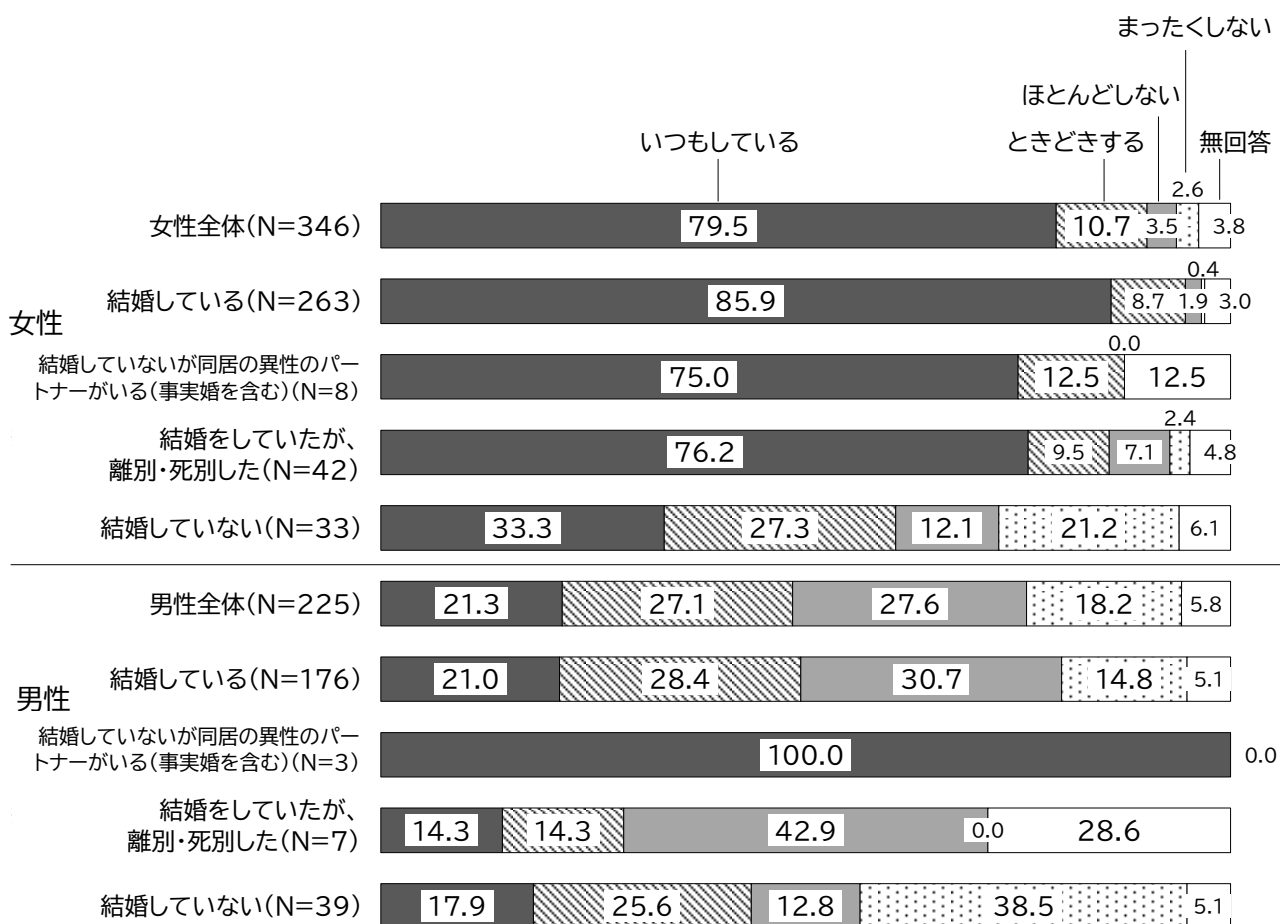


■洗濯

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が85.9%です。

既婚の男性で「いつもしている」は21.0%にとどまり、「ほとんどしない」が30.7%、「まったくしない」が14.8%となっています。(図表4-1-5-④)

図表 4-1-5-④ 家事などの分担：洗濯（性・未既婚別）

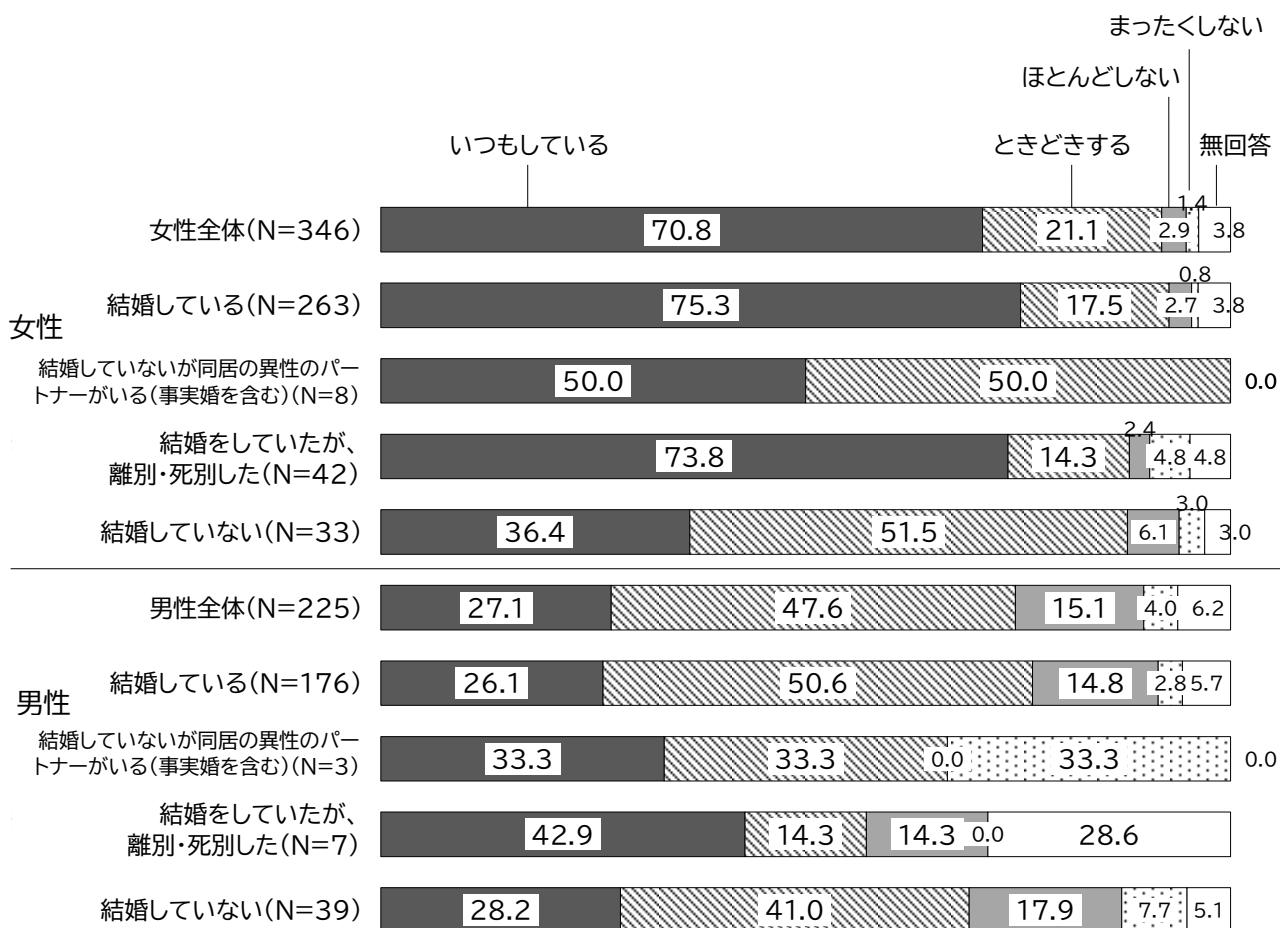


■部屋の掃除・片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が75.3%です。

既婚の男性で「いつもしている」は26.1%にとどまり、「ほとんどしない」が14.8%、「まったくしない」が4.8%となっています。(図表4-1-5-⑤)

図表 4-1-5-⑤ 家事などの分担：部屋の掃除・片付け（性・未既婚別）

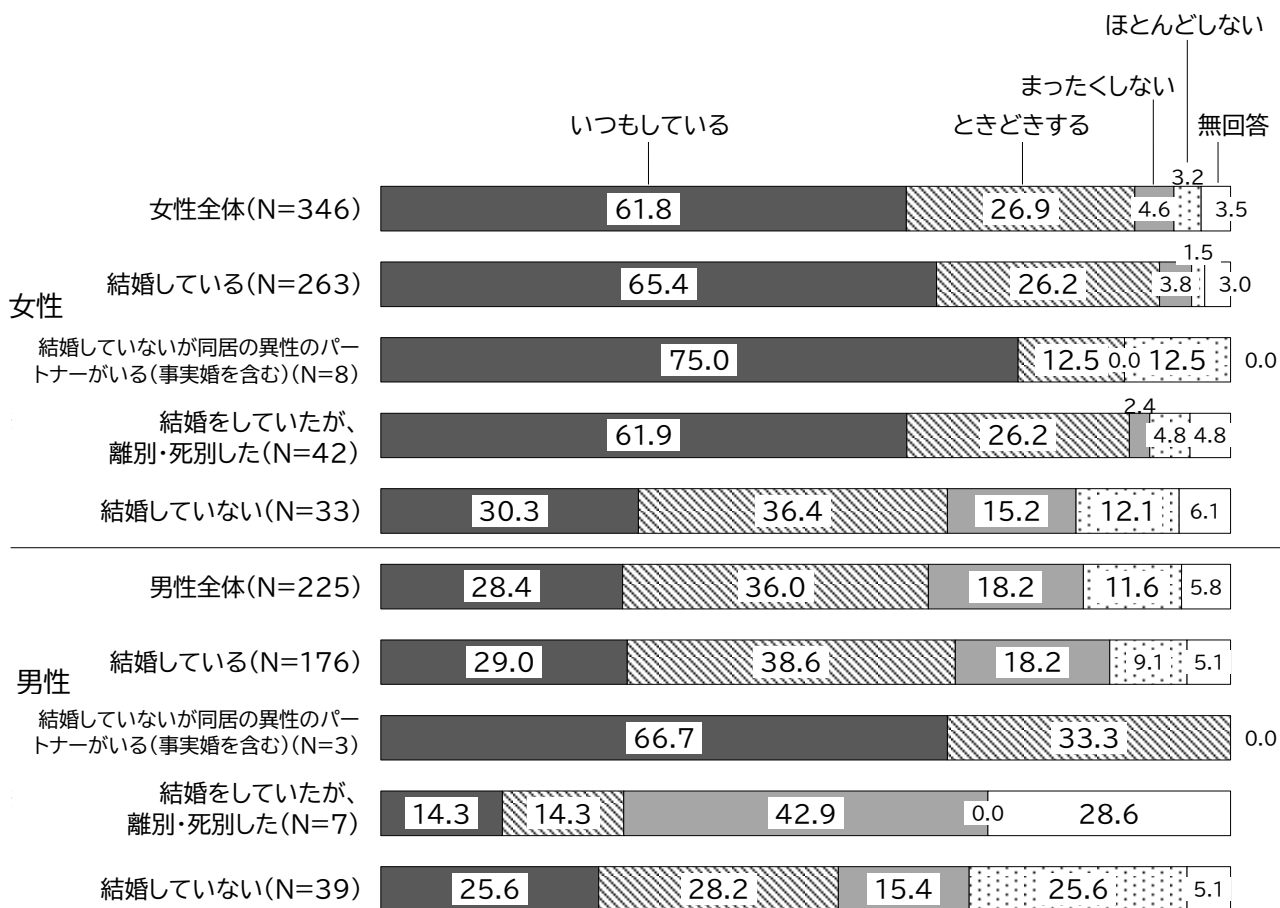


■風呂やトイレの掃除

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が65.4%です。

既婚の男性で「いつもしている」は29.0%にとどまり、「ほとんどしない」が18.2%、「まったくしない」が9.1%となっています。(図表4-1-5-⑥)

図表 4-1-5-⑥ 家事などの分担：風呂やトイレの掃除（性・未既婚別）

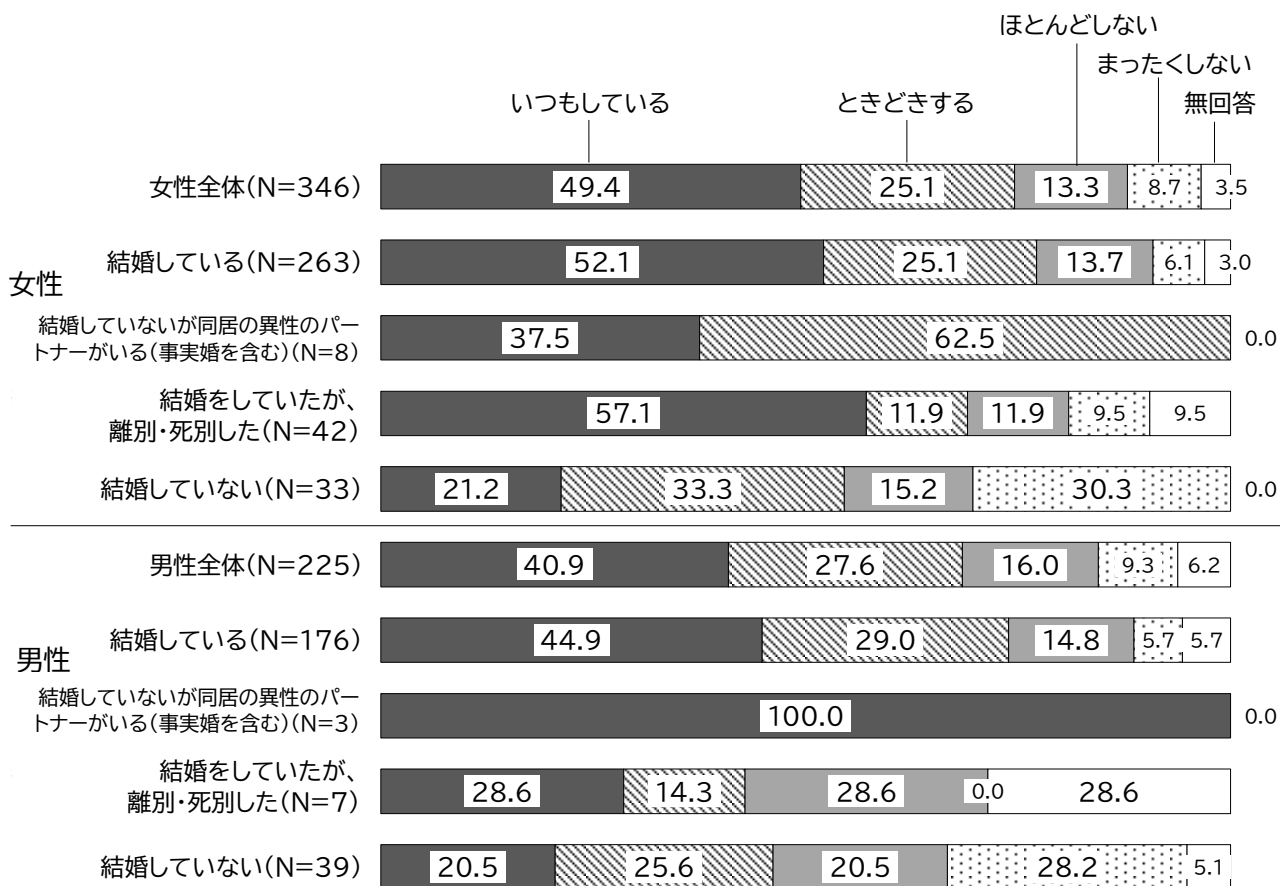


■ゴミ出し

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が52.1%です。

既婚の男性で「いつもしている」は44.9%で、食事のしたく、後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯、部屋の掃除など他の家事よりも多くなっています。(図表4-1-5-⑦)

図表 4-1-5-⑦ 家事などの分担：ゴミ出し（性・未既婚別）

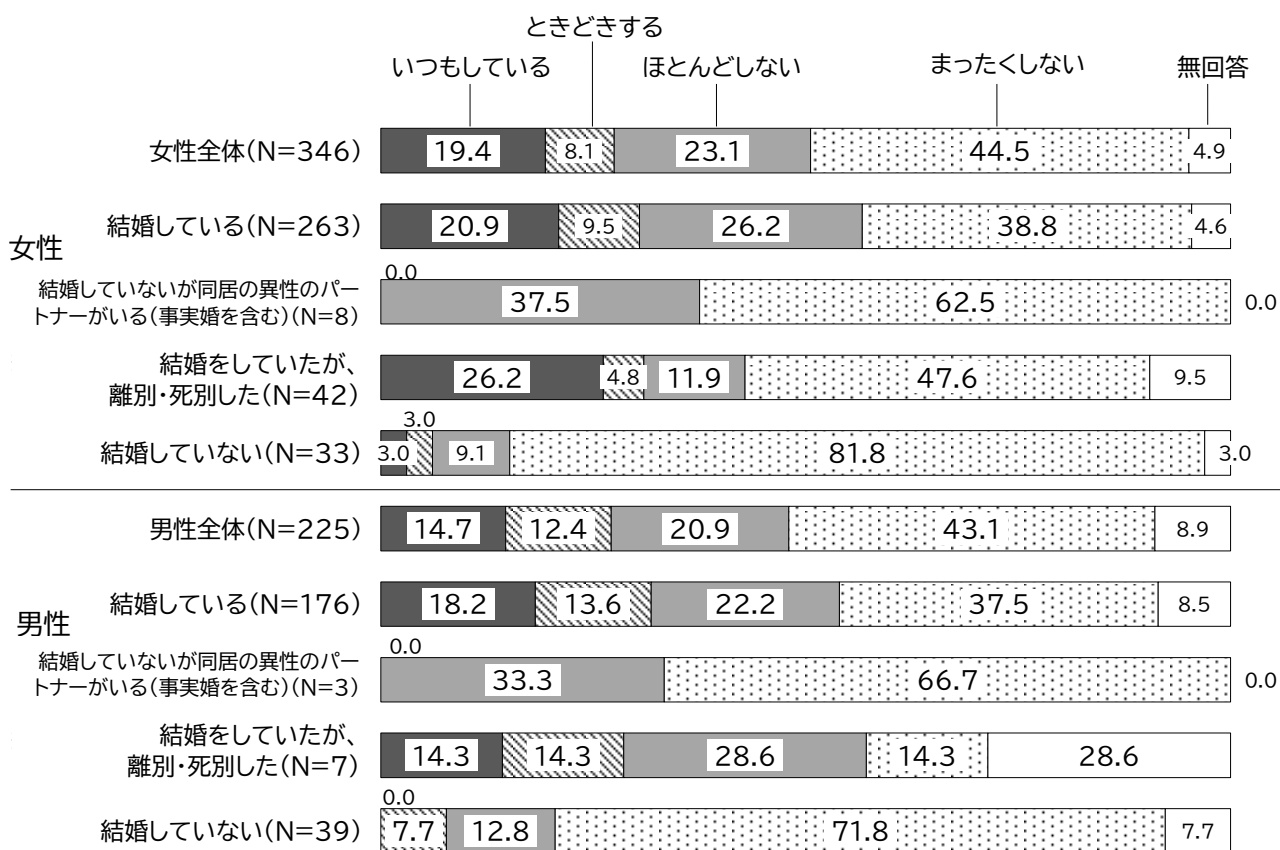


■町内会や自治会への出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が20.9%で、食事のしたく、食事に後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯などの家事に比べて低くなっています。

既婚の男性で「いつもしている」は18.2%です。(図表4-1-5-⑧)

図表 4-1-5-⑧ 家事などの分担：町内会や自治会への出席（性・未既婚別）

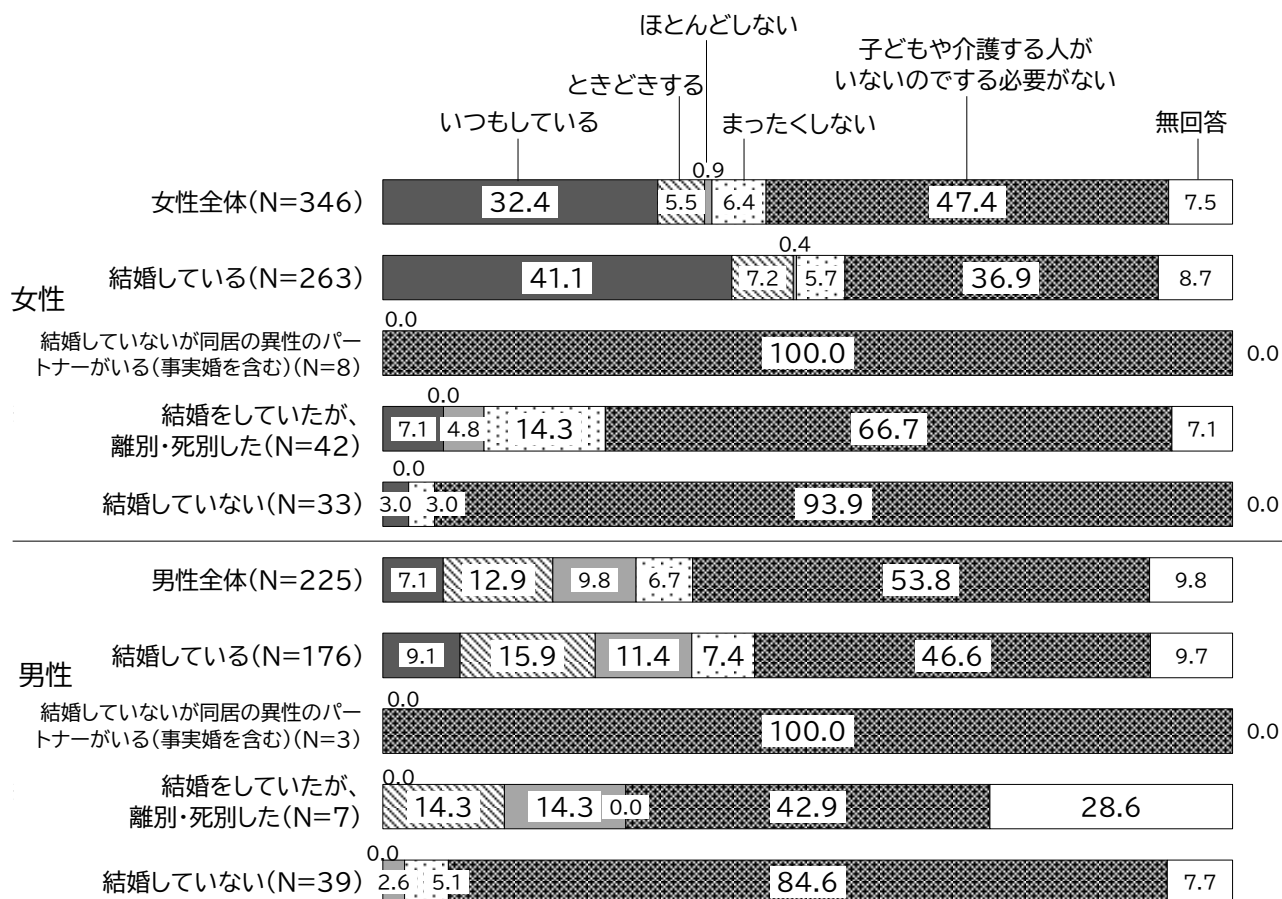


■育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が41.1%です。

既婚の男性で「いつもしている」は9.1%となっています。(図表4-1-5-⑨)

図表 4-1-5-⑨ 家事などの分担：育児・子どもの教育や保育園・幼稚園の送迎（性・未既婚別）

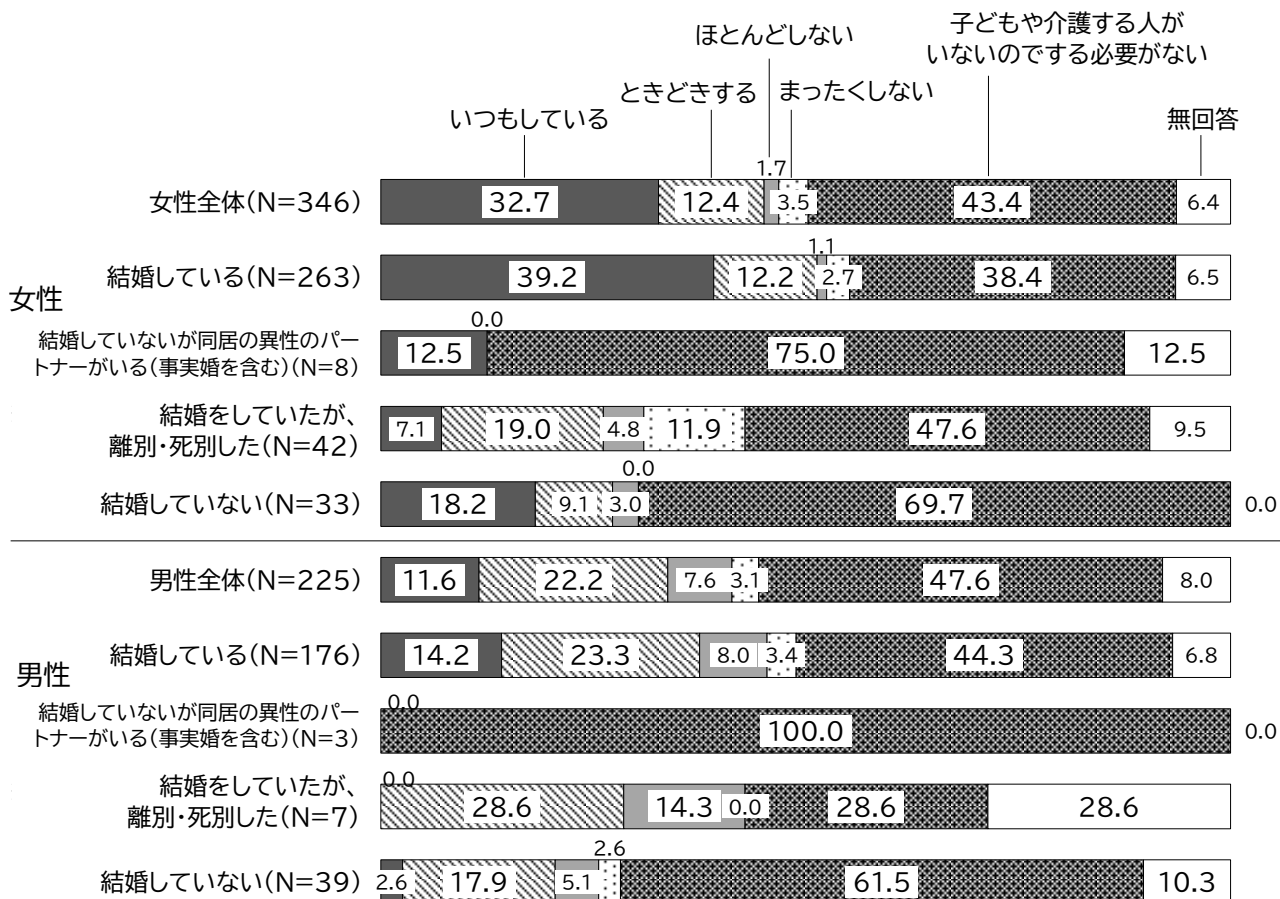


■家族の病気の看護・介護

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が39.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は14.2%となっています。(図表4-1-5-⑩)

図表 4-1-5-⑩ 家事などの分担：家族の病気の看護・介護（性・未既婚別）

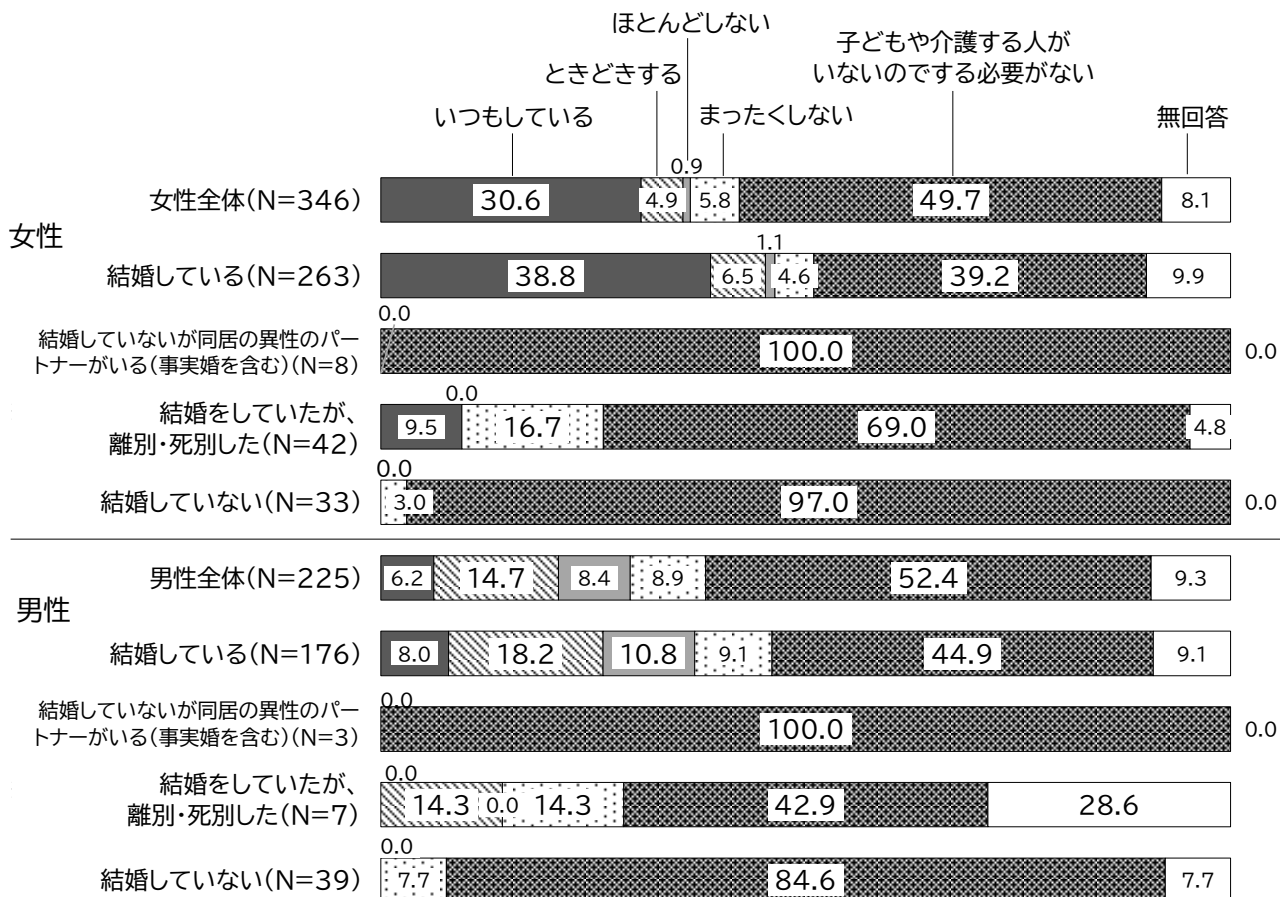


■授業参観や保護者会、PTA の出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が38.8%です。

既婚の男性で「いつもしている」は8.0%となっています。(図表4-1-5-⑪)

図表 4-1-5-⑪ 家事などの分担：授業参観や保護者会、PTA の出席（性・未既婚別）



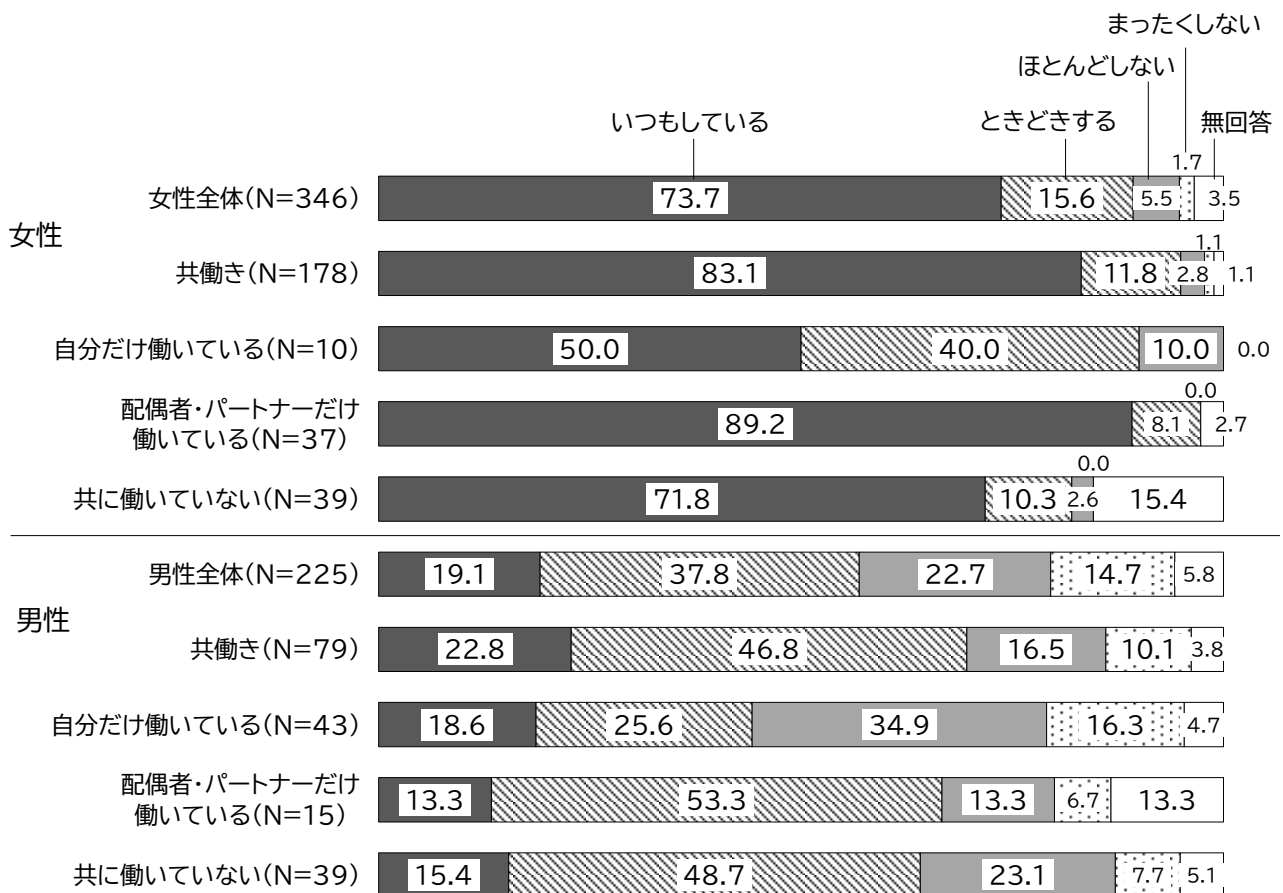
【性・共働き状況別】

■食事のしたく

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が83.1%です。

共働きの男性で「いつもしている」は22.8%にとどまり、「ほとんどしない」が16.5%、「まったくしない」が10.1%となっています。(図表4-1-6-①)

図表 4-1-6-① 家事などの分担：食事のしたく（性・共働き状況別）

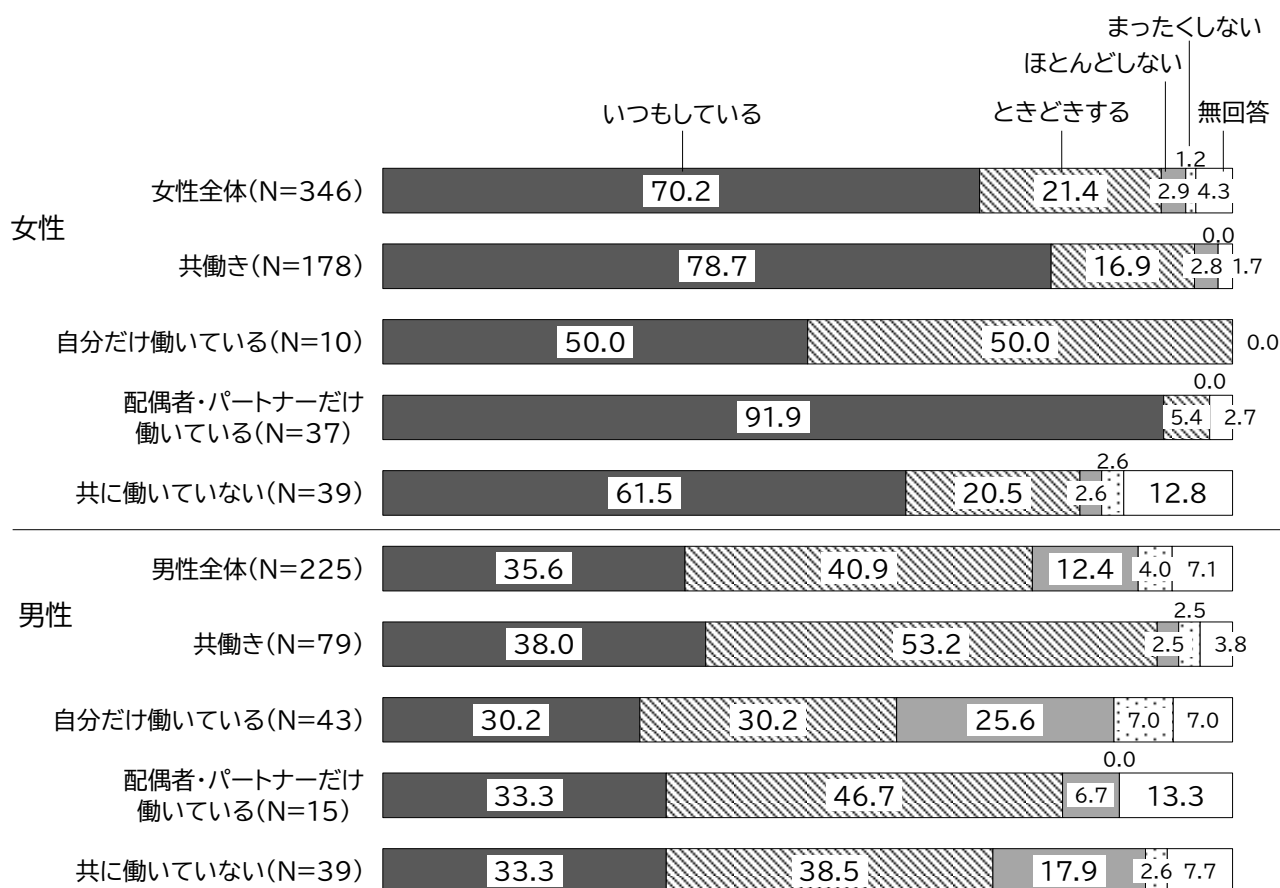


■食事の後片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が78.7%です。

共働きの男性で「いつもしている」は38.0%ですが、「ときどきする」が40.9%となっています。(図表4-1-6-②)

図表 4-1-6-② 家事などの分担：食事の後片付け（性・共働き状況別）

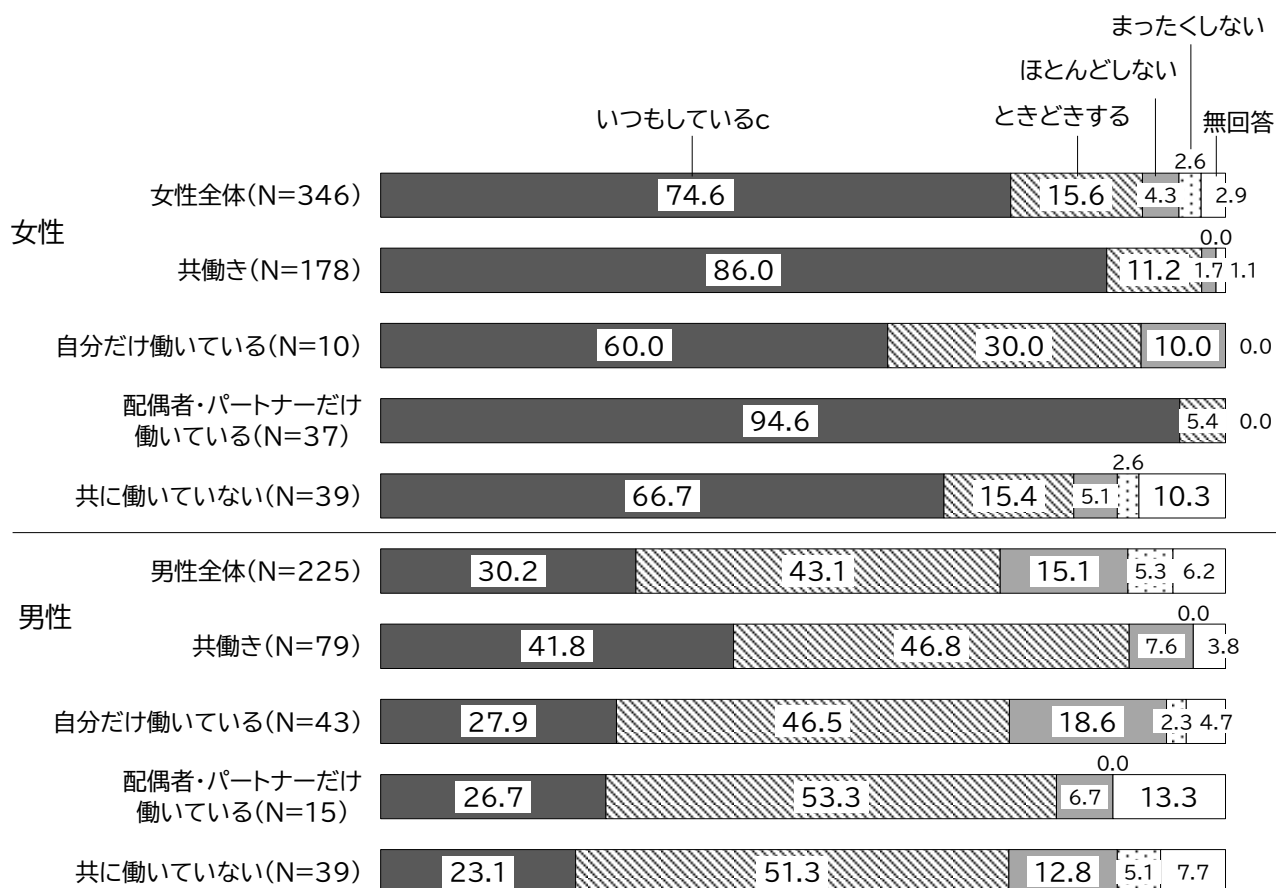


■食料品・日用品の買い物

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が86.0%です。

共働きの男性で「いつもしている」は41.8%ですが、「ときどきする」が46.8%となっています。（図表4-1-6-③）

図表 4-1-6-③ 家事などの分担：食料品・日用品の買い物（性・共働き状況別）

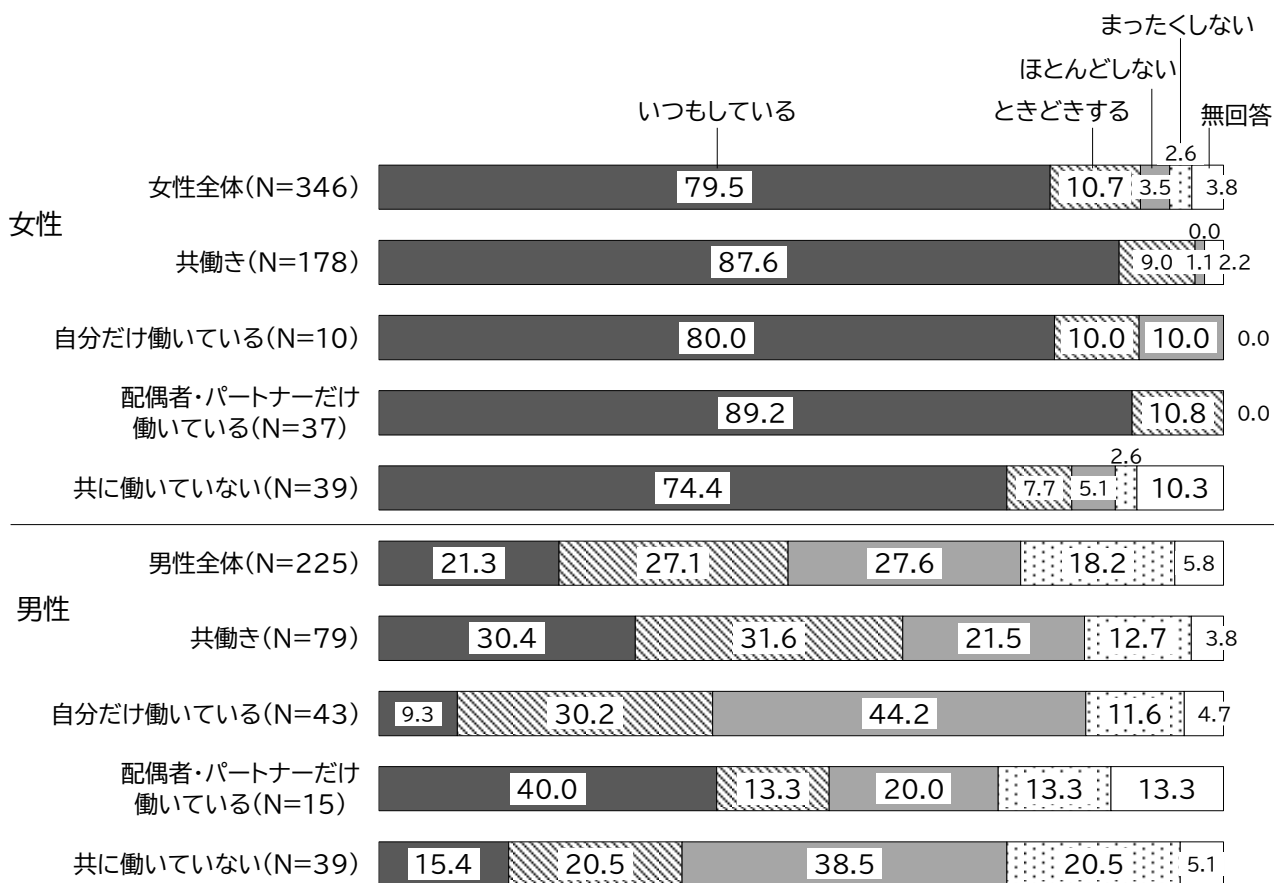


■洗濯

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が87.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は30.4%にとどまり、「ほとんどしない」が21.5%「まったくしない」が12.7%となっています。(図表4-1-6-④)

図表 4-1-6-④ 家事などの分担：洗濯（性・共働き状況別）

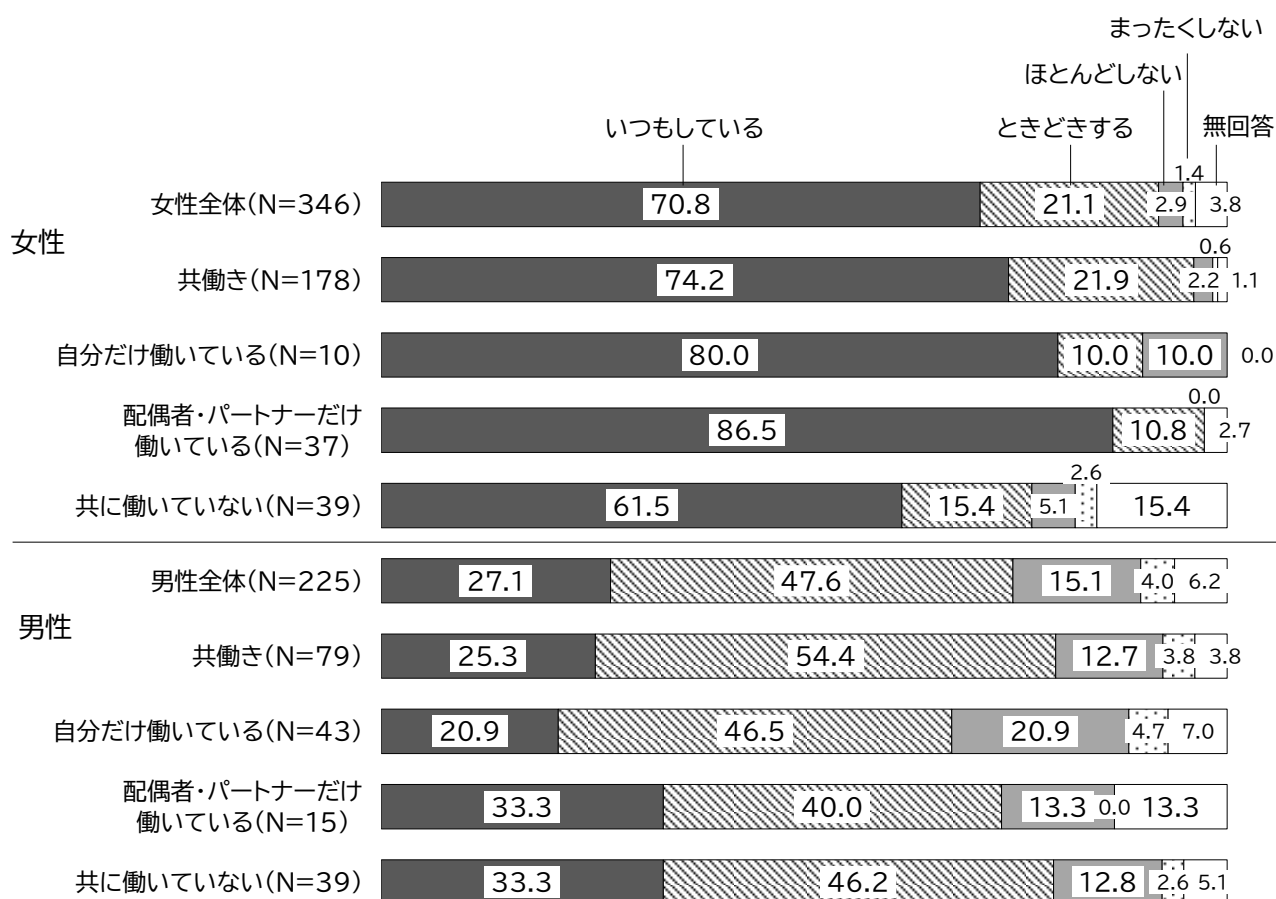


■部屋の掃除・片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が74.2%です。

共働きの男性で「いつもしている」は25.3%ですが、「ときどきする」が54.4%となっています。（図表4-1-6-⑤）

図表 4-1-6-⑤ 家事などの分担：部屋の掃除・片付け（性・共働き状況別）

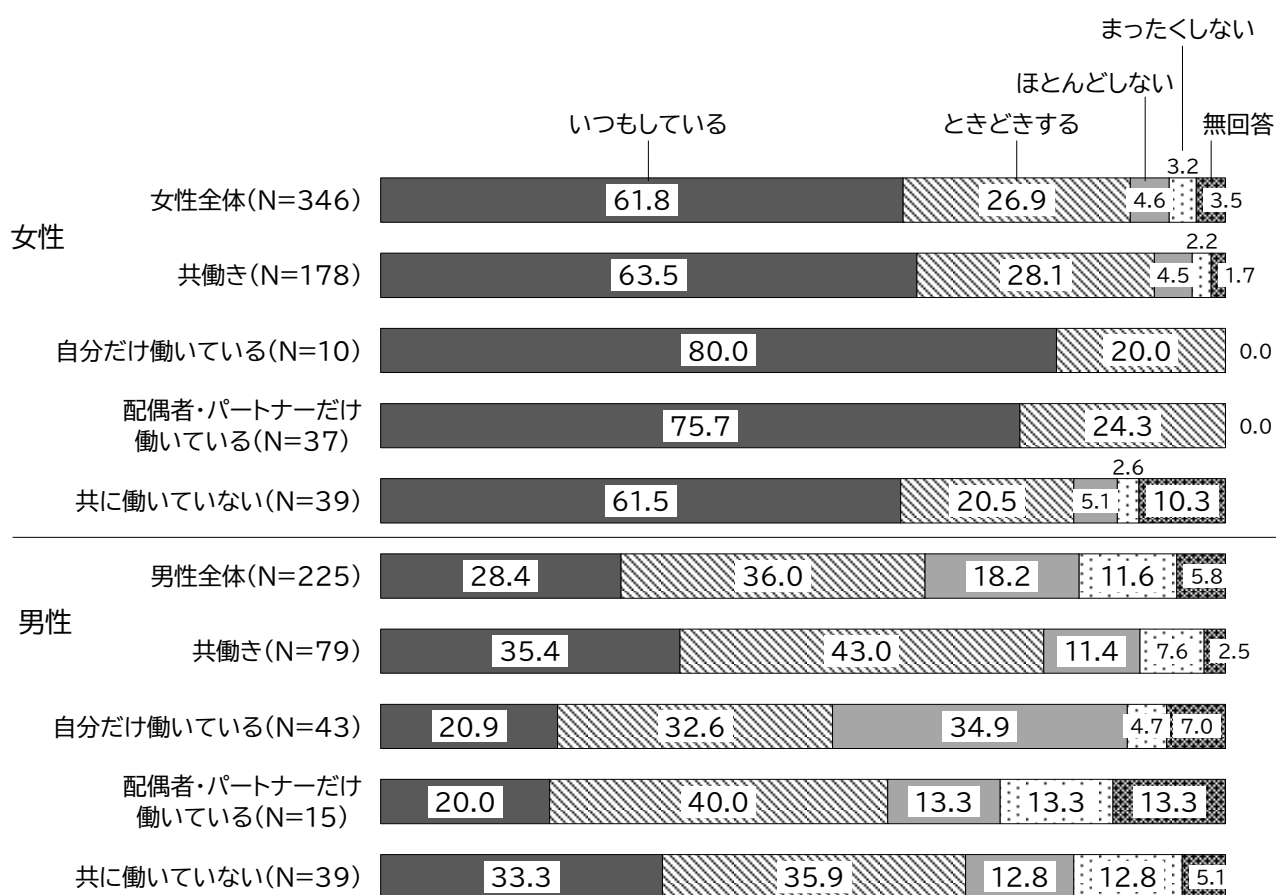


■風呂やトイレの掃除

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が63.5%です。

共働きの男性で「いつもしている」は35.4%ですが、「ときどきする」が43.0%となっています。(図表4-1-6-⑥)

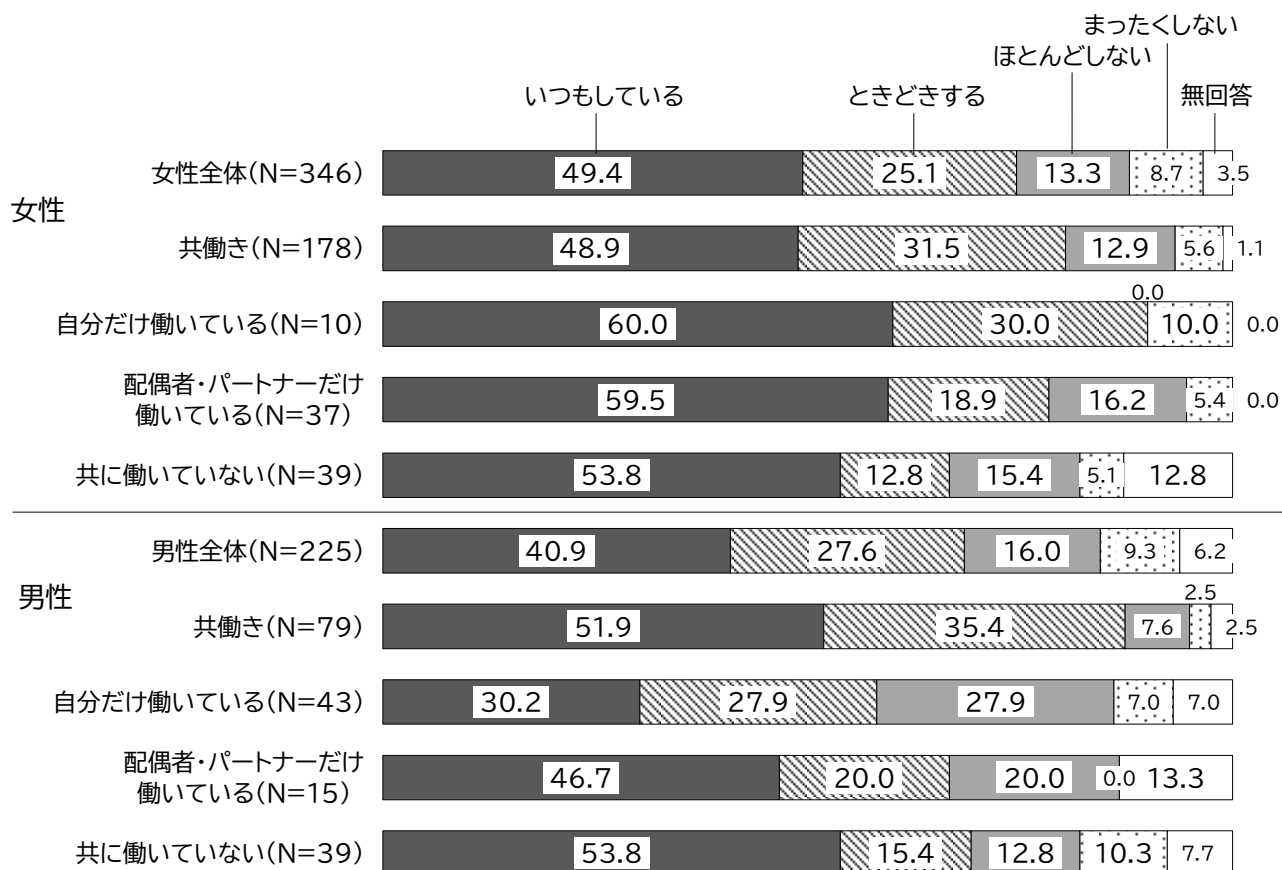
図表 4-1-6-⑥ 家事などの分担：風呂やトイレの掃除（性・共働き状況別）



■ゴミ出し

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が48.9%です。
共働きの男性で「いつもしている」は51.9%となっています。(図表4-1-6-⑦)

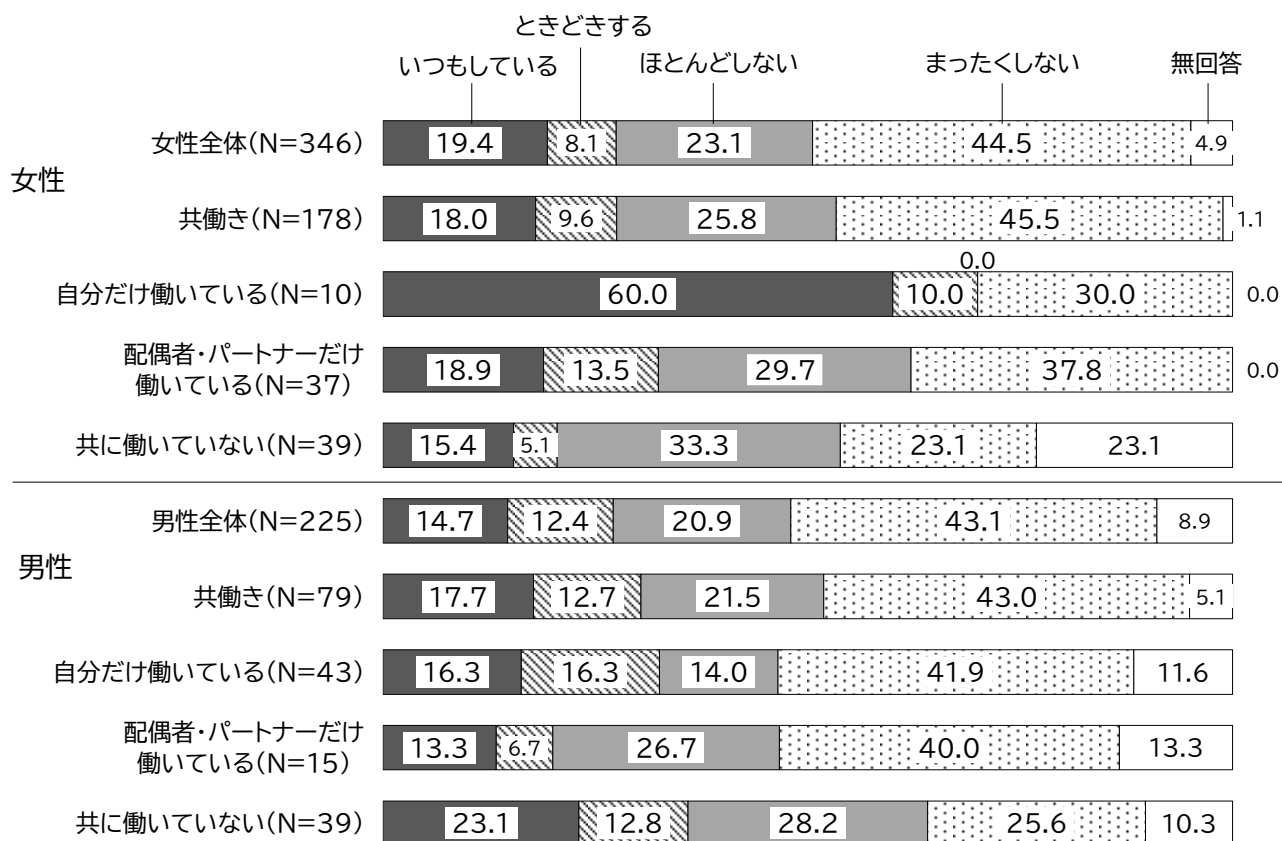
図表 4-1-6-⑦ 家事などの分担：ゴミ出し（性・共働き状況別）



■町内会や自治会への出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が18.0%です。
共働きの男性で「いつもしている」は17.7%となっています。(図表4-1-6-⑧)

図表 4-1-6-⑧ 家事などの分担：町内会や自治会への出席（性・共働き状況別）

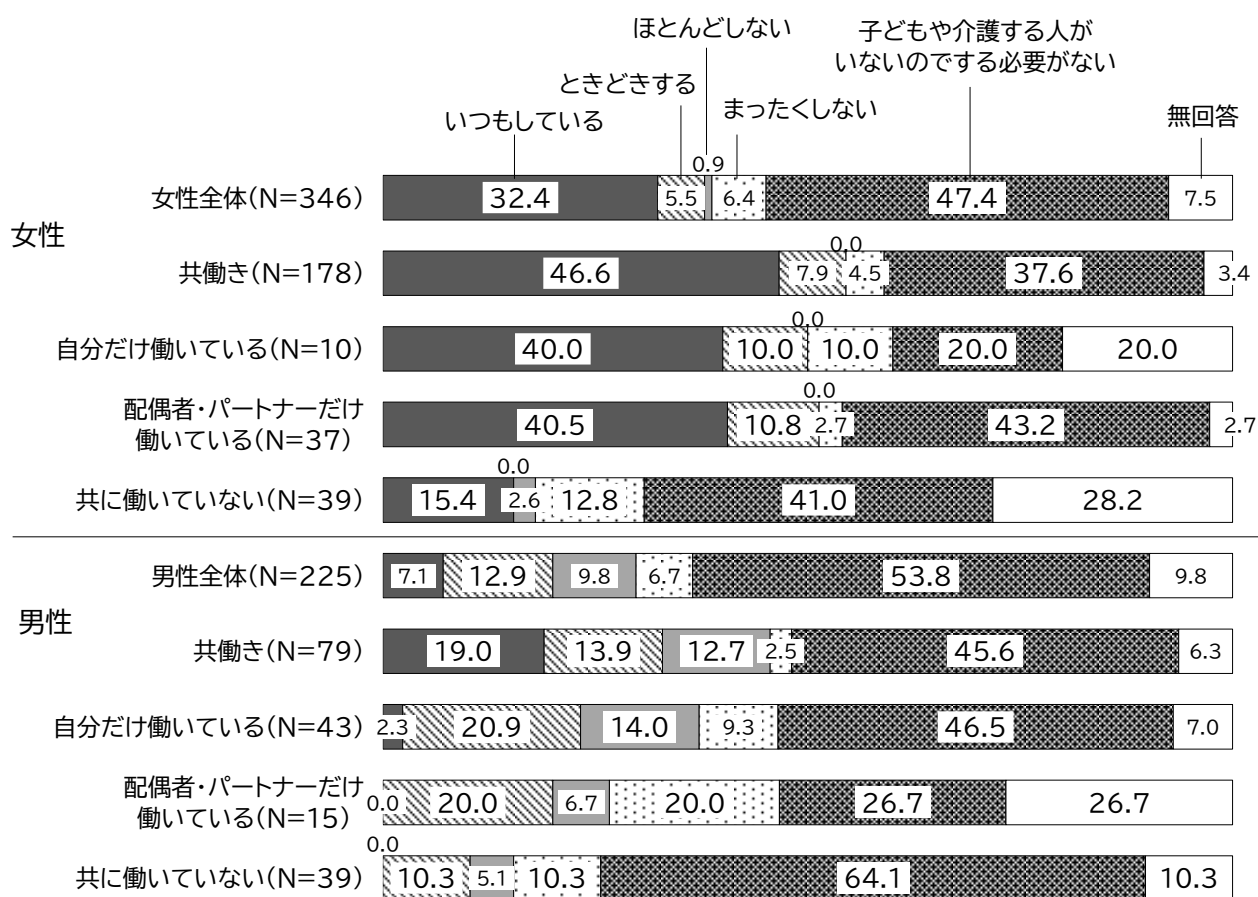


■育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は、「いつもしている」が46.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は19.0%、「ときどきする」が13.9%となっています。(図表4-1-6-⑨)

図表 4-1-6-⑨ 家事などの分担：育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎（性・共働き状況別）

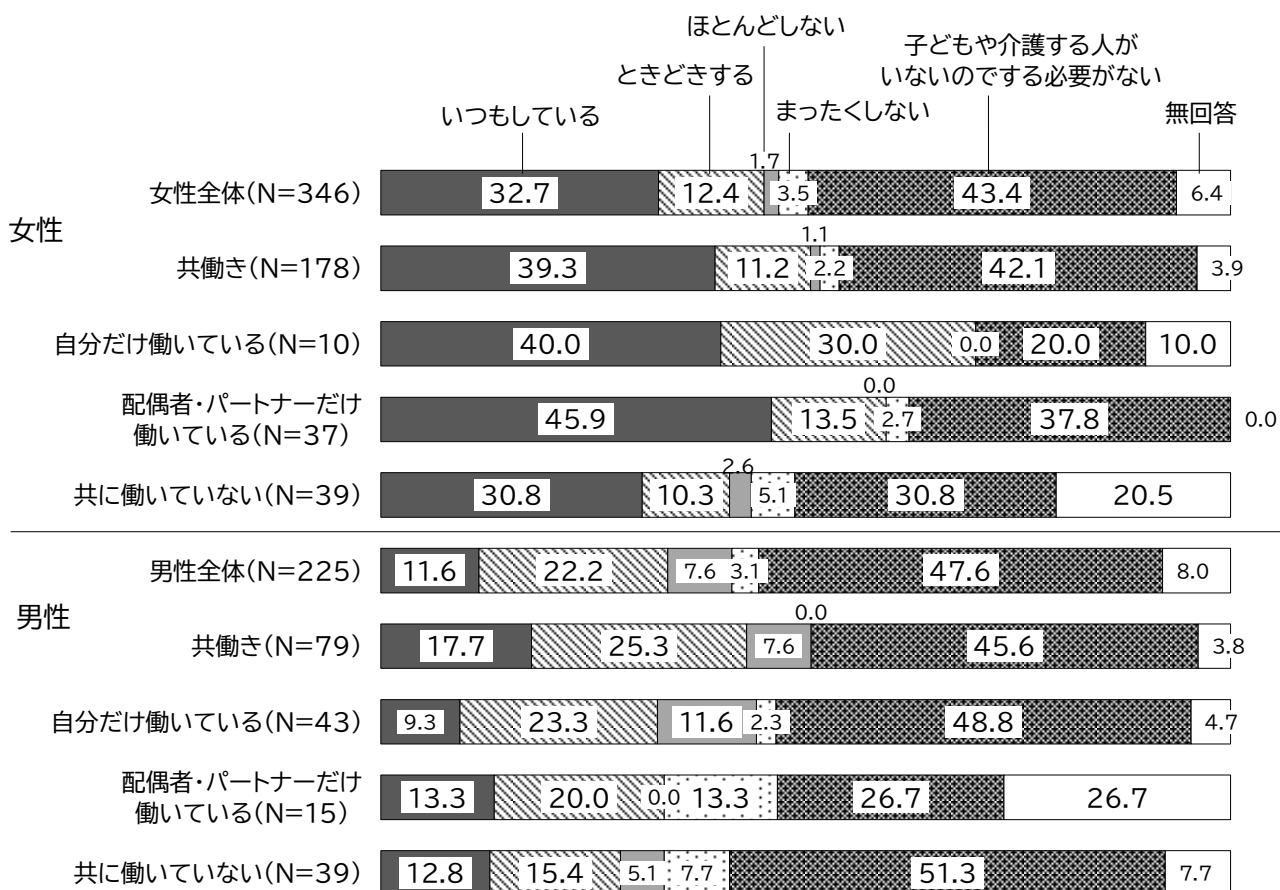


■家族の病気の看護・介護

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が39.3%です。

共働きの男性で「いつもしている」は17.7%ですが、「ときどきする」が25.3%となっています。（図表4-1-6-⑩）

図表 4-1-6-⑩ 家事などの分担：家族の病気の看護・介護（性・共働き状況別）

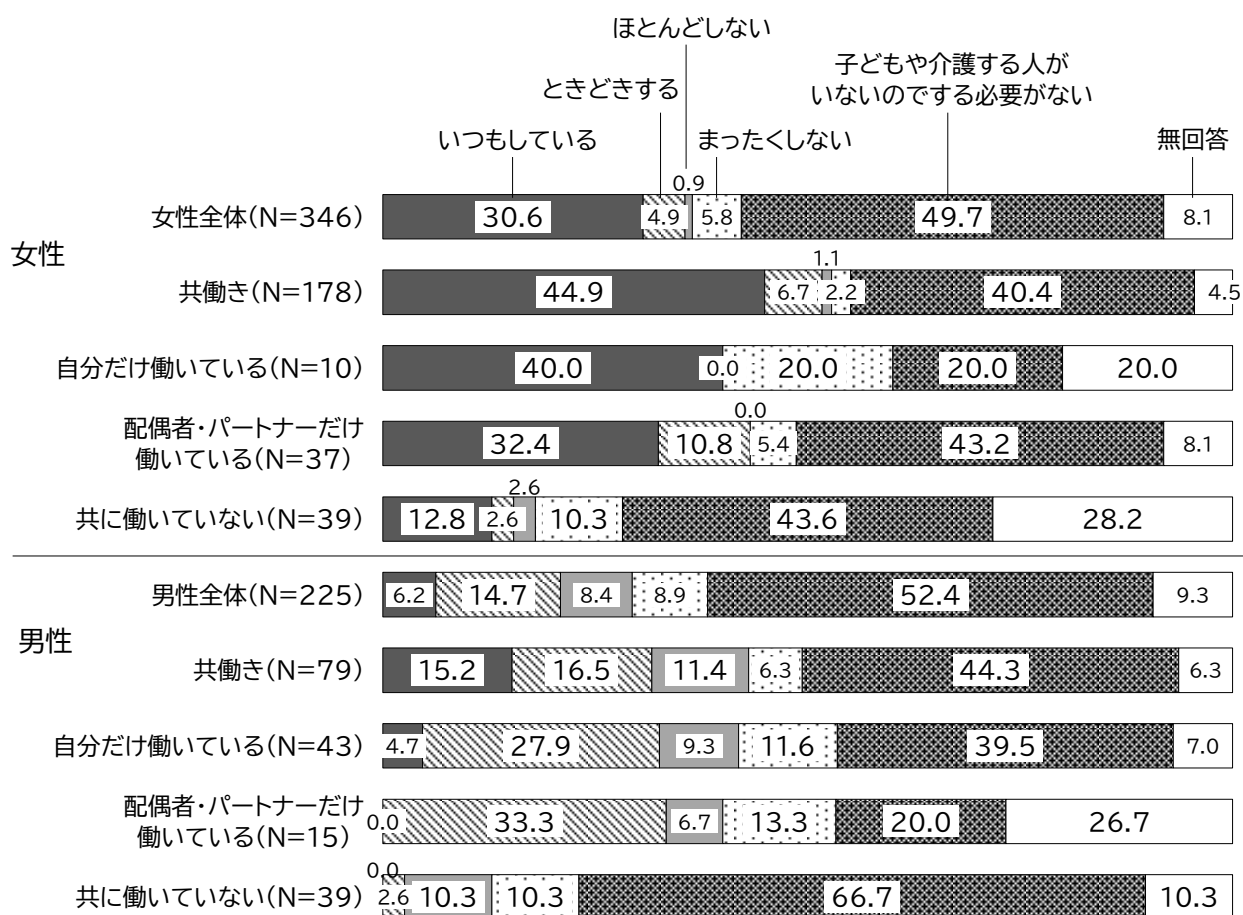


■授業参観や保護者会、PTA の出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が44.9%です。

共働きの男性で「いつもしている」は15.2%ですが、「ときどきする」が16.5%となっています。(図表4-1-6-⑪)

図表 4-1-6-⑪ 家事などの分担：授業参観や保護者会、PTA の出席（性・共働き状況別）

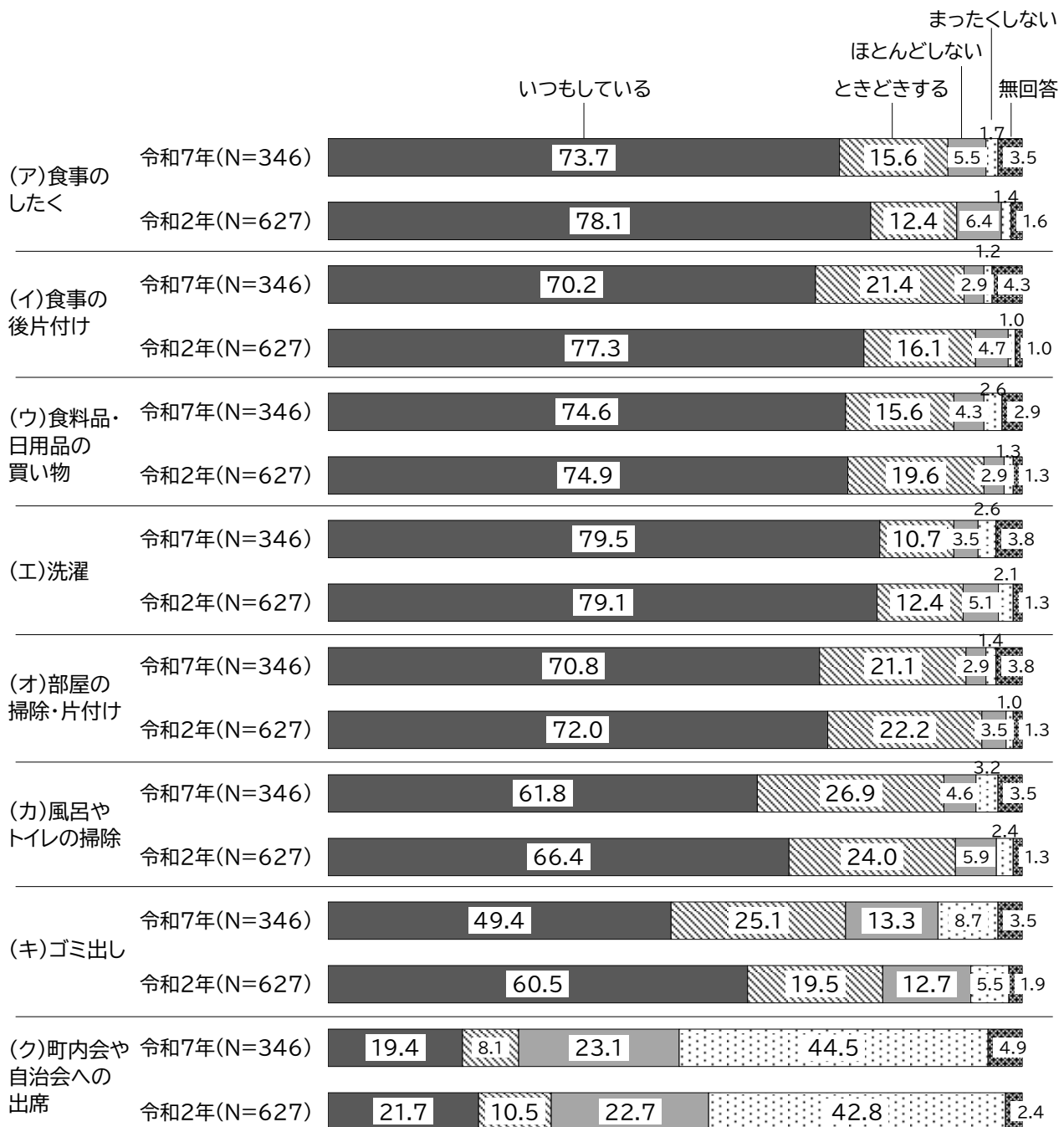


【令和2年調査との比較】

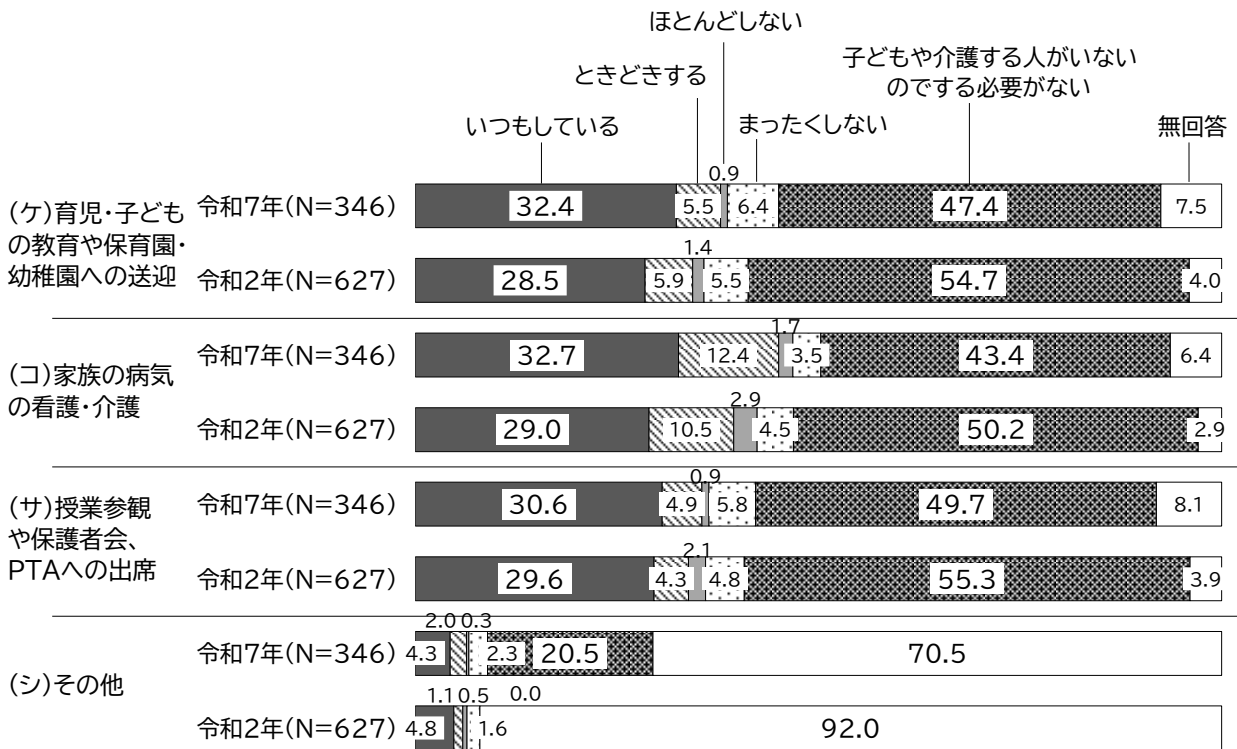
■女性

令和2年調査と比較すると、女性は『食事のしたく』、『食事の後片付け』、『食料品・日用品の買い物』、『部屋の掃除・片付け』、『風呂やトイレの掃除』、『ゴミ出し』、『町内会や自治会への出席』、『その他』で「いつもしている」が減っています。(図表4-1-7-①②)

図表 4-1-7-① 家事などの分担（女性、令和7年・令和2年調査）



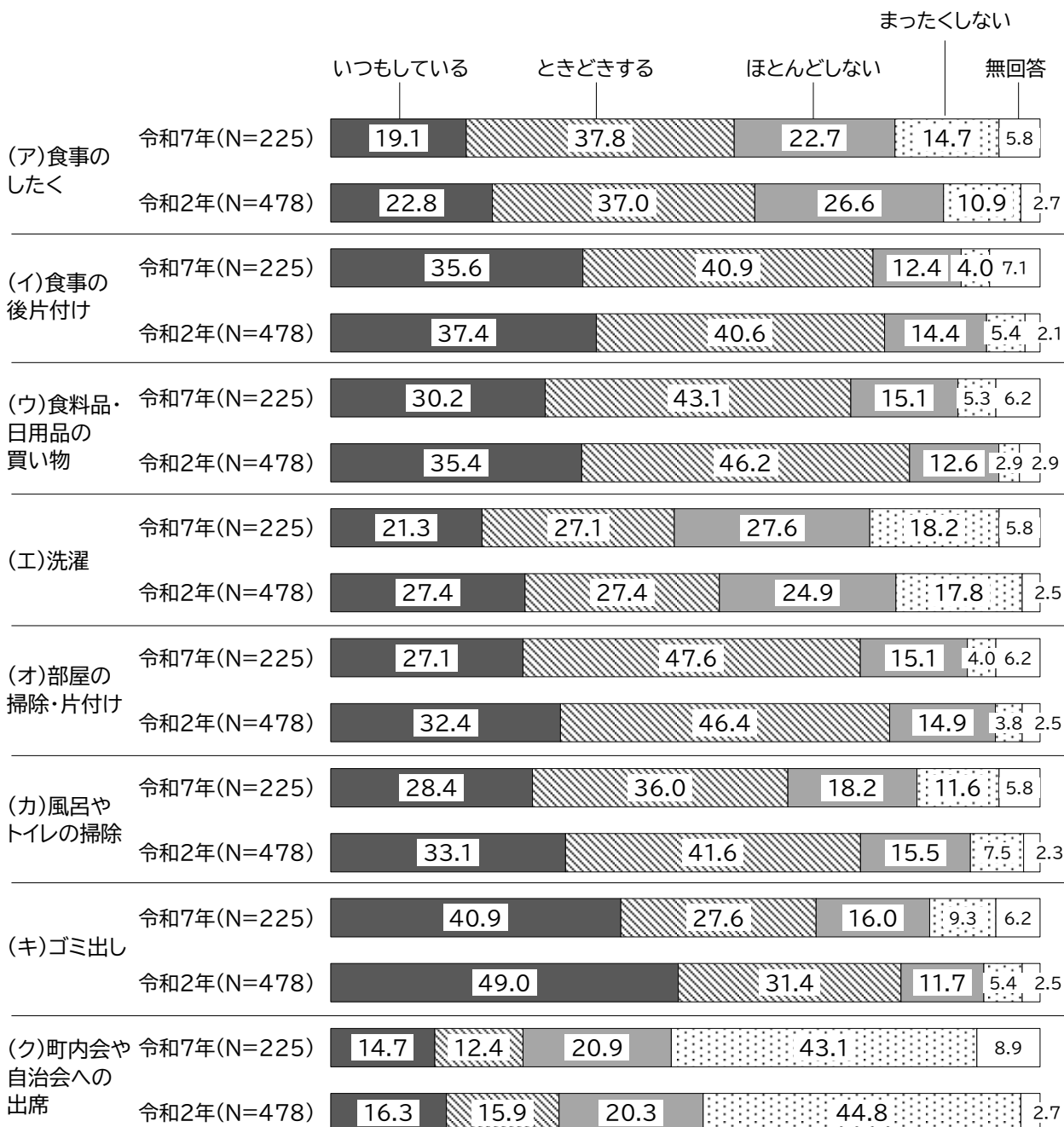
図表 4-1-7-② 家事などの分担（女性、令和7年・令和2年調査）



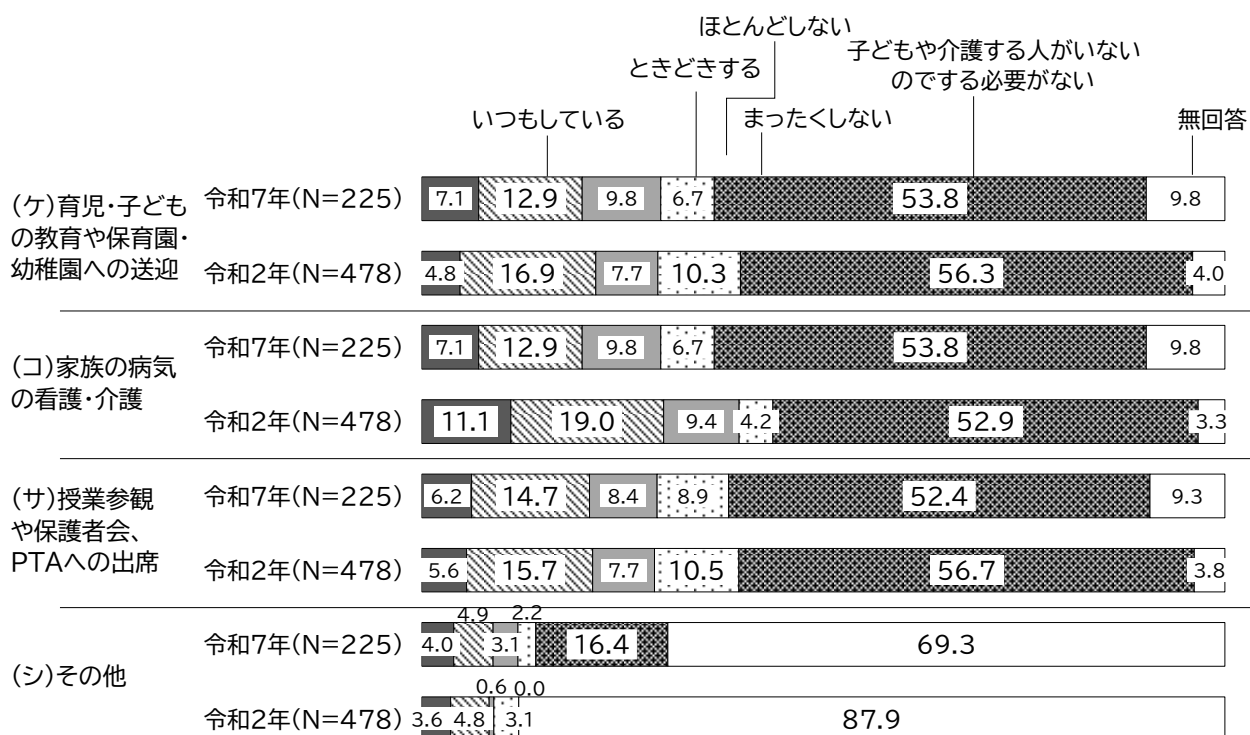
■男性

令和2年調査と比較すると、男性は『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園の送迎』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席』、『その他』以外のすべての項目で「いつもしている」が減っています。(図表4-1-7-③④)

図表 4-1-7-③ 家事などの分担（男性、令和7年・令和2年調査）



図表 4-1-7-④ 家事などの分担（男性、令和7年・令和2年調査）



(2) 男性の家庭参画の度合い

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組めばよいと思いますか。(○は1つだけ)

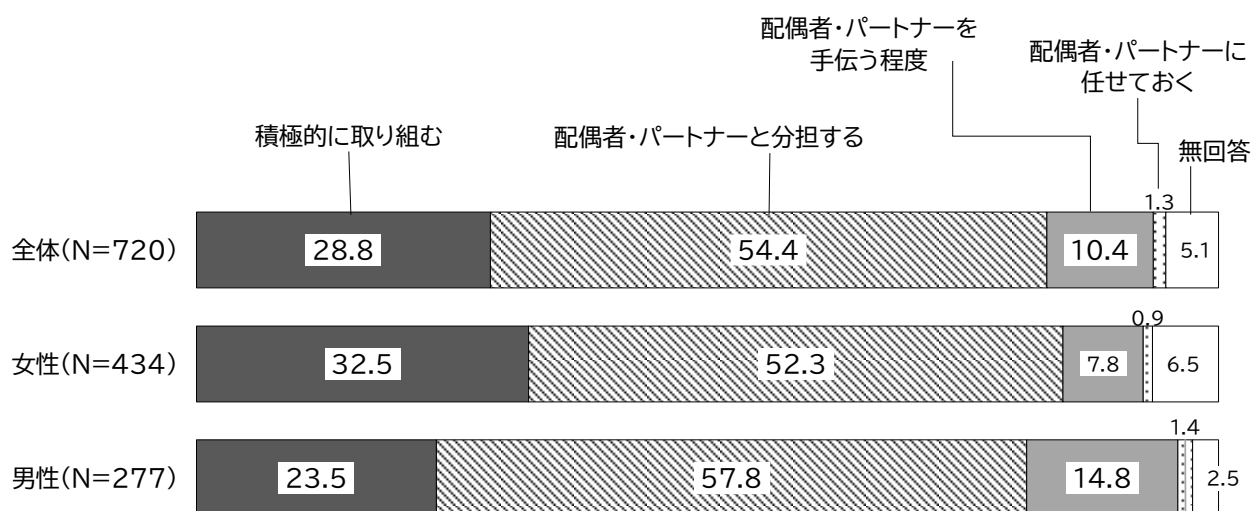
【全体】

全体では、「配偶者・パートナーと分担する(54.4%)」が最も多く、「積極的に取り組む(28.8%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度(10.4%)」が続いています。(図表4-2-1)

【性別】

性別でみると、女性は「積極的に取り組む(女性:32.5%、男性:23.5%)」で男性を上回っています。(図表4-2-1)

図表 4-2-1 男性の家庭参画の度合い（全体、性別）

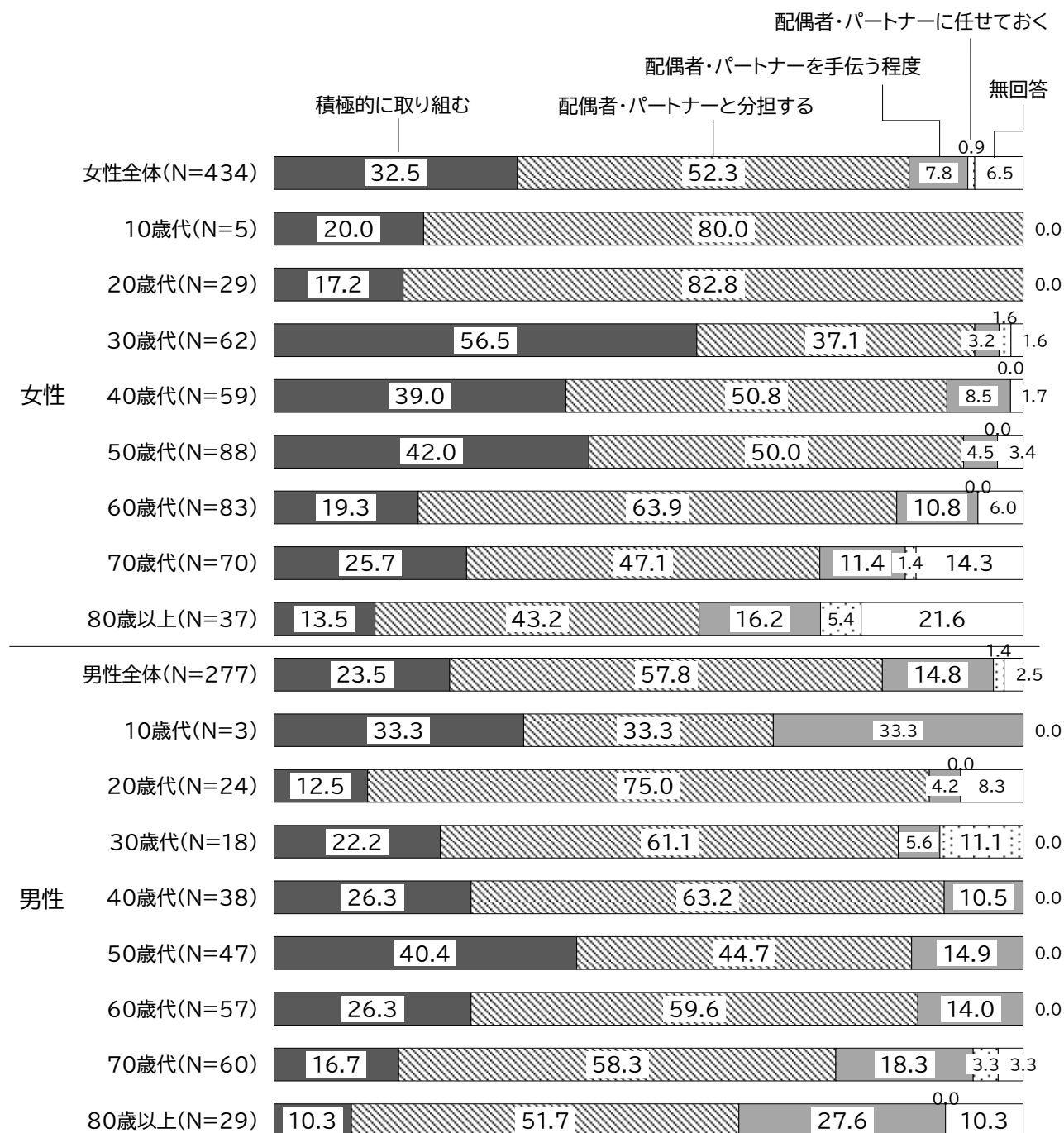


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「積極的に取り組む」が56.5%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は50歳代で「積極的に取り組む」が40.4%と他の年代と比べて多くなっています。(図表4-2-2)

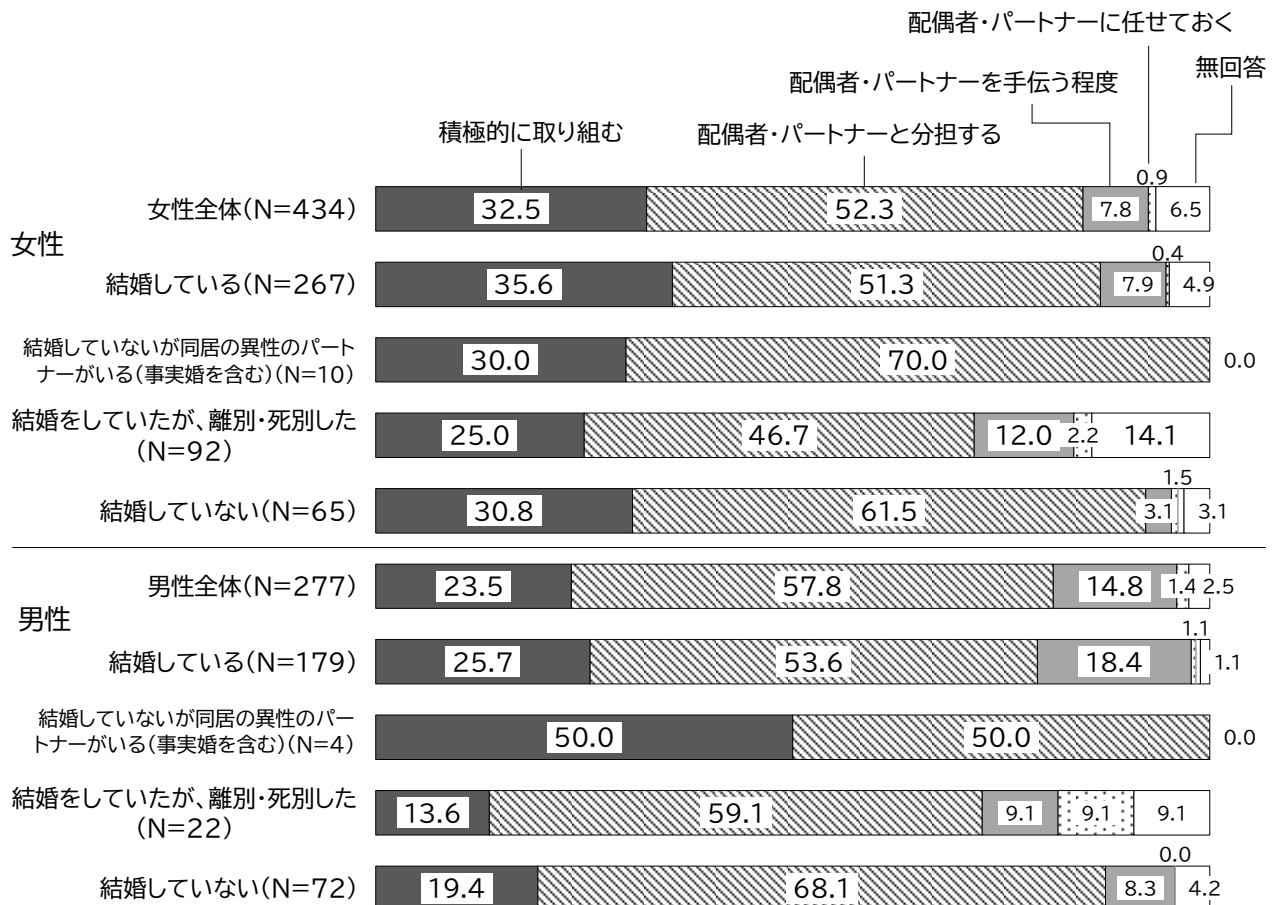
図表 4-2-2 男性の家庭参画の度合い（性・年代別）



【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、「積極的に取り組む」は、既婚でも(女性:35.6%、男性25.7%)未婚でも(女性:30.8%、男性:19.4%)女性が男性を上回っています。(図表4-2-3)

図表 4-2-3 男性の家庭参画の度合い(性・未既婚別)

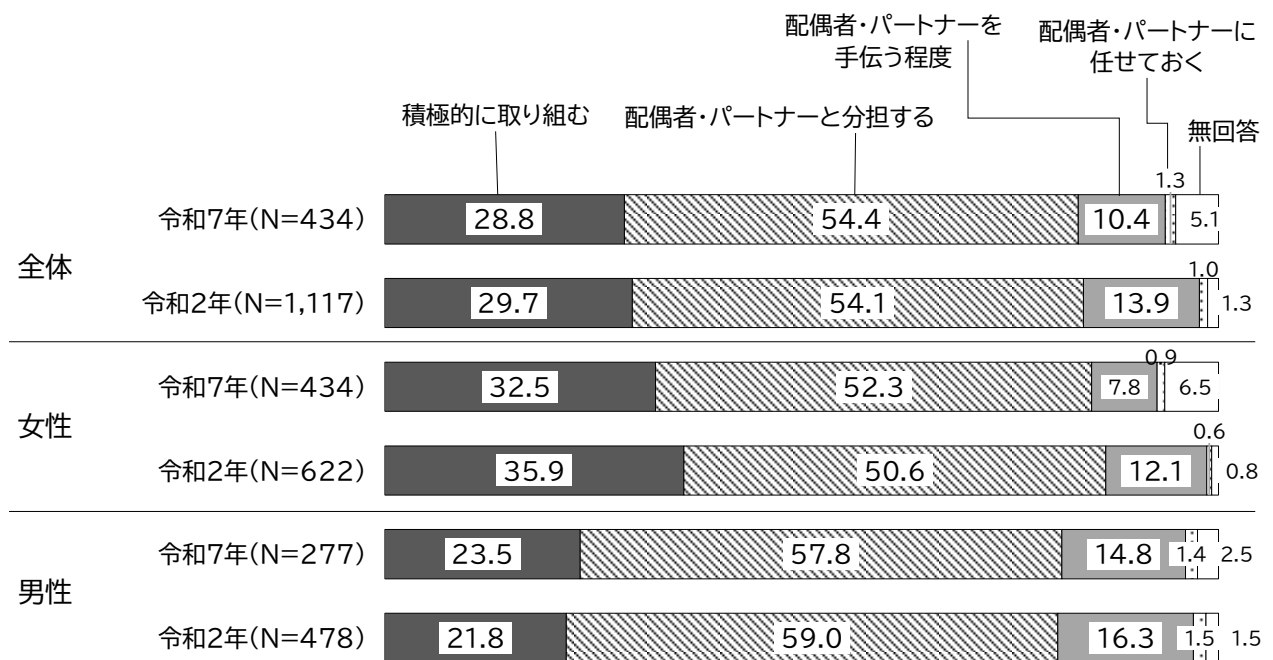


【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体では「積極的に取り組む」と「配偶者・パートナーと分担する」の合計は大きな変化はありません。

女性では「積極的に取り組む(32.5%)」が令和2年調査(35.9%)からやや減少しています。(図表4-2-4)

図表 4-2-4 男性の家庭参画の度合い（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

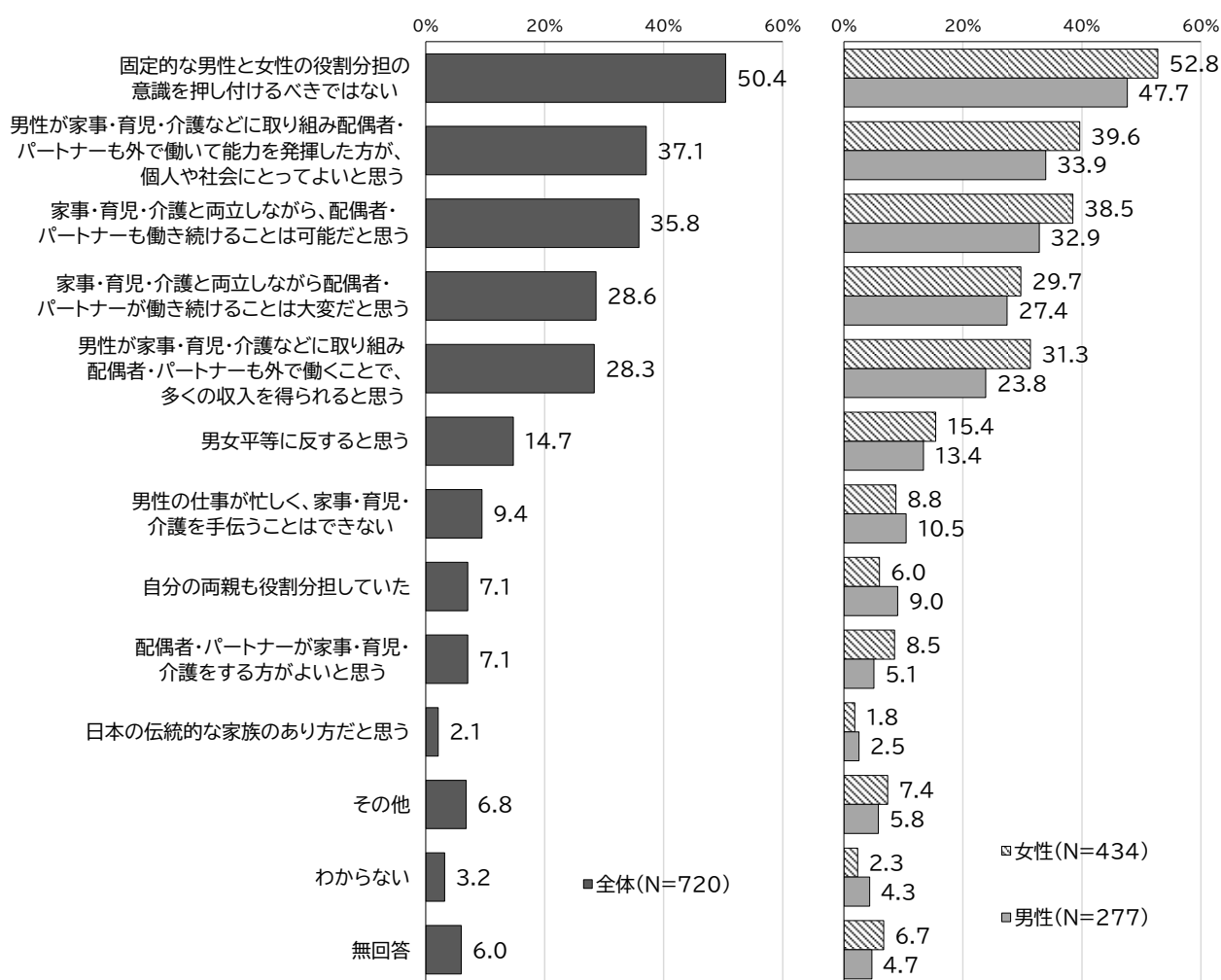
全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(50.7%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(37.1%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(35.8%)」が続いています。(図表4-2-5)

【性別】

性別でみると、男女ともに「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(女性：52.8%、男性47.7%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでない(女性：52.8%、男性47.7%)」、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思う(女性：39.6%、男性：33.9%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思う(女性：38.5%、男性：32.9%)」、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働くことで、多くの収入を得られると思う(女性：31.3%、男性：23.8%)」で、女性が男性を上回っています。(図表4-2-5)

図表 4-2-5 問5で回答した理由（全体、性別）

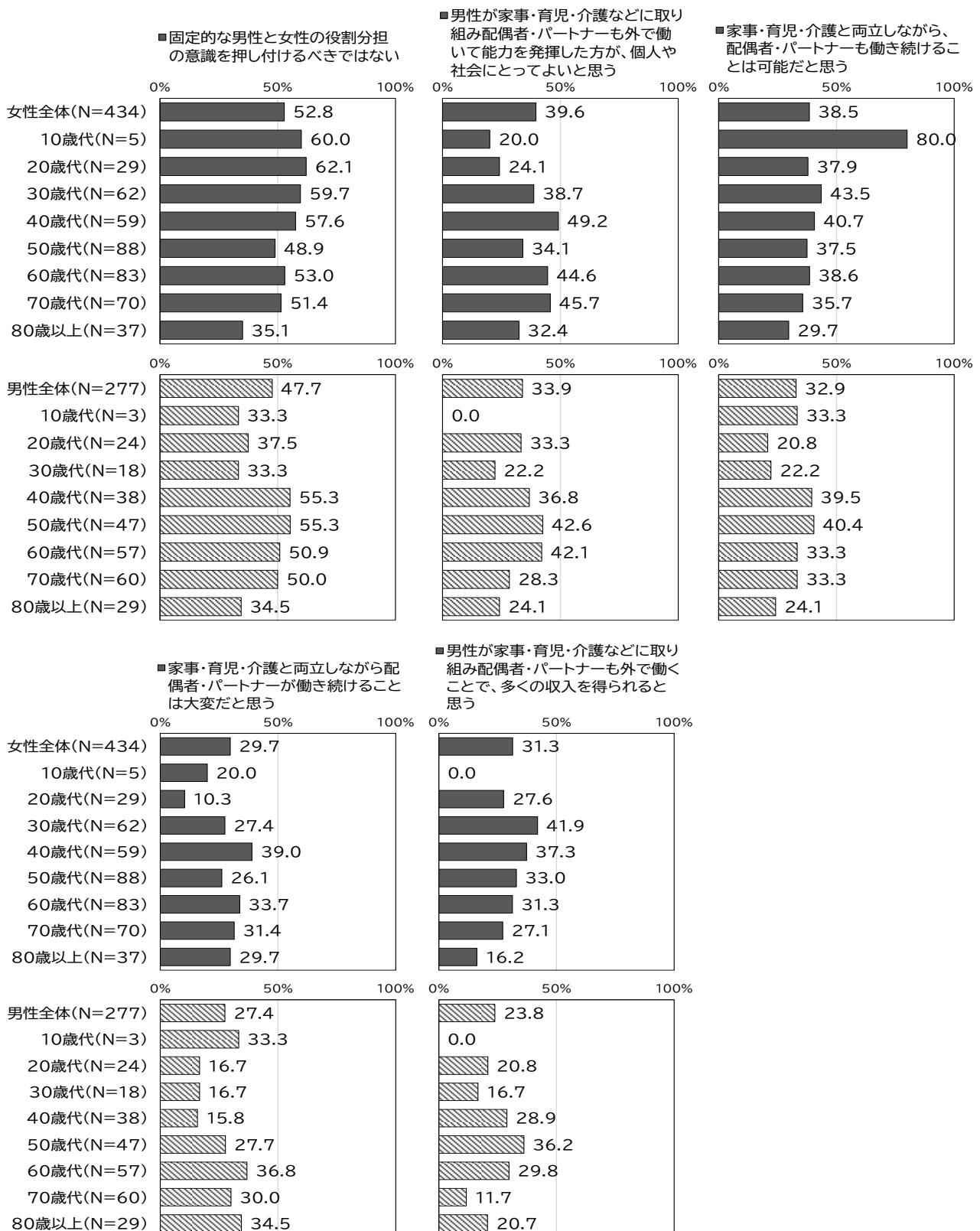


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は50歳代と80歳以上を除いたすべての年代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」が5割を超えています。

男性は40歳代から70歳代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」が5割を超えています。(図表4-2-6)

図表 4-2-6 問5で回答した理由（性・年代別、上位5項目：複数回答）

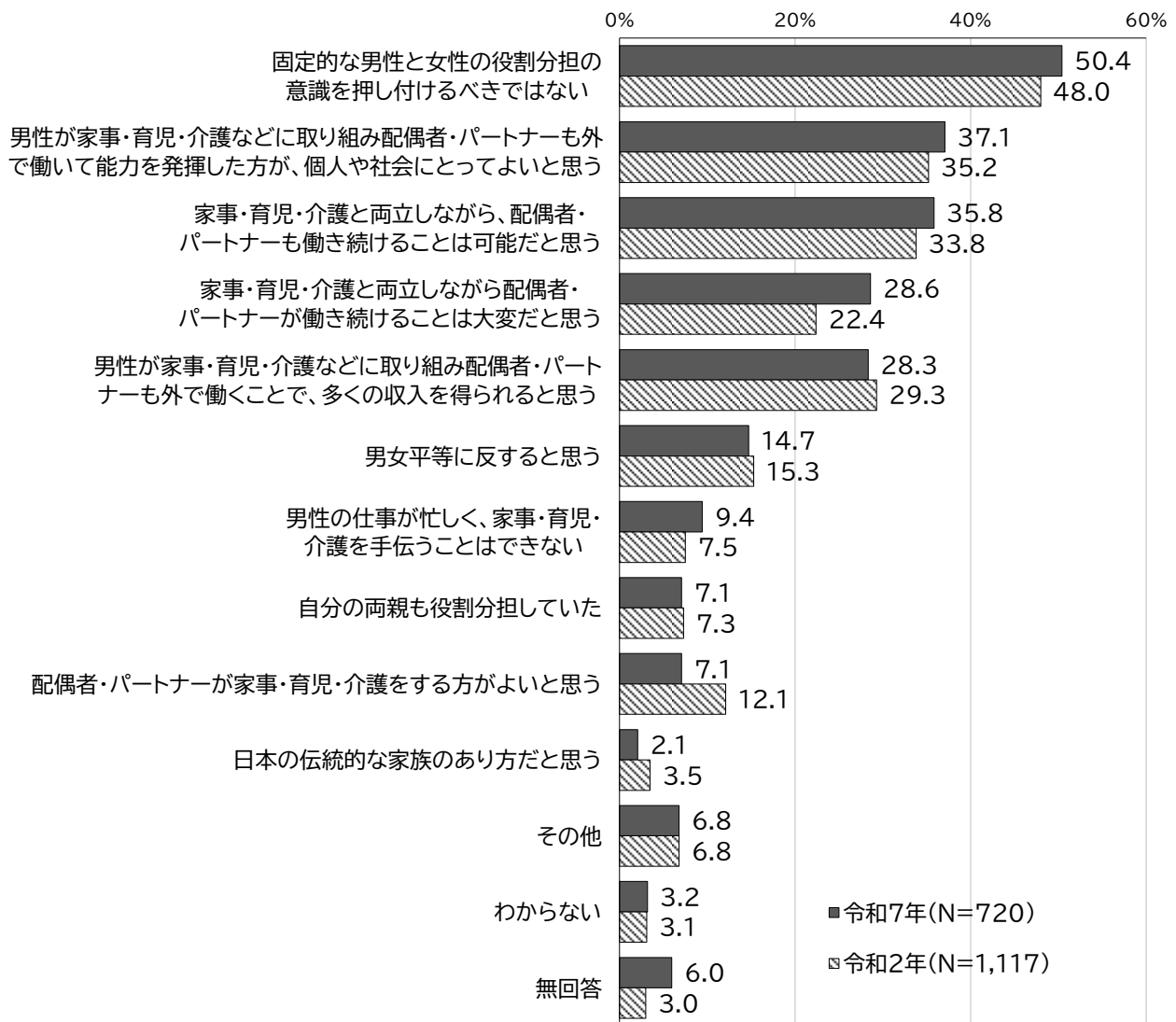


【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「家事・育児・介護と両立しながら配偶者・パートナーが働き続けることは大変だと思う(28.6%)」が6.2%上回っています。

また、「配偶者・パートナーが家事・育児・介護をする方がよいと思う(7.1%)」が令和2年調査よりも5.0%下回っています。(図表4-2-7)

図表 4-2-7 問5で回答した理由（全体、令和7年・令和2年調査）



(3) 男性の家庭参画に必要なこと

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

【全体】

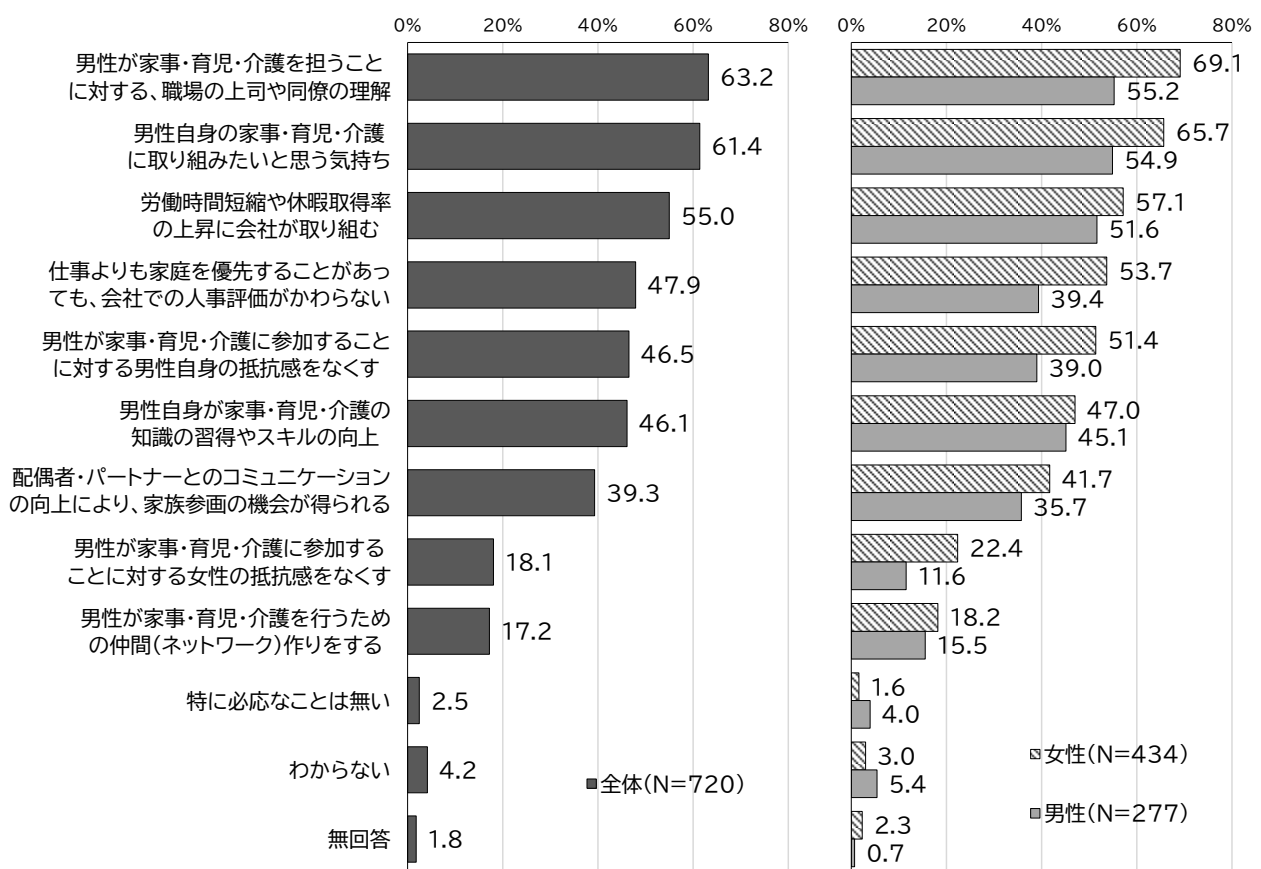
全体では、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(63.2%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(61.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(55.0%)」が続いています。(図表4-3-1)

【性別】

性別でみると、女性は「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解(69.1%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(65.7%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(57.1%)」が続いています。

男性は「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解」が55.2%と最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち(54.9%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組む(51.6%)」、「男性自身が家事・育児・介護の知識の習得やスキルの向上(45.1%)」が続きます。(図表4-3-1)

図表 4-3-1 男性の家庭参画に必要なこと（全体、性別：複数回答）

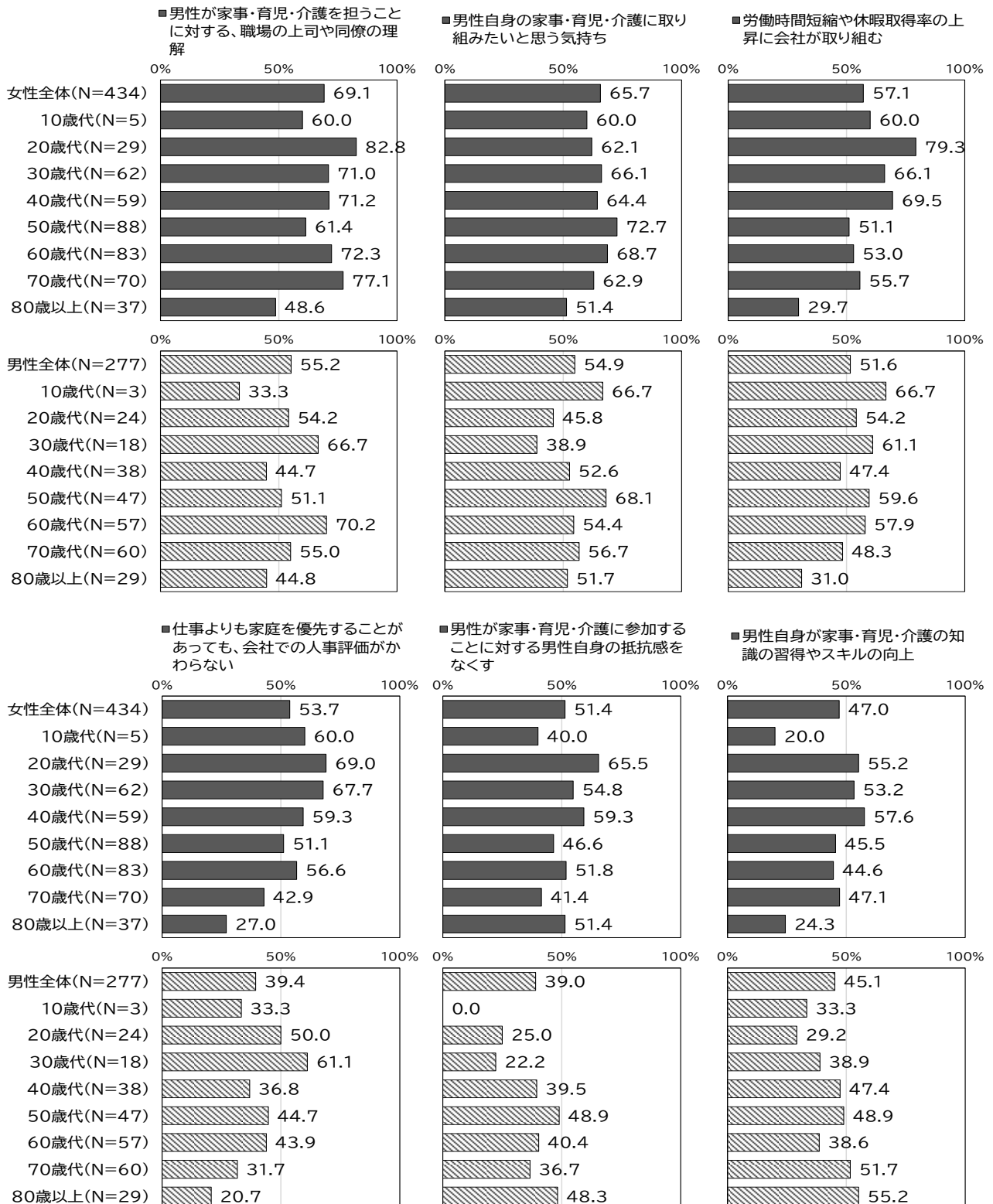


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は20歳代が「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解」が82.8%、「労働時間短縮や休暇取得向上に会社が取り組む」が79.3%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は60歳代で「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解」が70.2%と他の年代と比べて多くなっています。(図表4-3-2)

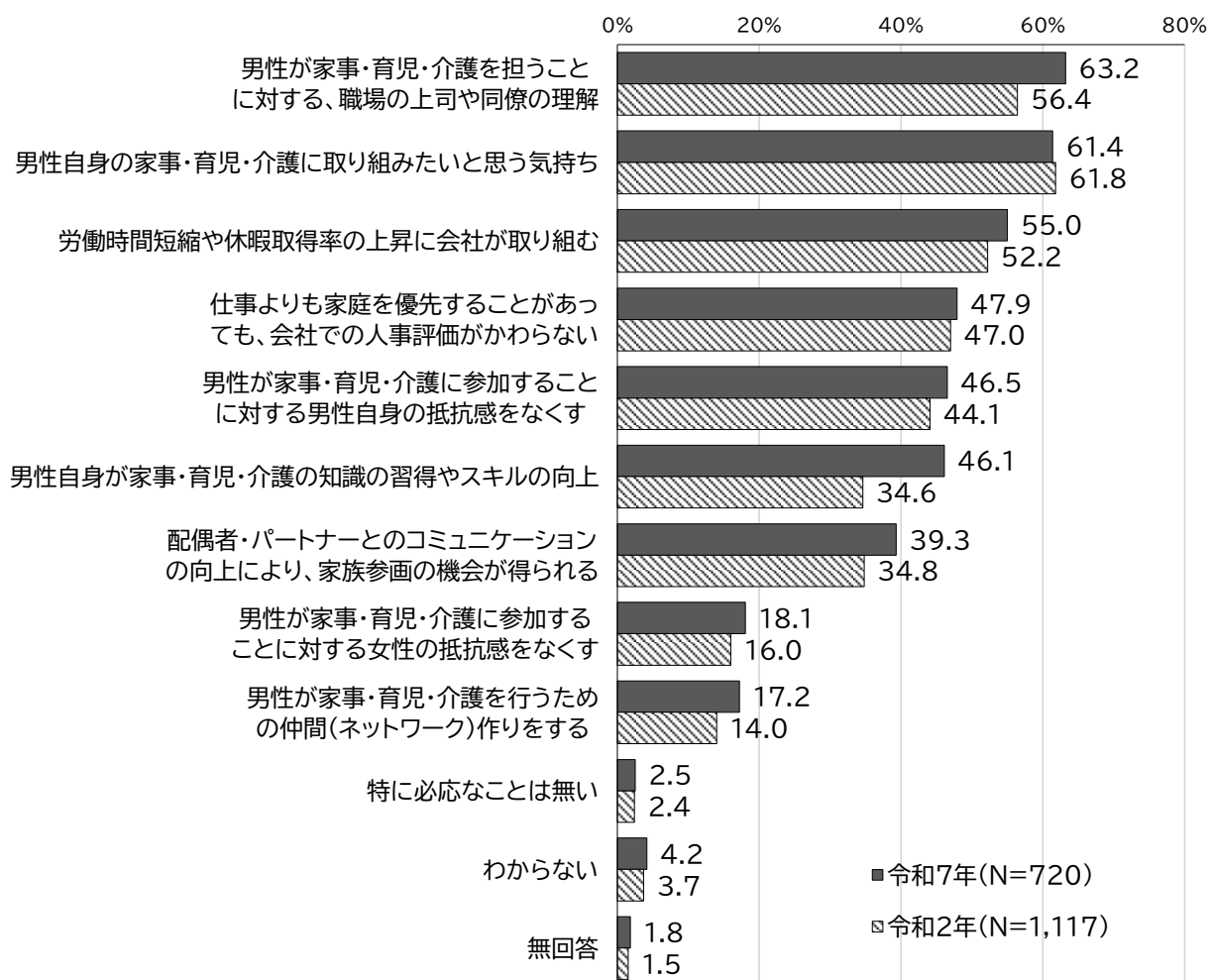
図表 4-3-2 男性の家庭参画に必要なこと（性・年代別、上位6項目：複数回答）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち」を除き、割合が上回っています。特に「男性自身が家事・育児・介護の知識やスキルの向上」は11.5%上回っています。（図表4-3-3）

図表 4-3-3 男性の家庭参画に必要なこと（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



5 就労

(1) 職業

問7 あなたの職業は、次のどれですか。(○は1つだけ)

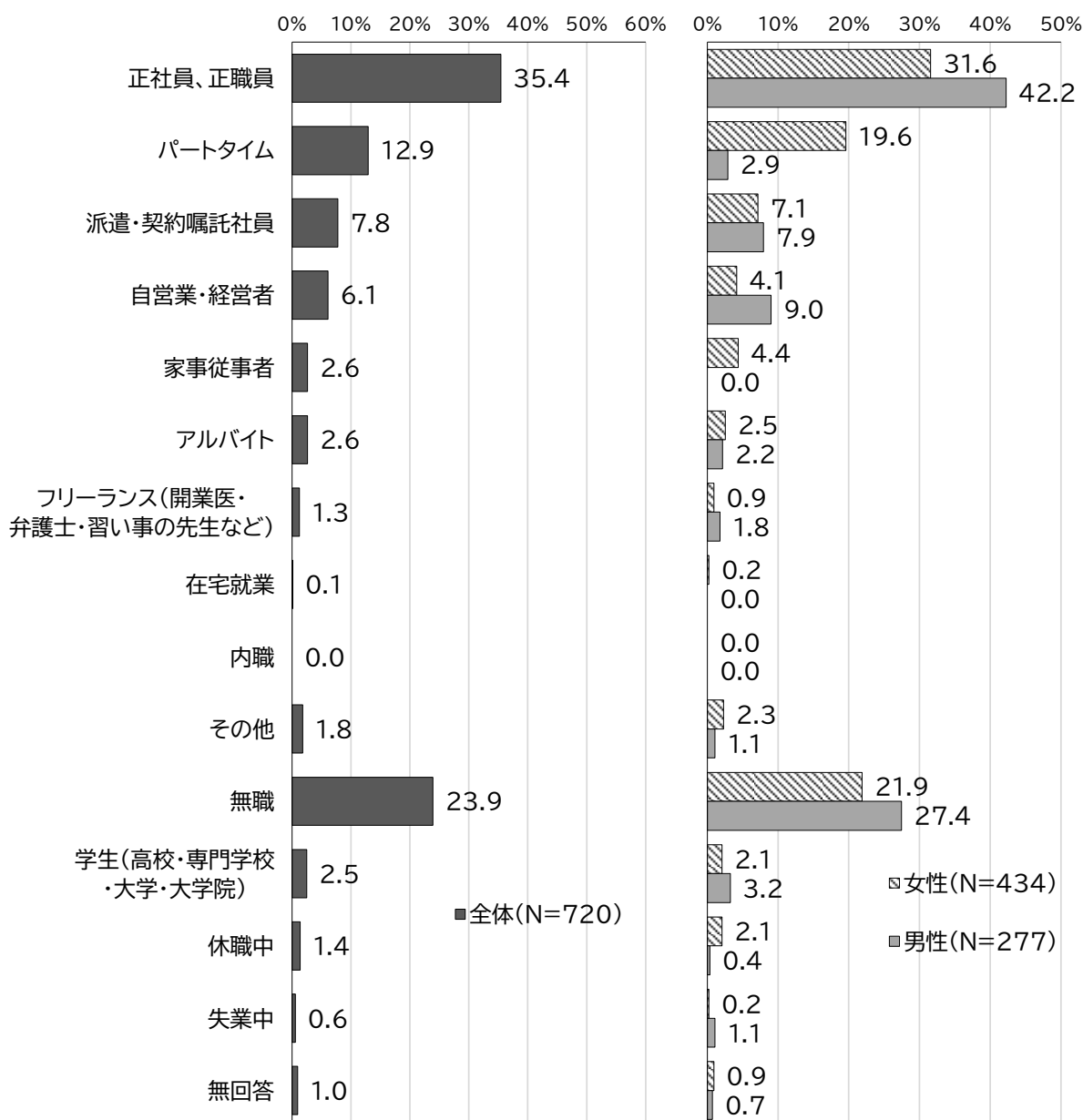
【全体】

全体では、「正社員・正職員(35.4%)」が最も多く、「パートタイム(12.9%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.8%)」が続いています。「無職」は23.9%です。(図表5-1)

【性別】

性別でみると、女性は「正社員・正職員(31.6%)」が最も多く、「パートタイム(19.6%)」、「派遣・契約嘱託社員(7.1%)」が続いています。男性は「正社員・正職員(42.2%)」が最も多くなっています。(図表5-1)

図表 5-1-1 職業 (全体、性別)

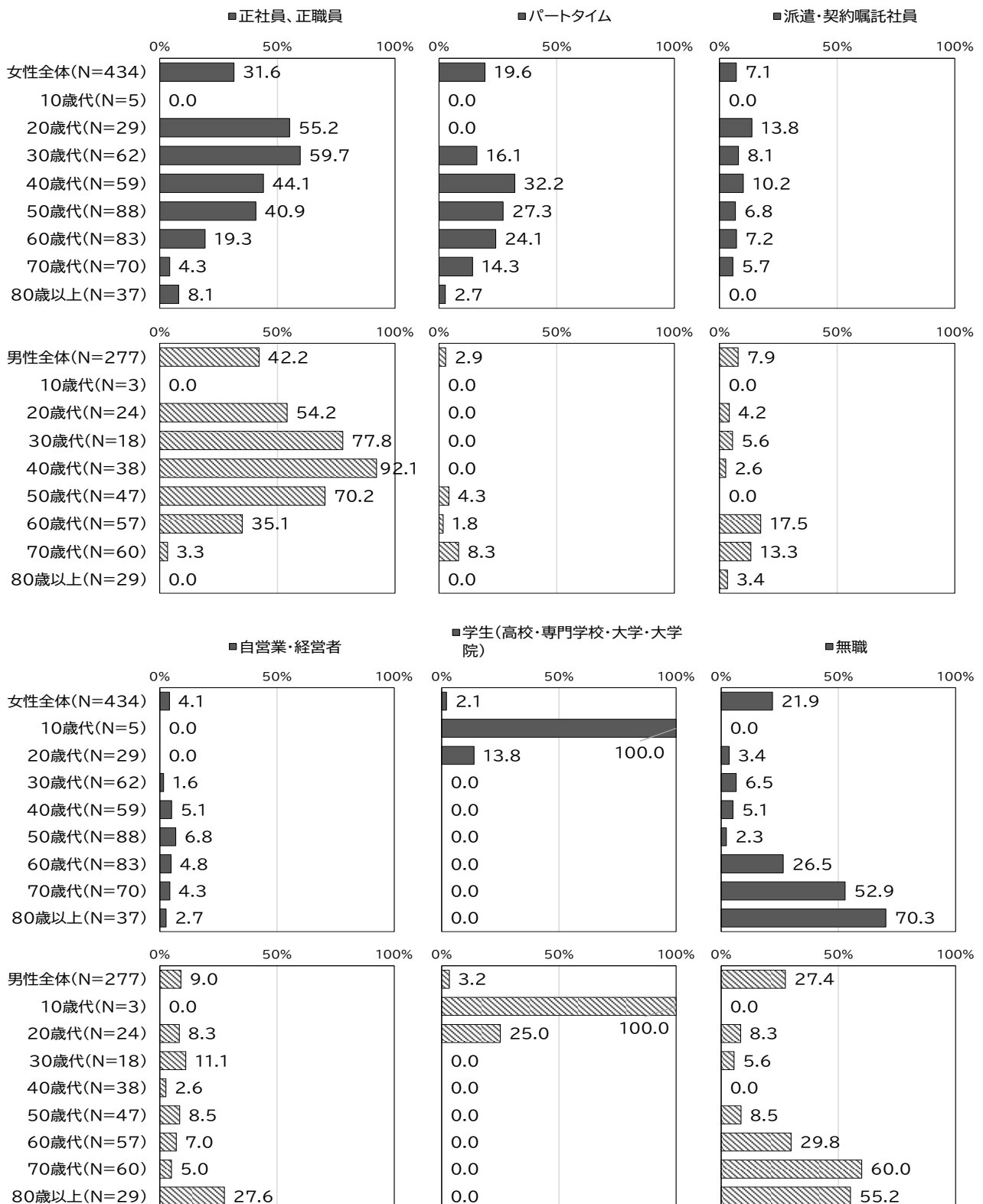


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「正社員、正職員」が59.7%、40歳代で「パートタイム」が32.2%、20歳代で「派遣・契約嘱託社員」が13.8%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は20歳代から60歳代で「正社員・正職員」が最も多くなっており、特に40歳代は92.1%となっています。(図表5-1)

図表 5-1-2 職業（性・年代別、上位6項目）



(2) 職場での男女差別

問7で1～9のいずれかをお答えの方に

問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

【全体】

何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。

全体では、「特にない(53.2%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(13.6%)」、「男女の賃金格差(13.0%)」、「女性の配置場所の限定(10.4%)」が続いています。(図表5-2-1)

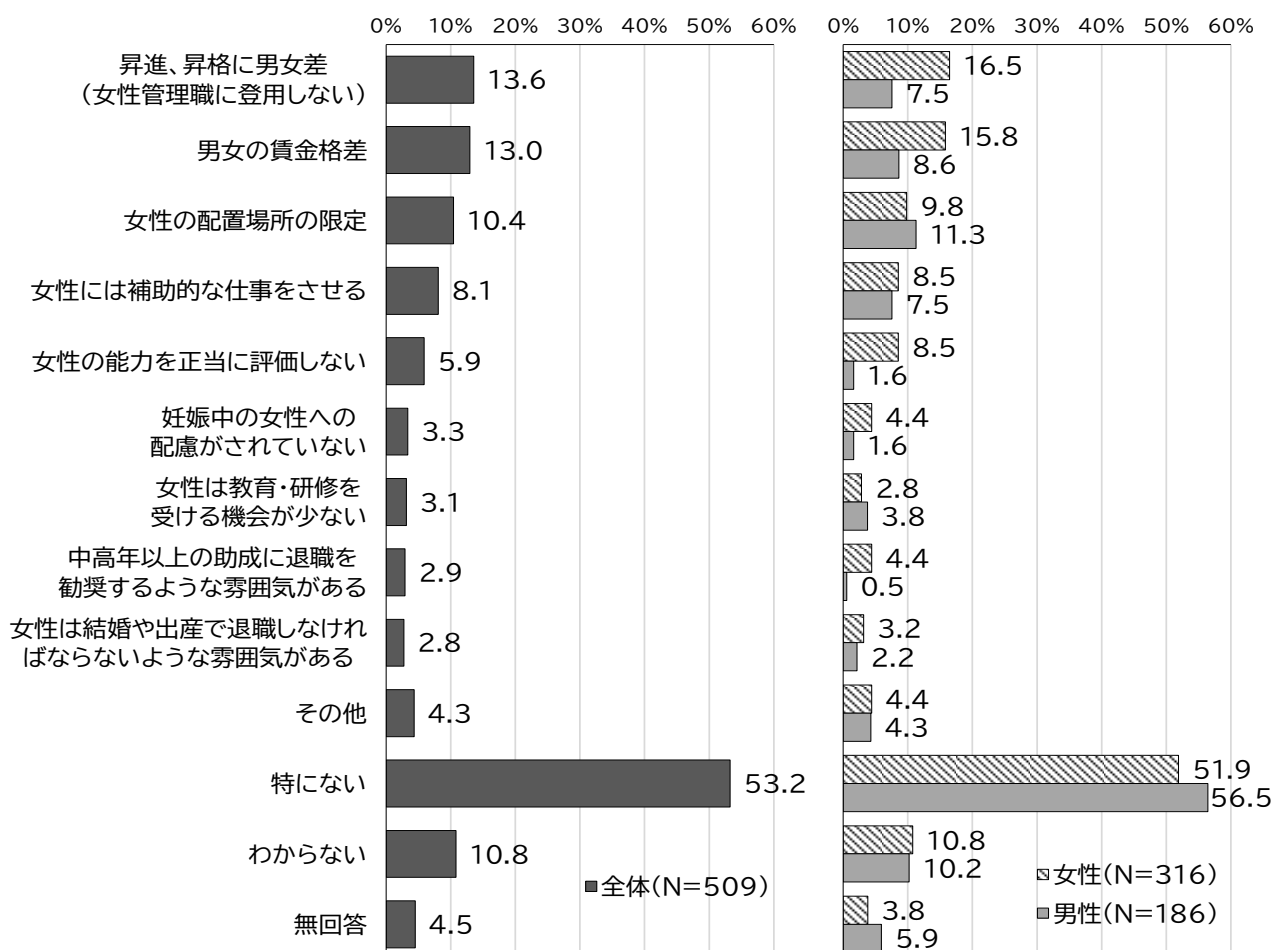
【性別】

性別でみると、男女ともに「特にない(女性:51.9%、男性:56.5%)」が最も多いですが、次いで女性は「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(16.5%)」、「男女の賃金格差(15.8%)」、「女性の配置場所の限定(9.8%)」が続いています。男性は「女性の配置場所の限定(11.3%)」、「男女の賃金格差(8.6%)」、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(7.5%)」、「女性には補助的な作業をさせる(7.5%)」が続いています。

また、「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)(女性:16.5%、男性:7.5%)」は、女性が男性を9.0%上回っています。(図表5-2-1)

図表 5-2-1 職場での男女差別（全体、性別：複数回答）

<働いている人>

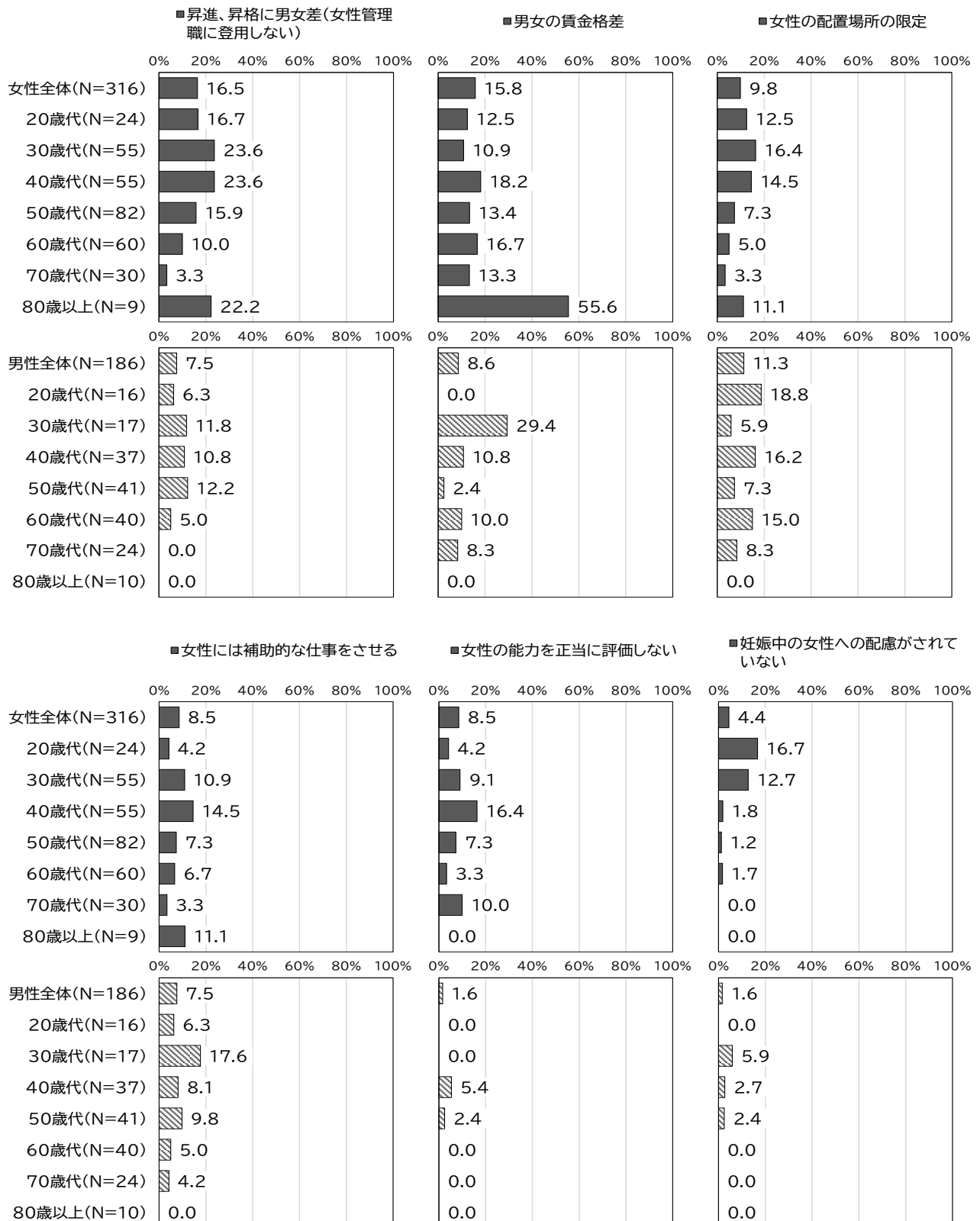


【性・年齢別】

性・年代別にみると、女性は30歳代と40歳代で「昇進、昇格に男女差(女性管理職に登用しない)」2割を超えて他の年代より多くなっています。

男性は30歳代で「男女の賃金格差」が29.4%と他の年代と比べて多くなっています。(図表5-2-2)

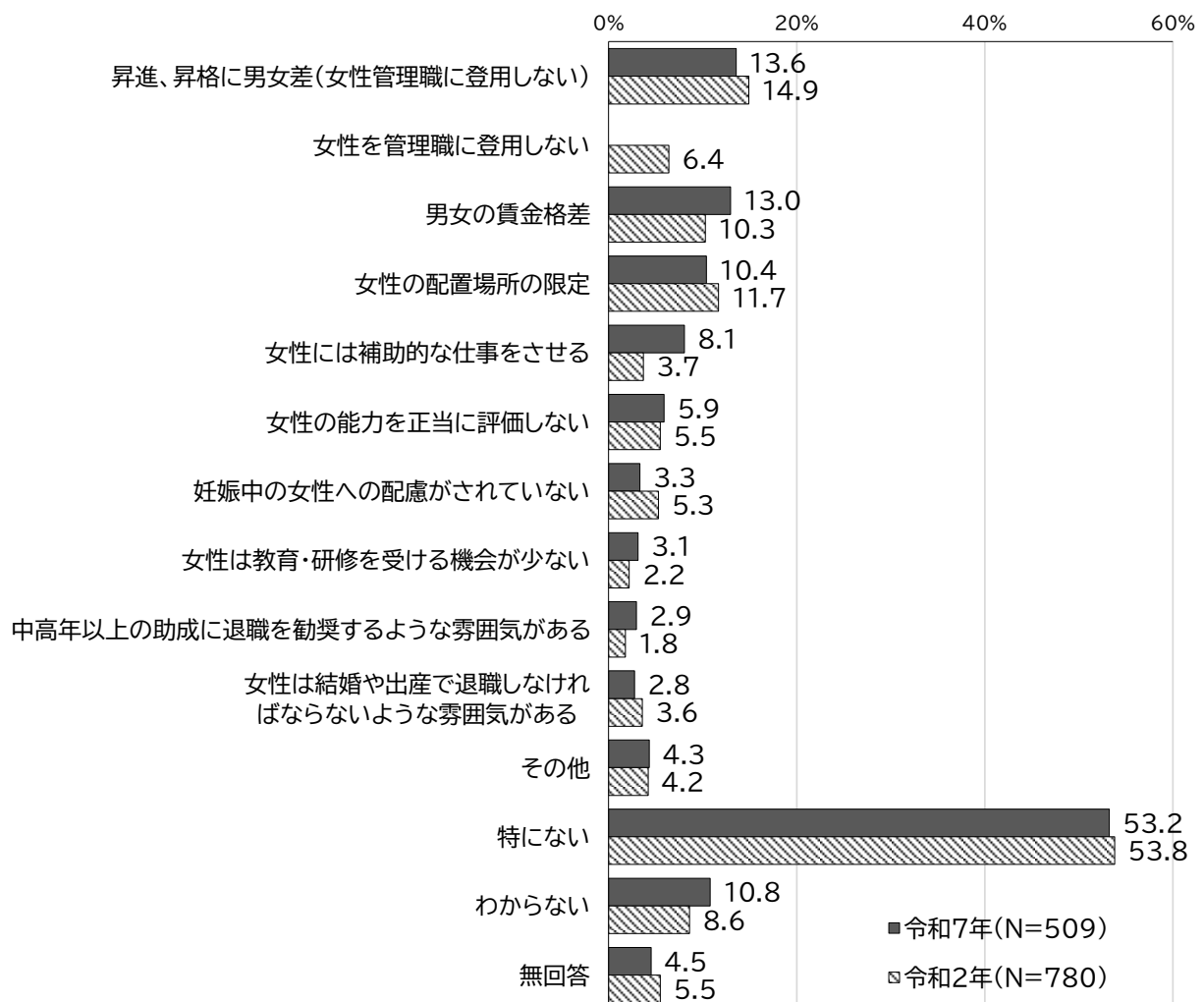
図表 5-2-2 職場での男女差別（性・年代別、「特にない」を除く上位6項目：複数回答）
＜働いている人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「男女の賃金格差」と「女性には補助的な仕事をさせる」と「女性の能力を正當に評価しない」の割合が、他の項目と比べて増えています。（図表5-2-3）

図表 5-2-3 職場での男女差別（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）
＜働いている人＞



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

(3) 女性の働き方についての意識

問8 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

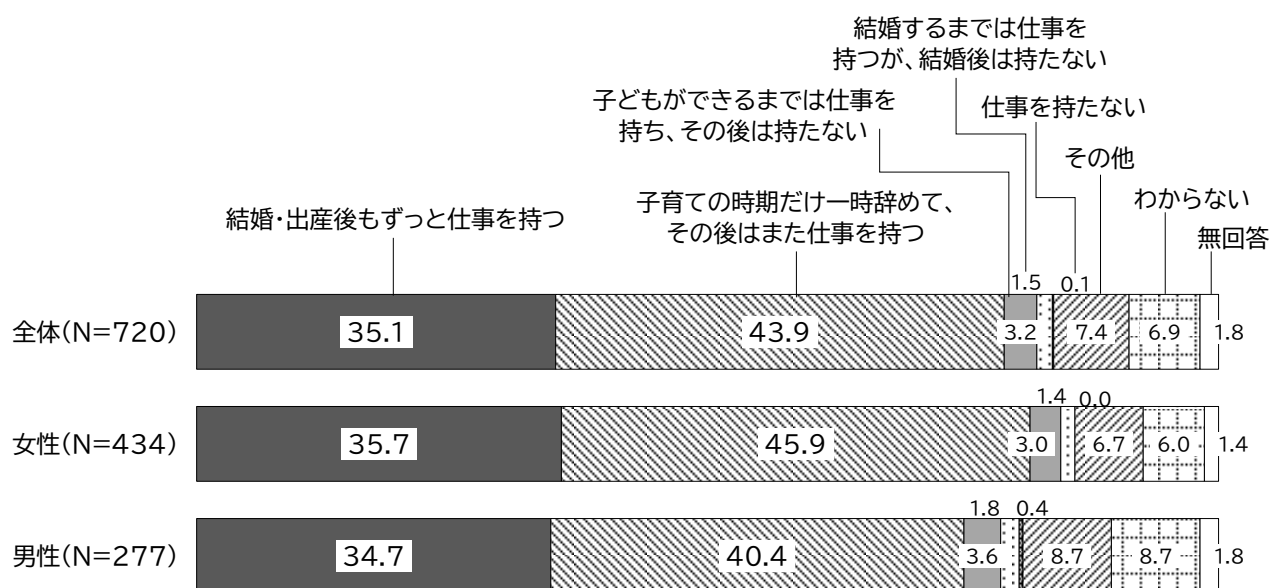
【全体】

全体では、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(43.9%)」が最も多く、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(35.1%)」が続いています。(図表5-3-1)

【性別】

性別でみると、女性は、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ(女性:45.9%、男性40.4%)」、「結婚・出産後もずっと仕事を持つ(女性:35.7%、男性:34.7%)」で男性を上回っています。(図表5-3-1)

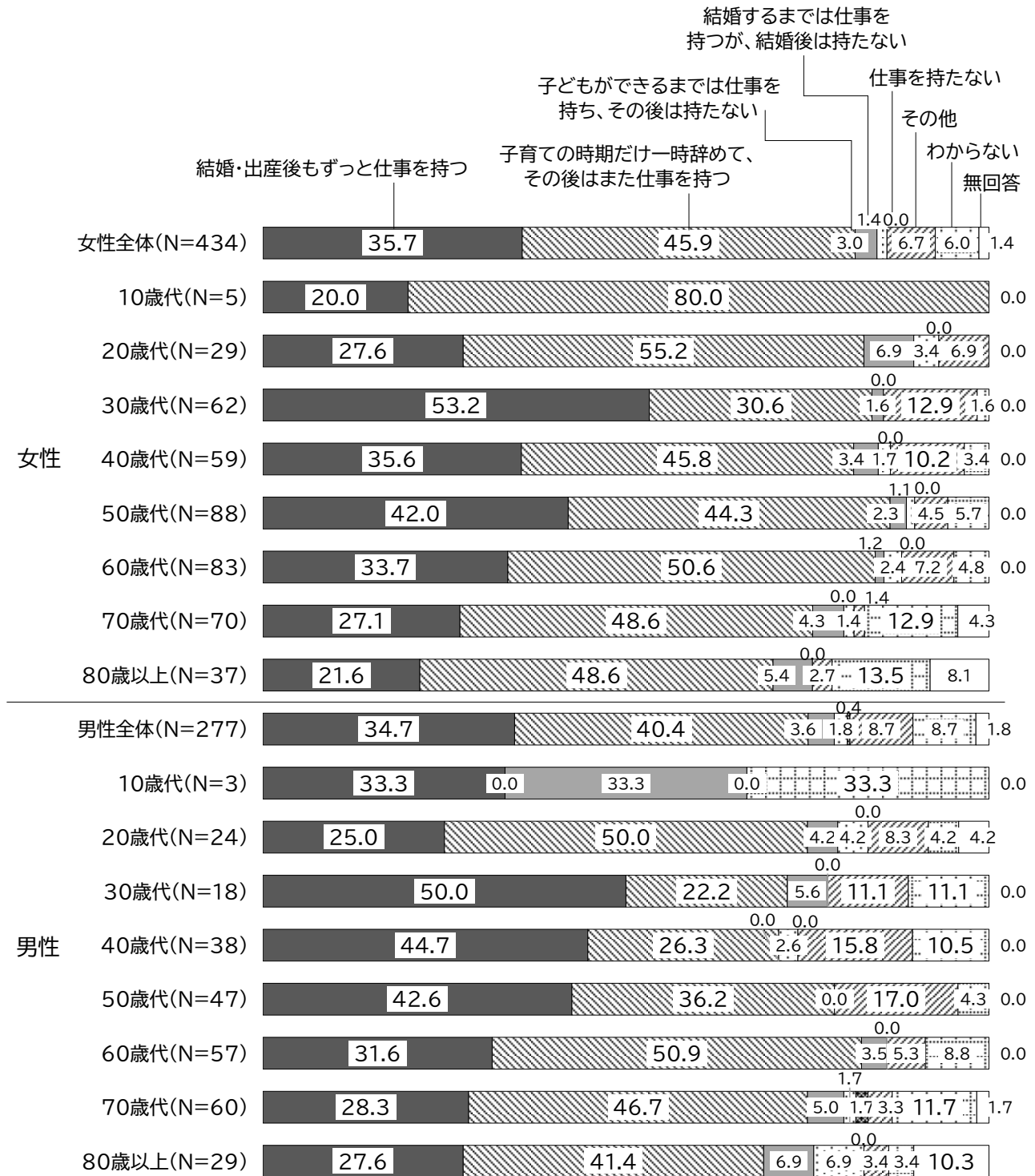
図表 5-3-1 女性の働き方についての意識（全体、性別）



【性・年代別】

年齢別でみると、男女ともに30歳代で「結婚・出産後もずっと仕事を持つ（女性：53.2%、男性：52.9%）」と5割を超え、他の年代と比べて多くなっています。「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」では、女性では10歳代(80.0%)、20歳代(55.2%)、60歳代(50.6%)が、男性では20歳代(52.2%)、60歳代(50.9%)が5割となっています。(図表5-3-2)

図表 5-3-2 女性の働き方についての意識（性・年代別）

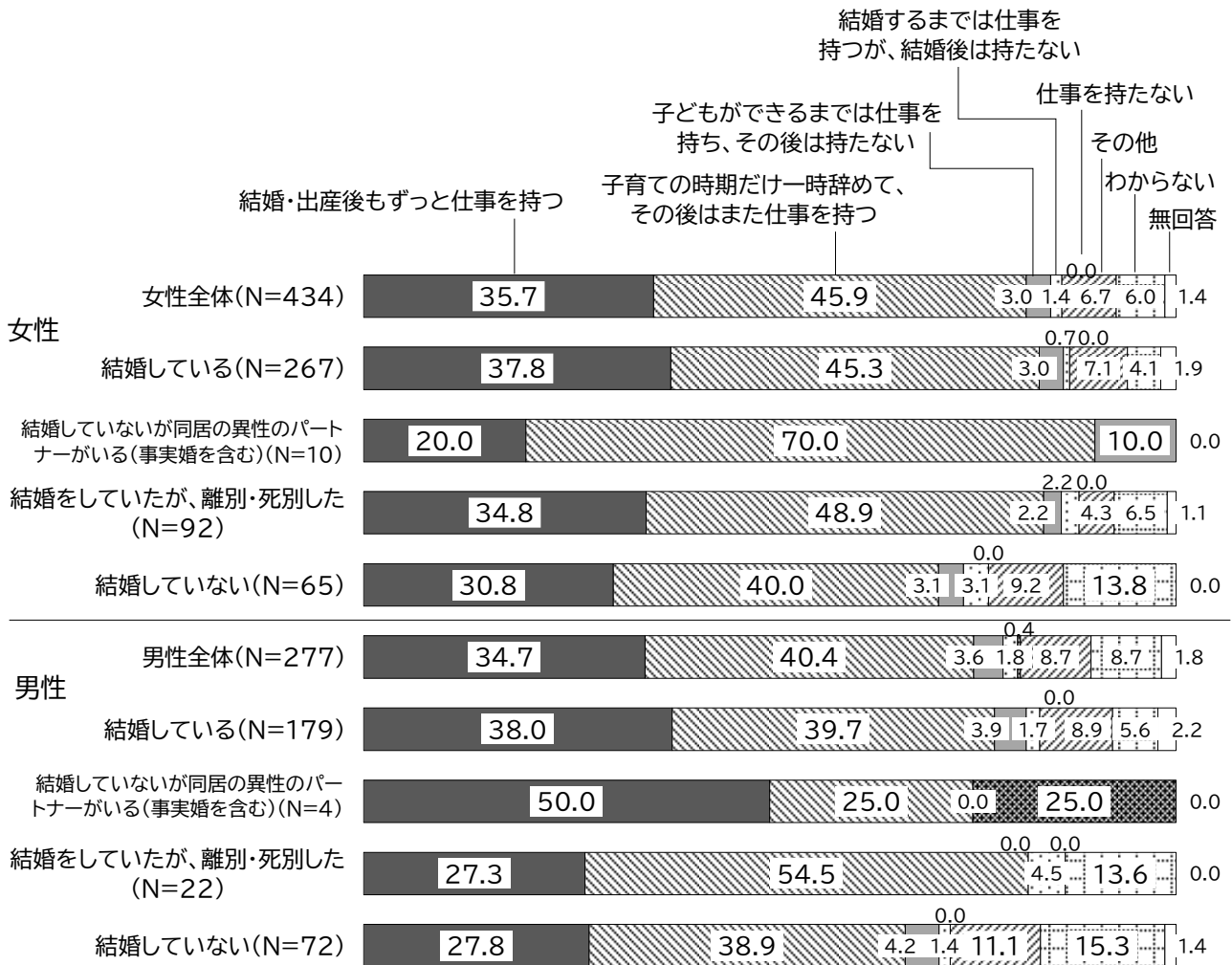


【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。

男性も女性同様に既婚・未婚いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。(図表5-3-3)

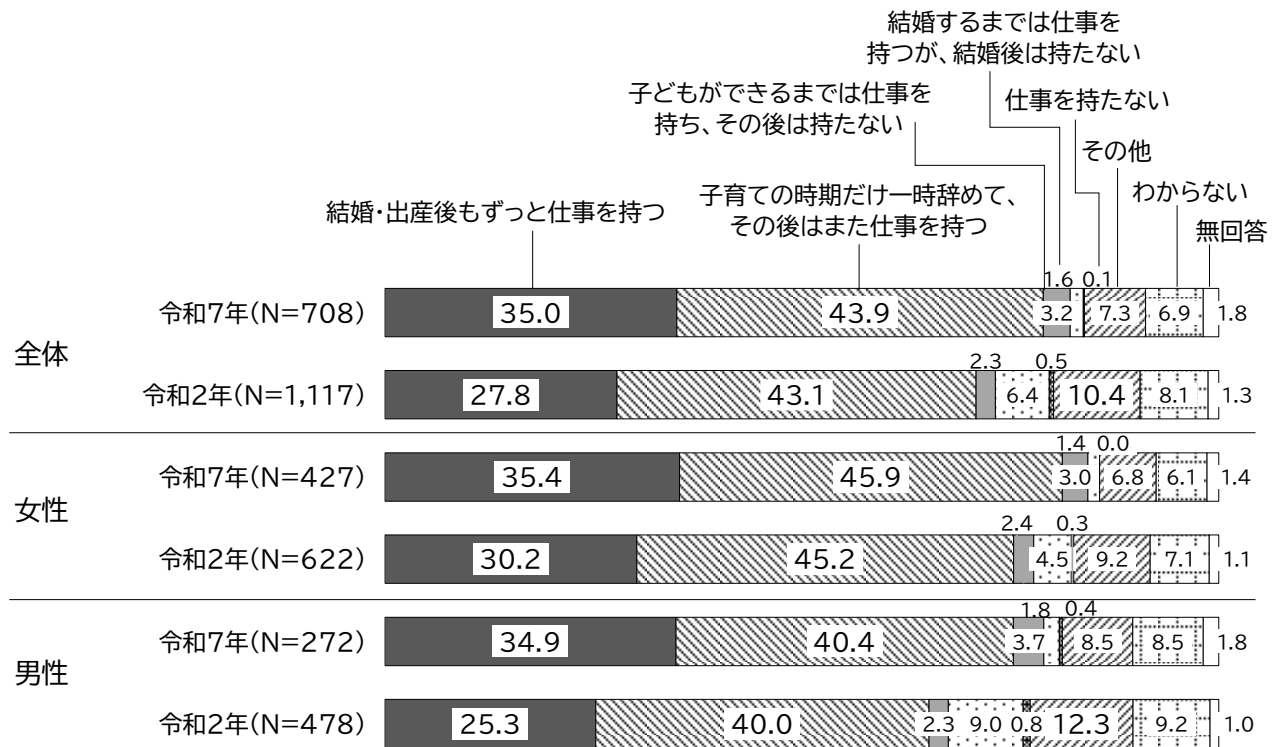
図表 5-3-3 女性の働き方についての意識（性・未既婚別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、男女ともに「結婚・出産後もずっと仕事を持つ」が増えています。(図表5-3-4)

図表 5-3-4 女性の働き方についての意識（全体。性別、令和7年・令和2年調査）



問8-1 問8で回答した理由をご記入ください。(○はあてはまるものすべて)

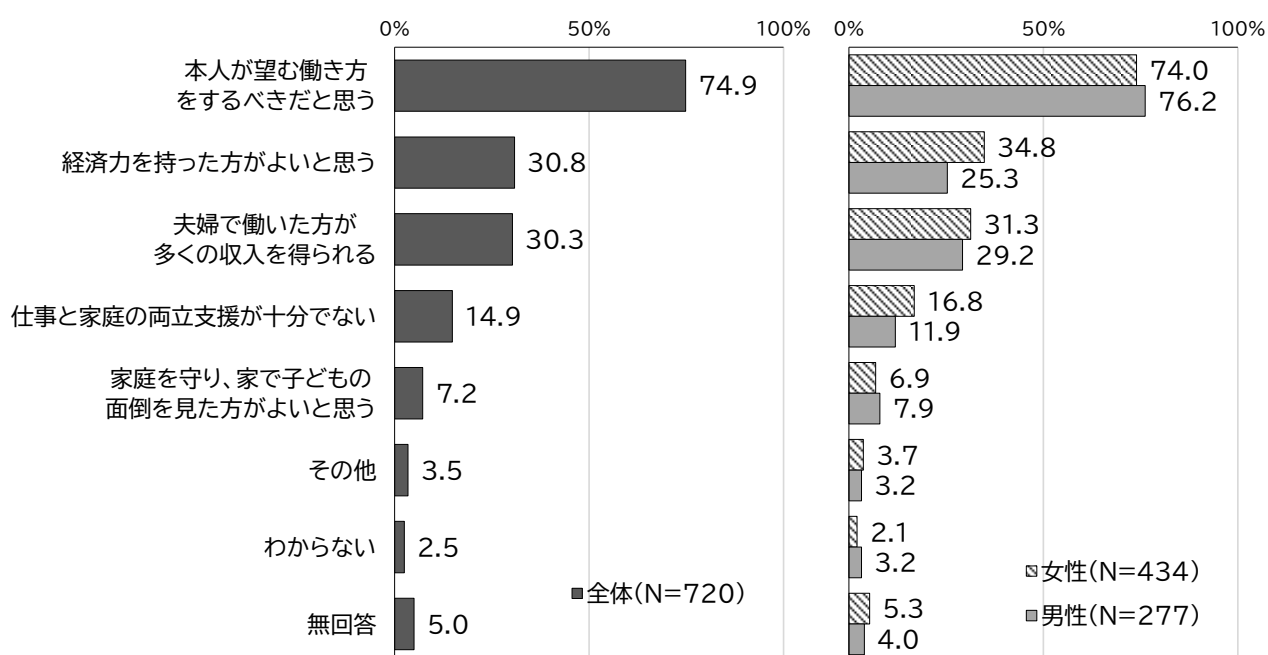
【全体】

全体では、「本人が望む働き方をすべきだと思う(74.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思う(30.8%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(30.3%)」が続いています。(図表5-3-3)

【性別】

性別でみると、男女ともに「本人が望む働き方をすべきだと思う(女性:74.0%、男性76.2%)」が最も多く7割を超えています。

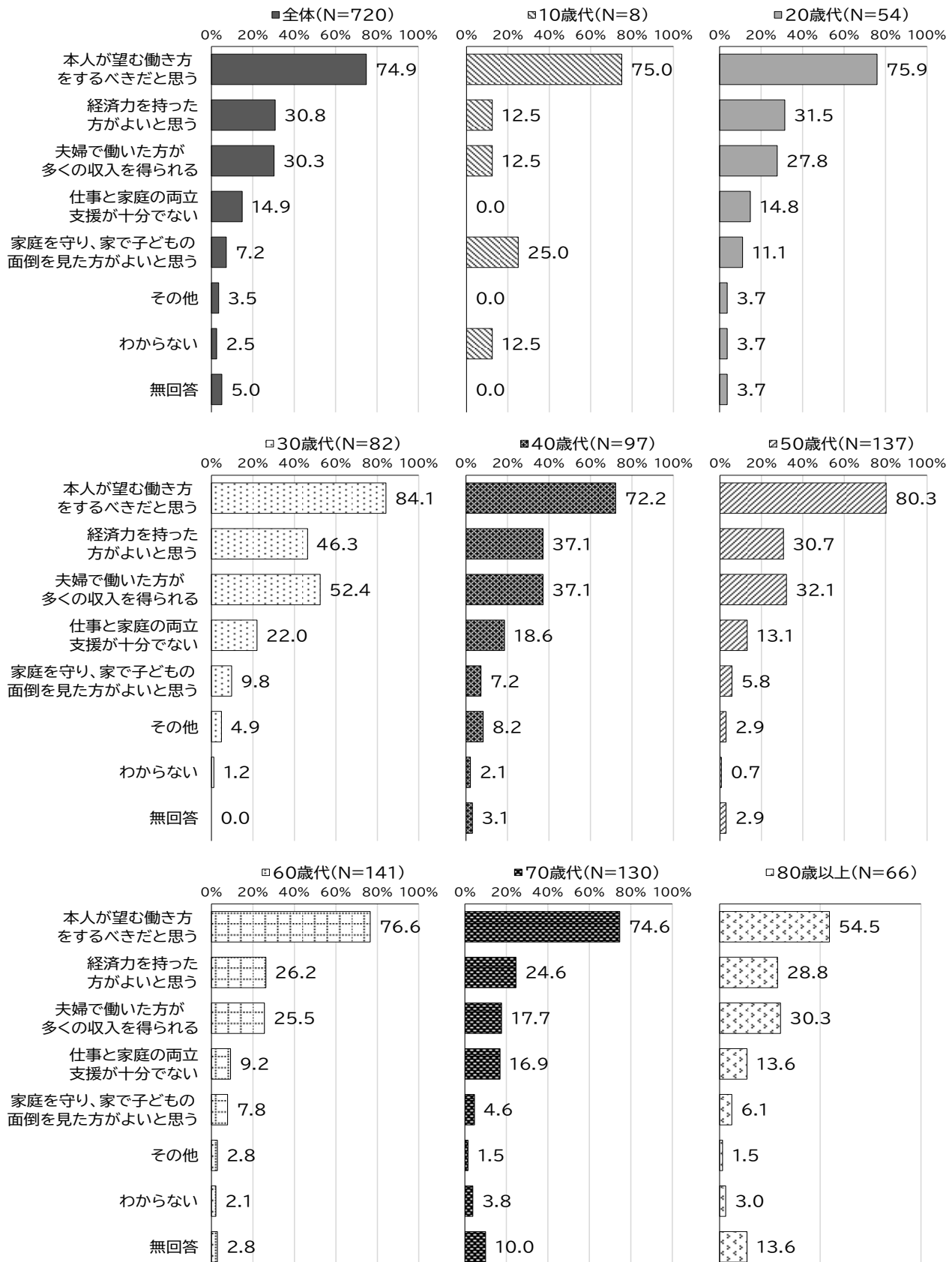
図表 5-3-5 問 8 で回答した理由（全体、性別）



【性・年代別】

年齢別でみると、すべての年代で「本人が望む働き方をするべきだと思う」が最も多くなっていますが、30歳代で「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる(52.4%)」と「経済力を持った方がよいと思う(46.3%)」の割合が他の年代と比べて多くなっています。(図表5-3-6)

図表 5-3-6 問8で回答した理由（全体、年齢別）

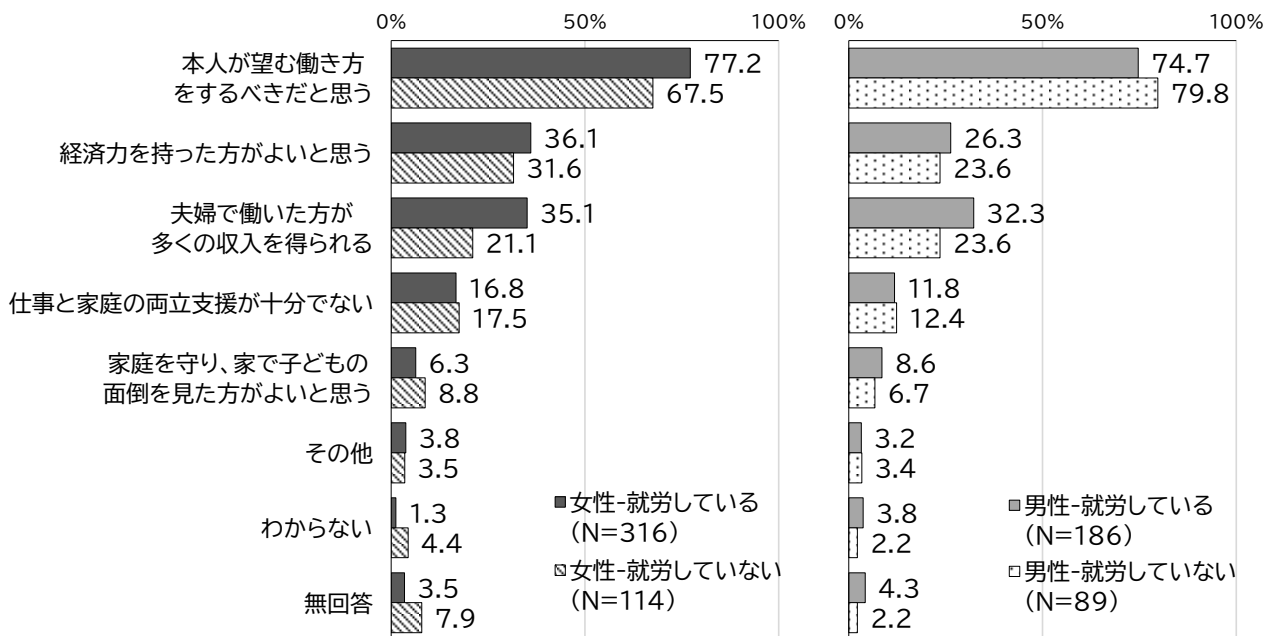


【性・就労の有無別】

就労の有無別でみると、女性では「本人が望む働き方をするべきだと思う」と「経済力を持った方がよいと思う」と「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」の割合が、就労していない方よりも就労している方のほうが多くなっています。

男性では「本人が望む働き方をするべきだと思う」の割合が就労していない方よりも就労しているの方が少なくなっています。「経済力を持った方がよいと思う」と「夫婦で働いた方が多くの収入を得られる」の割合では就労していない方よりも就労しているの方の方が多くなっています。(図表5-3-7)

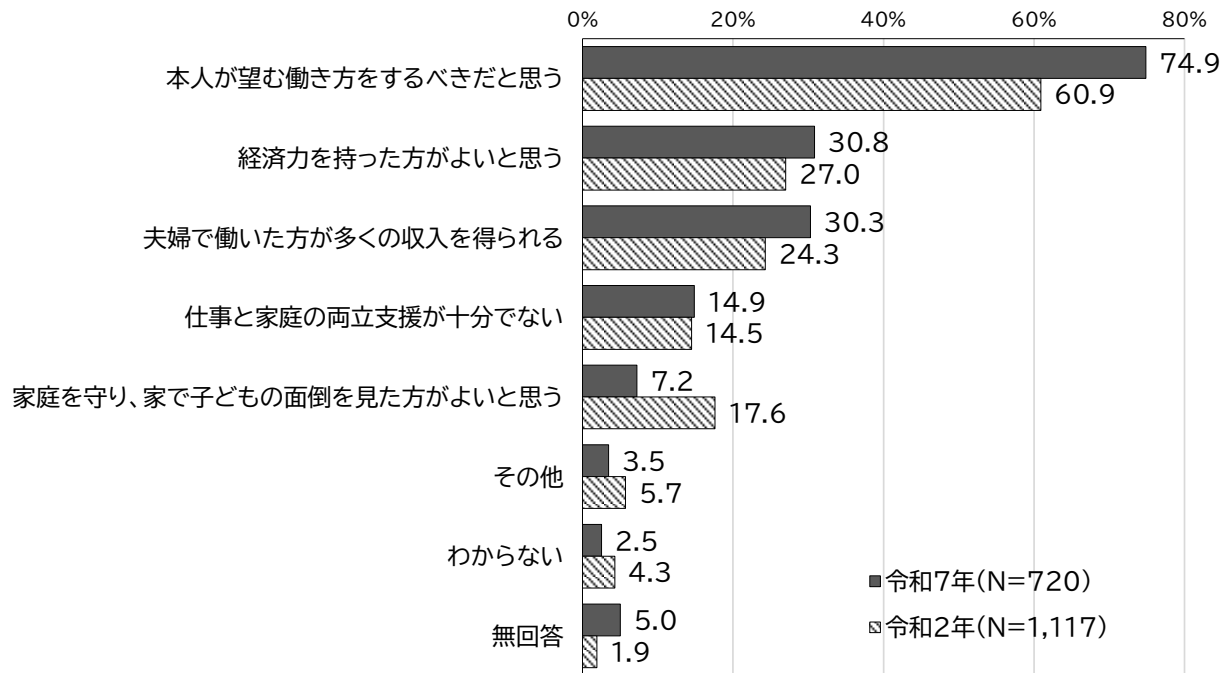
図表 5-3-7 問8で回答した理由（性・就労の有無別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「本人が望む働き方をするべきだと思う」が14.0%増えています。その他の項目も増えていますが、「家庭を守り、家で子どもの面倒を見た方がよいと思う」は10.4%減っています。(図表5-3-8)

図表 5-3-8 問8で回答した理由（全体、令和7年・令和2年調査）



(4) 女性の再就職に対する支援

問9 結婚や妊娠・出産により仕事を辞めた女性が再び仕事を持つことを希望する場合、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「働き方の選択肢を多くする(64.3%)」が最も多く、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(62.4%)」「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(60.3%)」、「多様な労働条件(59.4%)」が続いています。(図表5-4-1)

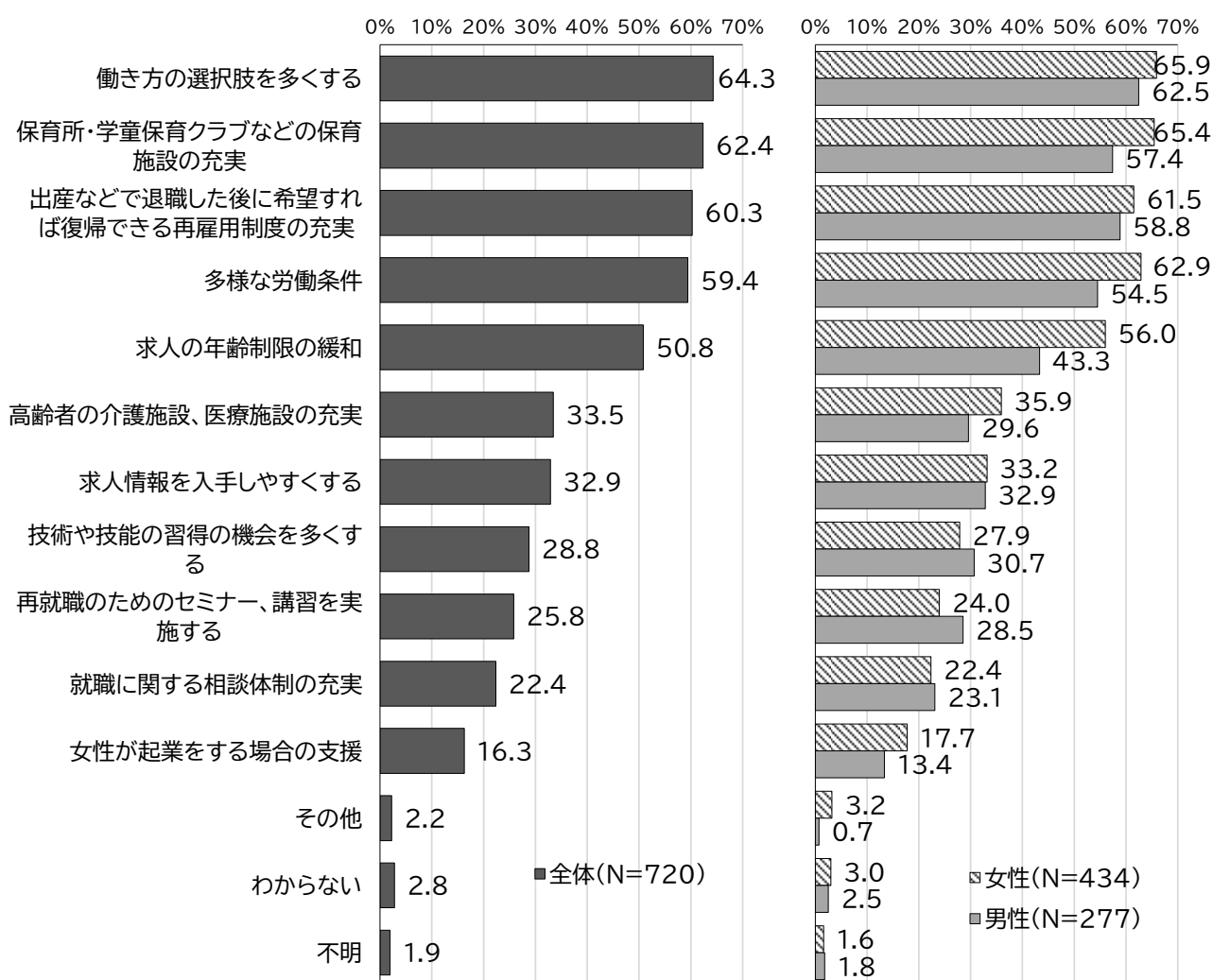
【性別】

性別でみると、女性は「働き方の選択肢を多くする(65.9%)」、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実(65.4%)」、「多様な労働条件(62.9%)」、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実(61.5%)」が6割台、「求人の年齢制限の緩和(56.0%)」が5割台となっています。

男性は「働き方の選択肢を多くする(62.5%)」が6割台となっています。

また、男女の違いをみると、女性は、「求人の年齢制限の緩和(女性:56.0%、男性:43.3%)」で男性を12.7%上回っています。(図表5-4-1)

図表 5-4-1 女性の再就職に対する支援（全体、性別：複数回答）

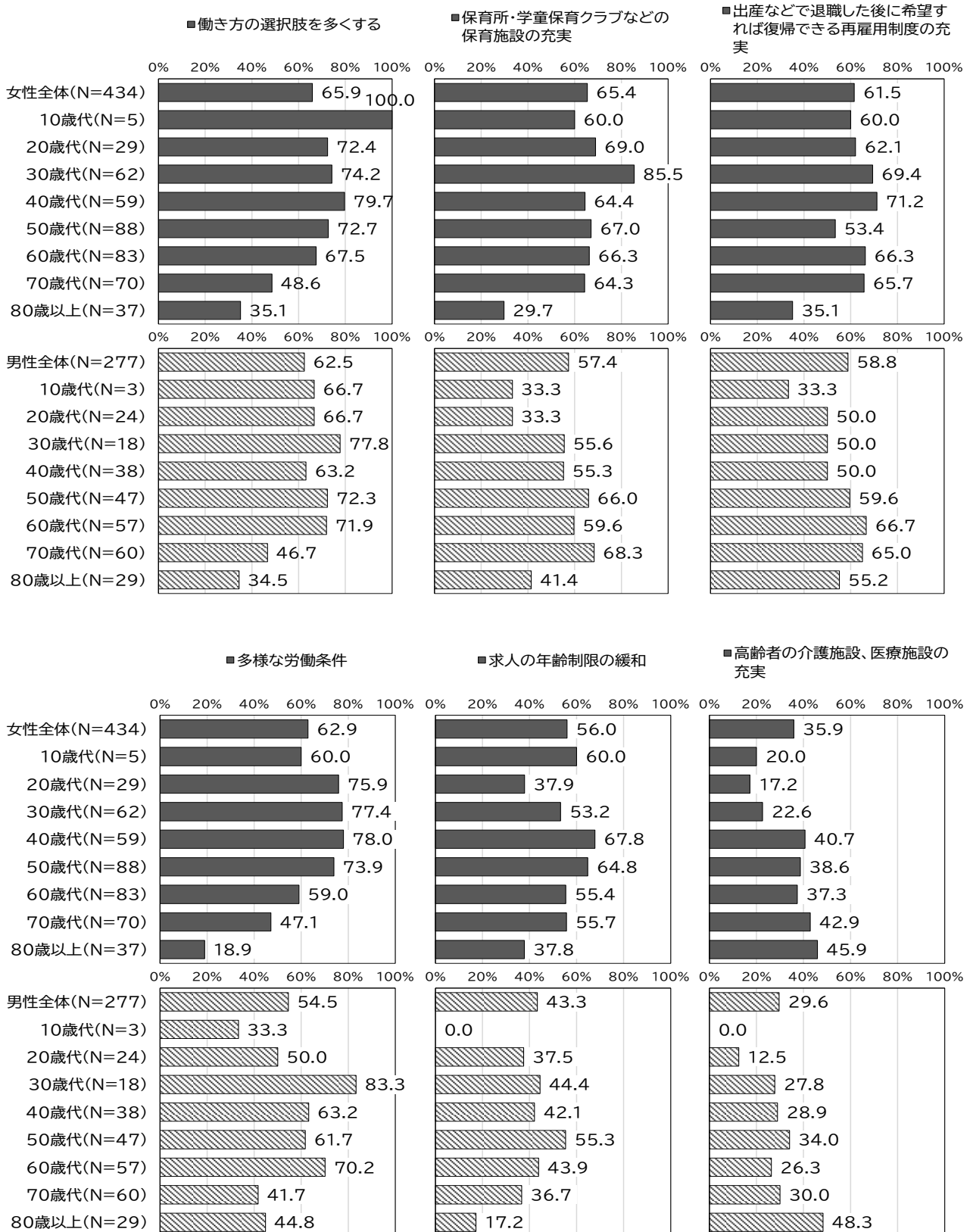


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」が85.5%他の年代と比べて多くなっています。

男性は30歳代で「多様な労働条件」が83.3%と他の年代に比べて多くなっています。(図表5-4-2)

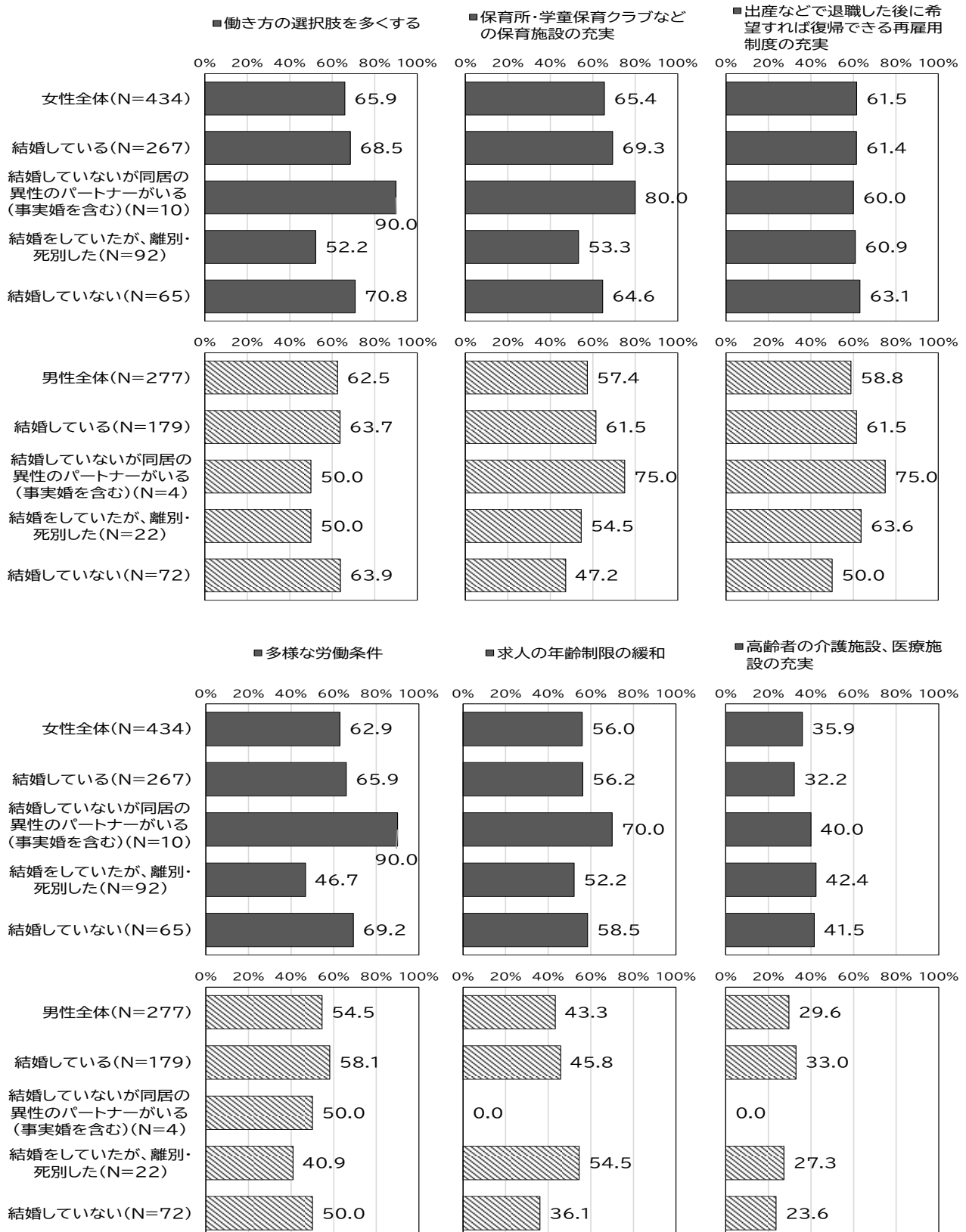
図表 5-4-2 女性の再就職に対する支援（性・年代別、上位6項目：複数回答）



【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「働き方の選択肢を多くする」「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実」「多様な労働条件」が6割台と高くなっています。

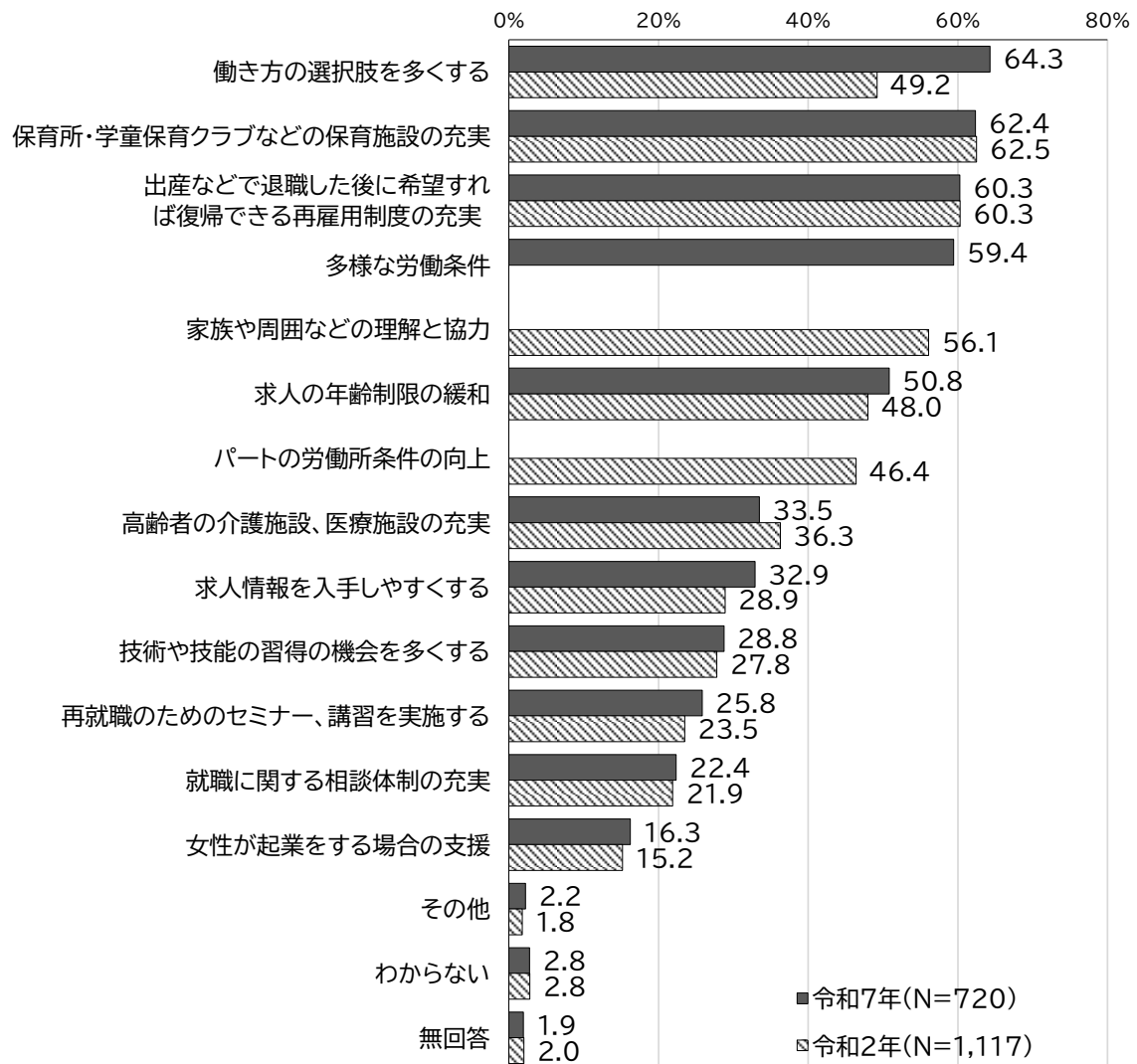
図表 5-4-3 女性の再就職に対する支援（性・未既婚別、上位6項目：複数回答）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「働き方の選択肢を多くする」が15.1%増えています。(図表5-4-4)

図表 5-4-4 女性の再就職に対する支援（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

（５）育児休業・介護休業の利用状況

問 10 あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。
（○はそれぞれ1つずつ）

■育児休業

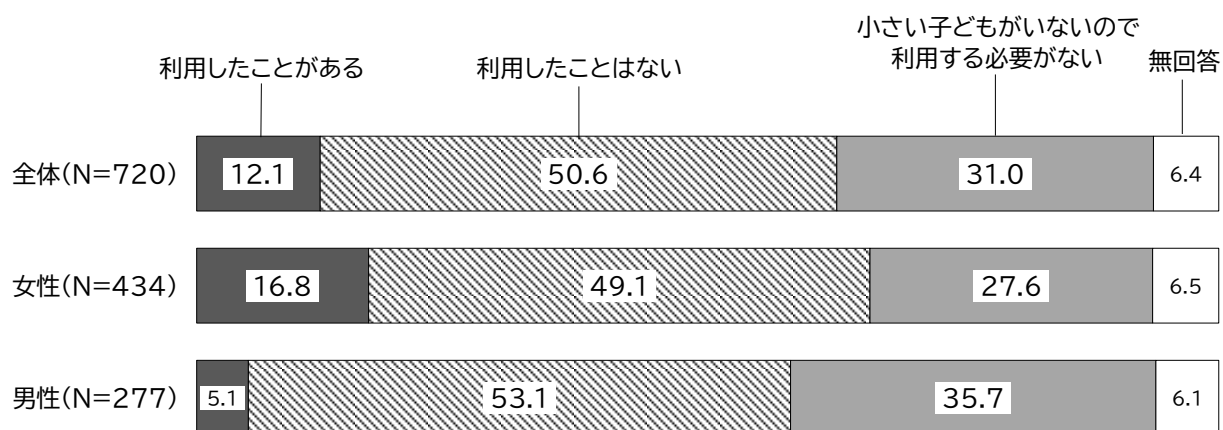
【全体】

全体では、「利用したことがある」が12.1%、「利用したことはない」が50.6%となっています。（図表5-5-1）

【性別】

性別でみると、「利用したことがある」は女性が16.8%、男性が5.1%となっています。（図表5-5-1）

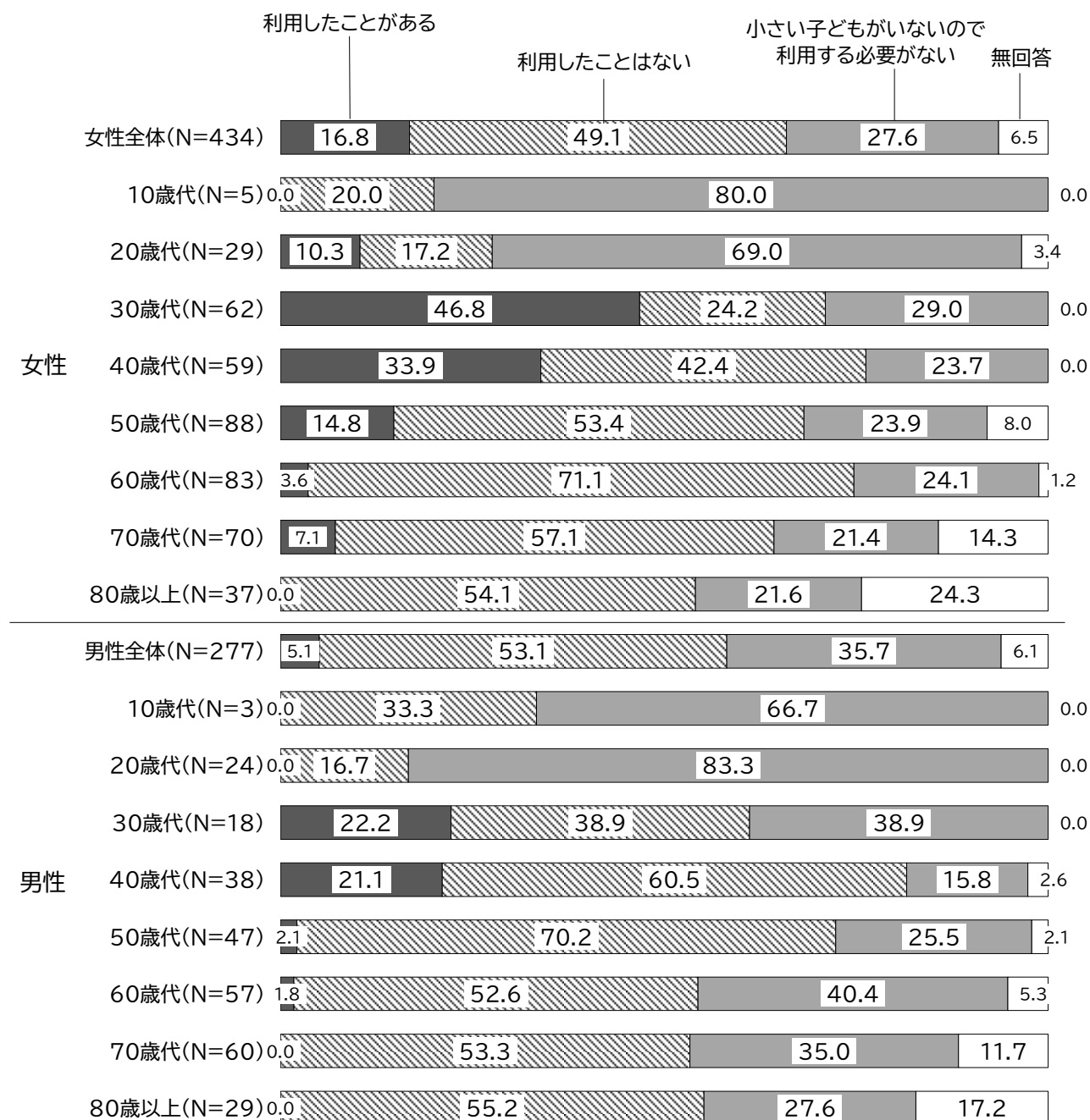
図表 5-5-1 育児休業の利用状況（全体、性別）



【性・年代別】

性・年代別にみると、「利用したことがある」は女性の30歳代で46.8%、40歳代で33.9%となっています。男性は「利用したことがある」が30歳代で22.2%、40歳代で21.1%となっています。(図表5-5-2)

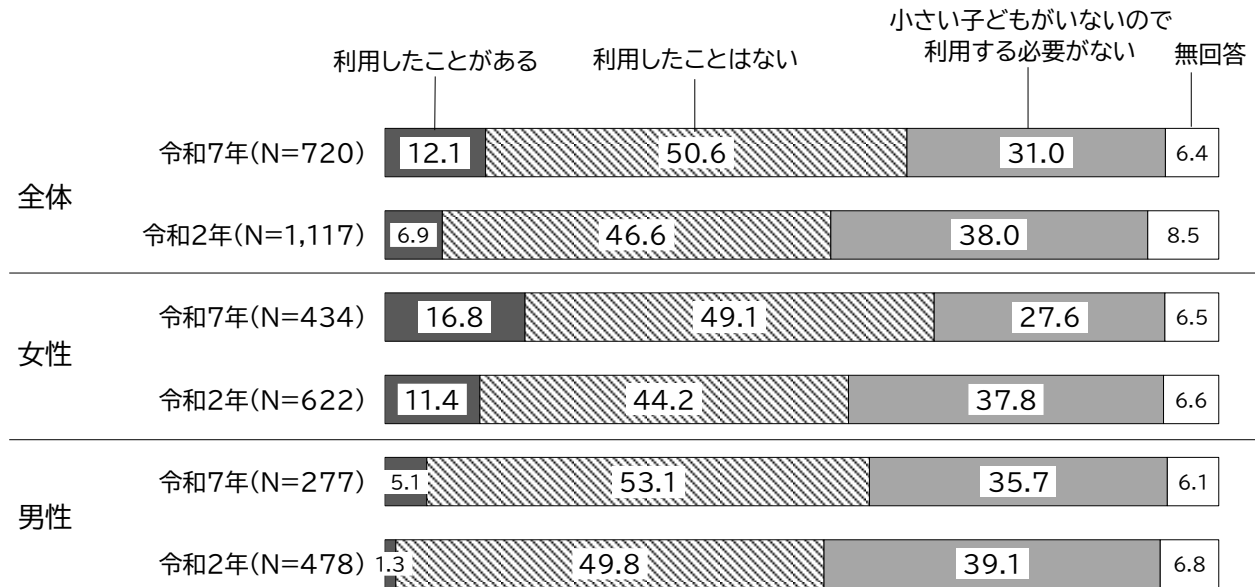
図表 5-5-2 育児休業の利用状況（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、男女ともに「利用したことがある」の割合が増加しています。(図表5-5-3)

図表 5-5-3 育児休業の利用状況（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



■介護休業

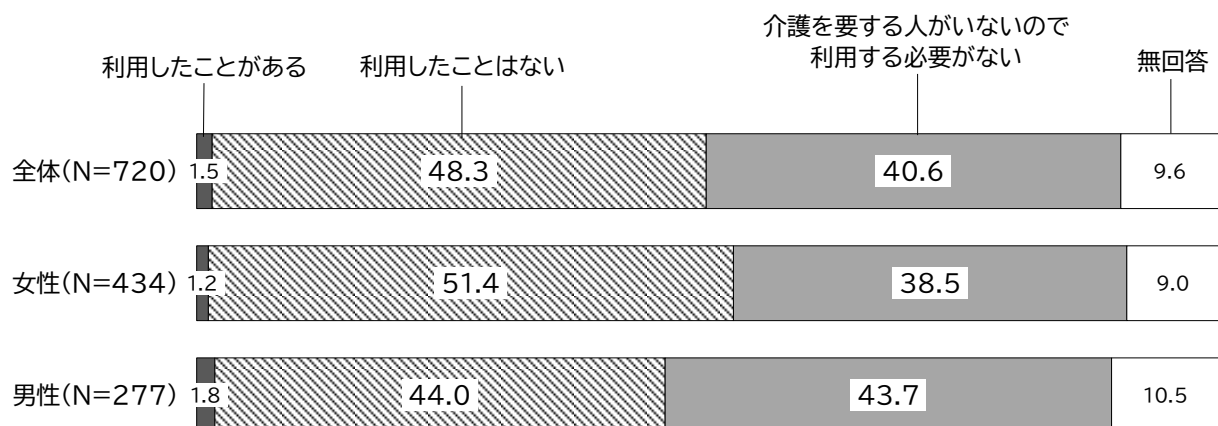
【全体】

全体では、「利用したことがある」が1.5%、「利用したことはない」が48.3%となっています。(図表5-5-2)

【性別】

性別でみると、「利用したことがある」が女性は1.2%、男性は1.8%となっています。(図表5-5-2)

図表 5-5-4 介護休業の利用状況（全体、性別）

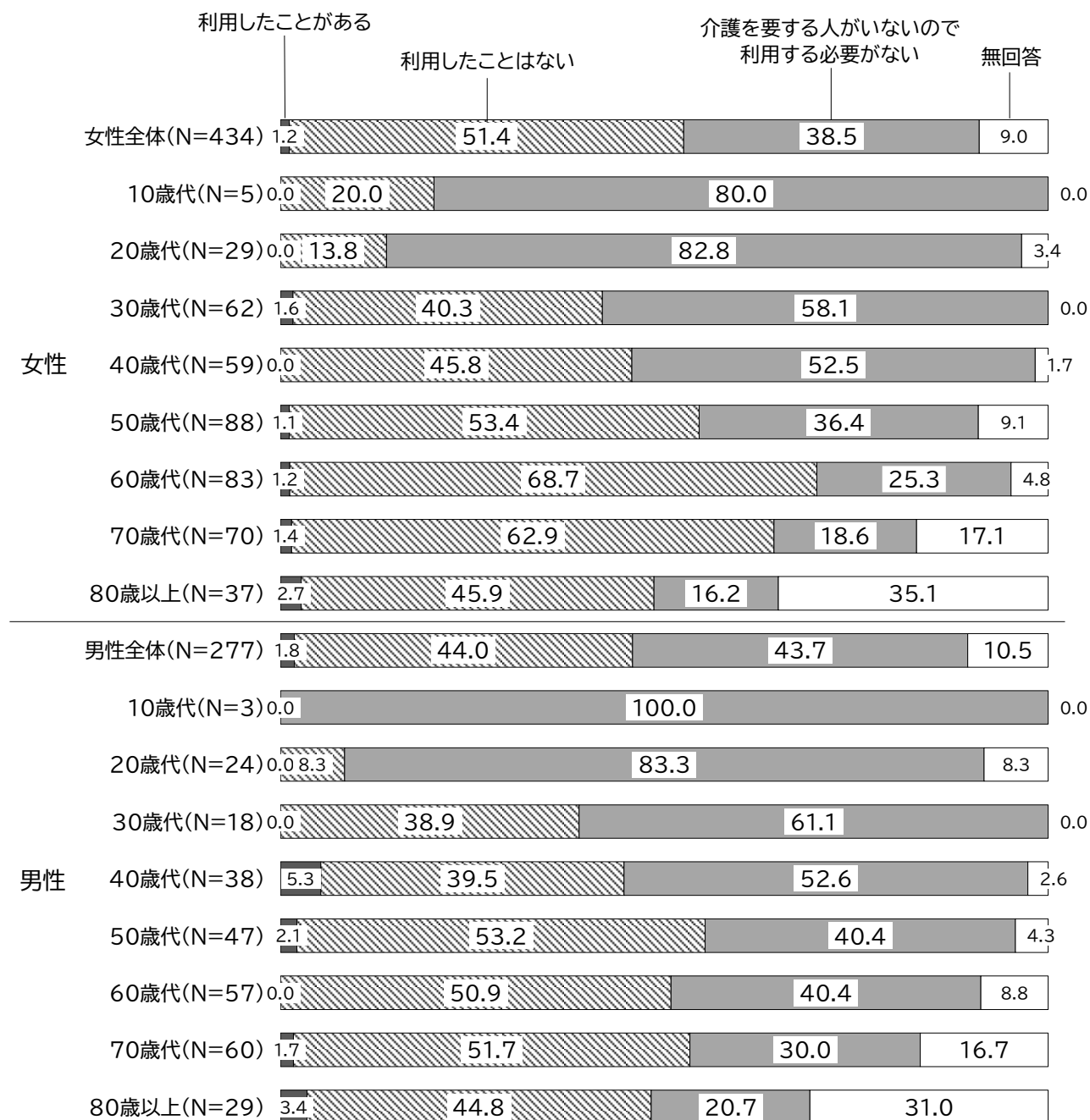


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は「利用したことがある」30歳代で1.6%、50歳代で1.1%、60歳代で1.2%、70歳代で1.4%、80歳以上で2.7%となっています。

男性は「利用したことがある」40歳代で5.3%と他の年代と比べて多くなっています。(図表5-5-5)

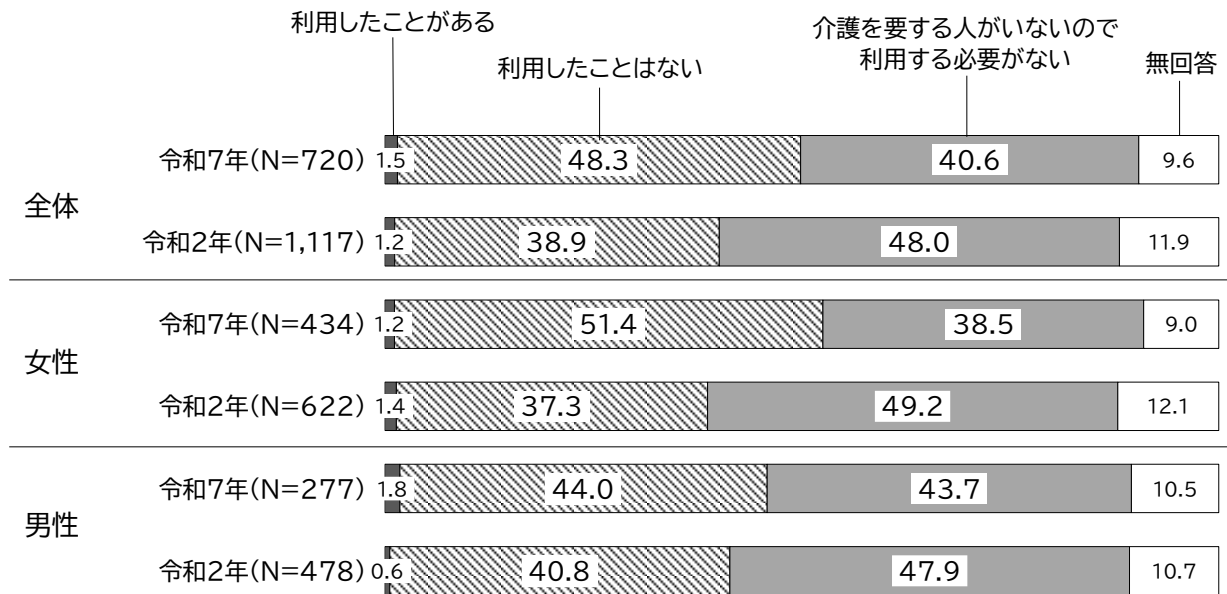
図表 5-5-5 育児休業の利用状況（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、男女ともに「利用したことがある」の割合に大きな変化はありませんが、「利用したことはない」が増えています。（図表5-5-6）

図表 5-5-6 介護休業の利用状況（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



(6) 育児休業・介護休業の利用期間

問 10 で「1. 利用したことがある」とお答えの方に

問 10-1 どのくらいの期間、休暇を取りましたか。複数回利用したことがある方は、最近のケースでご回答ください。(回答の場合、○はどちらも1つ)

■育児休業

【全体】

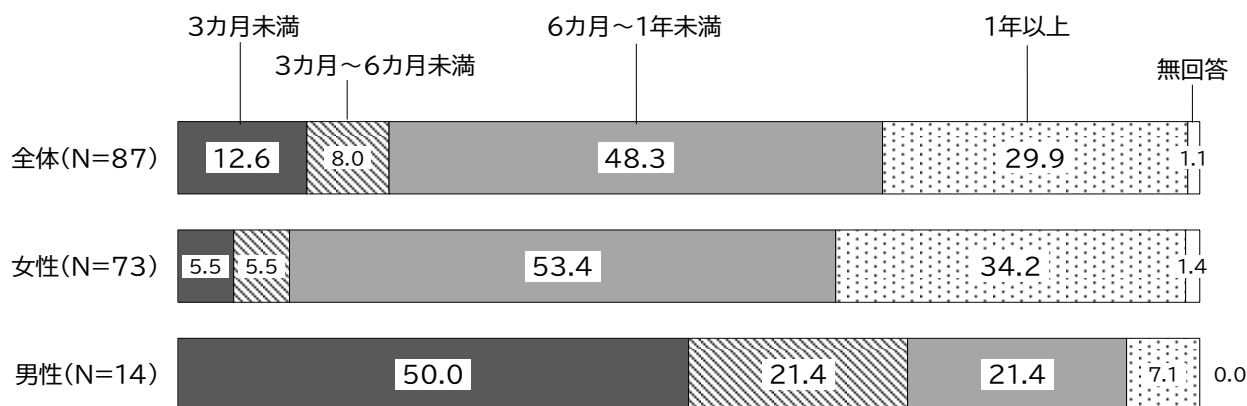
育児休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。

全体では、「6カ月～1年未満(48.3%)」が最も多く、「1年以上(29.9%)」、「3カ月未満(12.6%)」が続いています。(図表5-6-1)

【性別】

性別でみると、女性では「6カ月～1年未満(53.4%)」が男性で「3カ月未満(50.0%)」と最も多くなっています。(図表5-6-1)

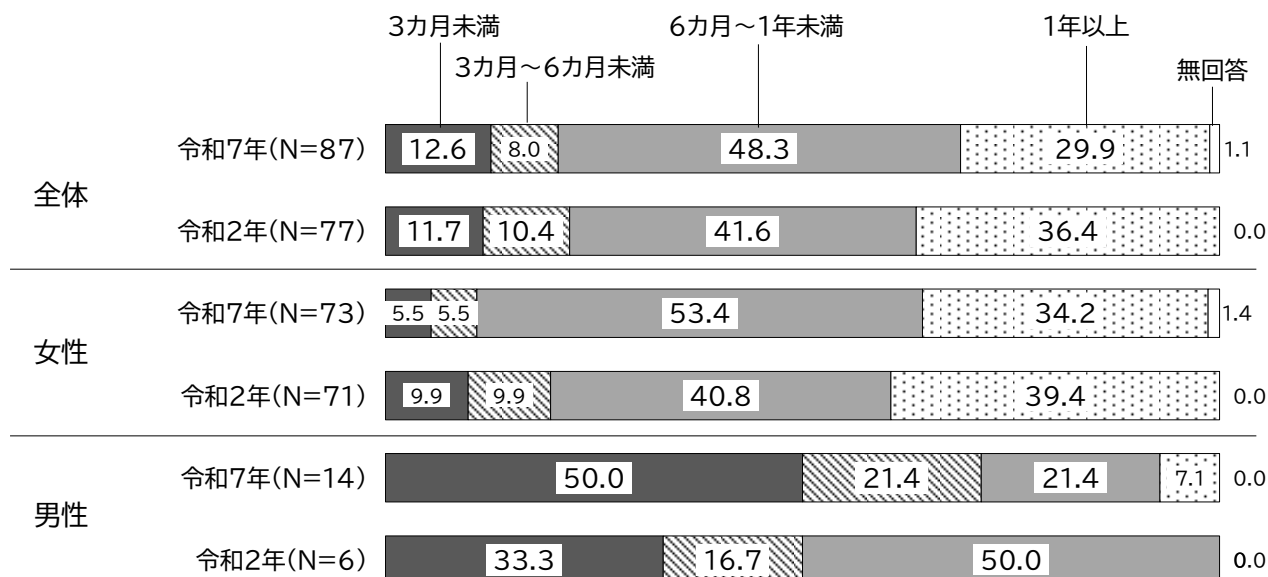
図表 5-6-1 育児休業の利用期間（全体、性別）＜育児休業を利用したことがある人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、女性では「6カ月～1年未満(令和7年:53.4%、令和2年調査:40.8%)」が12.6%増えています。(図表5-6-3)

図表 5-6-2 育児休業の利用期間（全体、性別、令和7年・令和2年調査）
＜育児休業を利用したことがある人＞



■介護休業

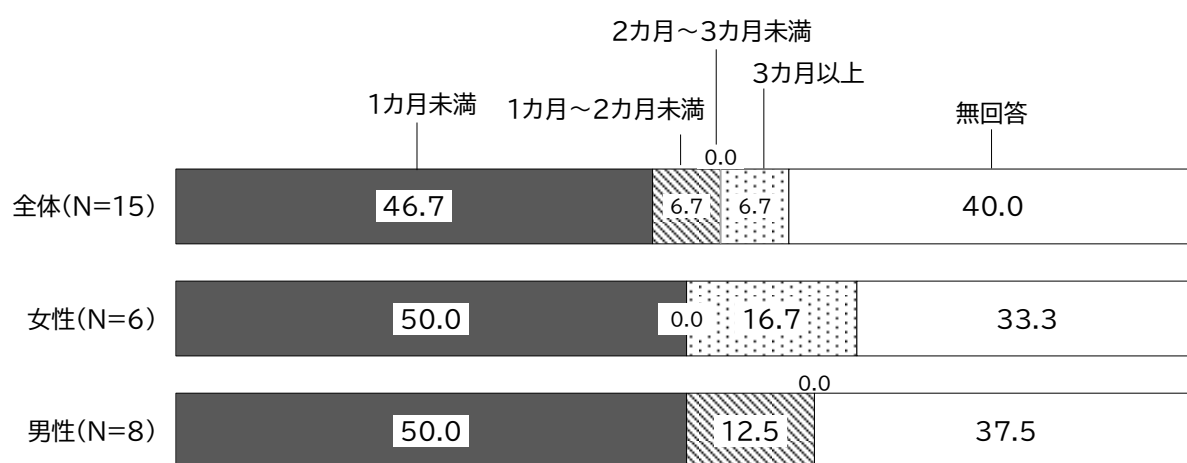
【全体】

介護休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。
全体では、「1カ月未満(46.7%)」が最も多く、「1カ月～2カ月未満(6.7%)」、「3カ月以上(6.7%)」が続いています。(図表5-6-2)

【性別】

性別でみると、男女ともに「1カ月未満(女性:20.0%、男性:50.0%)」が最も多くなっています。(図表5-6-3)

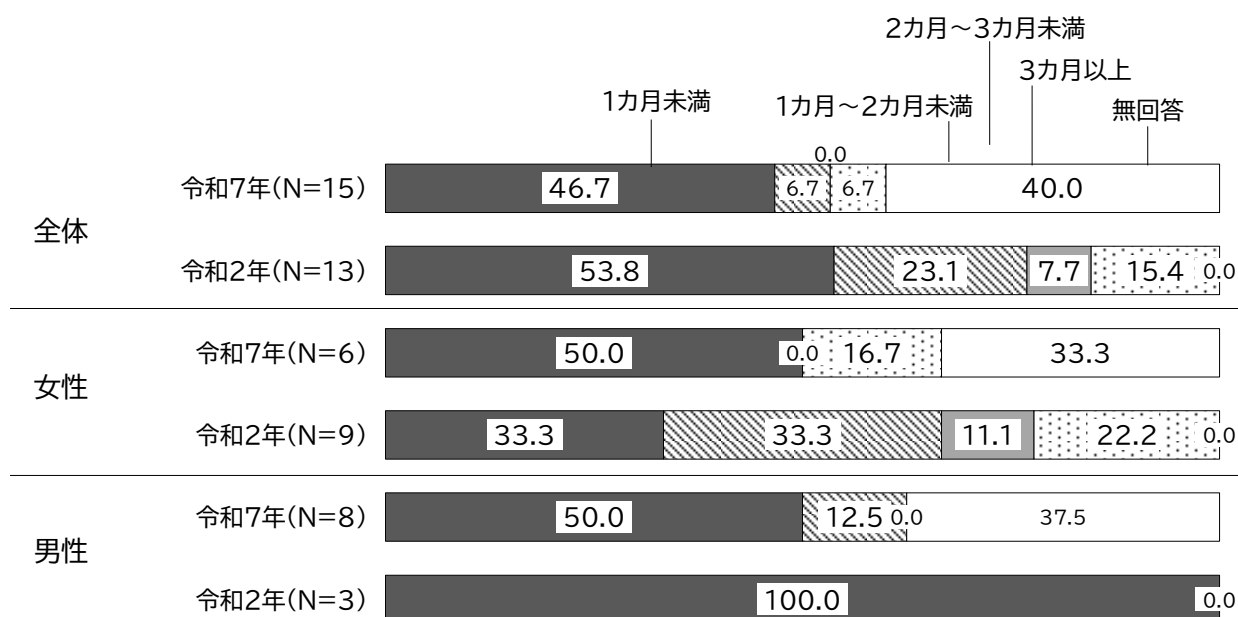
図表 5-6-3 介護休業の利用期間（全体、性別）＜介護休業を利用したことがある人＞



【令和2年調査との比較】

令和7年調査、令和2年調査ともに対象者数が20件未満のためグラフの掲載のみとします。(図表5-6-4)

図表 5-6-4 介護休業の利用期間（全体、性別、令和7年・令和2年調査）
＜介護休業を利用したことがある人＞



(7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由

問 10 で「2. 利用したことはない」とお答えの方

問 10-2 利用しなかった理由はなんですか。

(回答の場合、○はどちらもあてはまるものすべて)

■育児休業

【全体】

育児休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

全体では、「出産前に離職した(23.1%)」が最も多く、「対象ではない(21.7%)」「前例がない(15.1%)」、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(14.6%)」、「職場に代替要員がない(12.6%)」が続いています。(図表5-7-1)

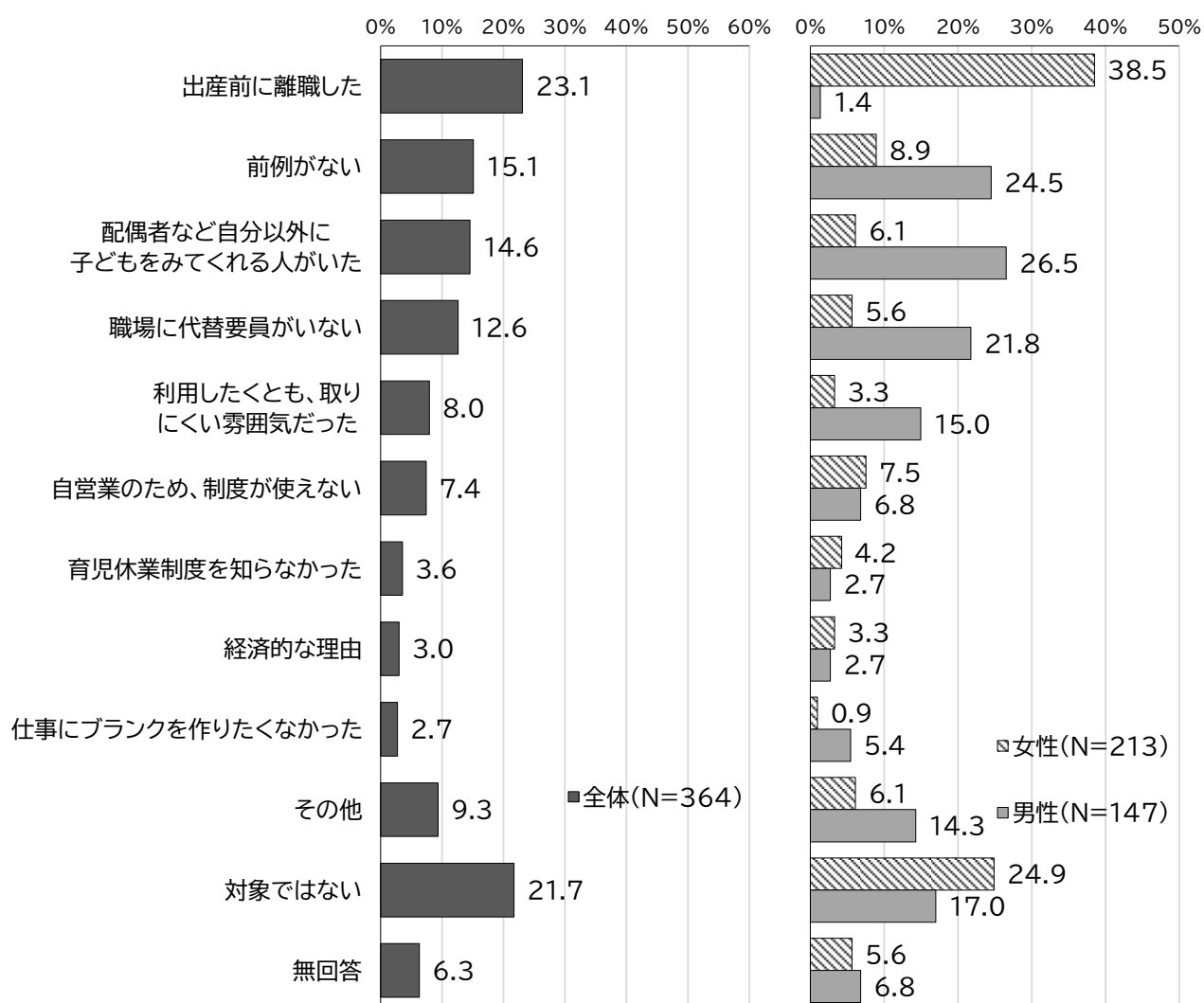
【性別】

性別でみると、女性は「出産前に離職した(38.6%)」が4割近くで多くなっています。

男性では、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいた(26.5%)」が最も多くなっています。(図表5-7-1)

図表 5-7-1 育児休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）

<育児休業を利用したことがない人>

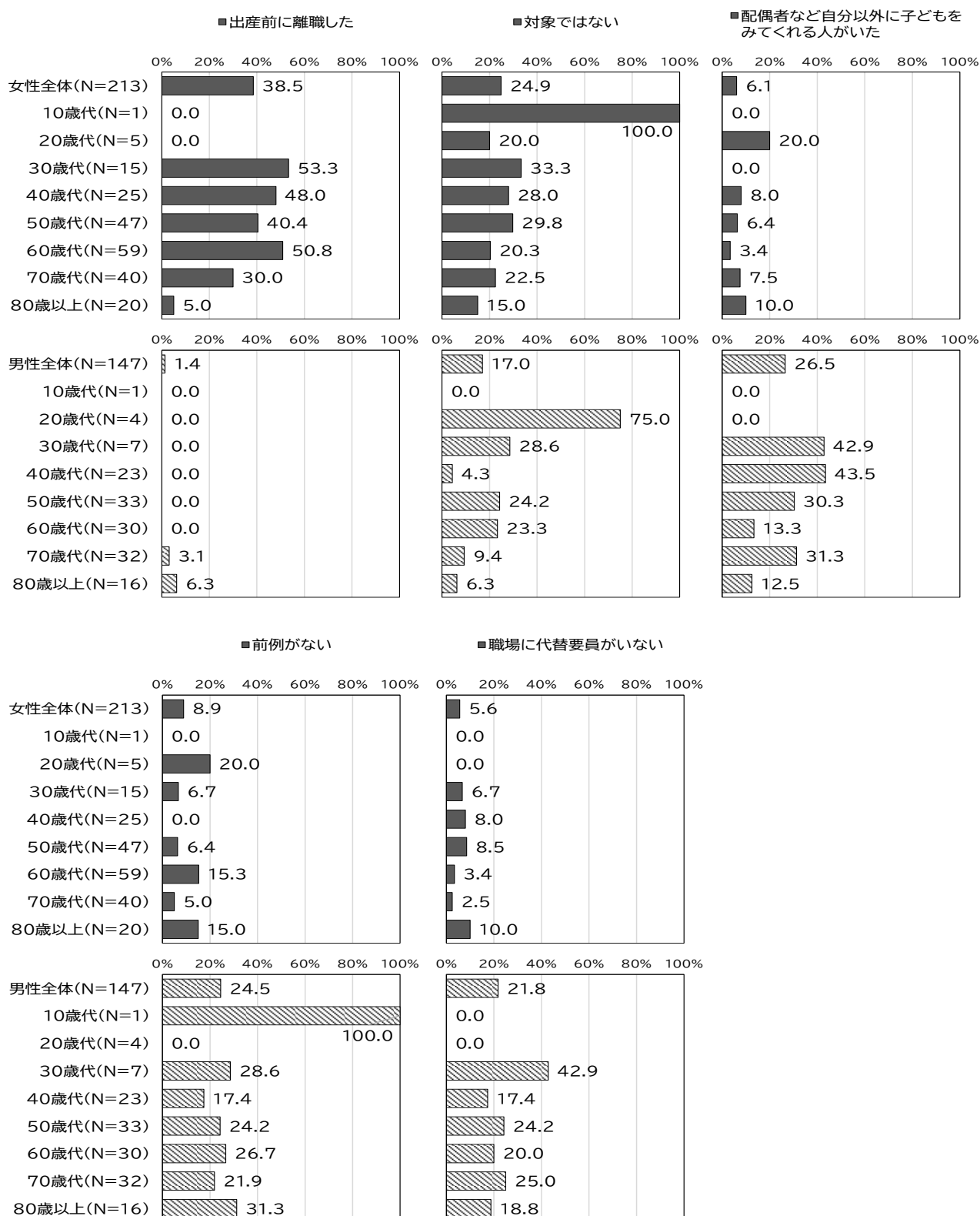


【性・年代別】

育児休業を利用しなかった理由について性・年代別にみると、女性は30歳代から50歳代で「出産前に離職したから」が多くなっており、特に30歳代は53.3%となっています。

男性は30歳代と40歳代で「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから」が4割を超えています。(図表5-7-1)

図表 5-7-2 育児休業を利用しなかった理由（性・年代別、上位5項目：複数回答）
＜育児休業を利用したことがない人＞

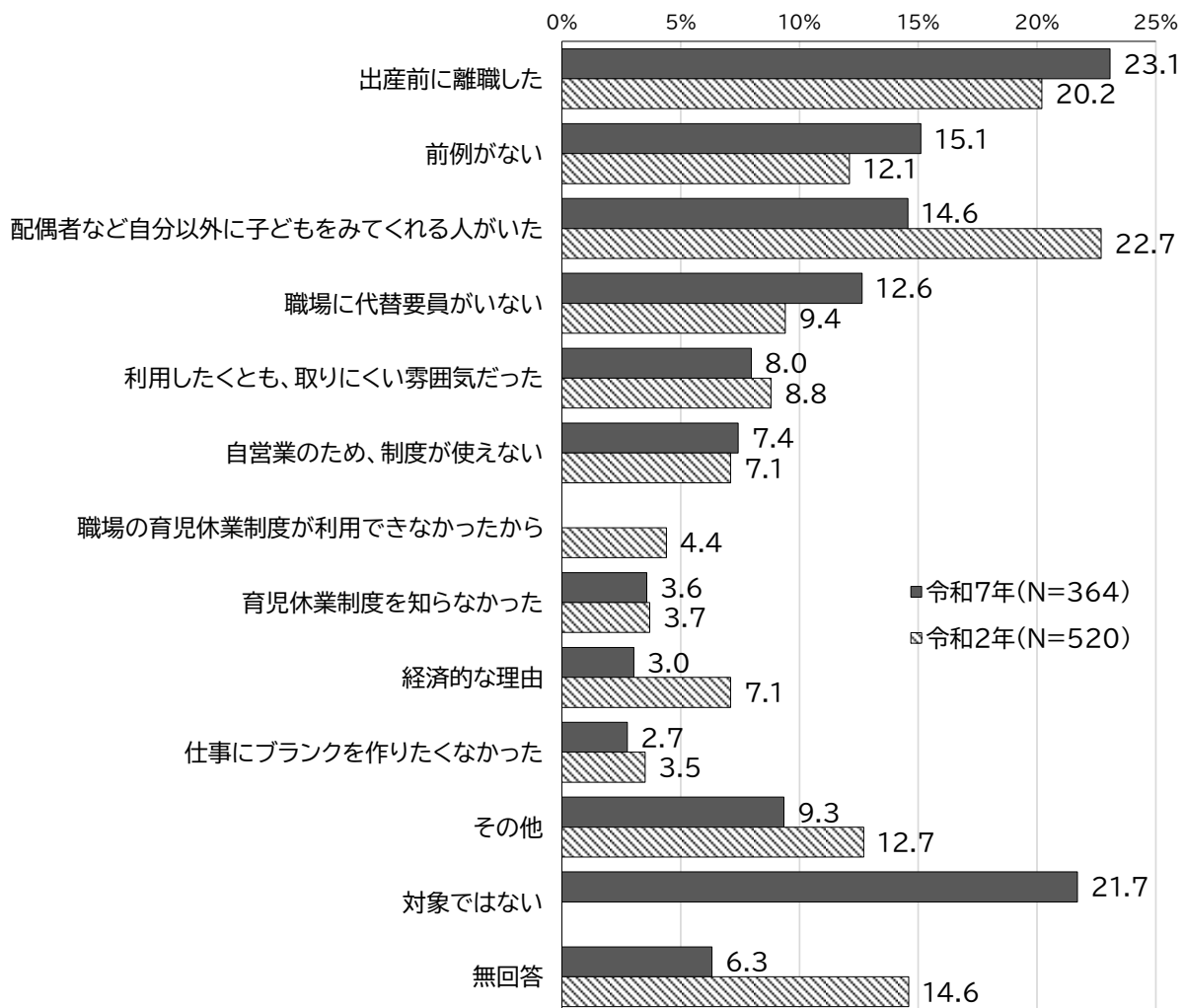


【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「配偶者など自分以外に子どもをみてる人がいた（令和7年調査：14.6%、令和2年調査：22.7%）」は8.1%減っています。（図表5-7-3）

図表 5-7-3 育児休業を利用しなかった理由（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）

<育児休業を利用したことがない人>



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

■介護休業

【全体】

介護休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

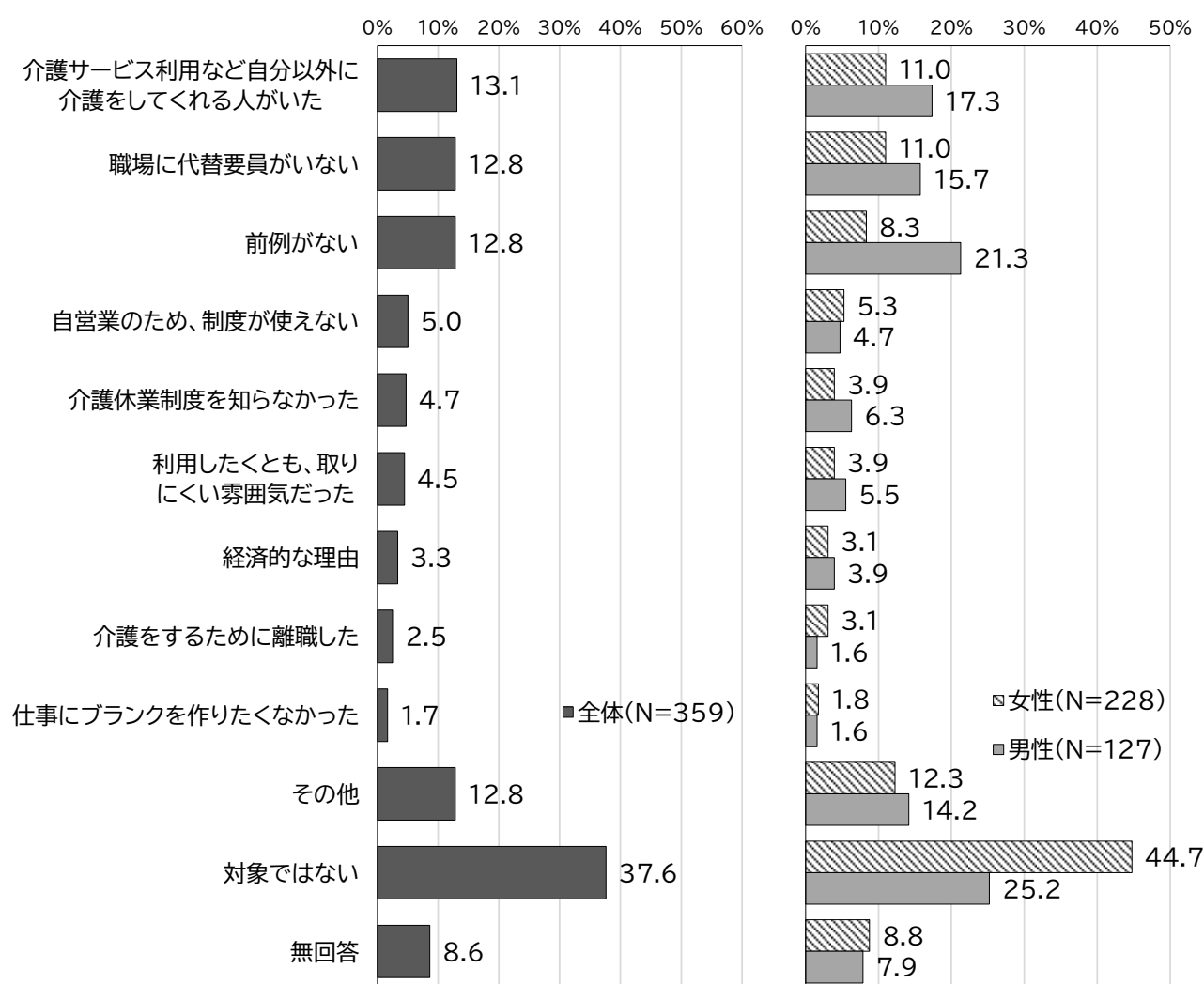
全体では、「対象ではない(37.6%)」が最も多く、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(13.1%)」「職場に代替要員がいない(12.8%)」「前例がない(12.8%)」が続いています。

なお、「その他(12.8%)」には、「必要がない」、「仕事をしていない」といった回答があがっています。(図表5-7-4)

【性別】

性別でみると、男女ともに「対象ではない(女性:44.7%、男性:25.2%)」が最も高く、次いで女性では「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(11.0%)」、「職場に代替要員がいない(11.0%)」が続いています。男性では「前例がない(21.3%)」、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいた(17.3%)」、「職場に代替要員がいない(15.7%)」が続いています。(図表5-7-4)

図表 5-7-4 介護休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）
＜介護休業を利用したことがない人＞

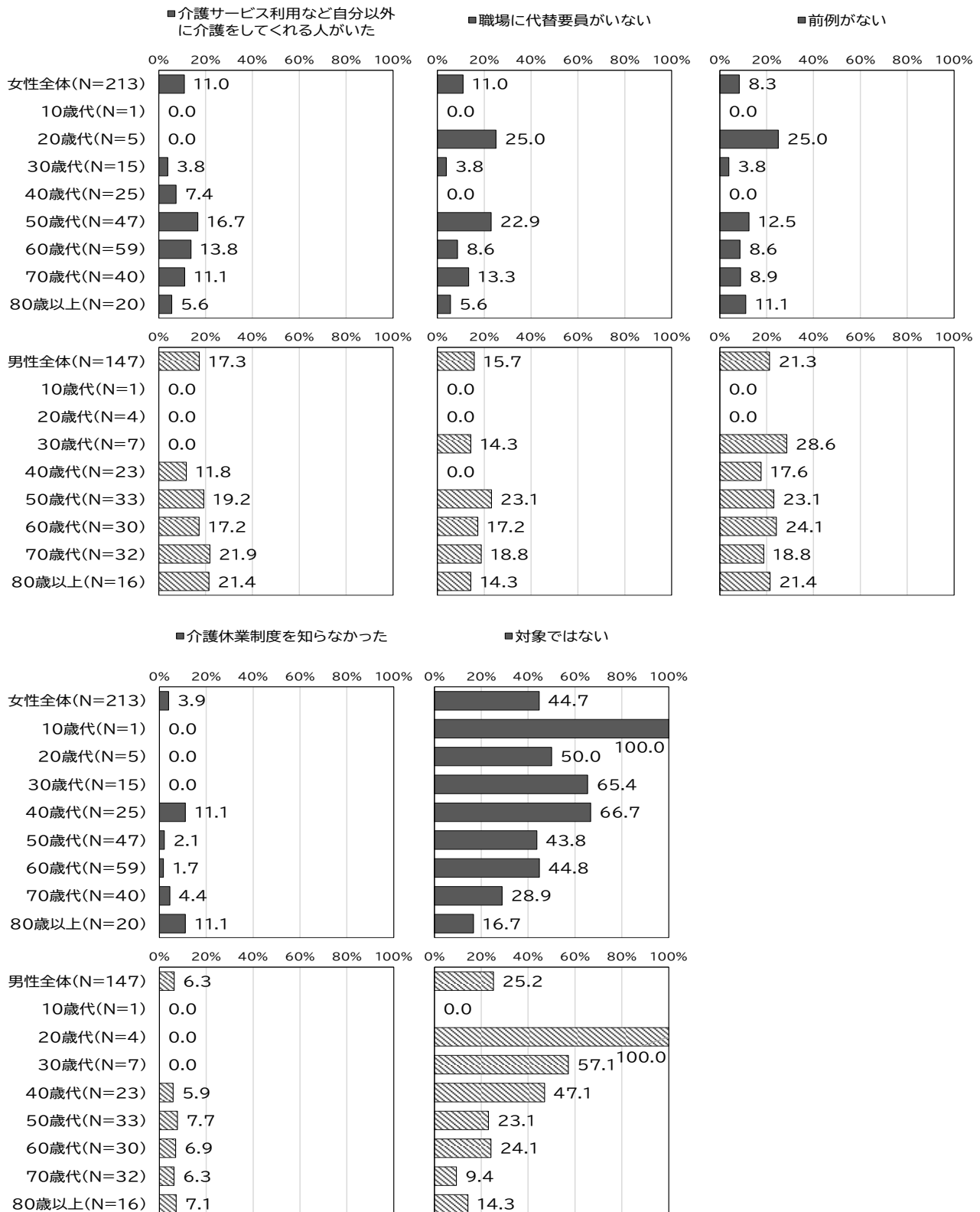


【性・年代別】

介護休業を利用しなかった理由について、「対象ではない」以外で性・年代別にみると、女性は50歳代で「職場に代替要員がない」が22.9%、60歳代では「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから」が13.8%となっています。

男性も30歳代から80歳以上で「前例がない」が2割台前後となっています。(図表5-7-4)

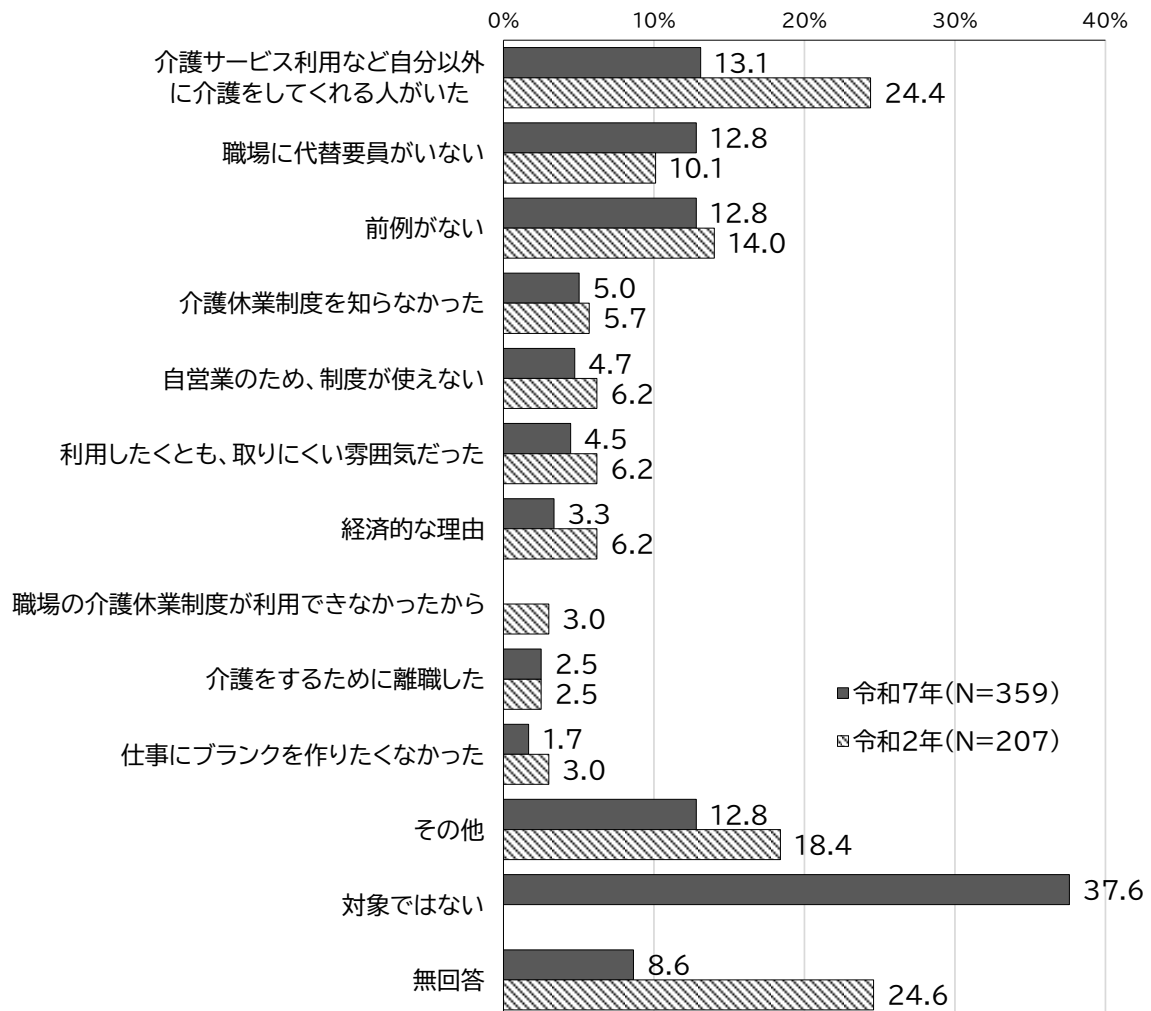
図表 5-7-5 介護休業を利用しなかった理由（性・年代別、上位5項目：複数回答）
＜介護休業を利用したことがない人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「介護サービス利用など自分以外に介護してくれる人がいた（令和7年調査：13.1%、令和2年調査：24.4%）」は11.3%減っています。（図表5-7-4）

図表 5-7-6 介護休業を利用しなかった理由（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）
＜介護休業を利用したことがない人＞



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

6 ワーク・ライフ・バランス

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況

問 11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

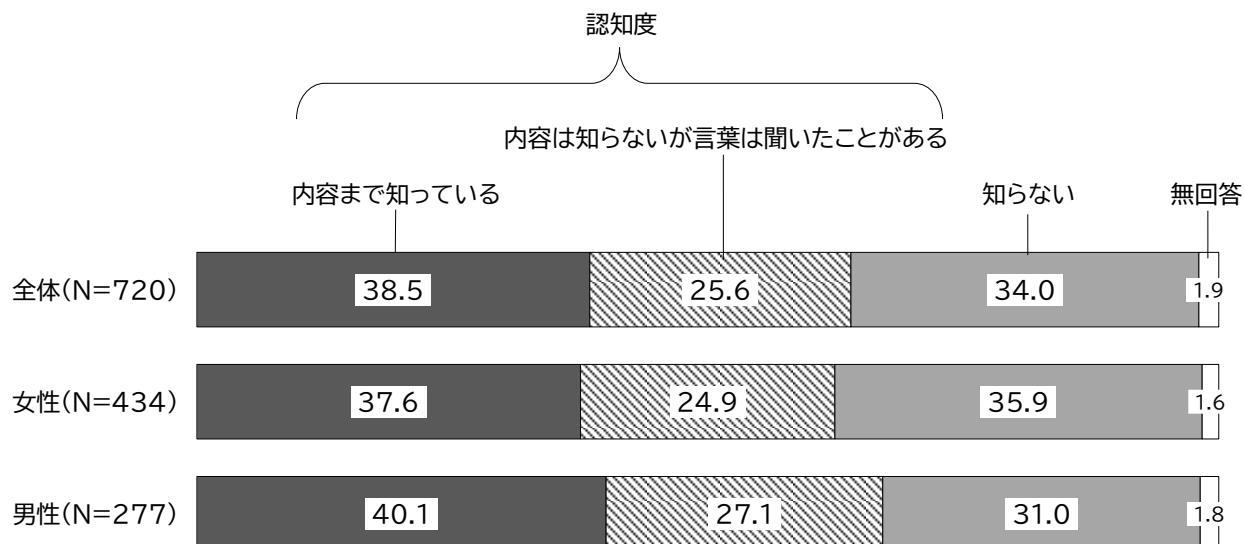
【全体】

全体では、「内容まで知っている」が38.5%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.6%となっており、両者をあわせた《認知度》は64.1%となっています。一方、「知らない」は34.0%となっています。(図表6-1-1)

【性別】

性別でみると、《認知度》は女性が62.5%、男性が67.2%となっています。(図表6-1-1)

図表 6-1-1 認知状況（全体、性別）

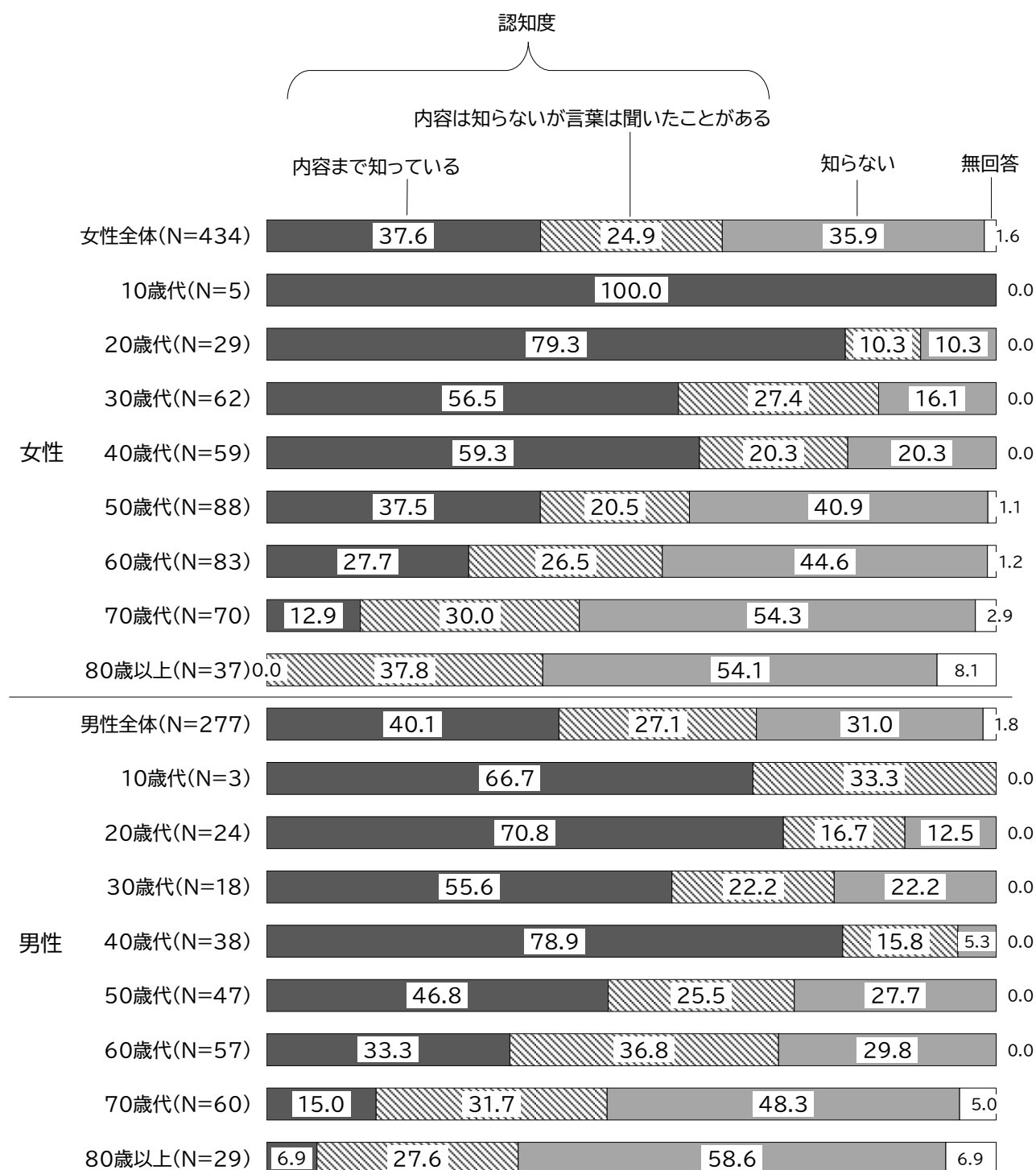


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10歳代から40歳代で「内容まで知っている」が半数を超えています。また、《認知度》は、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は40歳代で「内容まで知っている」が78.9%と他の年代と比べて多くなっています。《認知度》は女性と同様に年代が上がるほど減少傾向となっています。(図表6-1-2)

図表 6-1-2 認知状況（性・年代別）

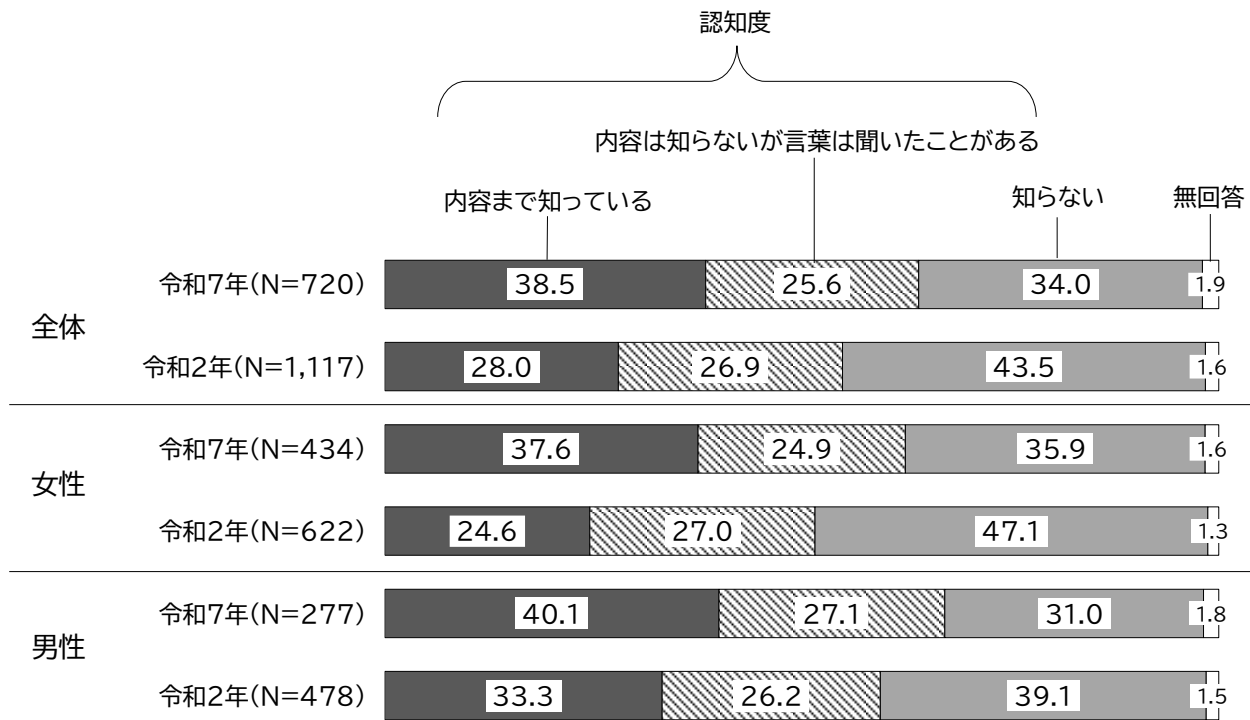


【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体の《認知度》（「内容まで知っている」と「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の合計）は64.1%で令和2年調査(54.9%)よりも9.2%増えています。

性別でみると、女性の《認知度》は62.5%で令和2年調査(51.6%)よりも10.9%増えています。男性の《認知度》は66.9%で令和2年調査(59.5%)よりも7.7%高くなっています。(図表6-1-2)

図表 6-1-3 認知状況（令和7年、性別、令和2年調査）



(2) 優先度の希望と現実

問 12 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、希望と現実(現状)、それぞれお答えください。

■希望

【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について希望をたずねました。

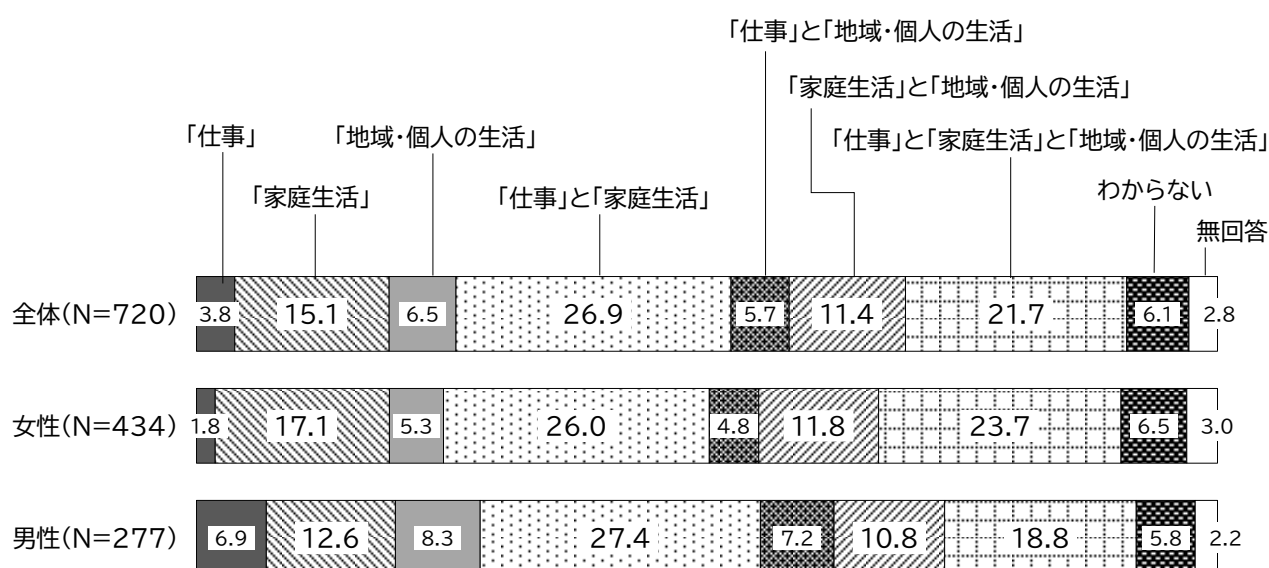
全体では、『「仕事」と「家庭生活」(26.9%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(21.7%)』、『「家庭生活」(15.1%)』が続いています。(図表6-2-1)

【性別】

性別でみると、女性は『「仕事」と「家庭生活」(26.0%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」(23.7%)』、『「家庭生活」(17.1%)』とが続いています。

男性は『「仕事」と「家庭生活」(27.4%)』が最も多くなっています。(図表6-2-1)

図表 6-2-1 優先度の希望 (全体、性別)

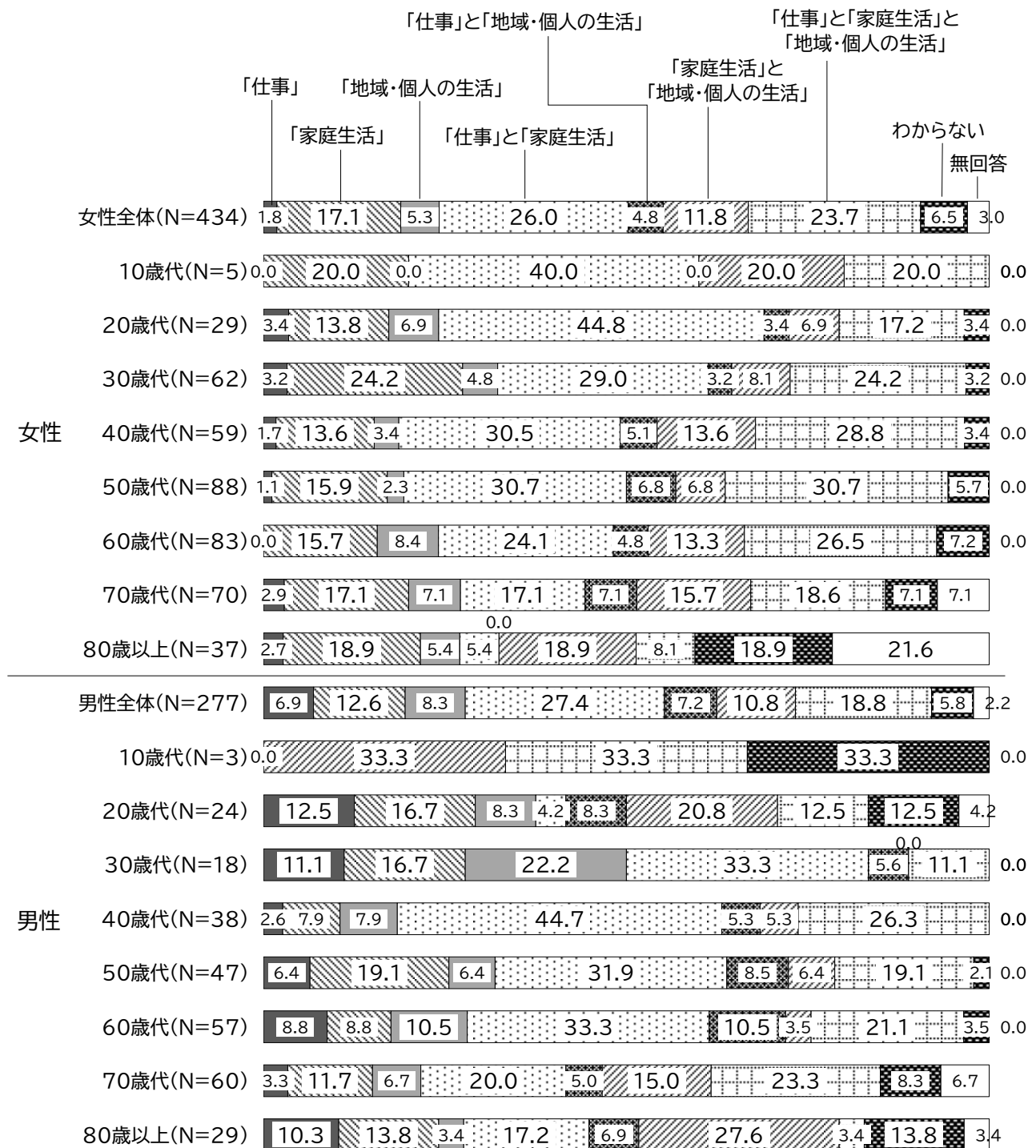


【性・年代別】

優先度の希望について性・年代別にみると、女性は20歳代で『「仕事」と「家庭生活」』が44.8%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は40歳代で『「仕事」と「家庭生活」』が44.7%と他の年代と比べて多くなっています。(図表6-2-2)

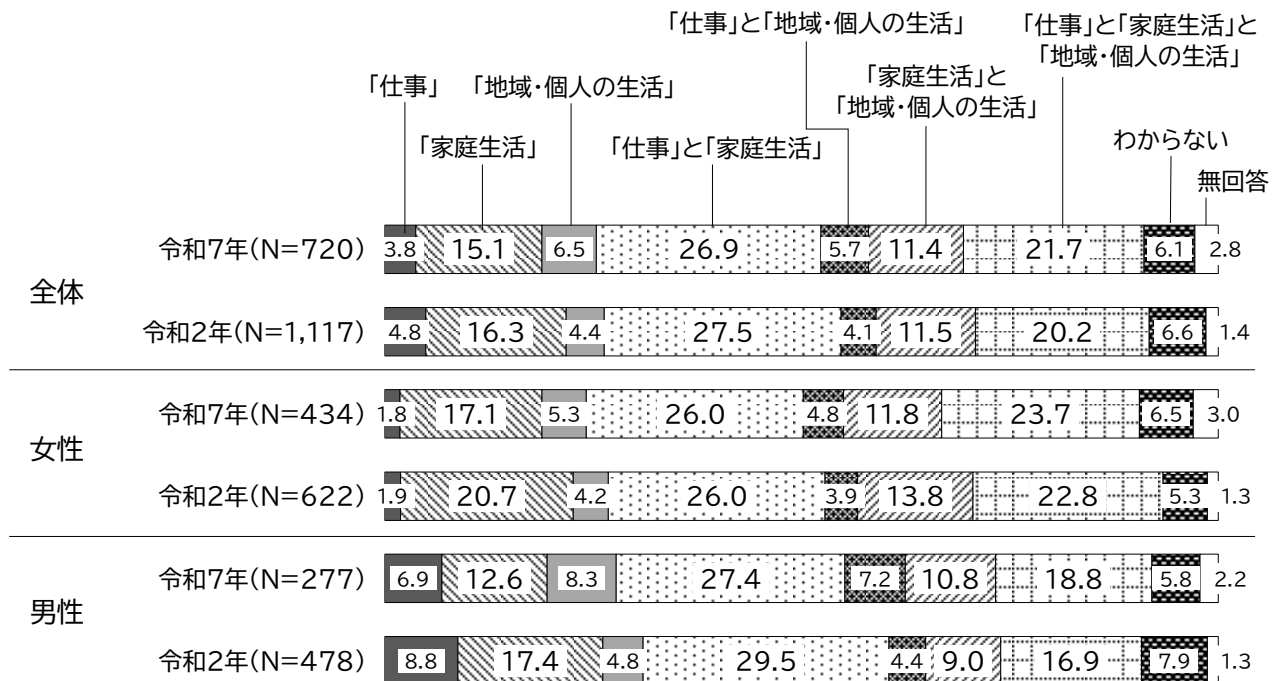
図表 6-2-2 優先度の希望（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、大きな差はありませんが、『「地域・個人の生活」』と「仕事」と『「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が全体、男女ともにやや増加しています。（図表 6-2-3）

図表 6-2-3 優先度の希望（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



■現実

【全体】

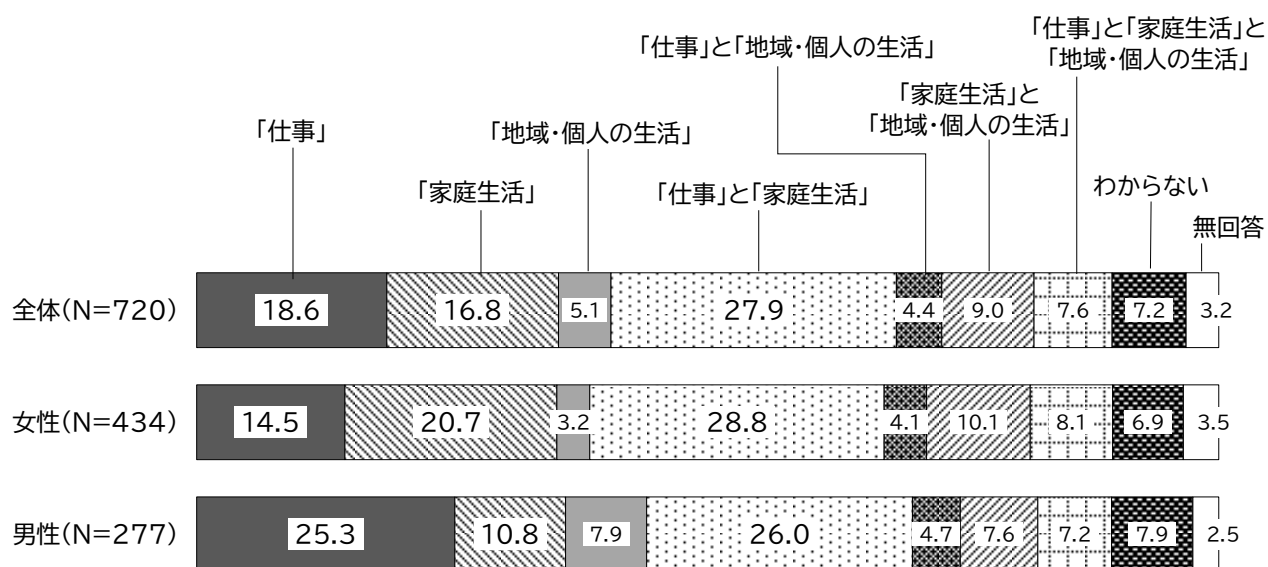
生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について現実をたずねました。

全体では、『「仕事」と「家庭生活」(27.9%)』が最も多く、『「仕事」(18.6%)』、『「家庭生活」(16.8%)』が続いています。(図表6-2-2)

【性別】

性別でみると、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」(女性:28.8%、男性26.0%)』が最も多くなっています。次いで女性では『「家庭生活」(20.7%)』が、男性では『「仕事」(25.3%)』が続いています。(図表6-2-4)

図表 6-2-4 優先度の現実（全体、性別）

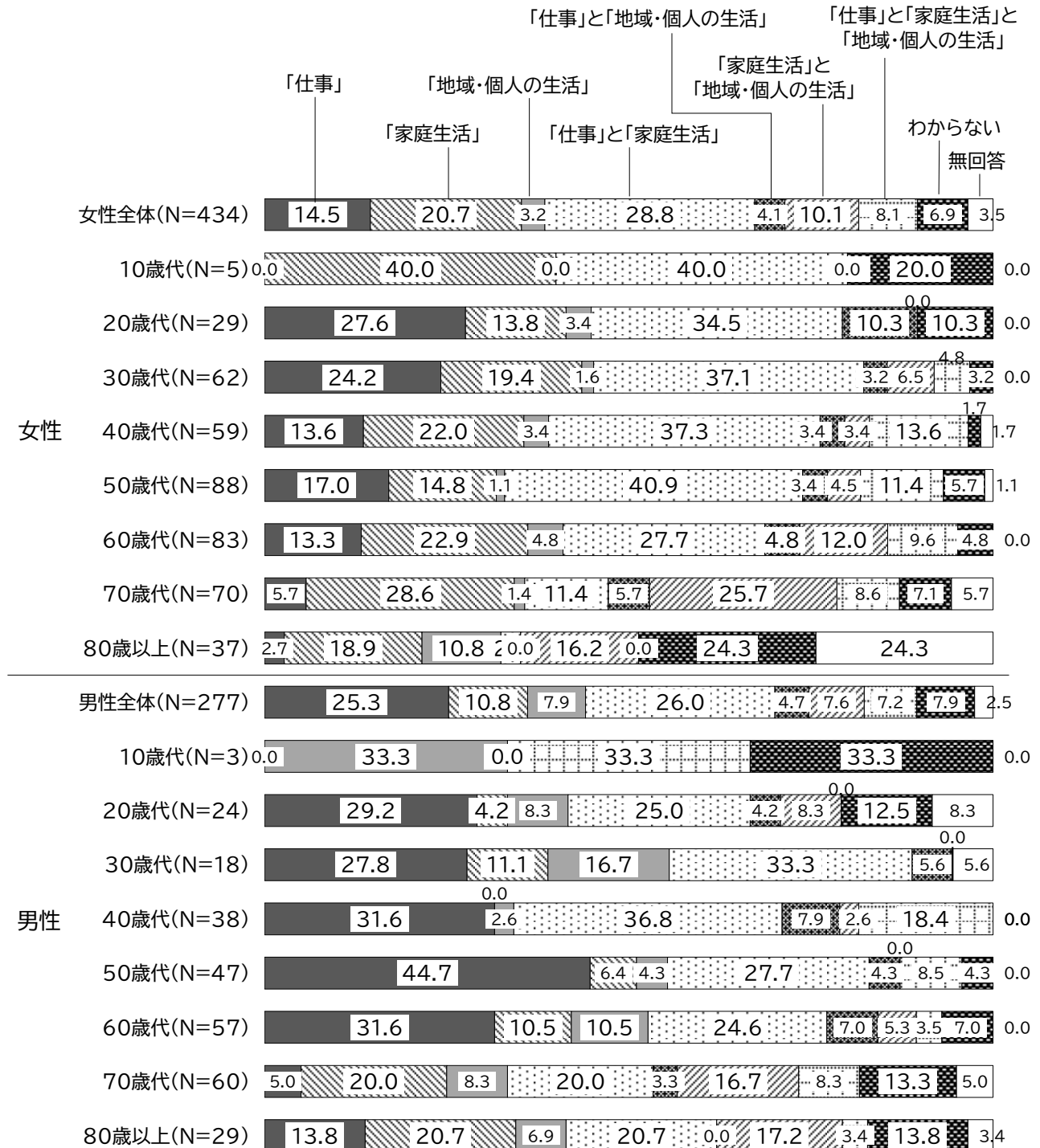


【性・年代別】

優先度の現実について性・年代別にみると、女性は70歳代と80歳代以上を除いたすべての年代で『「仕事」と「家庭生活」』が多くなっています。

男性は30歳代から50歳代『「仕事」』が最も多くなっており、特に50歳代は44.7%と他の年代と比べて多くなっています。(図表6-2-5)

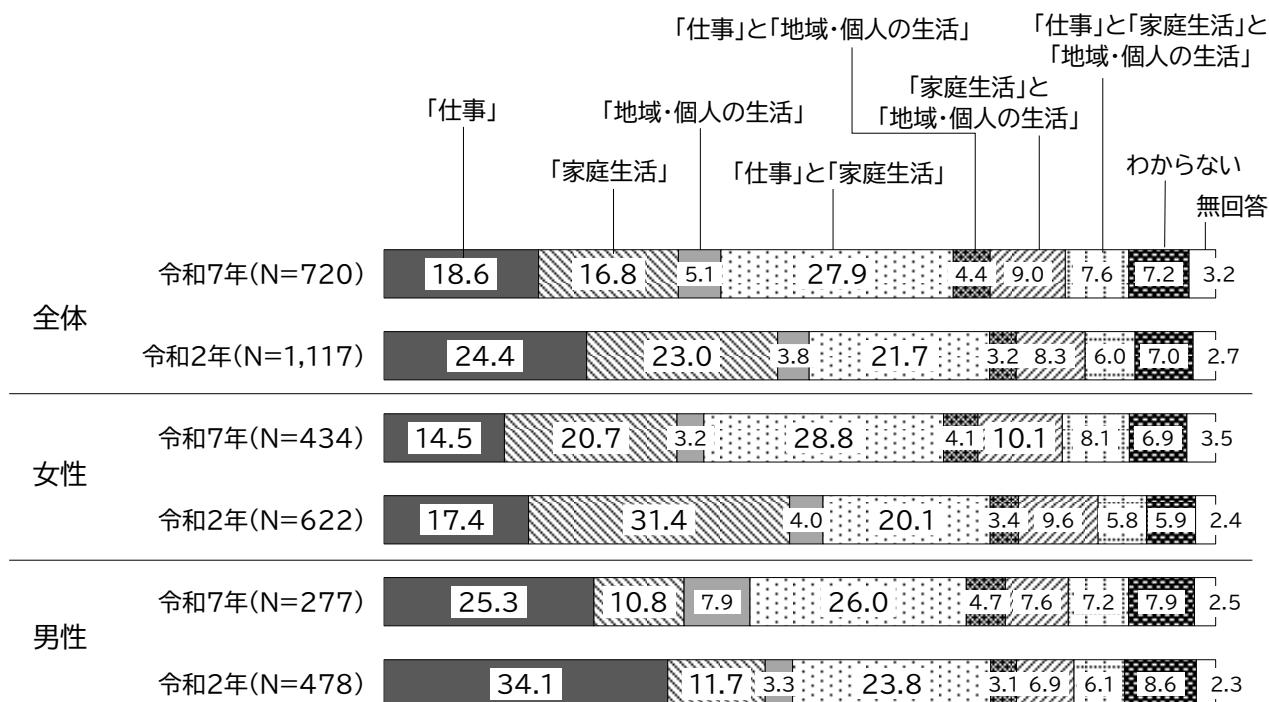
図表 6-2-5 優先度の現実（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体、男女ともに『「仕事」』『「家庭生活」』『「地域・個人の生活」』が減少し、『「仕事」と「家庭生活」』『「仕事」と「地域・個人の生活」』『「家庭生活」と「地域・個人の生活」』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」』が増加しています。（図表6-2-3）

図表 6-2-6 優先度の現実（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



(3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問 13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

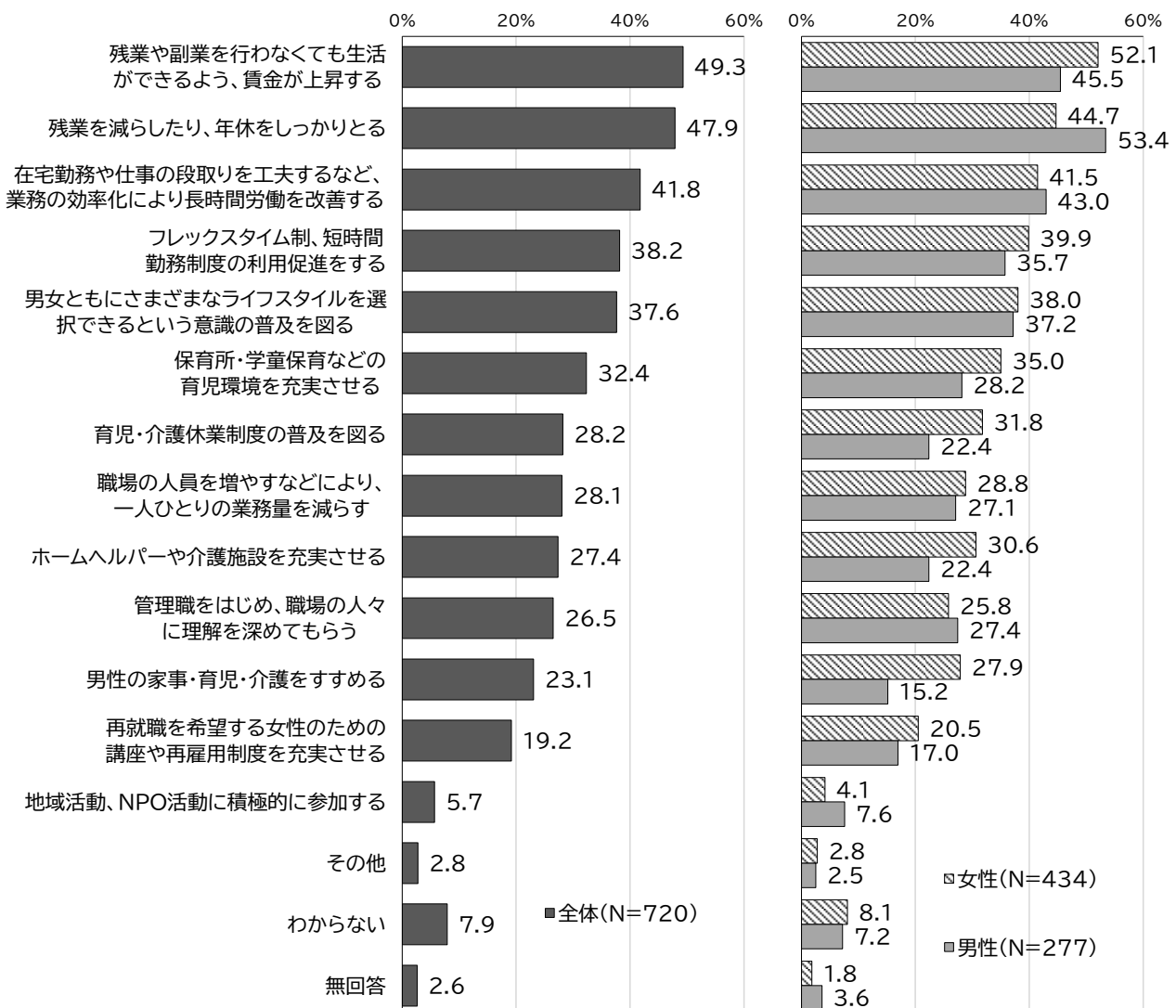
全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(49.3%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(47.9%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.8%)」が続いています。(図表6-3-1)

【性別】

性別でみると、女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(52.1%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(44.7%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(41.5%)」が続いています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(53.4%)」が最も多く、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(45.5%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する(43.0%)」が続いています。(図表6-3-1)

図表 6-3-1 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと（全体、性別：複数回答）

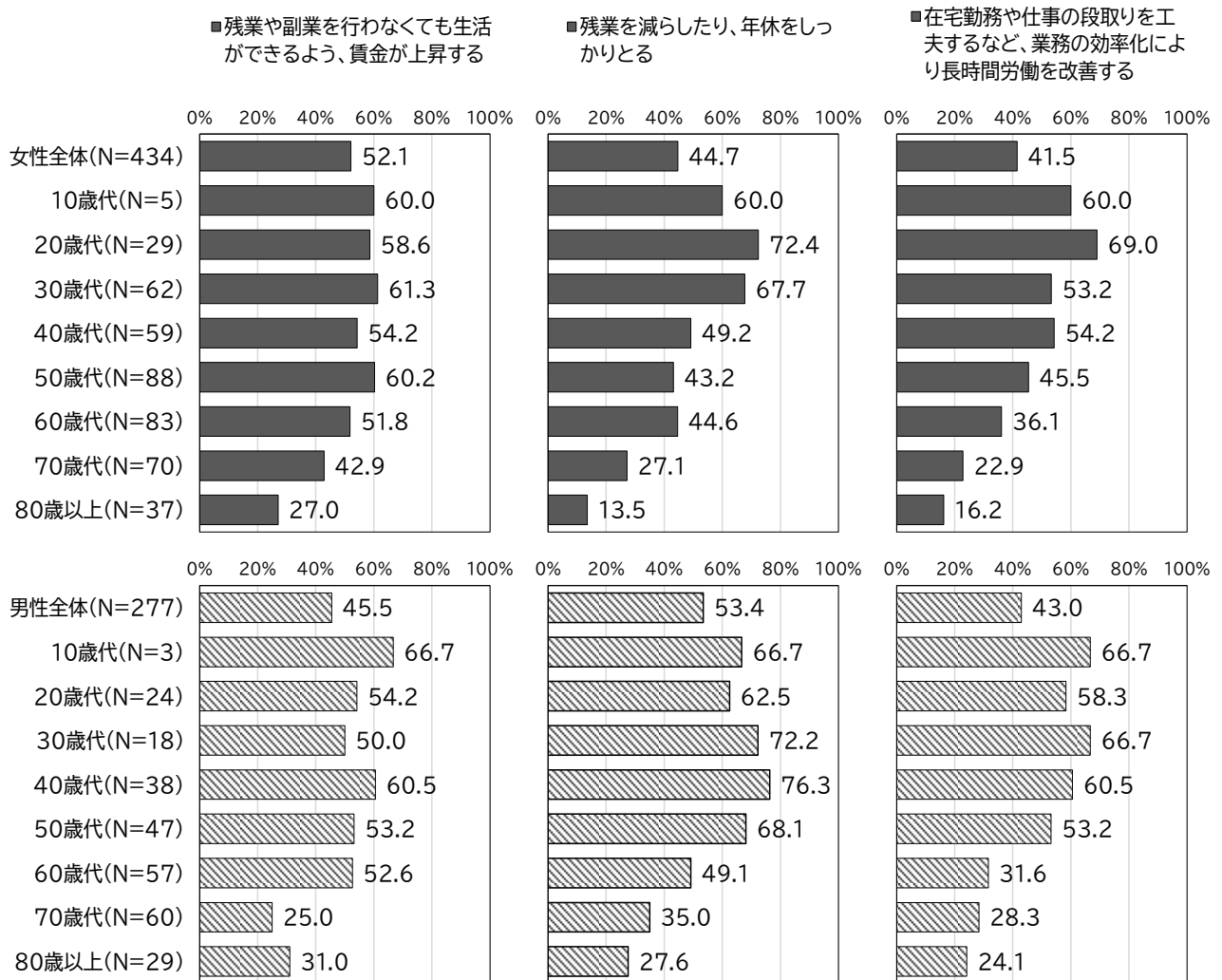


【性・年代別】

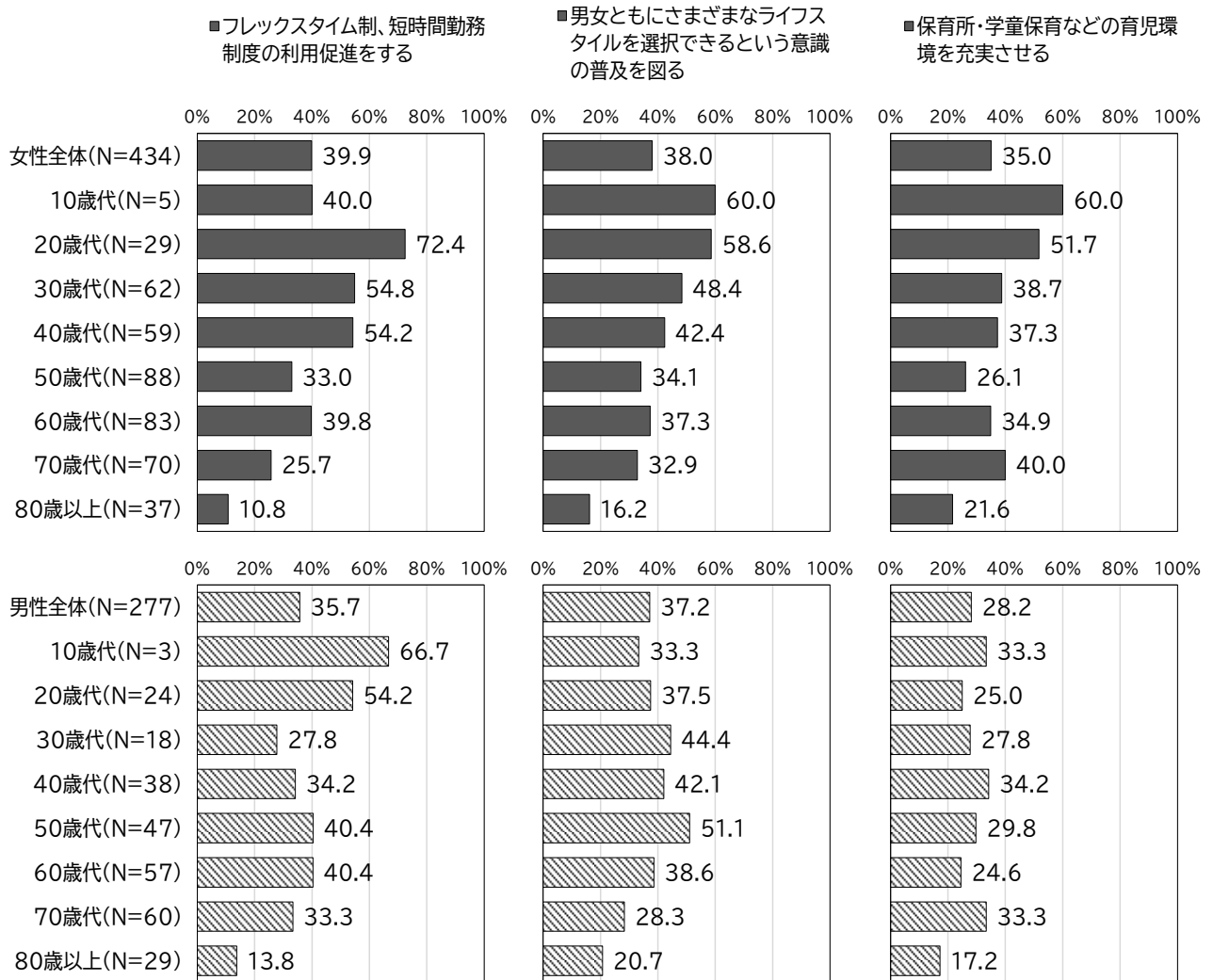
性・年代別にみると、女性は20歳代で「残業を減らしたり、年休をしっかりとる」と「フレックスタイム制、短時間勤務制度の利用促進をする」が72.4%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は30歳代と40歳代で「残業を減らしたり、年休をしっかりとる」が7割以上と他の年代と比べて多くなっています。(図表6-3-2-①②)

図表 6-3-2-① ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



図表 6-3-2-② ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)

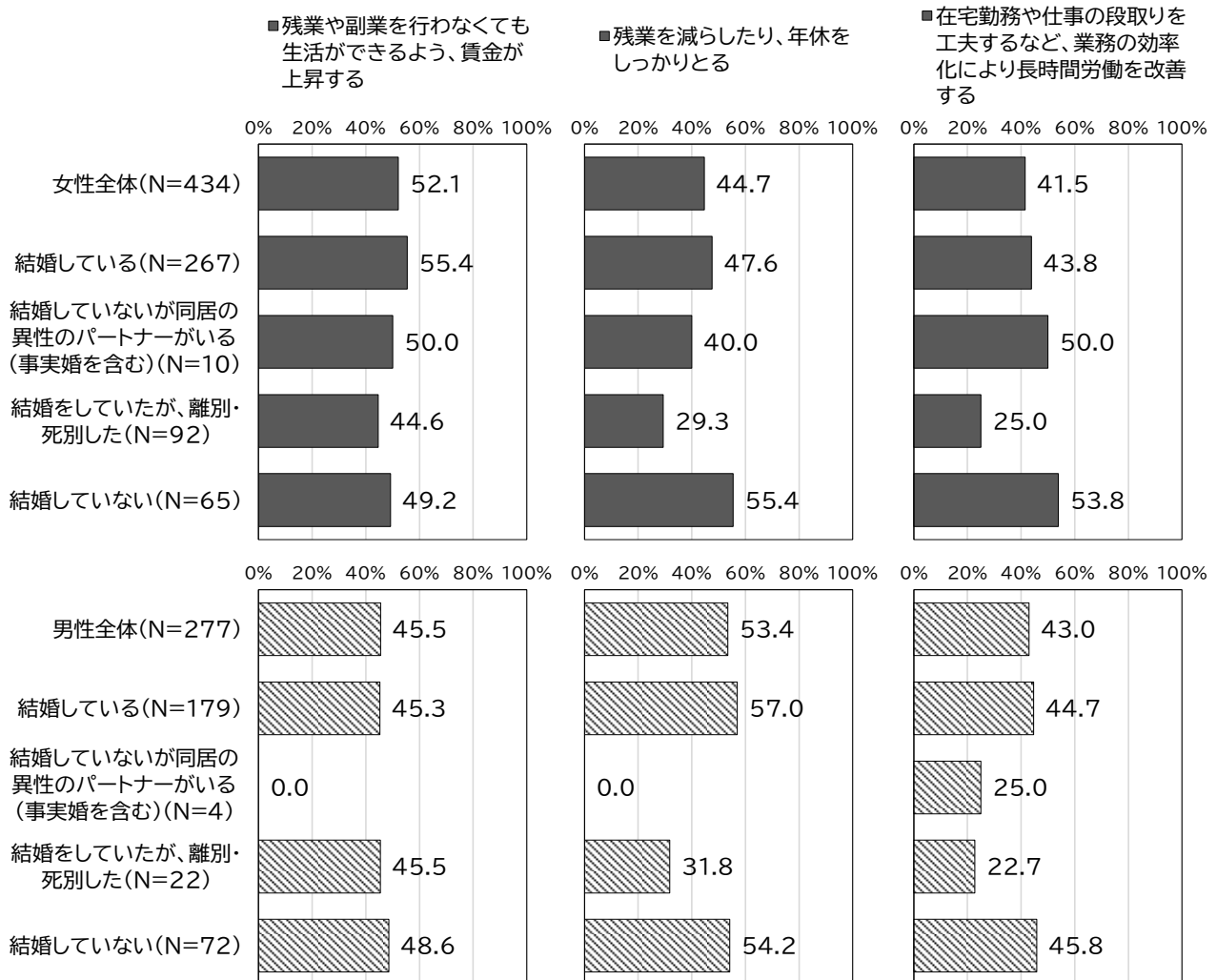


【性・未既婚別】

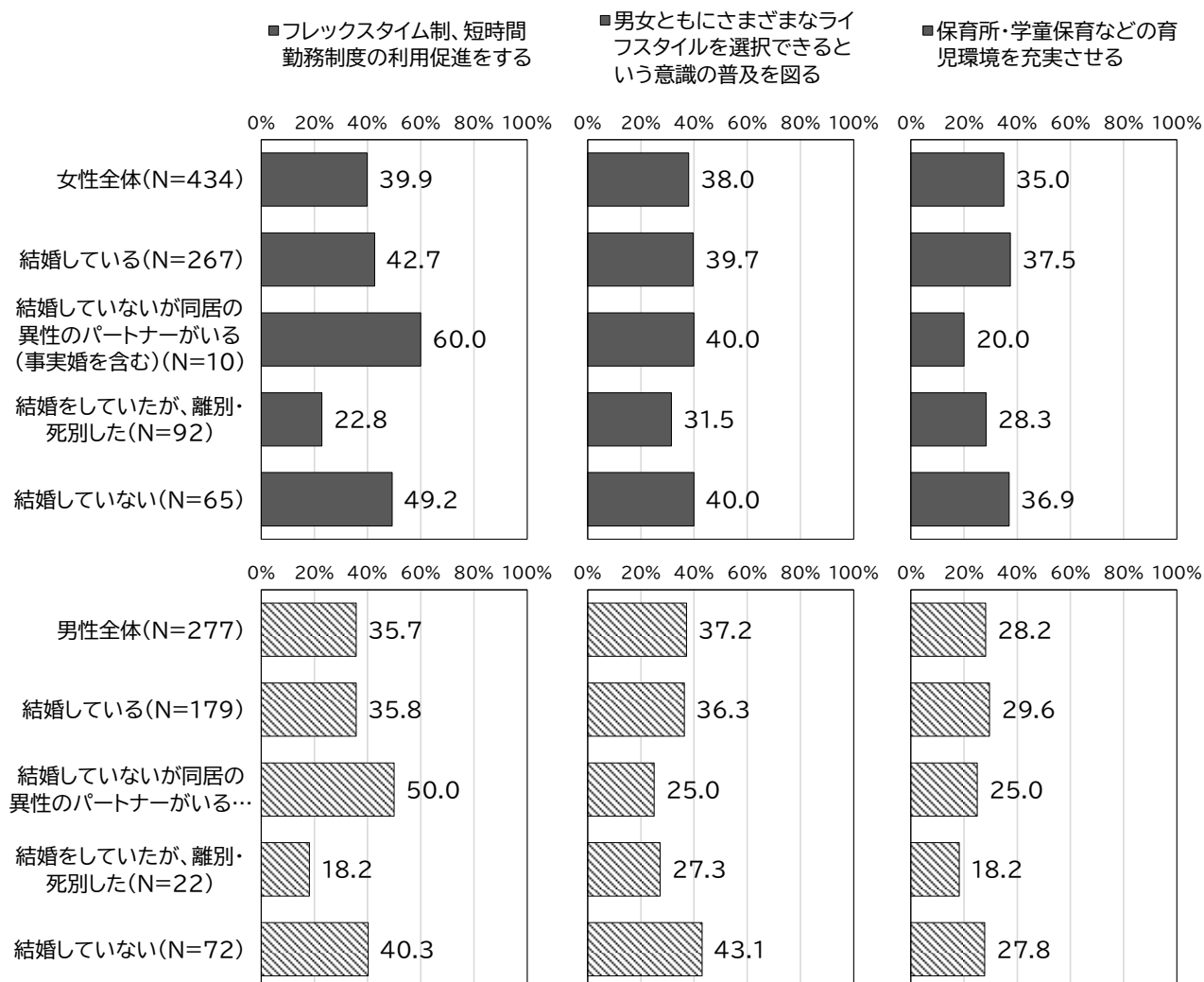
性・未既婚別にみると、既婚の女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する(55.4%)」、未婚の女性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる(55.4%)」が最も多くなっています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる」が既婚の男性で57.0%、未婚の男性で54.2%と最も多くなっています。(図表6-3-3-①②)

図表 6-3-3-① ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



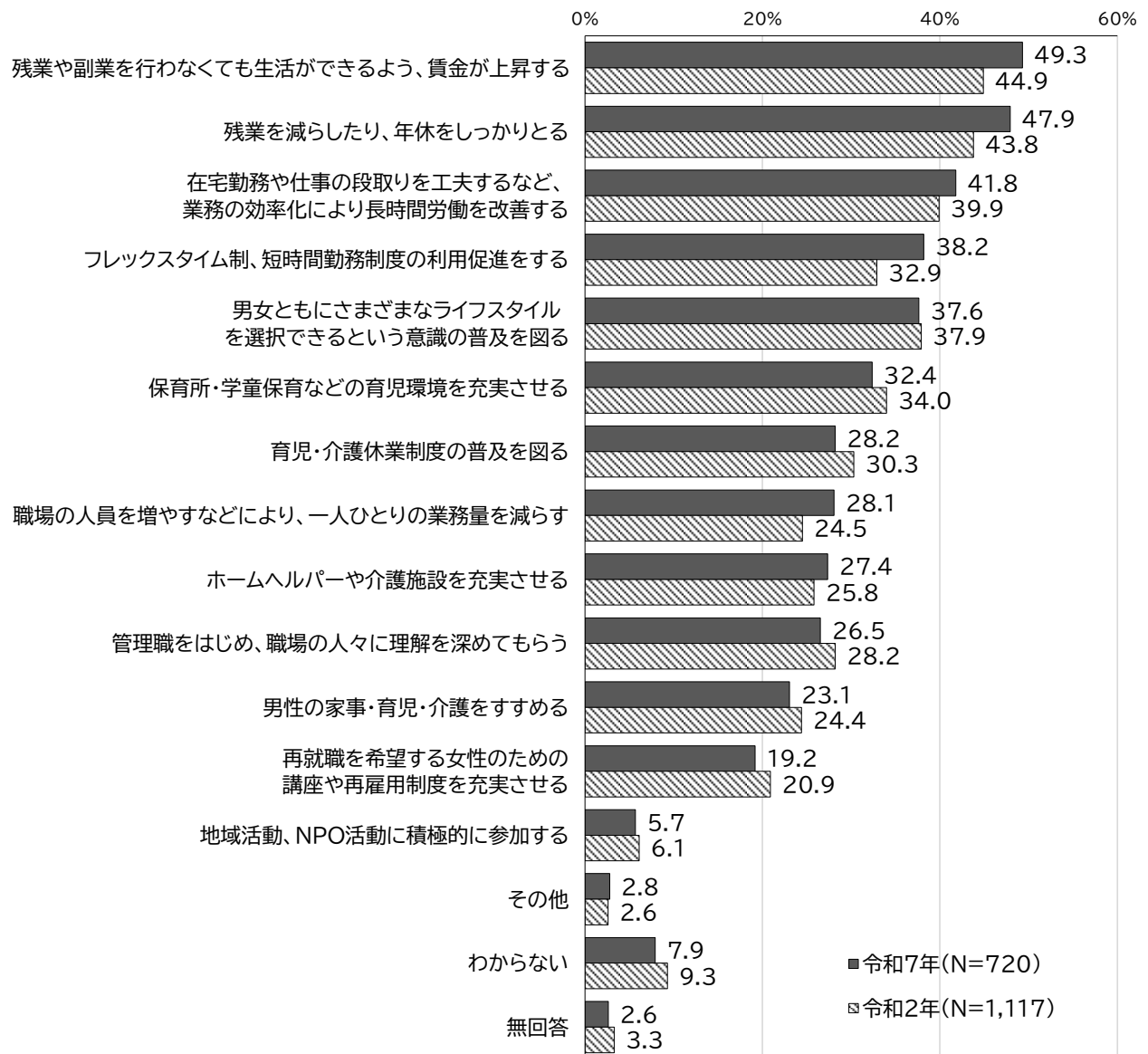
図表 6-3-3-② ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・未婚既婚別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、16項目中6項目の割合が前回よりも増えています。また、減っている項目は15項目中9項目あります。(図表6-3-4)

図表 6-3-4 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



7 セクシュアル・ハラスメント

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問 14 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域・SNSで、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。
(○は職場、学校、地域、SNSごとにあてはまるものすべて)
※高校生や大学生等の方は、「職場」はバイト先での経験について教えてください。

■職場

【全体】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

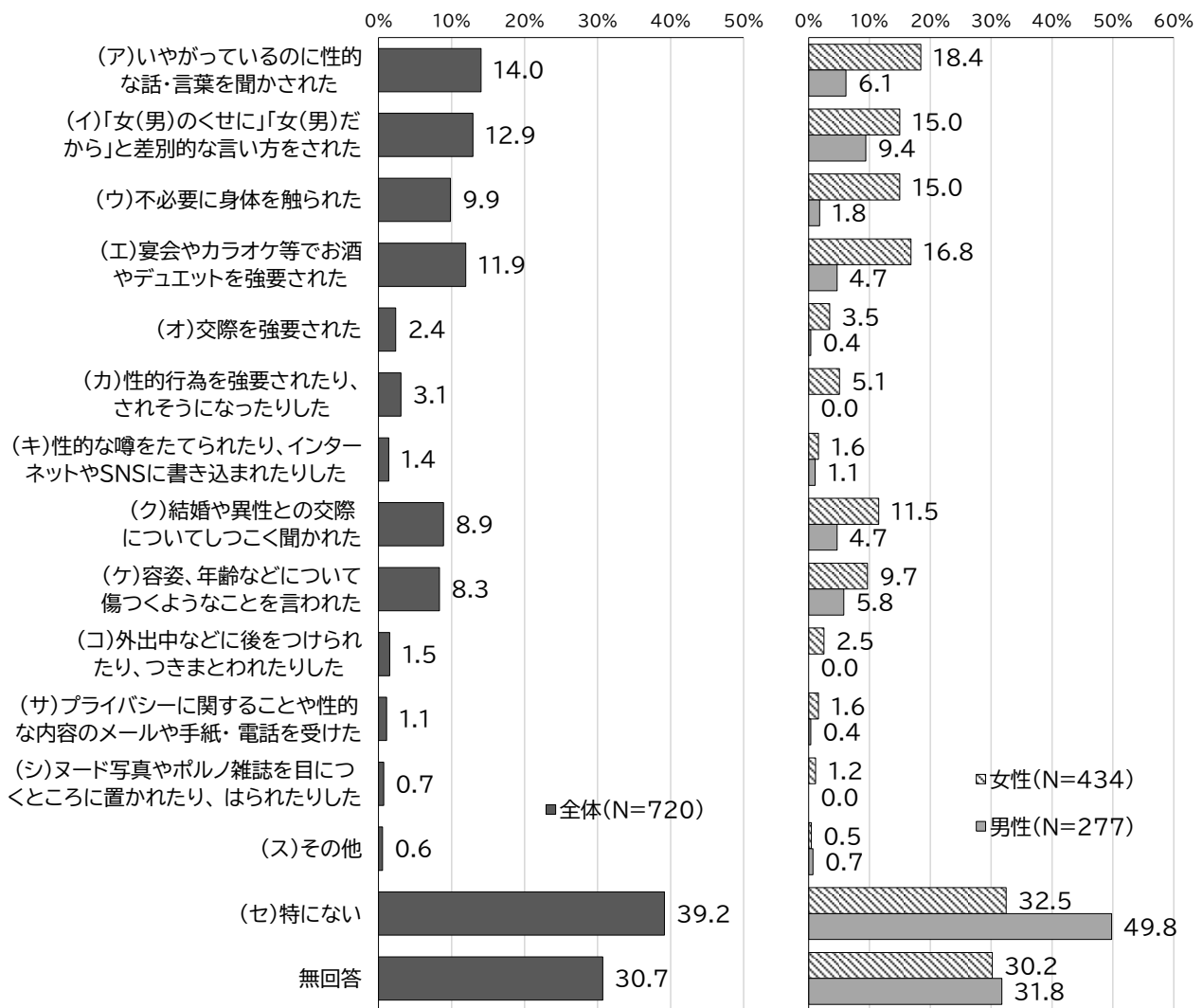
全体では、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(14.0%)」が最も多く、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.9%)、「宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(11.9%)」が続いています。(図表7-1-1)

【性別】

性別でみると、女性は、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(18.4%)」、「宴会でお酒やデュエットを強要された(16.8%)」、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(15.0%)、「不必要に身体を触られた(15.0%)」「結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた(11.5%)」が1割台となっています。

男性は「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(9.4%)」が最も多くなっています。また、「特にない」は女性32.5%、男性49.8%で男性が多くなっています。(図表7-1-1)

図表 7-1-1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）

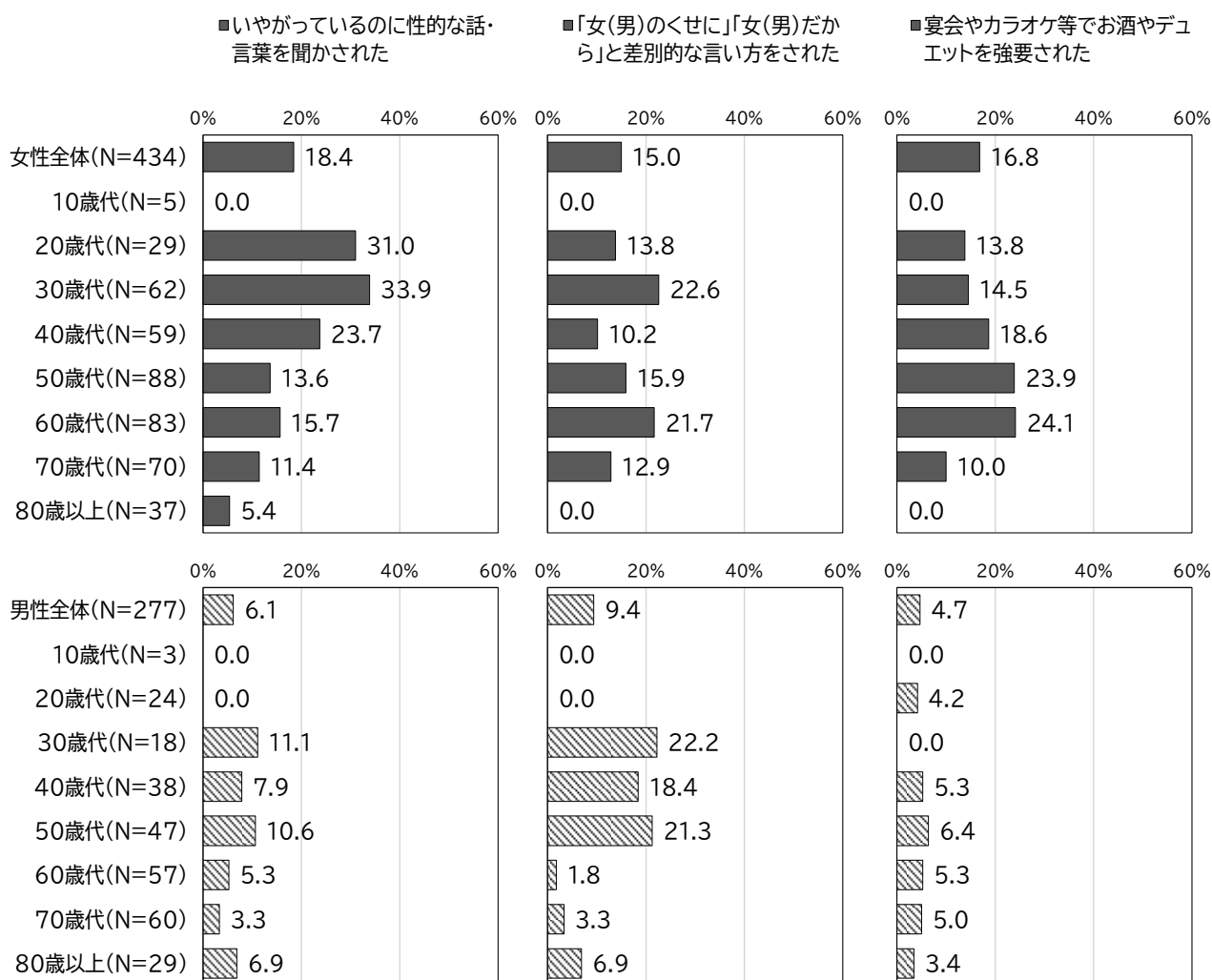


【性・年代別】

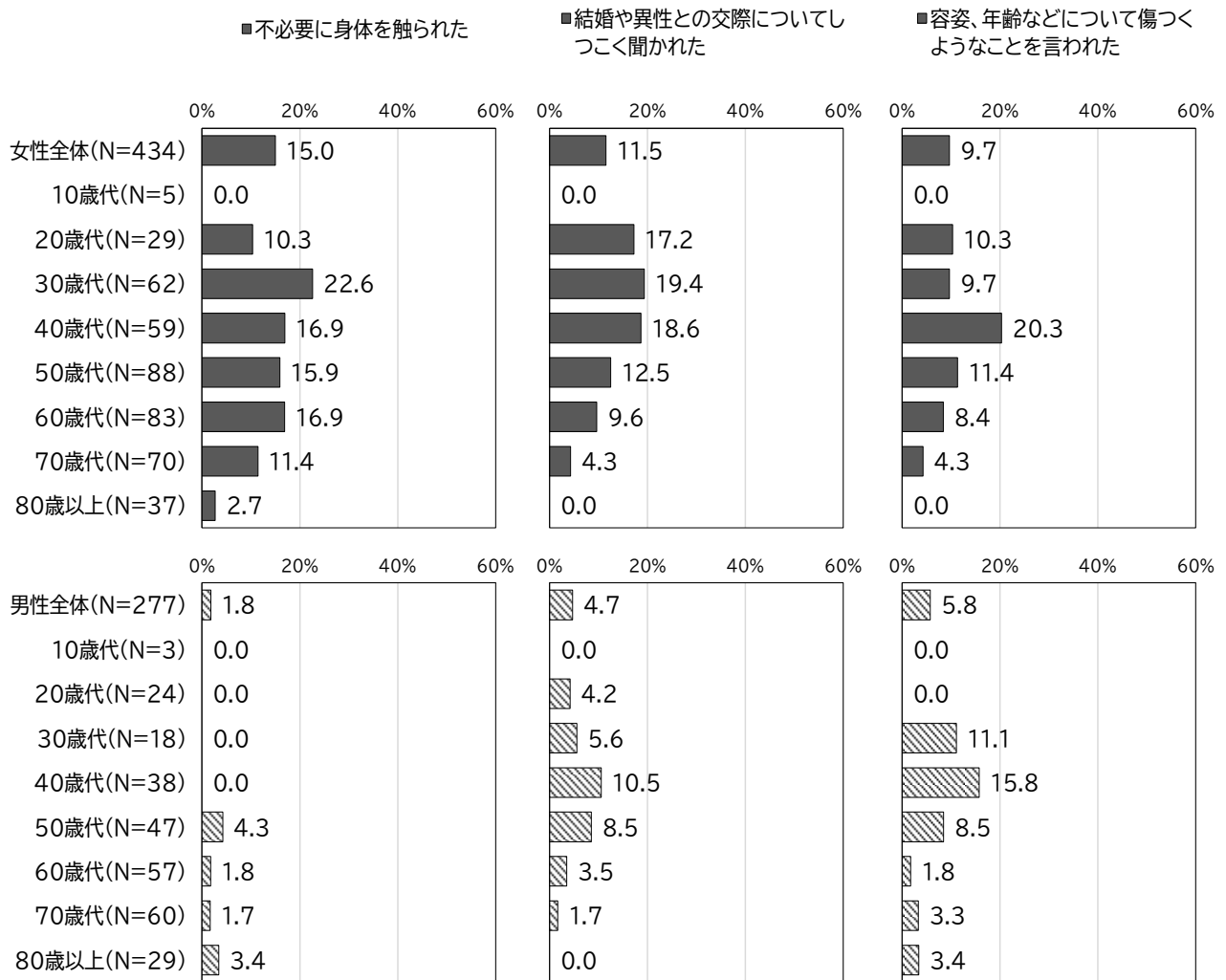
「特にない」を除いた項目で性・年代別にみると、女性は「いやがっているのに性的な話・言葉をきかされた」で20歳代が31.0%、30歳代が33.9%、40歳代が23.7%と最も多く、「宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された」が50歳代で23.0%、60歳代で24.1%と多くなっています。

男性は「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」で30歳代が22.2%、40歳代で18.4%、50歳代で21.3%と多くなっています。(図表7-1-2-①②)

図表 7-1-2-① 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



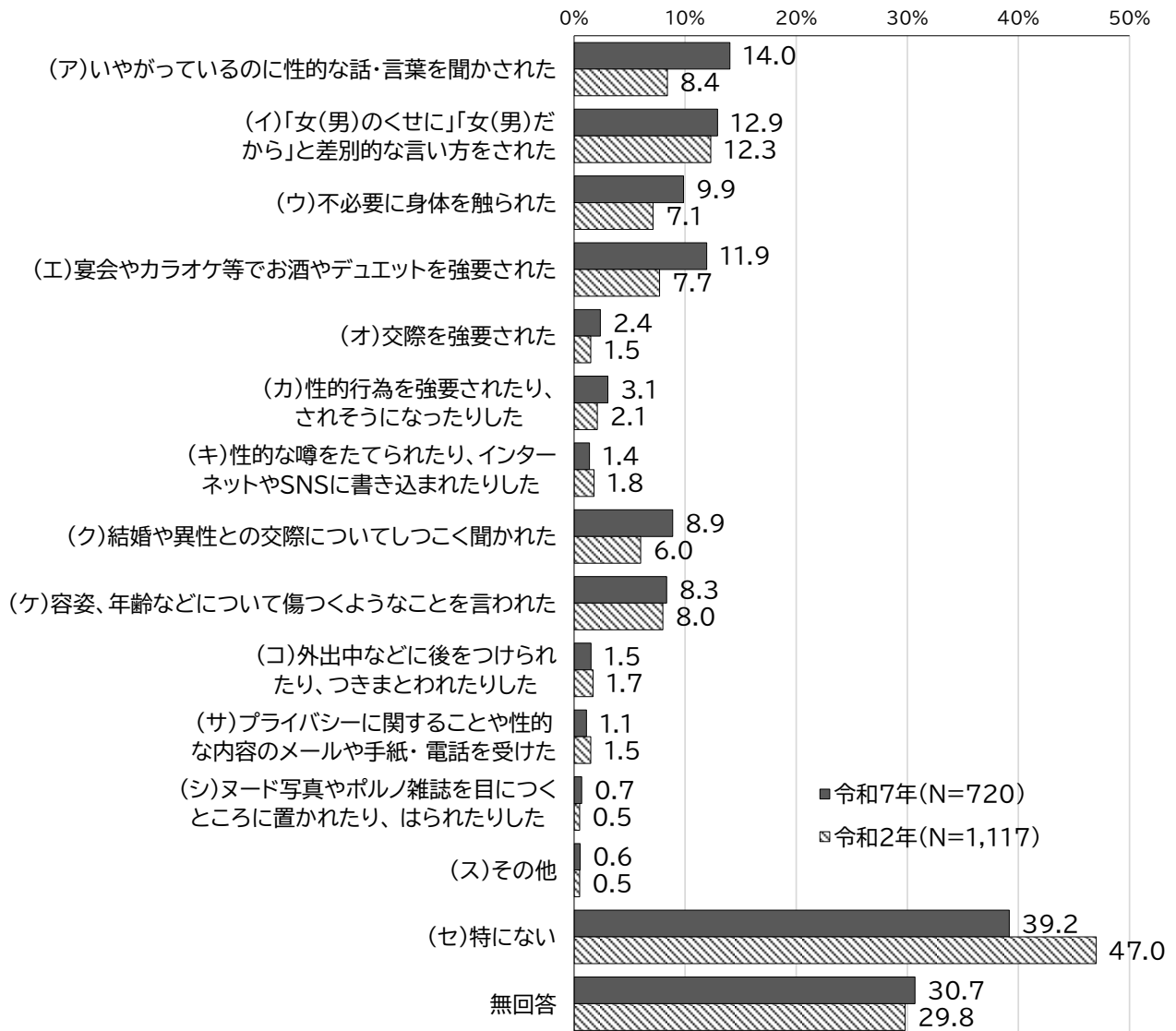
図表 7-1-2-② 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(令和7年調査:14.0%、令和2年調査:8.4%)」や「宴会やカラオケ等でお酒やデュエットを強要された(令和7年調査:11.9%、令和2年調査:7.7%)」など、10項目で前回よりも増えています。(図表7-1-3)

図表 7-1-3 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、令和7年・令和2年調査）



■学校

【全体】

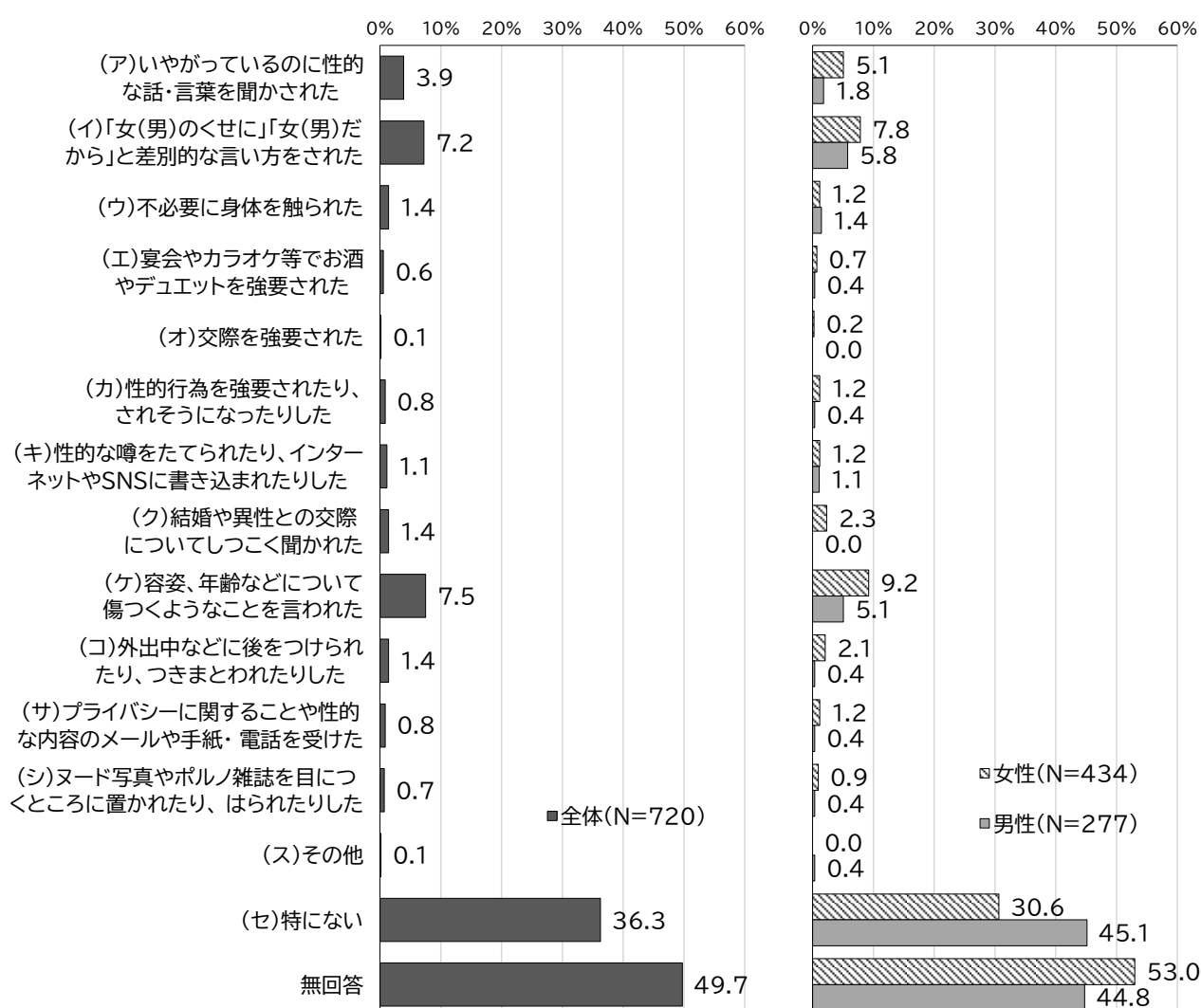
学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(7.2%)と「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(7.5%)」が多くなっています。(図表7-1-4)

【性別】

性別でみると、男女ともに「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:7.8%、男性5.8%)、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(女性:9.2%、男性5.1%)」が多くなっています。また、「特にない」は女性30.6%、男性45.1%で男性が多くなっています。(図表7-1-4)

図表 7-1-4 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）

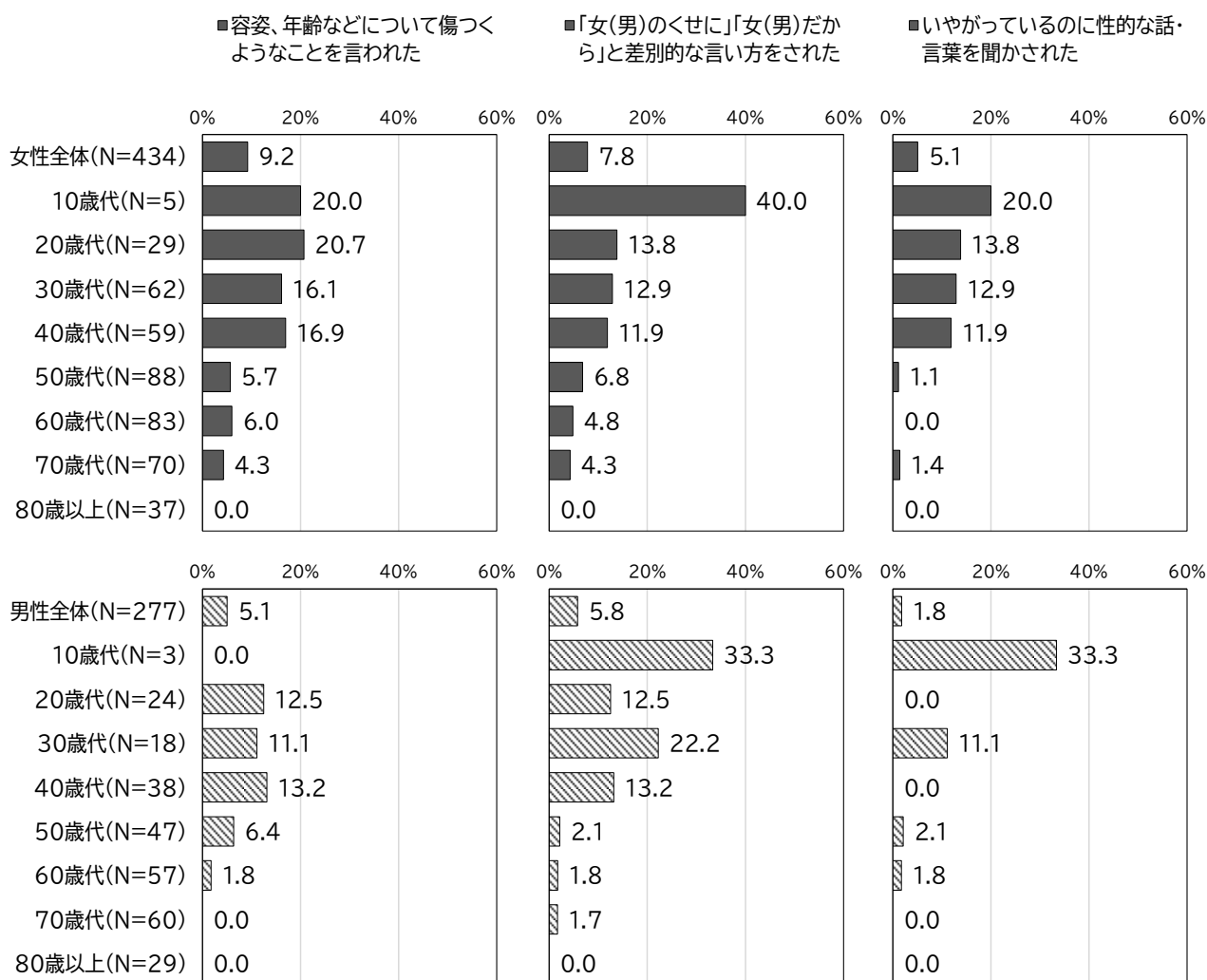


【性・年代別】

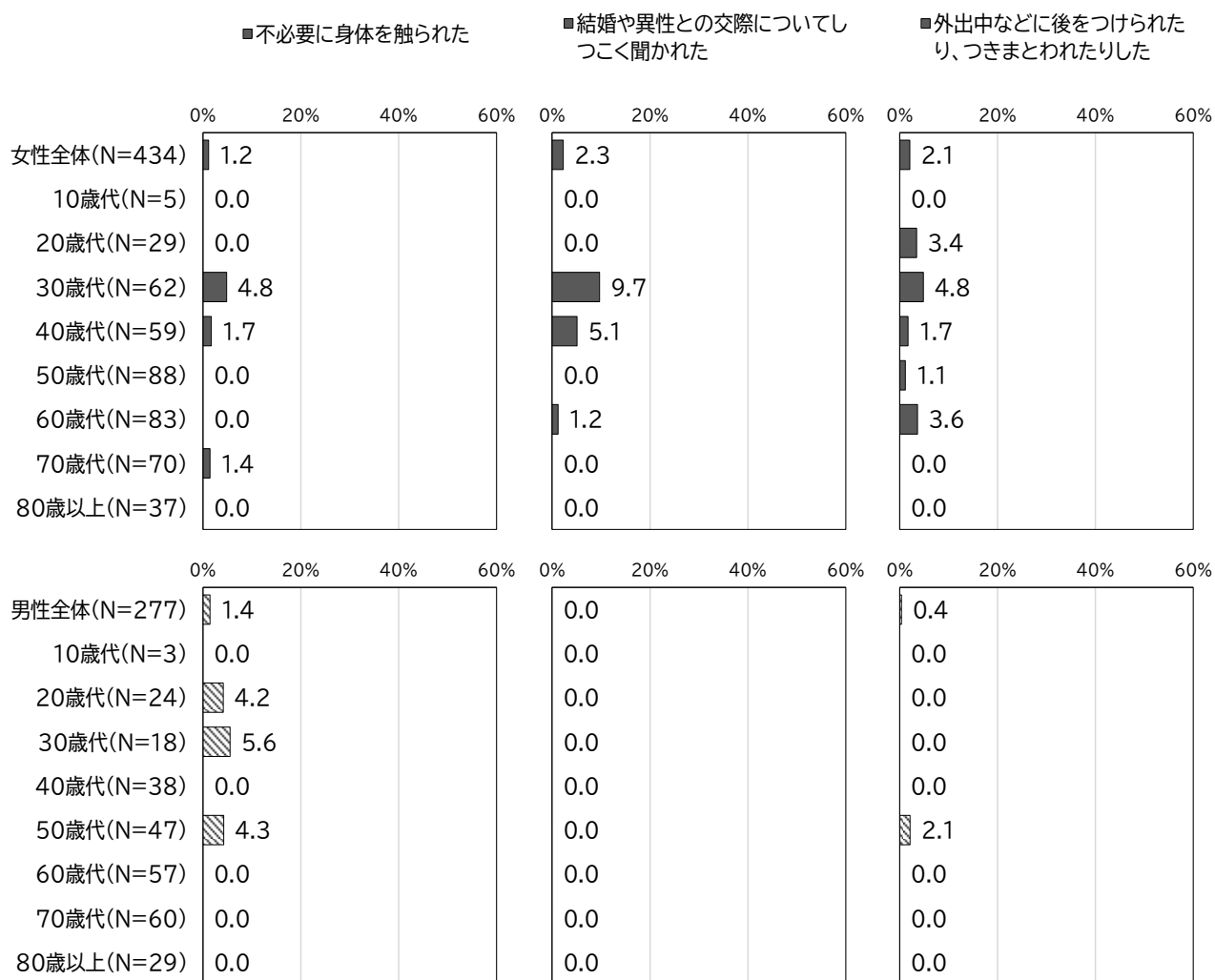
「特にない」を除いた項目で性・年代別にみると、女性は「容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた」で20歳代が20.7%、30歳代が16.1%、40歳代が16.9%と多くなっています。

男性は20歳代で「容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた」と「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が12.5%、30歳代と40歳代で「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」でそれぞれ22.2%と13.2%と多くなっています。(図表7-1-5-①②)

図表 7-1-5-① 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



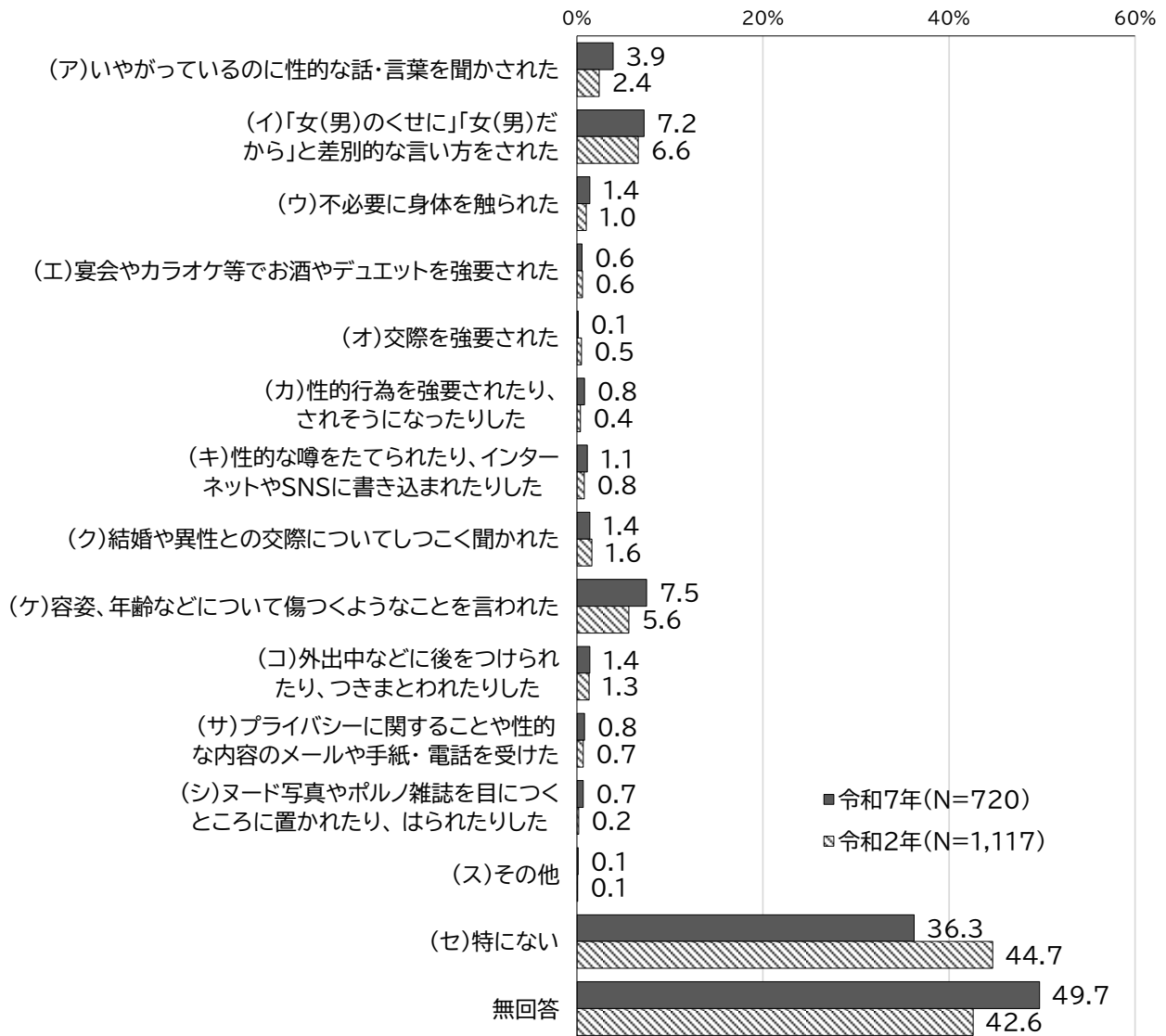
図表 7-1-5-② 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(令和7年調査:3.9%、令和2年調査:2.4%)」や「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(令和7年調査:7.2%、令和2年調査:5.6%)」など、9項目で前回よりも増えています。(図表7-1-6)

図表 7-1-6 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、令和7年・令和2年調査）



■地域

【全体】

地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(6.0%)、「不必要に身体を触られた(4.9%)」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした(4.7%)」が多くなっています。(図表7-1-3)

【性別】

性別でみると、男女ともに「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:7.6%、男性3.2%)」が最も多くなっています。また、「特にない」は女性31.8%、男性50.2%で男性が多くなっています。(図表7-1-3)

図表 7-1-7 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）

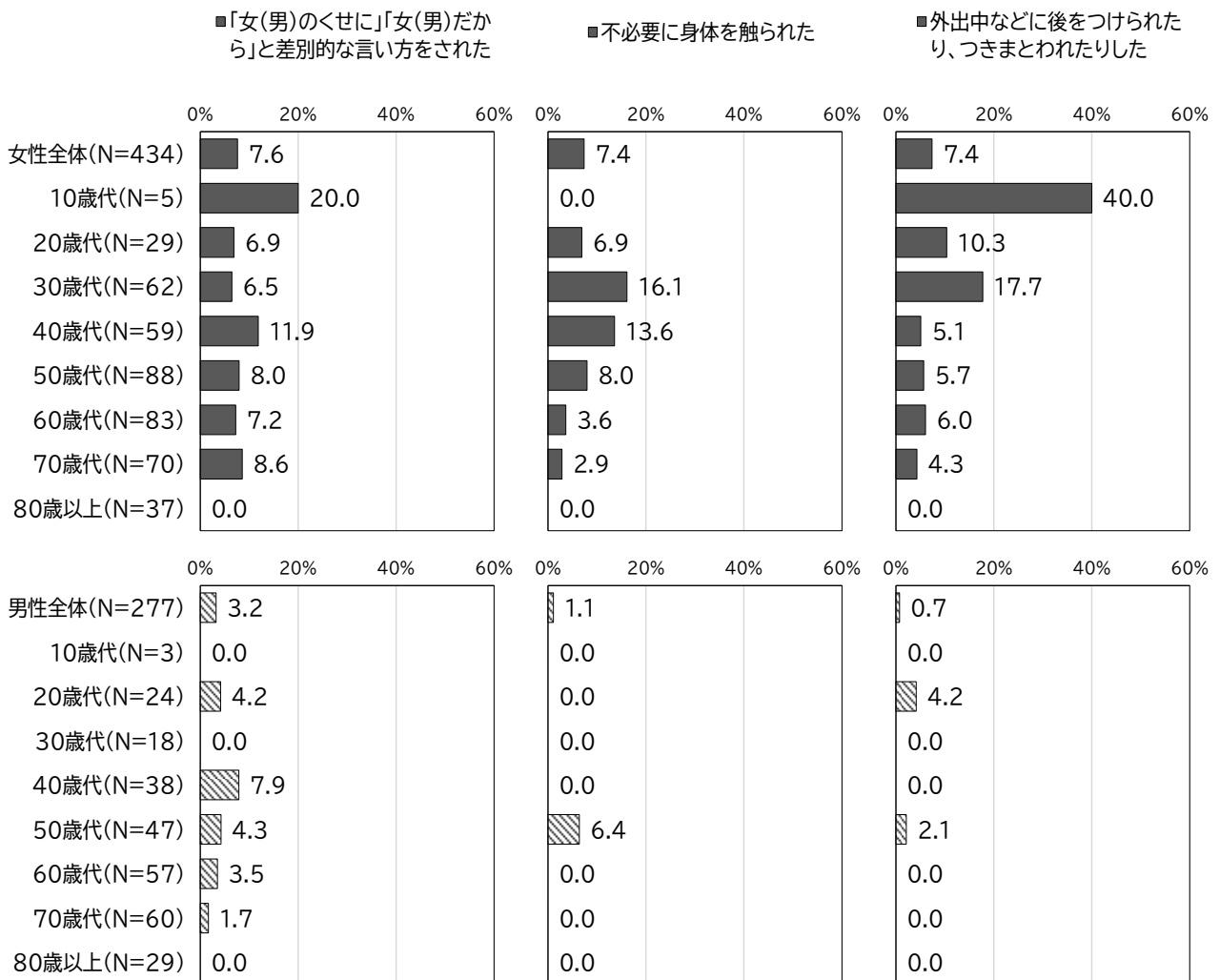


【性・年代別】

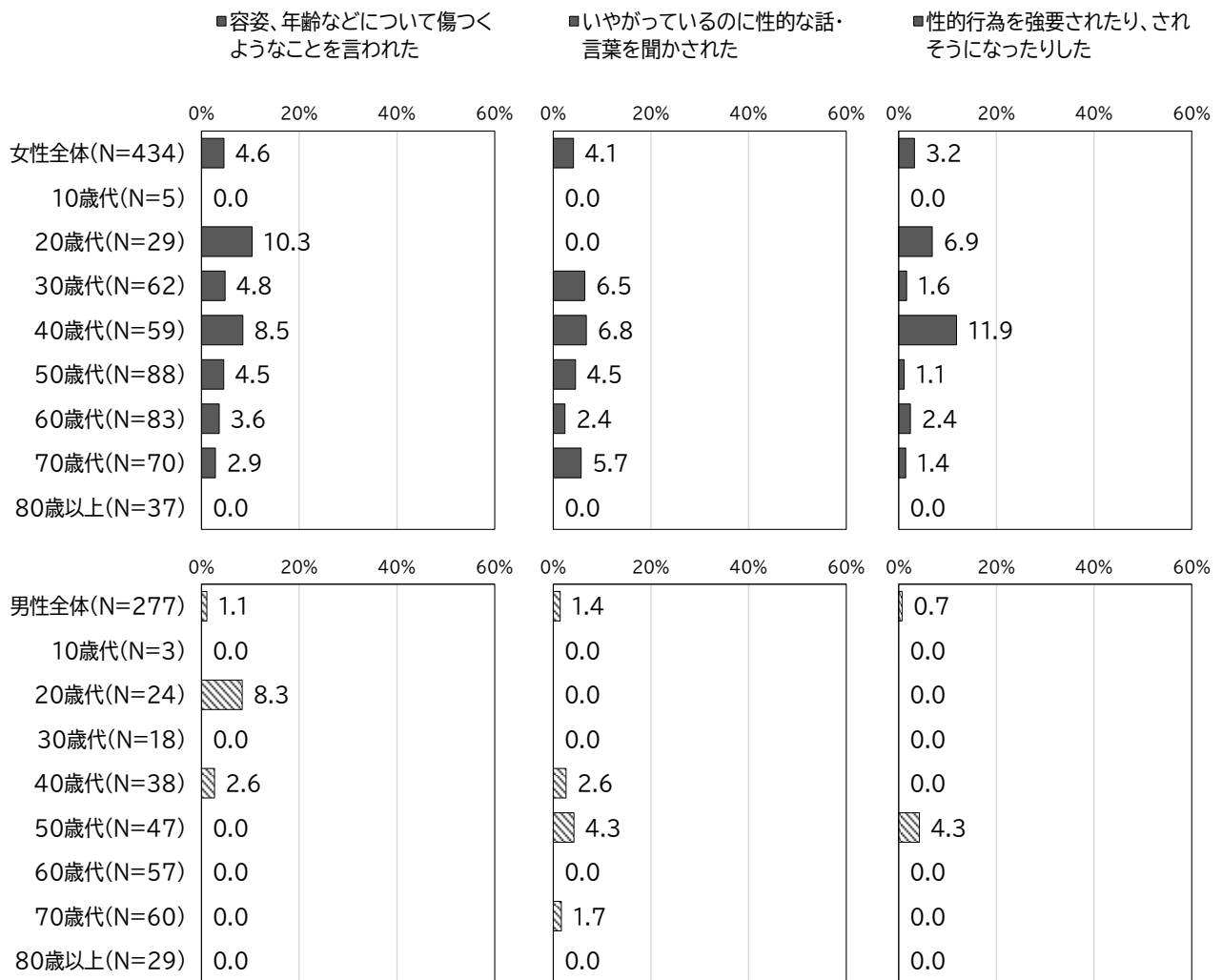
「特にない」を除いた項目で性・年代別にみると、女性は20歳代が「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」と「容姿、年齢などについて傷つく様なことを言われた」で10.3%、30歳代が「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」で17.7%、40歳代が「不必要に身体を触られた」で13.6%と多くなっています。

男性は20歳代が「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」で6.3%、40歳代で「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」で7.9%と多くなっています。(図表7-1-8-①②)

図表 7-1-8-① 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



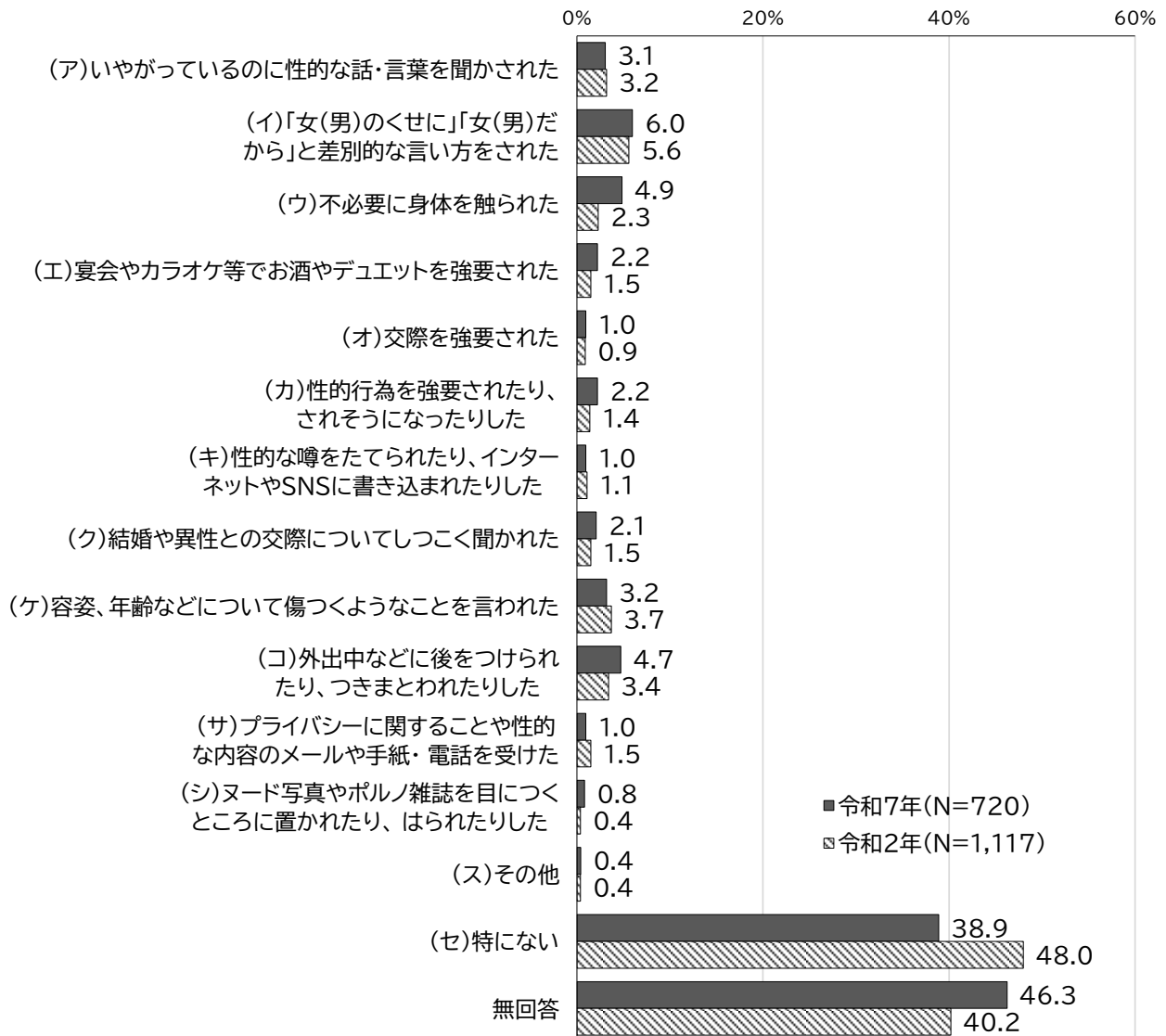
図表 7-1-8-② 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位6項目）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「不必要に身体を触られた(令和7年調査:4.9%、令和2年調査:2.3%)」や「外出中など後をつけられたり、つきまとわれたりした(令和7年調査:4.7%、令和2年調査:3.4%)」など、8項目で前回よりも増えています。(図表7-1-9)

図表 7-1-9 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、令和7年・令和2年調査）



■SNS

【全体】

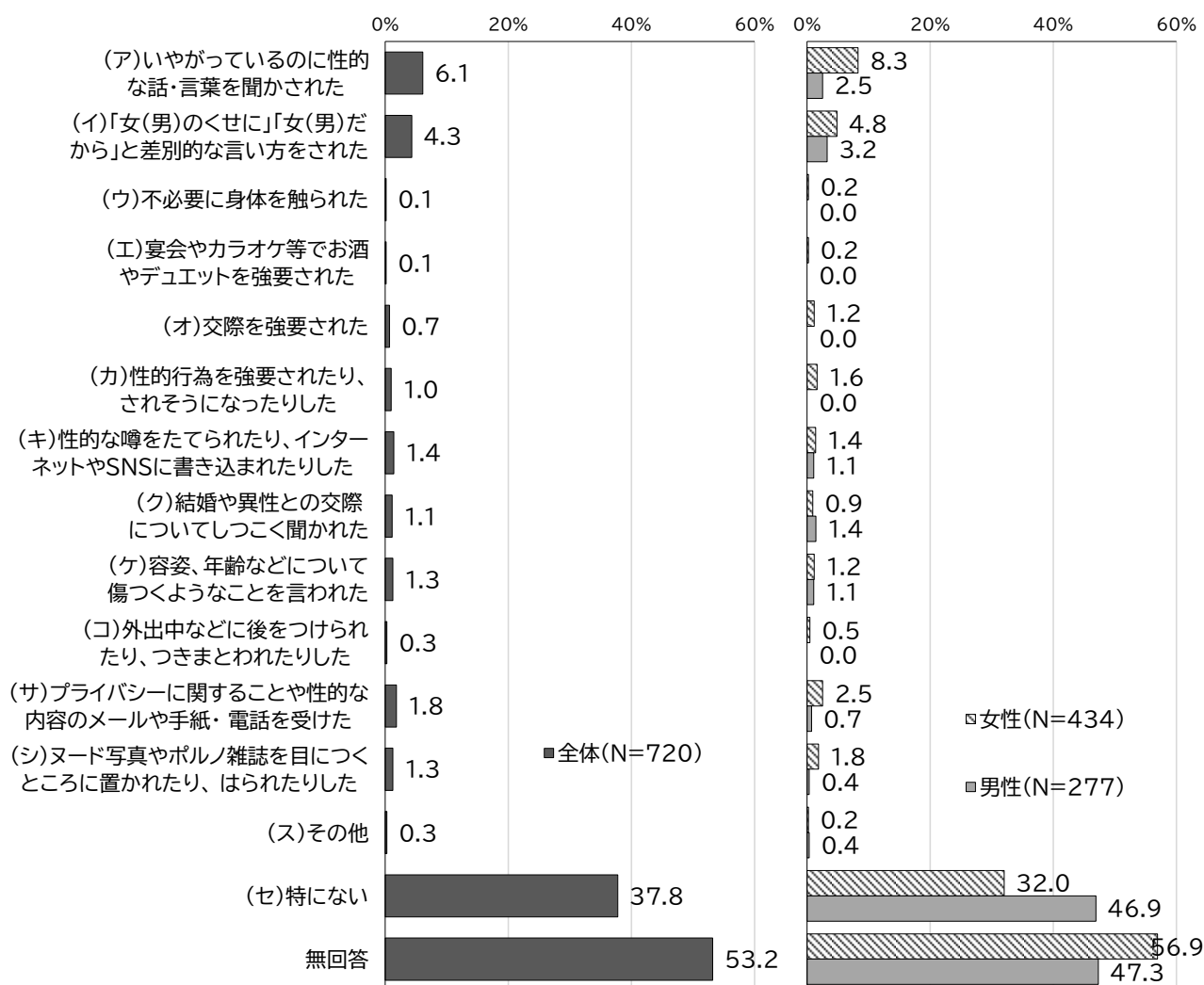
SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(6.1%)」、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(4.3%)が多くなっています。(図表7-1-10)

【性別】

性別でみると、男女ともに、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(女性:8.3%、男性2.5%)」、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(女性:4.8%、男性3.2%)が多くなっています。また、「特にない」は女性32.0%、男性46.9%で男性が多くなっています。(図表7-1-10)

図表 7-1-10 SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、性別)

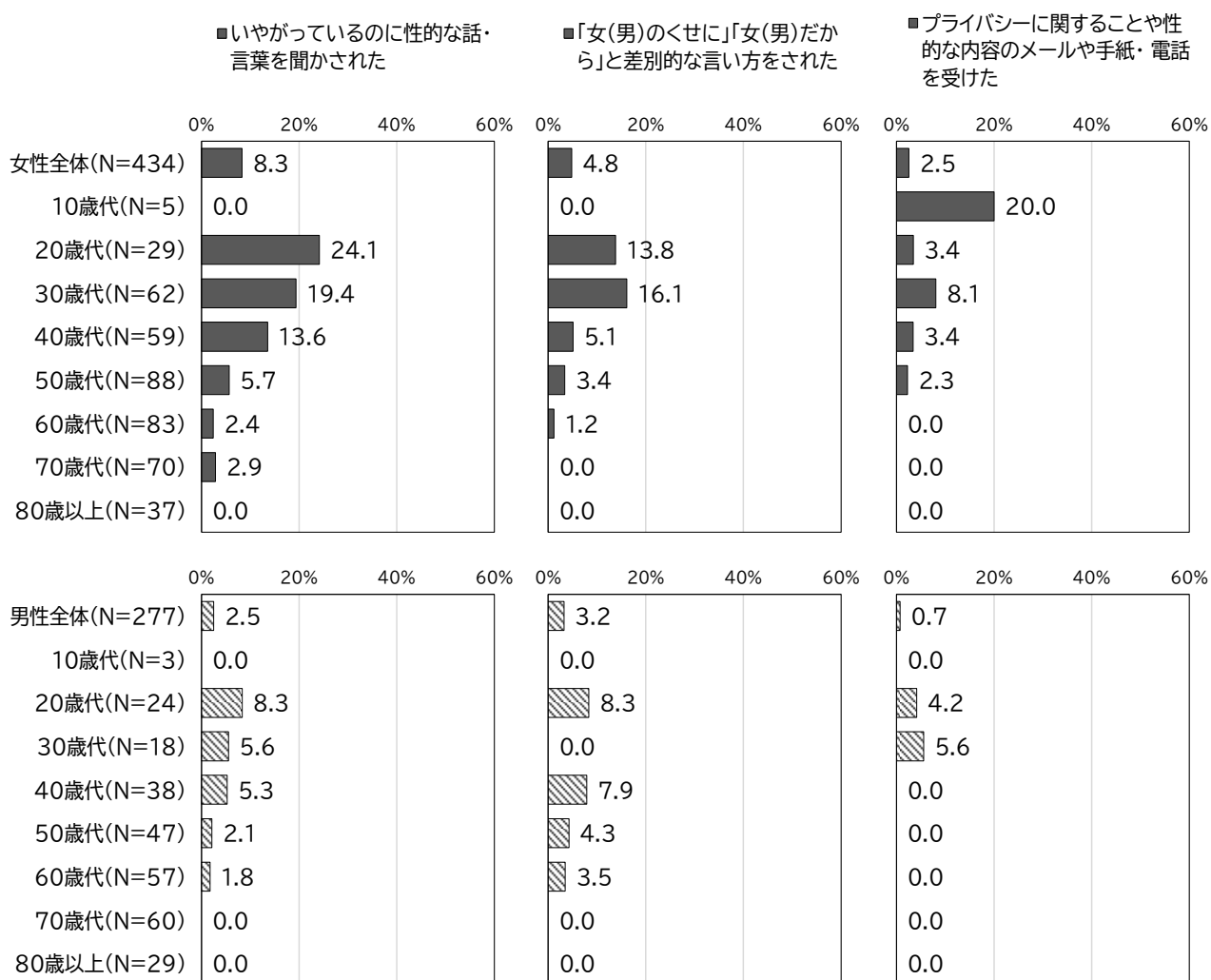


【性・年代別】

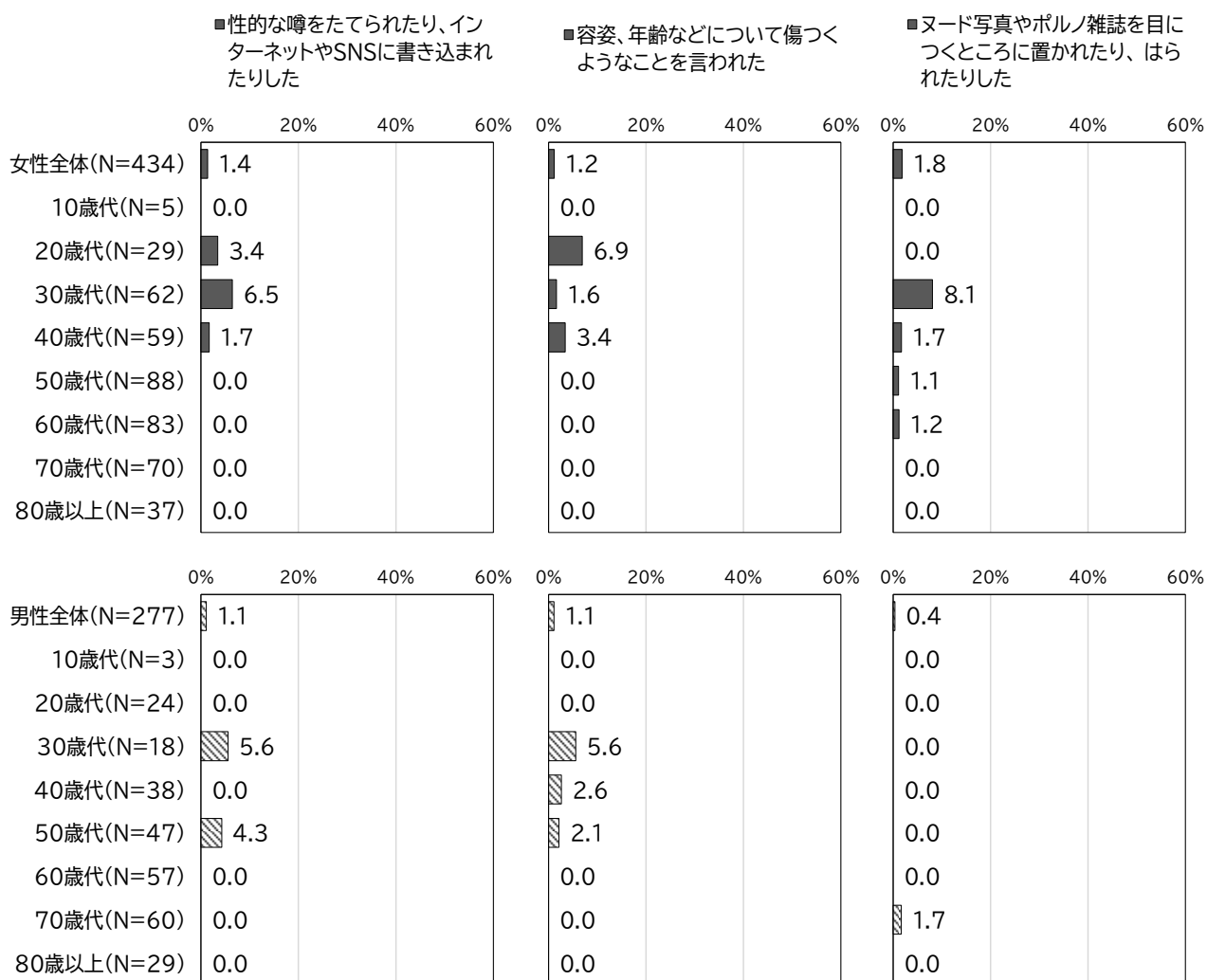
「特にない」を除いた項目で性・年代別にみると、女性は「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた」で20歳代が24.1%、30歳代が19.4%、40歳代が13.6%と多くなっています。

男性は20歳代で「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた」と「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が8.3%と多くなっています。(図表7-1-11-①②)

図表 7-1-11-① SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年齢別、上位6項目）



図表 7-1-11-② SNSでのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年齢別、上位6項目）



(2) 相談の有無

問 15 は、問 14 の(ア)～(ス)に、1つでも○をつけた方におうかがいします。
問 15 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○は1つだけ)

【全体】

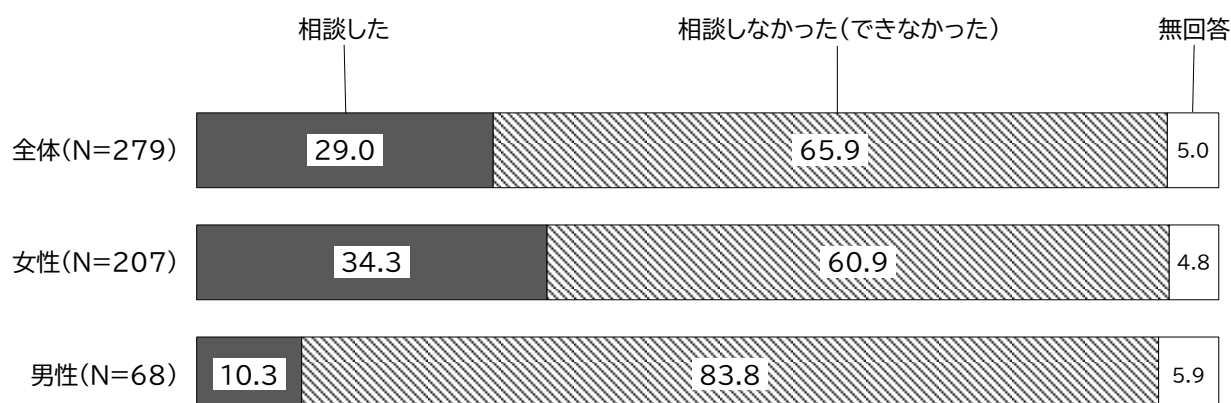
何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。

全体では、「相談した」が29.0%、「相談しなかった(できなかった)」が65.9%となっています。(図表7-2-1)

【性別】

性別でみると、「相談した」は女性が34.3%、男性が10.3%で、女性が男性を24.0%上回っています。
(図表7-2-1)

図表 7-2-1 相談の有無（全体、性別）
<セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>

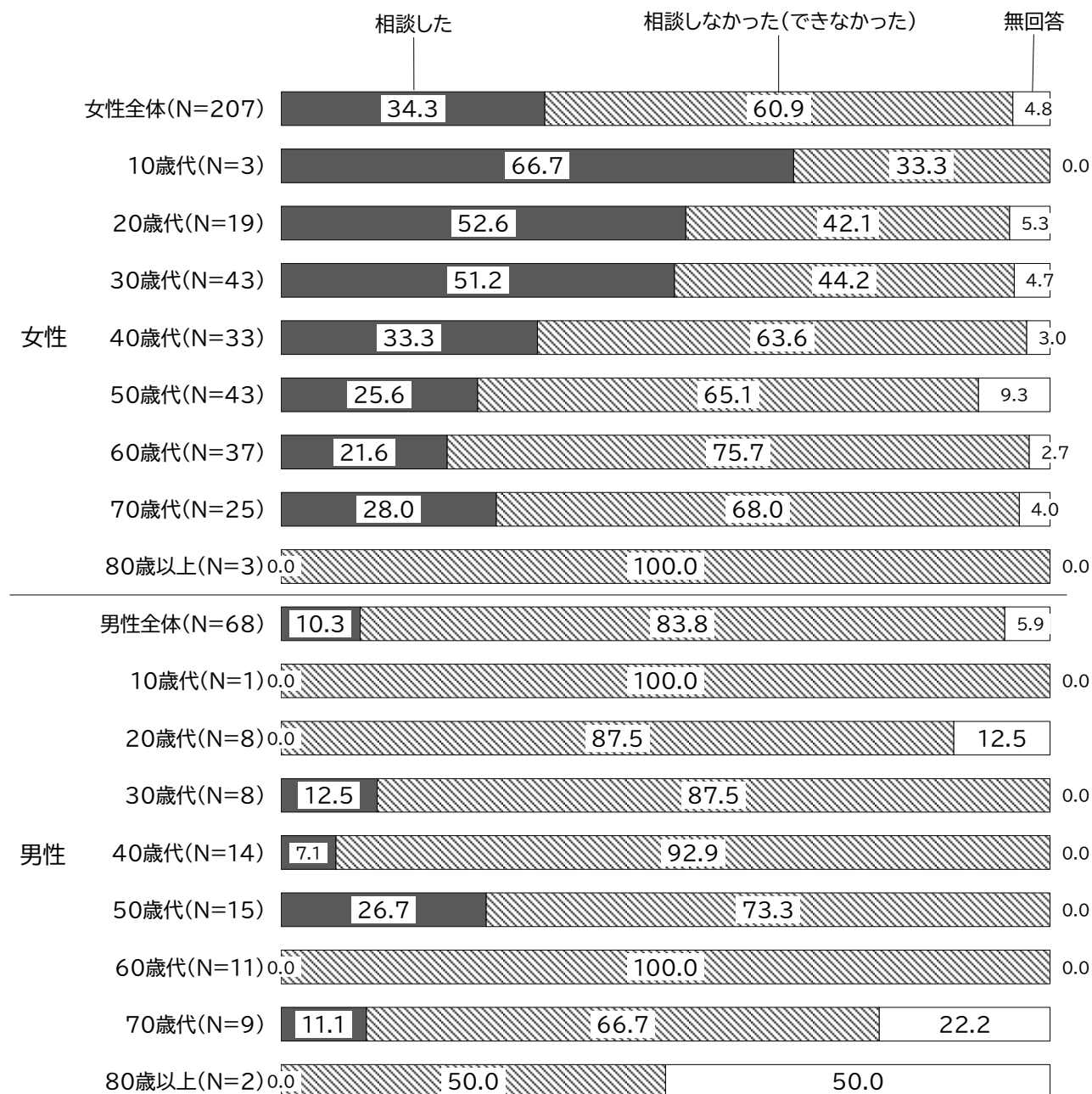


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10歳代から60歳代にかけて年代が上がるほど「相談した」が減少健康となっています。

男性は、50歳代で「相談した」が26.7%と他の年代と比べて多くなっています。(図表7-2-2)

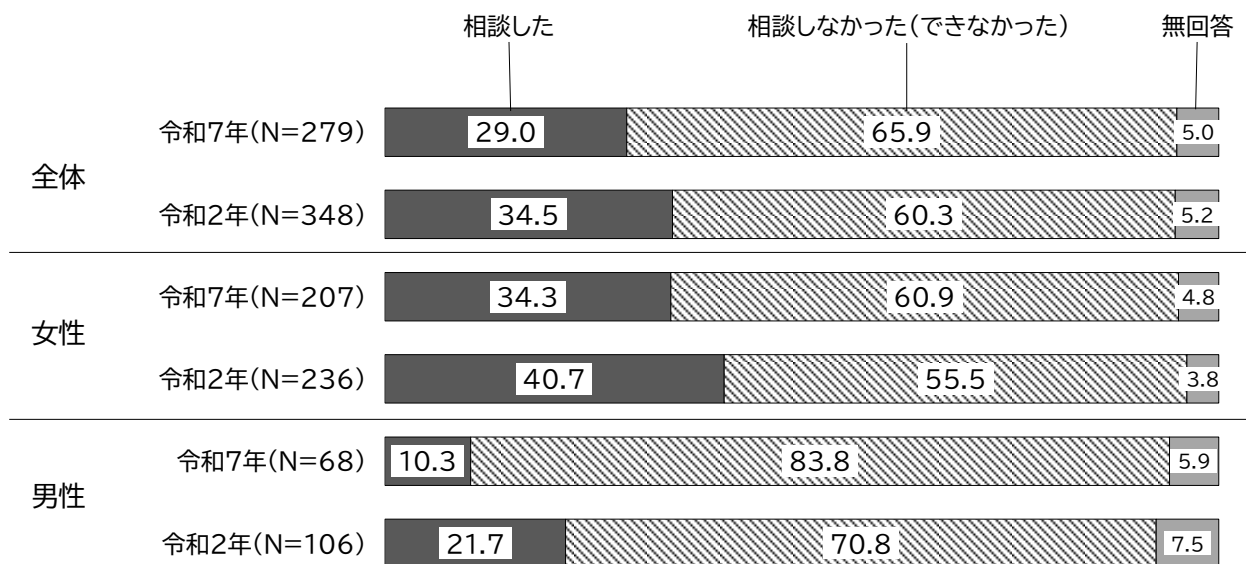
図表 7-2-2 相談の有無（性・年代別）
＜セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、全体、女性、男性ともに「相談した」が令和2年調査よりも減っています。女性(34.3%)は令和2年調査(40.7%)よりも6.4%、男性(10.3%)は令和2年調査(21.7%)よりも11.4%減っています。(図表7-2-3)

図表 7-2-3 相談の有無（全体、性別、令和7年・令和2年調査）
＜セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人＞



(3) 相談先

問 15 で「1. 相談した」とお選びの方に

問 15-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

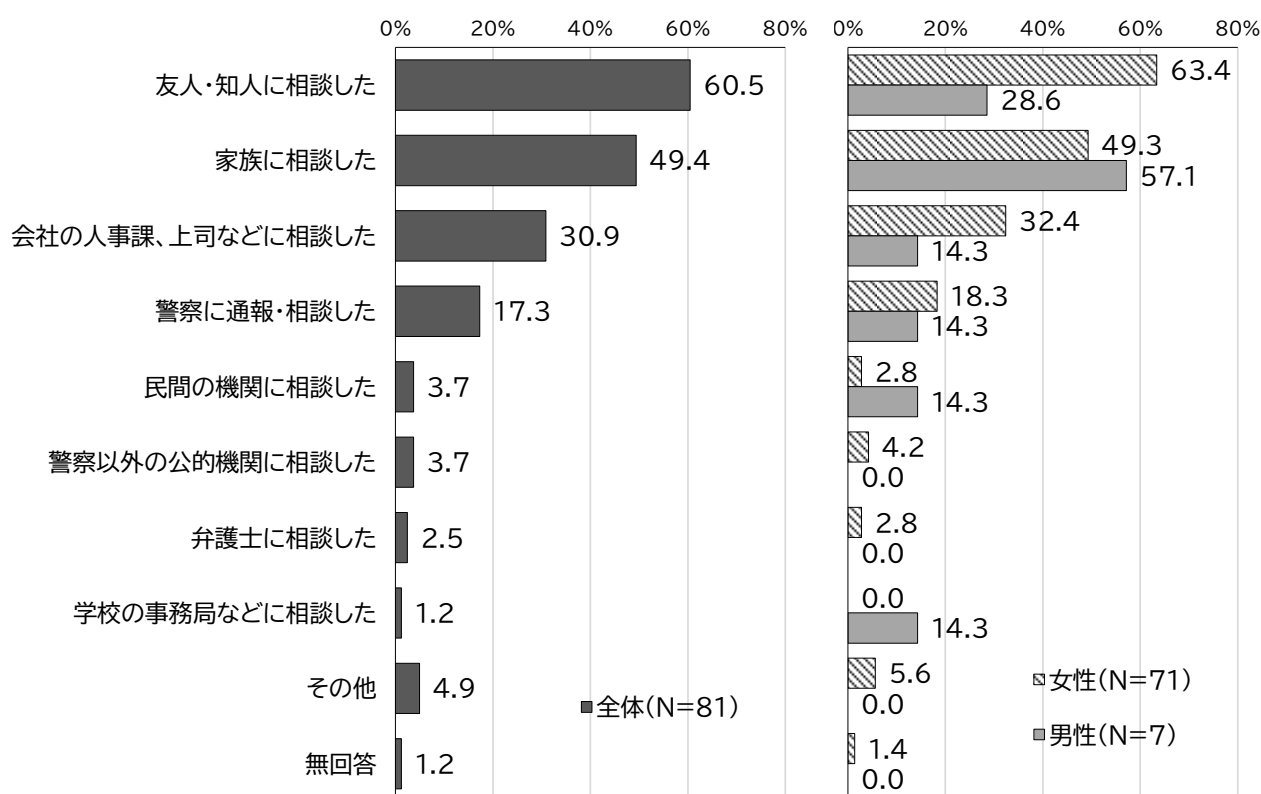
セクシュアル・ハラスメントについて「相談した」と回答した人に、その相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談した(60.5%)」が最も多く、「家族に相談した(49.4%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(30.9%)」が続いています。(図表7-3-1)

【性別】

性別でみると、女性では「友人・知人に相談した(63.4%)」が最も多く、「家族に相談した(49.3%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(32.4%)」が続いています。男性では「家族に相談した(57.1%)」が最も多く、「友人・知人に相談した(28.6%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(14.3%)」などが続いています。(図表7-3-1)

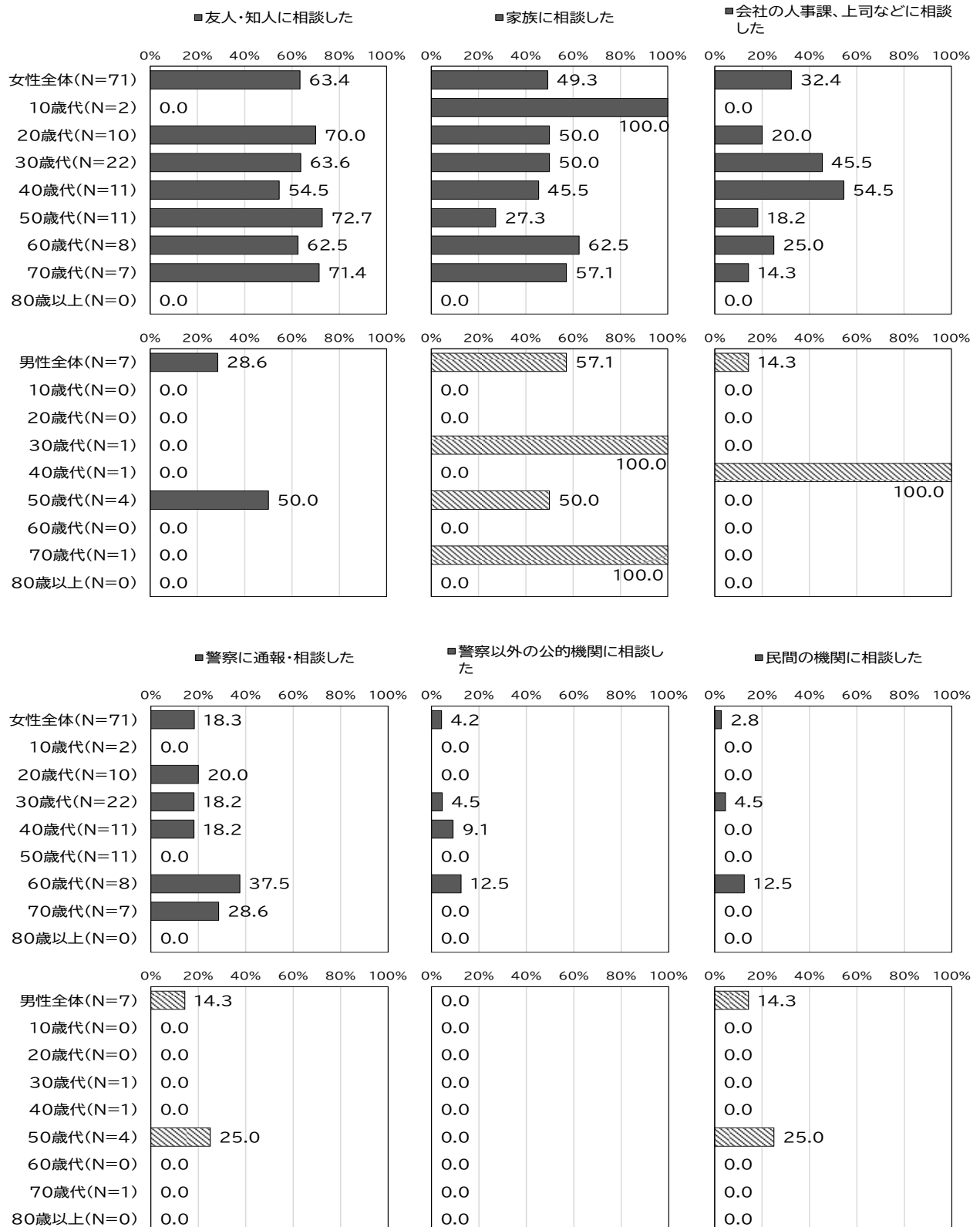
図表 7-3-1 相談先 (全体、性別：複数回答)
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は20歳代と50歳代と70歳代で「家族に相談した」が7割台となっています。
(図表7-3-2)

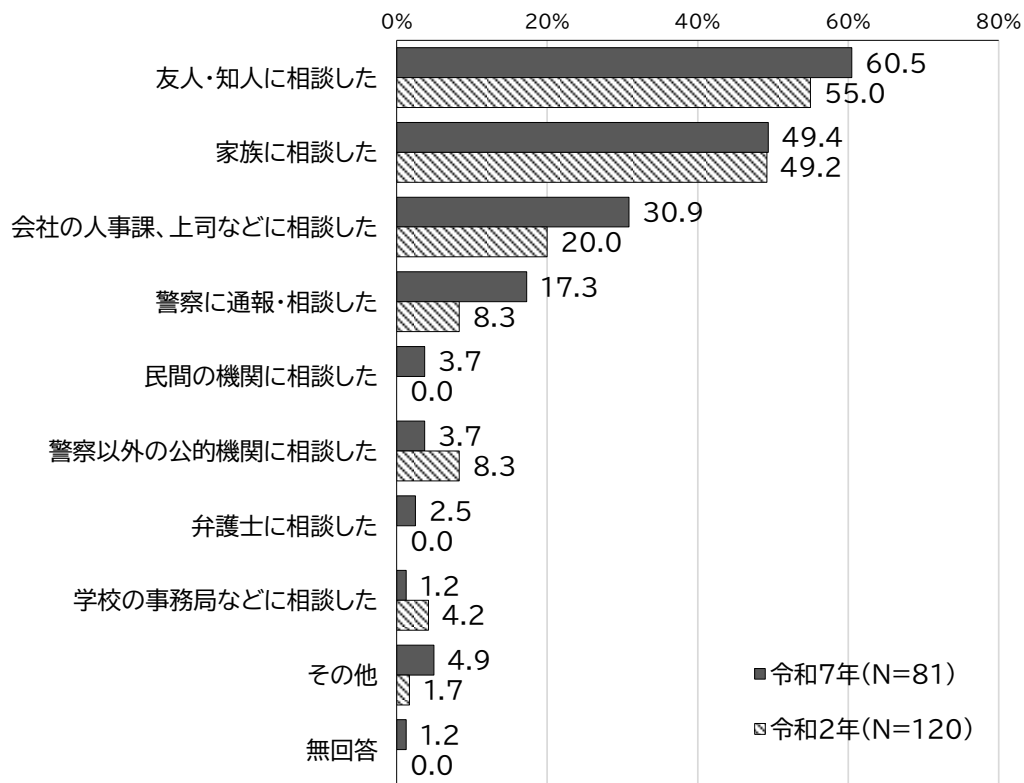
図表 7-3-2 相談先（性・年代別、上位6項目：複数回答）
＜セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「友人・知人に相談した(令和7年調査:60.5%、令和2年調査55.0%)」、「会社の人事課、上司等に相談した(令和7年調査:30.9%、令和2年調査:20.0%)」が、それぞれ令和2年調査より5.5%、10.9%増えています。(図表7-3-3)

図表 7-3-3 相談先（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）
＜セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人＞



(4) 相談しなかった、できなかった理由

問 15 で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に
 問 15-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 (○はあてはまるものすべて)

【全体】

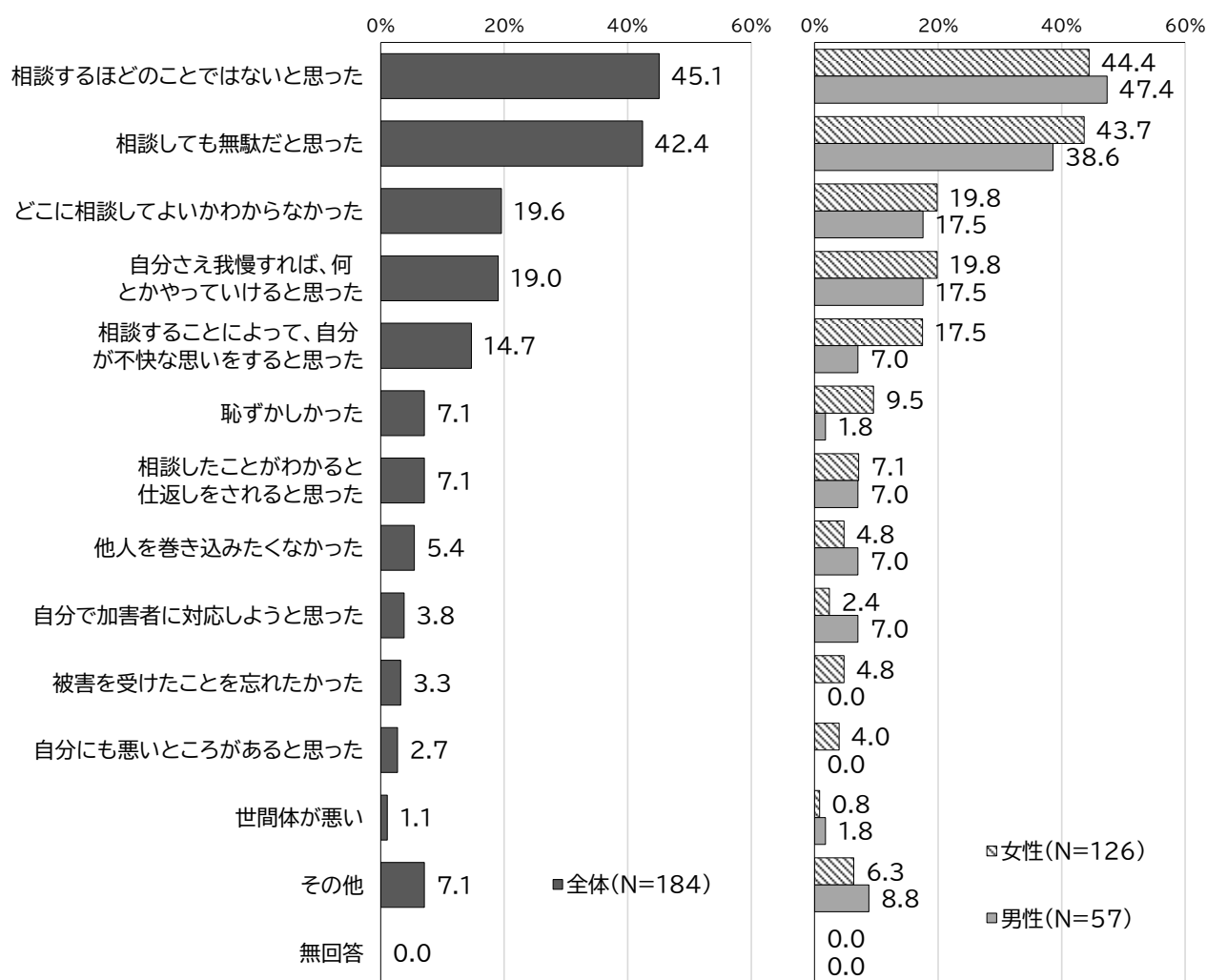
セクシュアル・ハラスメントについて「相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(45.1%)」、「相談しても無駄だと思ったから(42.4%)」が4割を超えています。(図表7-4-1)

【性別】

性別でみると、男女いずれも「相談するほどのことではないと思ったから(女性:44.4%、男性:47.4%)」、「相談しても無駄だと思ったから(女性:43.7%、男性:38.6%)」が多くなっています。(図表7-4-1)

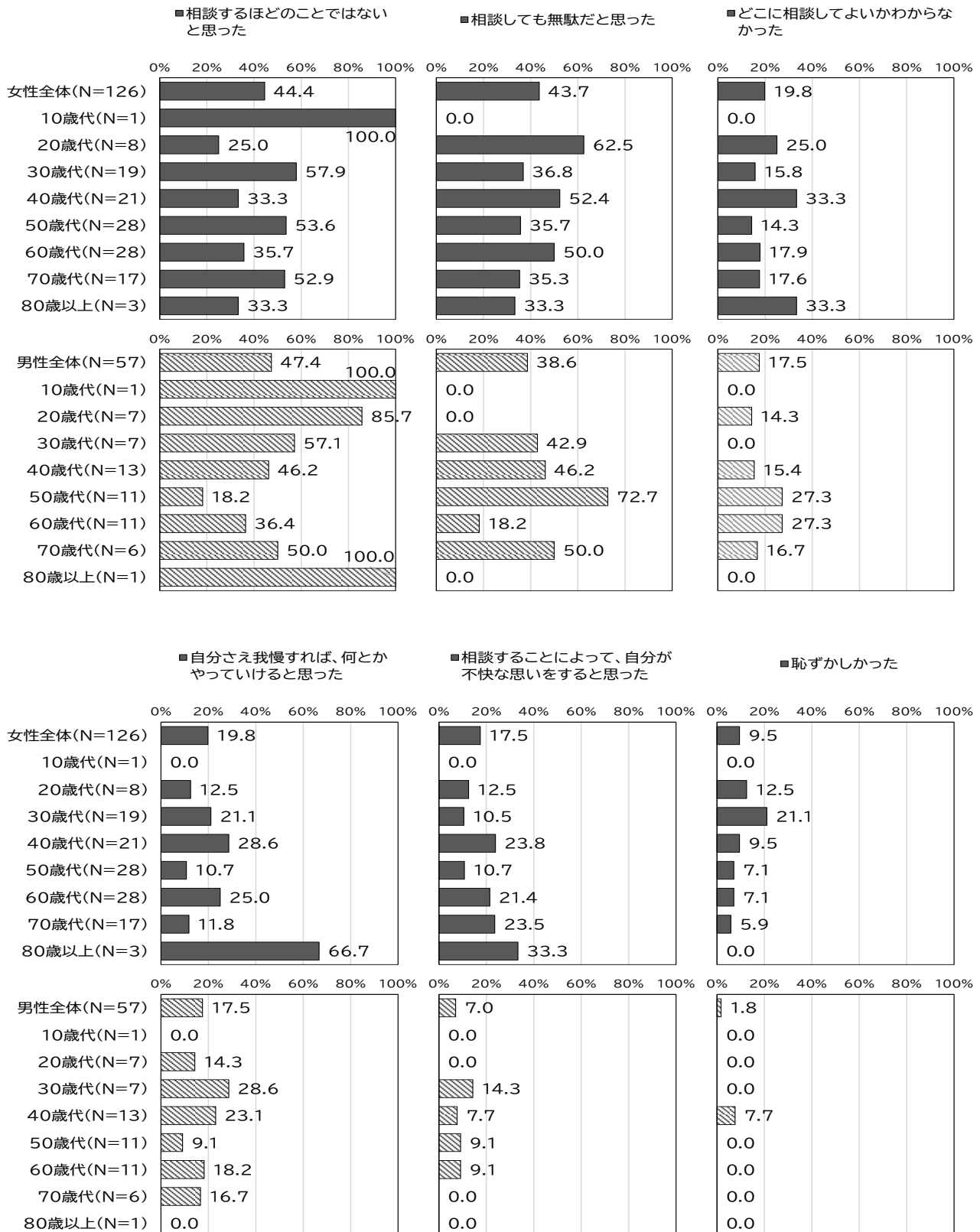
図表 7-4-1 相談しなかった、できなかった理由(全体、性別:複数回答)
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった(できなかった)人>



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代と50歳代と60歳代で「相談するほどのことではないと思ったから」が5割、20歳代と40歳代と60歳代で「相談しても無駄だと思ったから(58.1%)」が5割以上と多くなっています。(図表7-4-2)

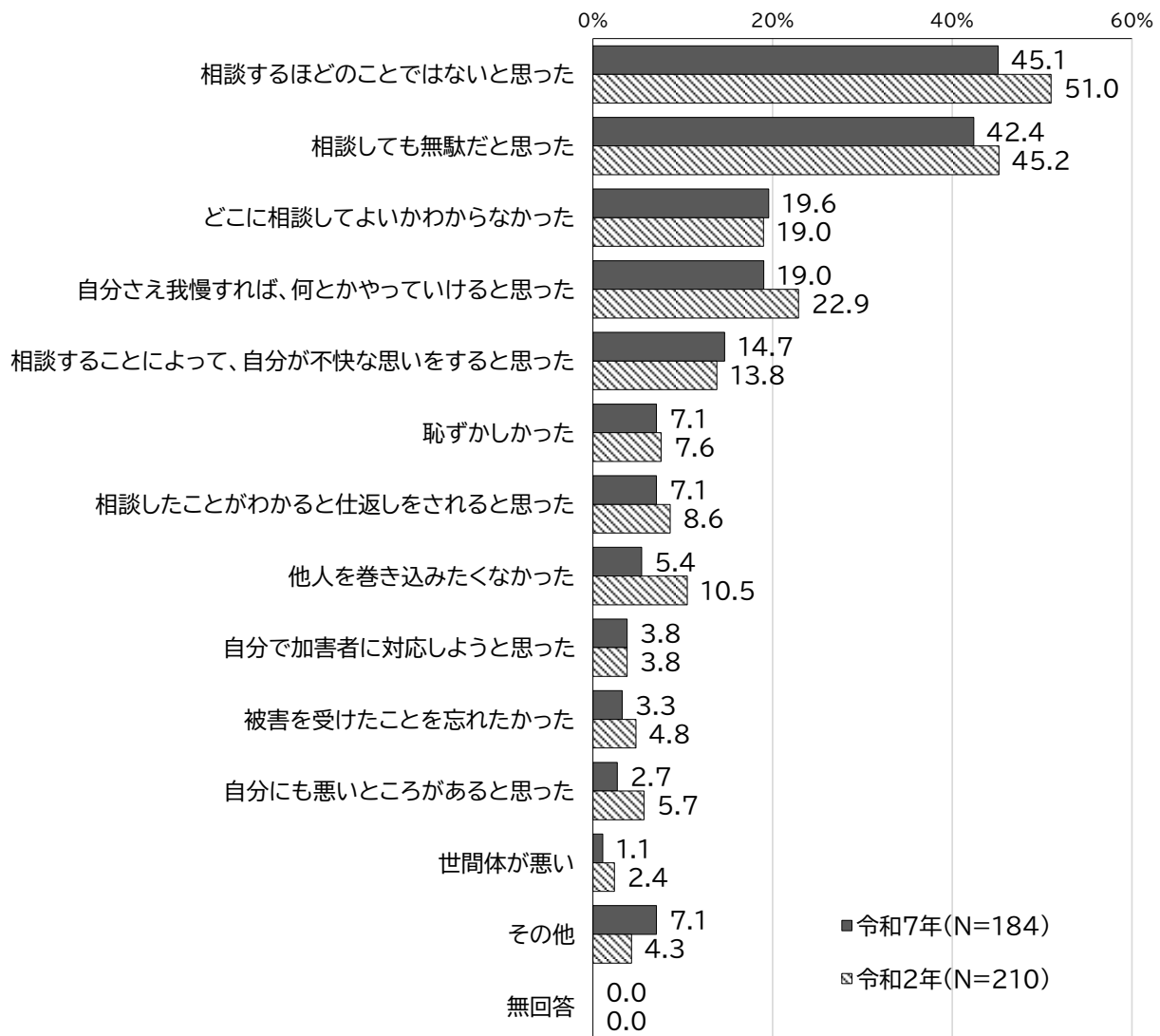
図表 7-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・年代別、上位6項目：複数回答）
＜セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから(令和7年調査:45.1%、令和2年調査:51.0%)」、「相談しても無駄だと思ったから(令和7年調査:42.4%、令和2年調査:45.2%)」など、9項目の割合が減っています。(図表7-4-3)

図表 7-4-3 相談しなかった、できなかった理由（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）
＜セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人＞



8 DV（ドメスティック・バイオレンス）

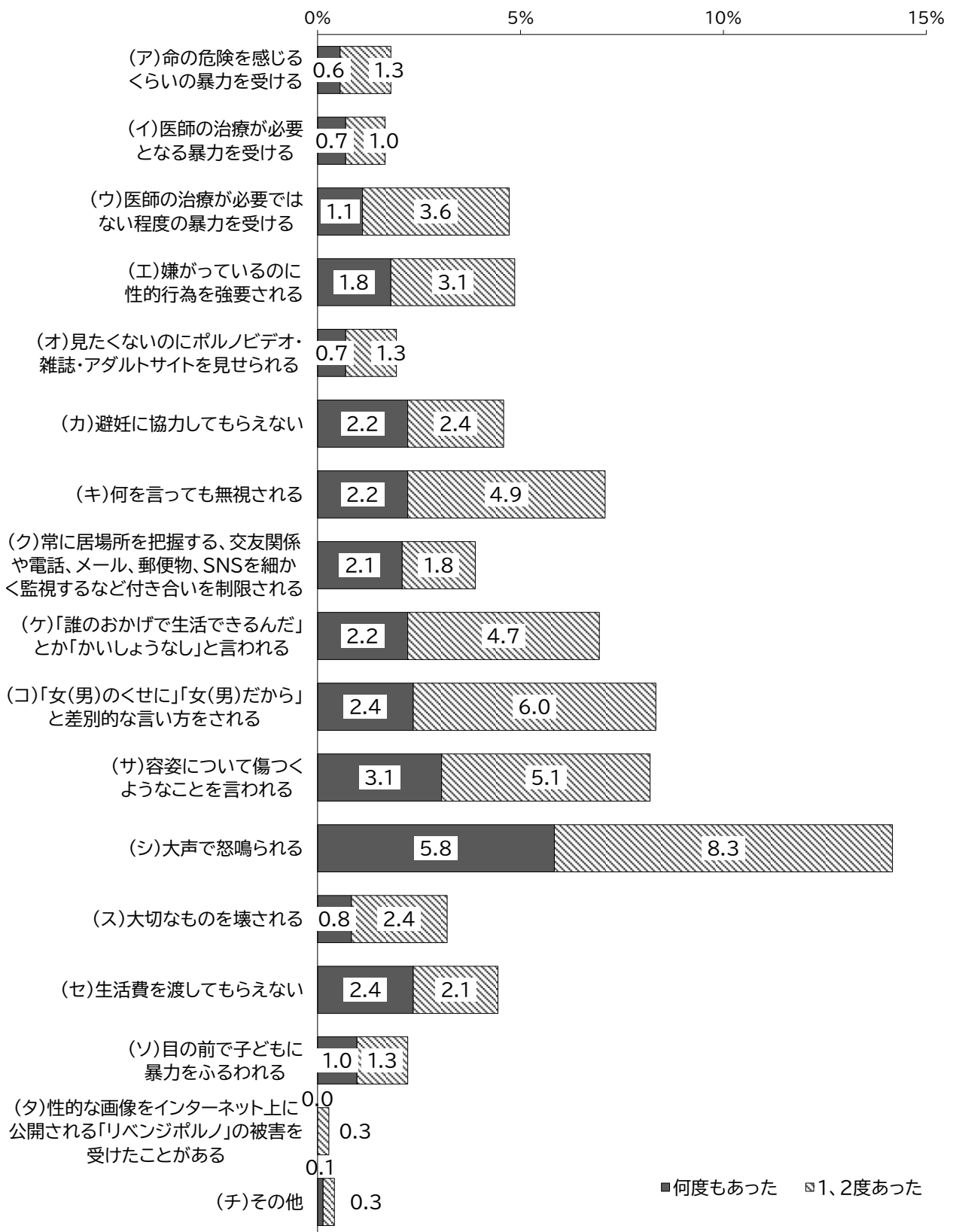
（１）DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験の有無

問 16 DV(ドメスティック・バイオレンス)とは配偶者などに対し、著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいます。あなたはこれまでに配偶者(事実婚や別居、離別を含む)や恋人などのパートナーから、次のようなDVを受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(14.1%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(8.4%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(8.2%)』、『何を言っても無視される(7.2%)』が続いています。(図表8-1-1)

図表 8-1-1 DV（ドメスティック・バイオレンス）の経験の有無（全体）



【性別】

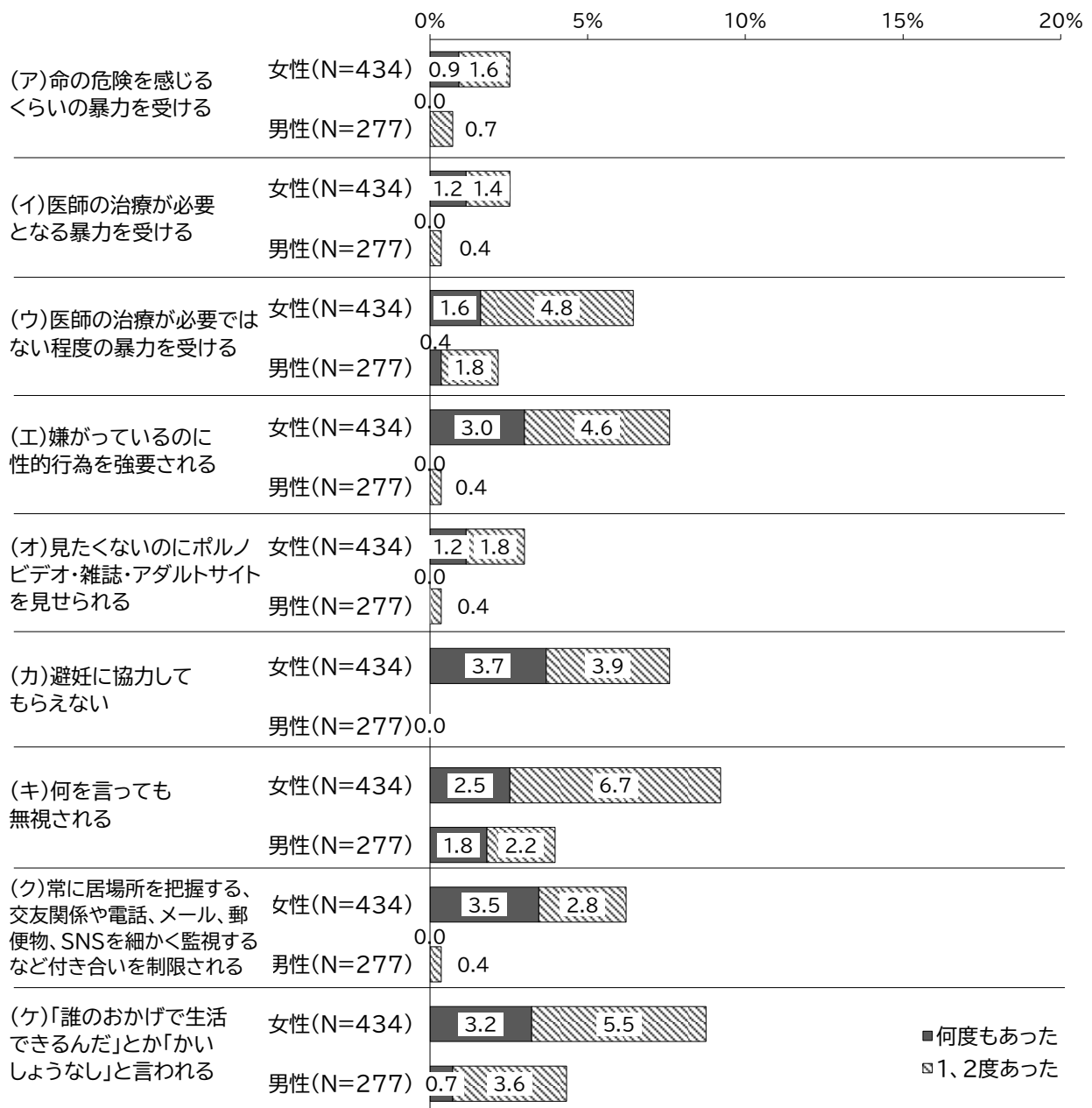
性別でみると、女性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(18.9%)』が最も多く、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる(10.6%)』、『容姿について傷つくようなことを言われる(10.4%)』、『何を言っても無視される(9.2%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(8.7%)』、『嫌がっているのに性的行為を強要される(7.6%)』が続いています。

また、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は2.4%、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は2.5%となっています。(図表8-1-2-①、②)

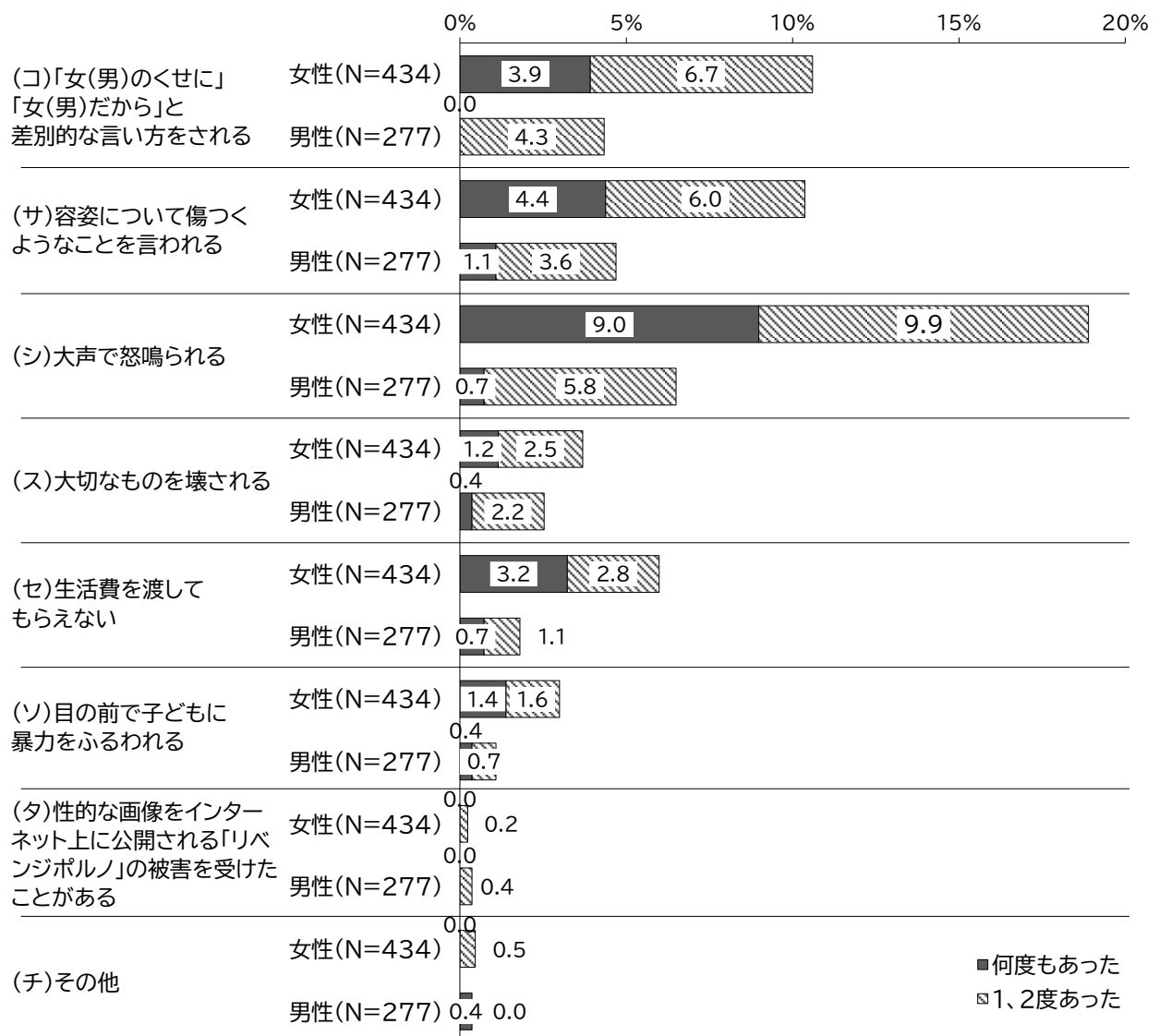
男性で《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる(6.5%)』が最も多く、『容姿について傷つくようなことを言われる(4.7%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる(4.3%)』が続いています。

また、『命の危険を感じるぐらいの暴力を受ける』は0.7%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.4%となっています。(図表8-1-2-①、②)

図表 8-1-2-① ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）



図表 8-1-2-② ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）

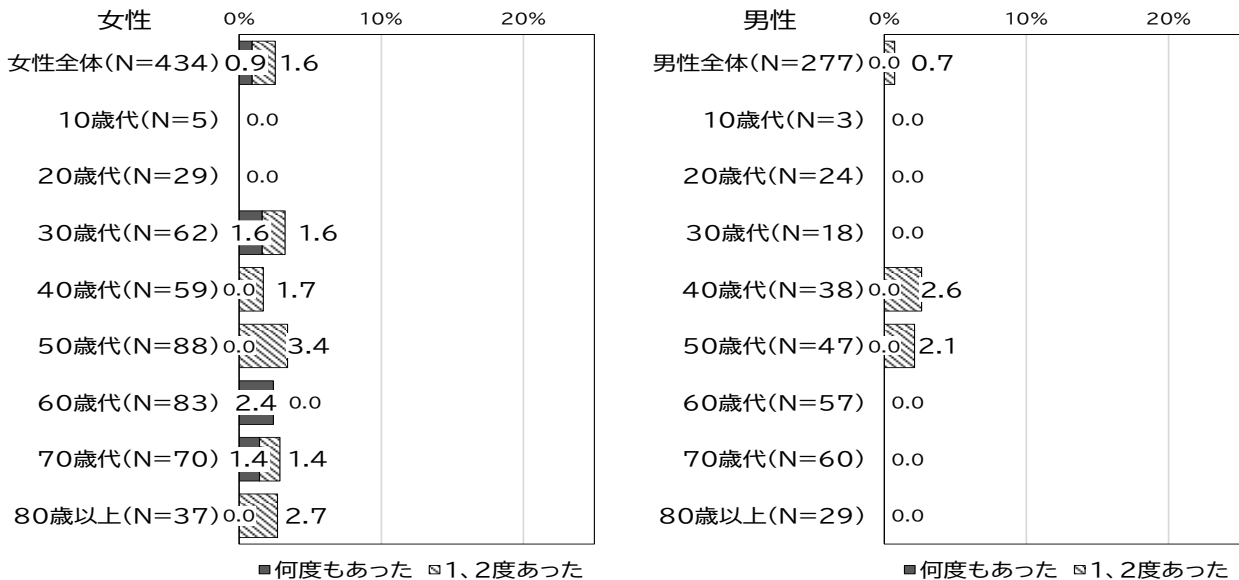


【性・年代別】

■命の危険を感じるくらいの暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で3.2%、40歳代で1.7%、50歳代で3.4%、60歳代で2.4%、70歳代で2.8%となっています。(図表8-1-3-①)

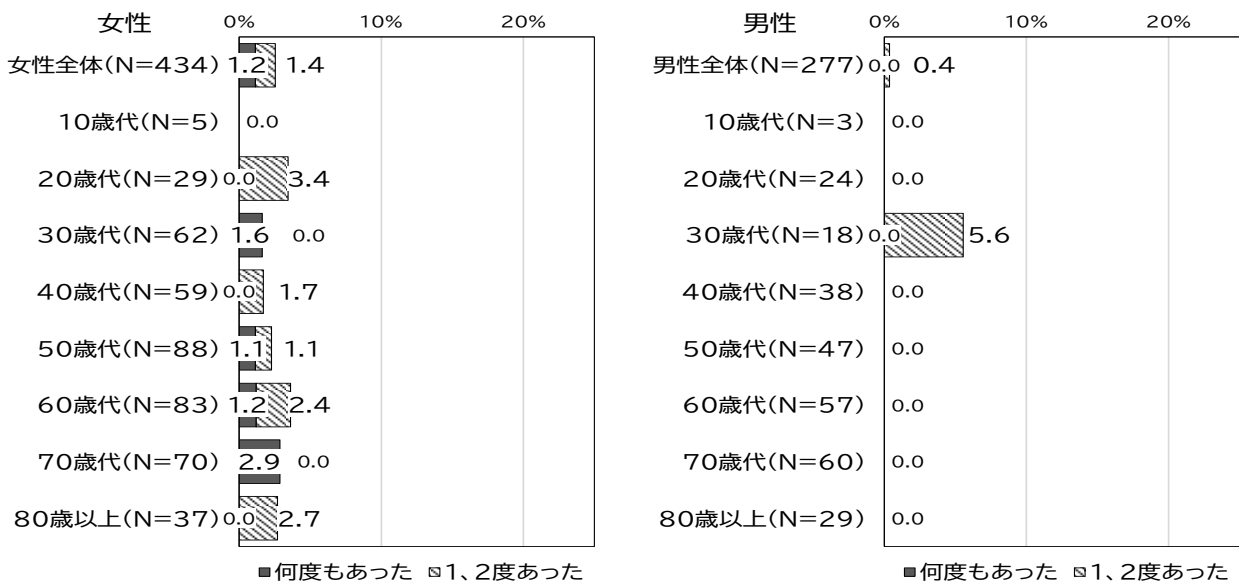
図表 8-1-3-① 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける（性・年代別）



■医師の治療が必要となる暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で1.6%、40歳代で1.7%、50歳代で2.2%、60歳代で3.6%、70歳代で2.9%となっています。(図表8-1-3-②)

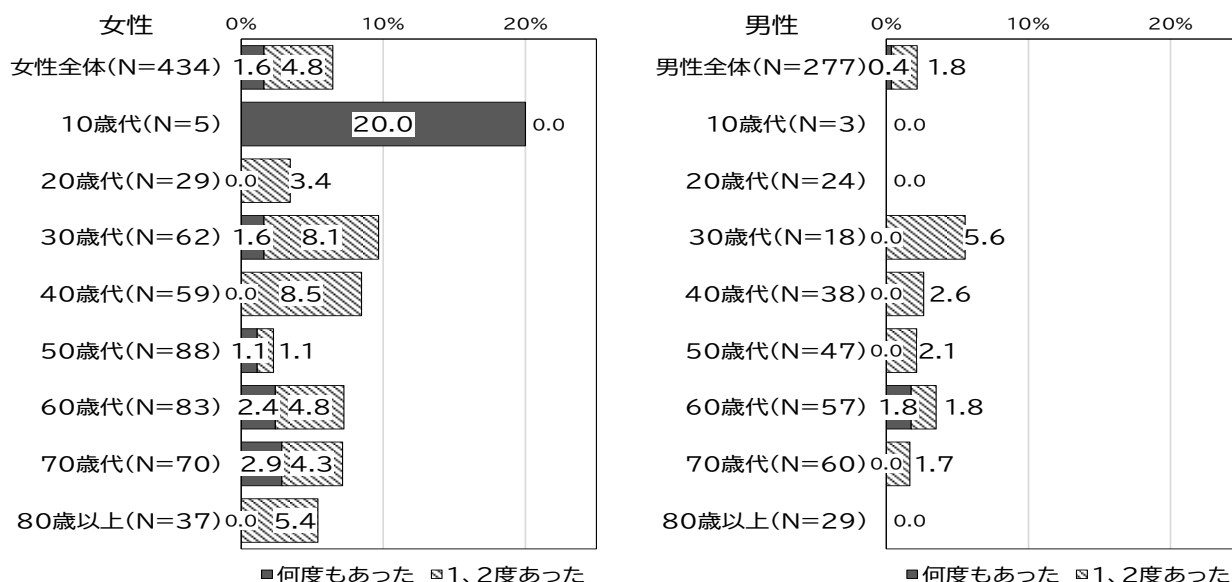
図表 8-1-3-② 医師の治療が必要となる暴力を受ける（性・年代別）



■医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で9.7%、40歳代で8.5%、50歳代で2.2%、60歳代で7.2%、70歳代で7.2%となっています。(図表8-1-3-③)

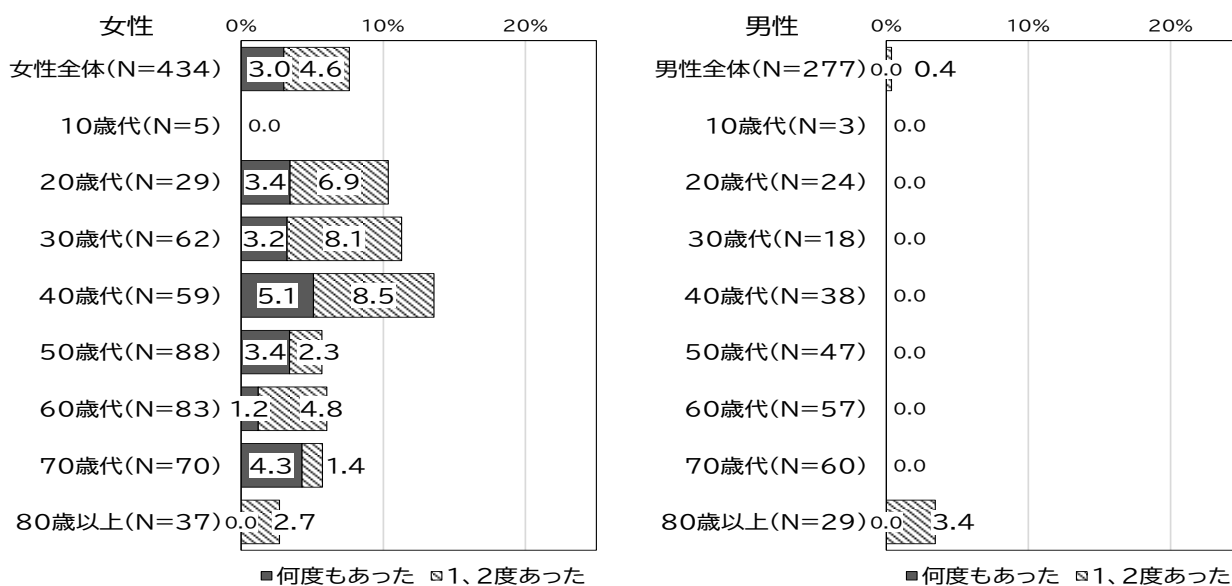
図表 8-1-3-③ 医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける（性・年代別）



■嫌がっているのに性的行為を強要される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で10.3%、30歳代で11.3%、40歳代で13.6%、50歳代で5.7%、60歳代で6.0%、70歳代で5.7%となっています。(図表8-1-3-④)

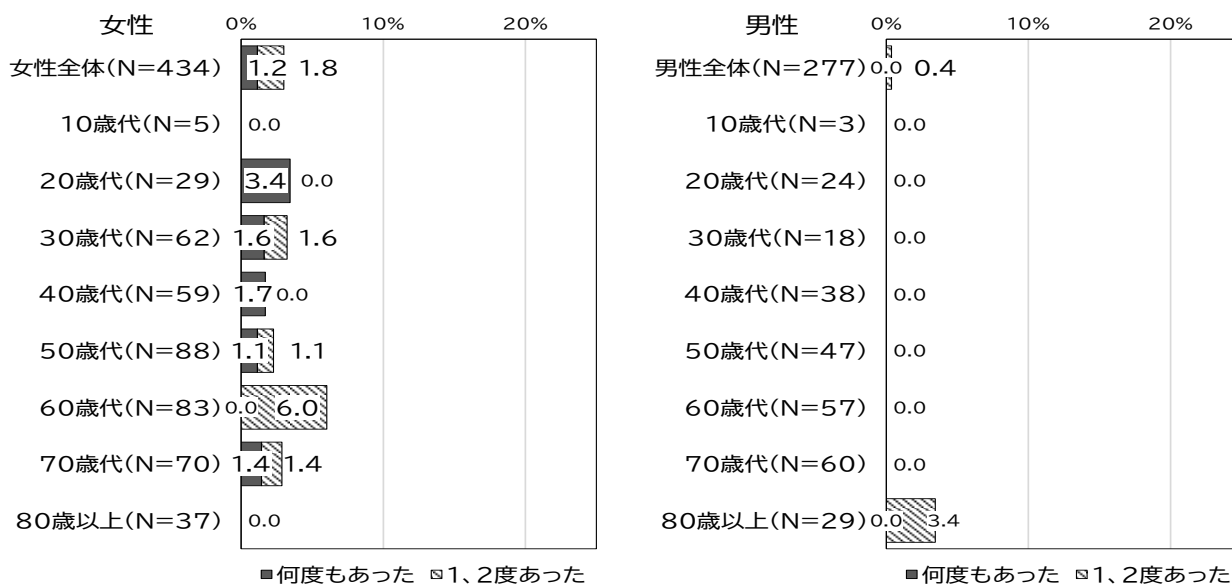
図表 8-1-3-④ 嫌がっているのに性的行為を強要される（性・年代別）



■見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で3.2%、40歳代で1.7%、50歳代で2.2%、60歳代で6.0%、70歳代で2.8%となっています。(図表8-1-3-⑤)

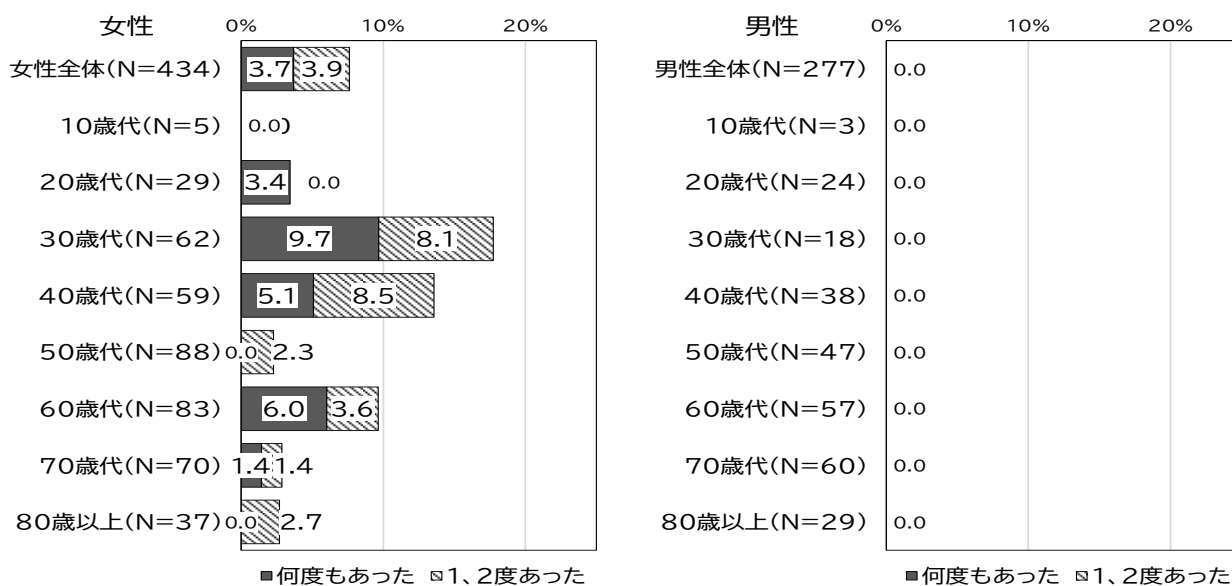
図表 8-1-3-⑤ 見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる（性・年代別）



■避妊に協力してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で17.8%、40歳代で13.6%、50歳代で2.3%、60歳代で9.6%、70歳代で2.8%となっています。(図表8-1-3-⑥)

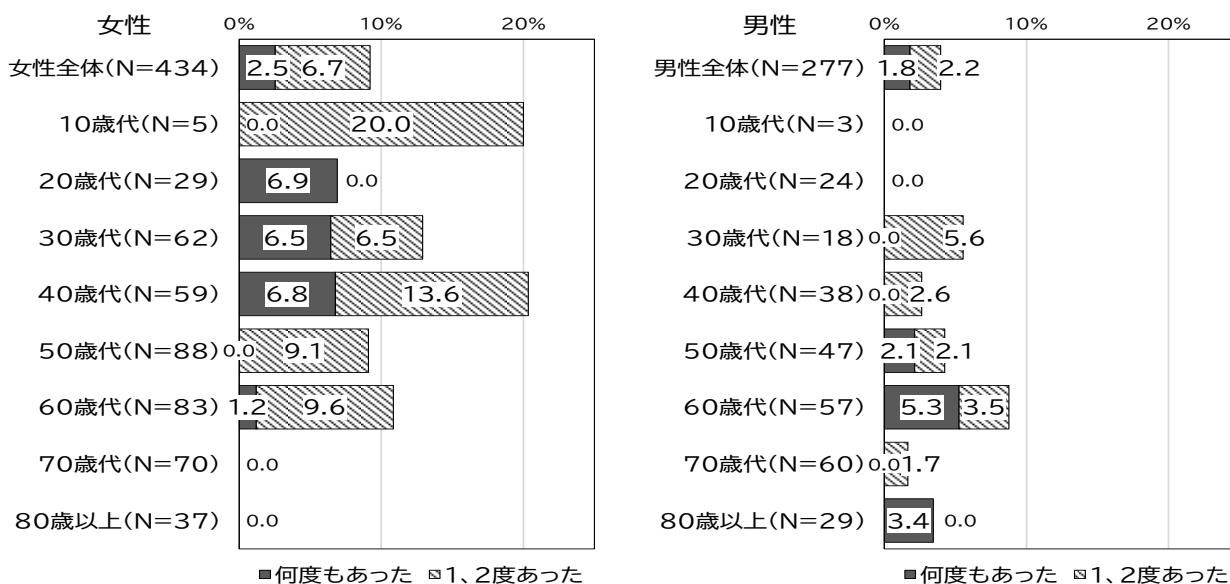
図表 8-1-3-⑥ 避妊に協力してもらえない（性・年代別）



■何を言っても無視される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で6.9%、30歳代で13.0%、40歳代で20.4%、50歳代で9.1%、60歳代で10.8%となっています。(図表8-1-3-⑦)

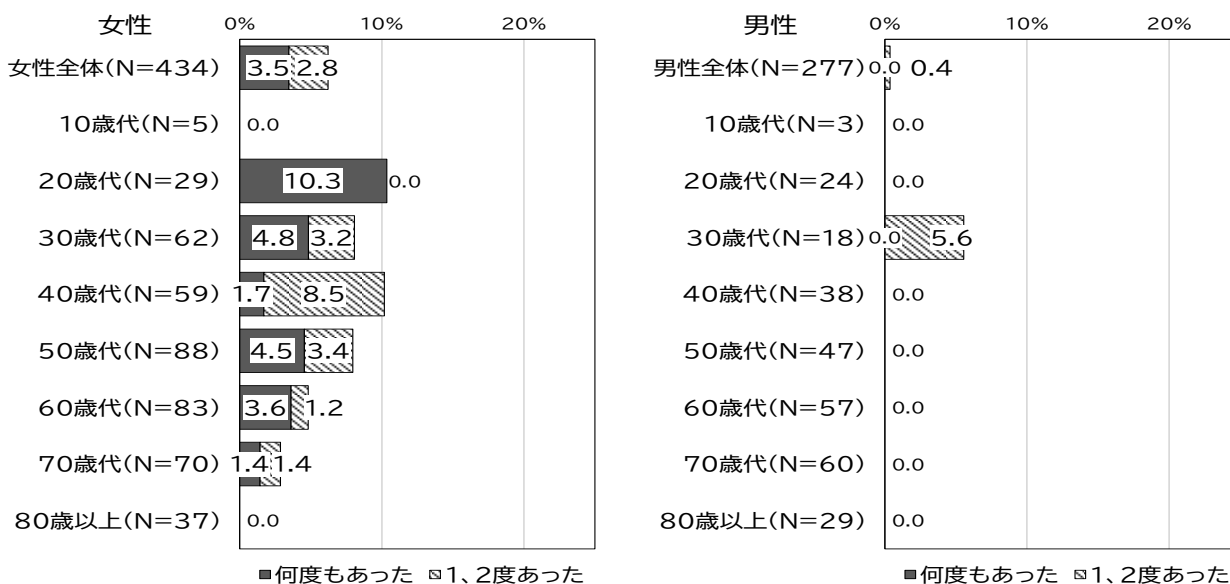
図表 8-1-3-⑦ 何を言っても無視される（性・年代別）



■常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNS を細かく監視するなど付き合いを制限される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で10.3%、30歳代で8.0%、40歳代で10.2%、50歳代で7.9%、60歳代で4.8%、70歳代で2.8%となっています。(図表8-1-3-⑧)

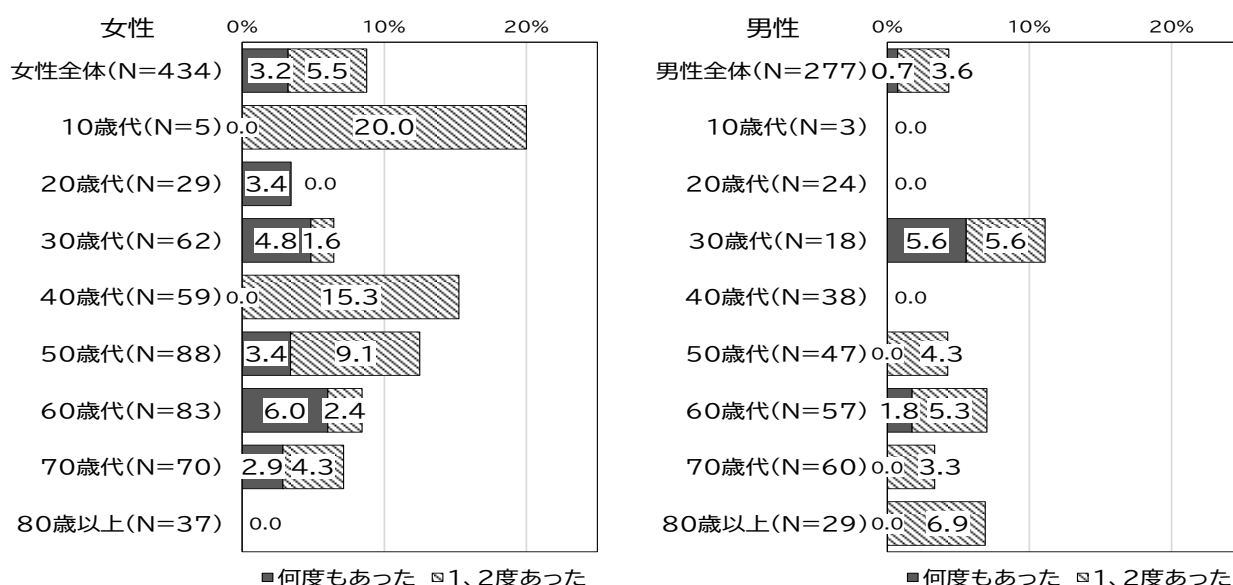
図表 8-1-3-⑧ 常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNS を細かく監視するなど付き合いを制限される（性・年代別）



■「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で6.4%、40歳代で15.3%、50歳代で12.5%、60歳代で8.4%、70歳代で7.2%となっています。(図表8-1-3-⑨)

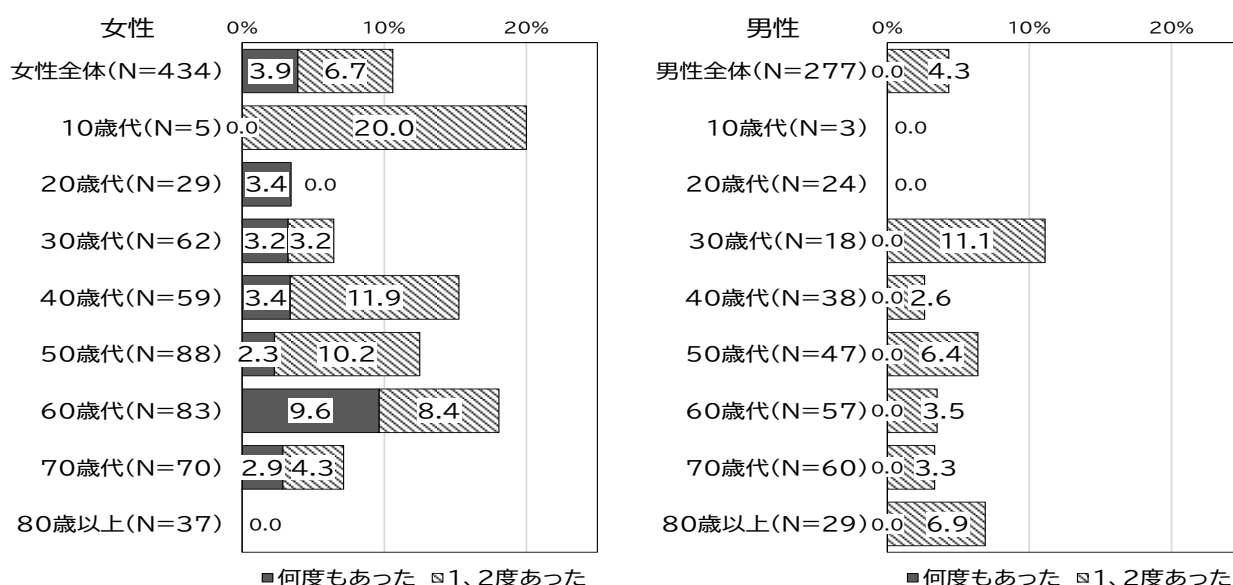
図表 8-1-3-⑨ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（性・年代別）



■「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で6.4%、40歳代で15.3%、50歳代で12.5%、60歳代で18.0%、70歳代で7.2%となっています。(図表8-1-3-⑩)

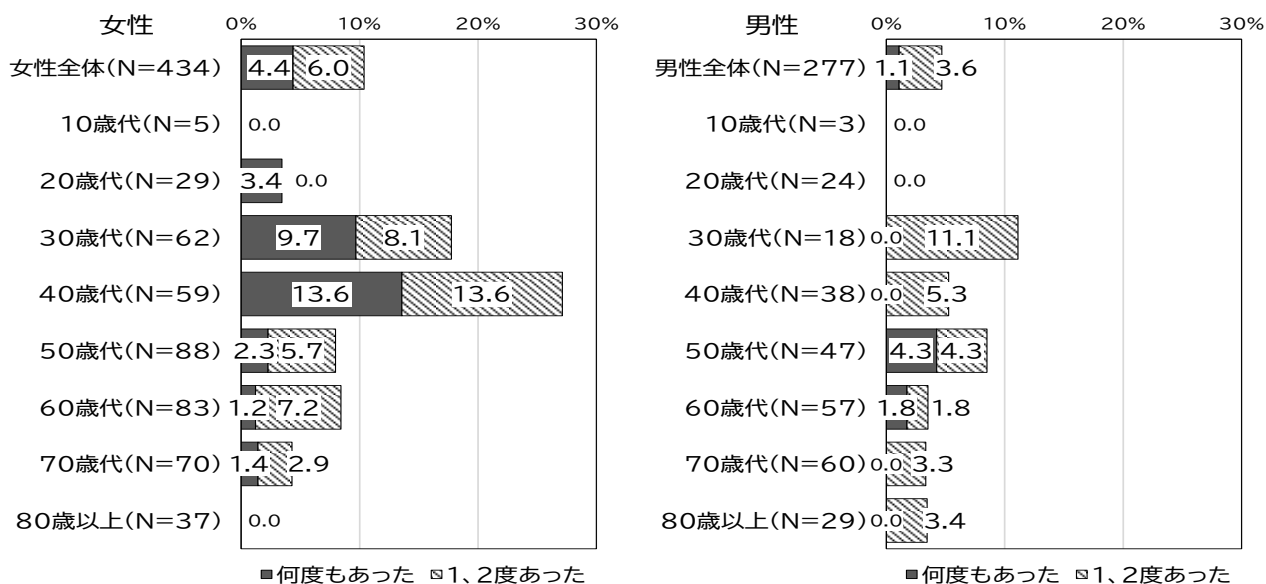
図表 8-1-3-⑩ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる（性・年代別）



■容姿について傷つくようなことを言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で3.4%、30歳代で17.8%、40歳代で27.2%、50歳代で8.0%、60歳代で8.4%、70歳代で4.3%となっています。(図表8-1-3-⑪)

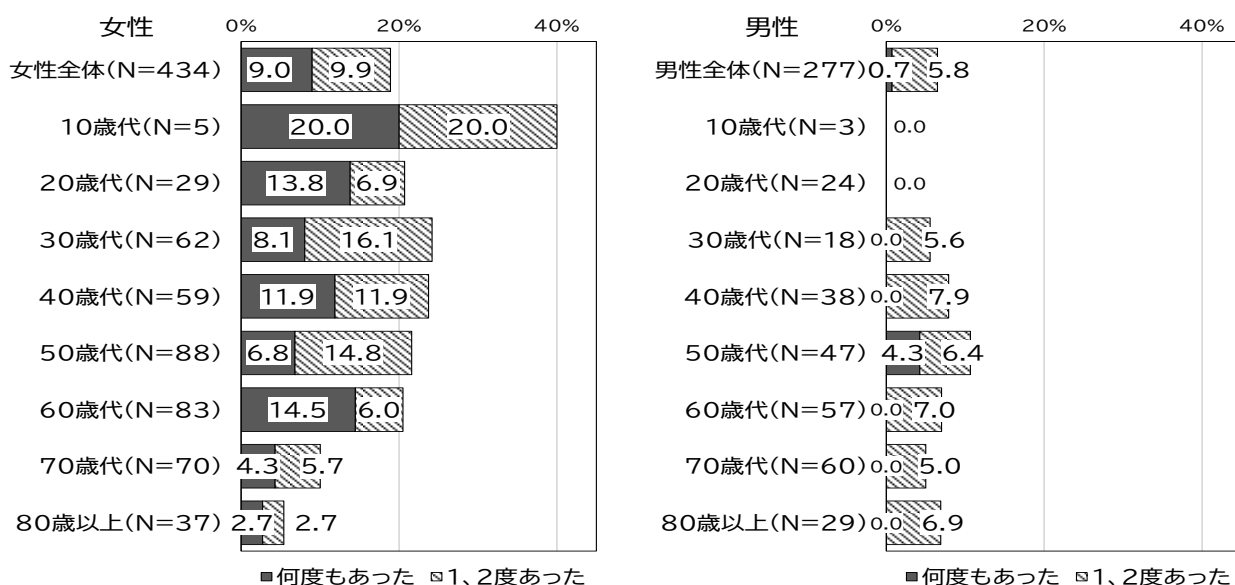
図表 8-1-3-⑪ 容姿について傷つくようなことを言われる（性・年代別）



■大声で怒鳴られる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の20歳代で20.7%、30歳代で24.2%、40歳代で23.8%、50歳代で21.6%、60歳代で20.5%、70歳代で10.0%となっています。(図表8-1-3-⑫)

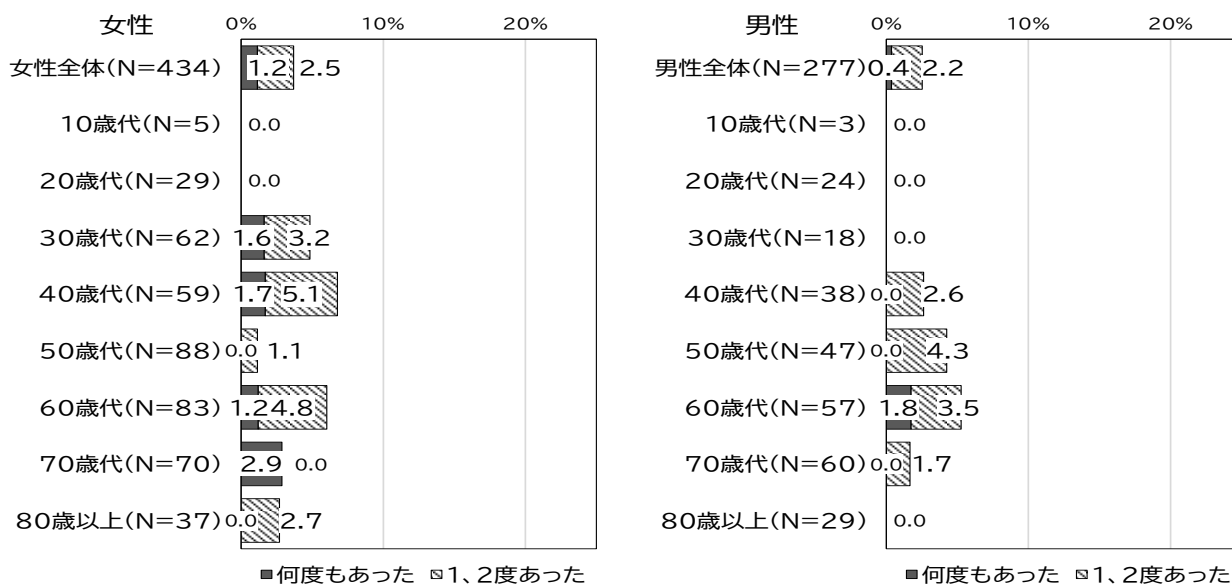
図表 8-1-3-⑫ 大声で怒鳴られる（性・年代別）



■大切なものを壊される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で4.8%、40歳代で6.8%、50歳代で1.1%、60歳代で6.0%、70歳代で2.9%となっています。(図表8-1-3-⑬)

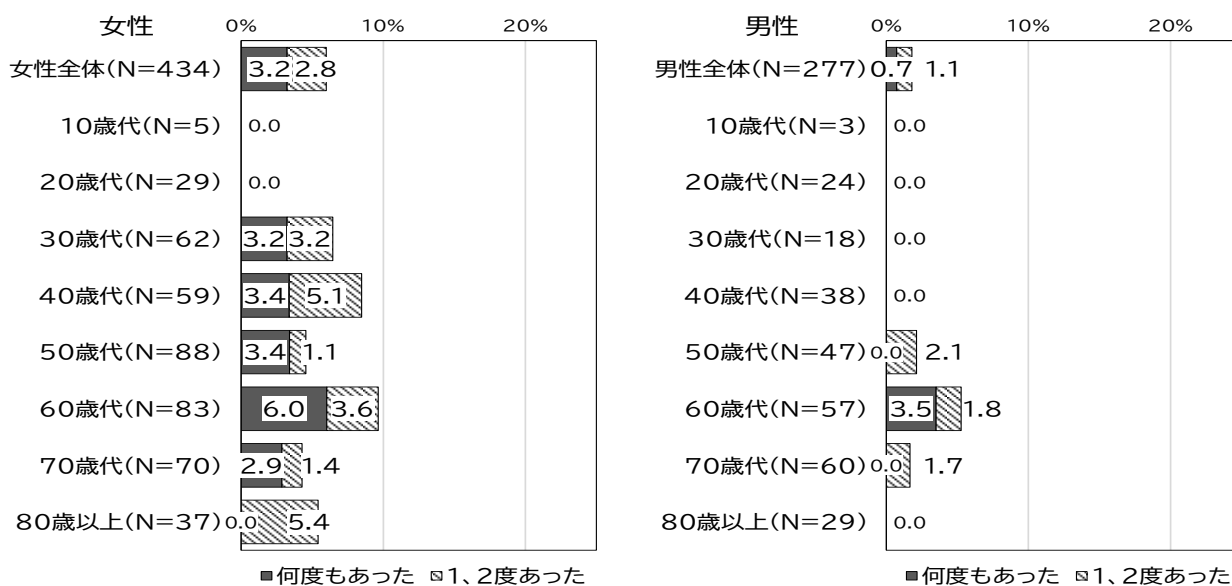
図表 8-1-3-⑬ 大切なものを壊される (性・年代別)



■生活費を渡してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で6.4%、40歳代で8.6%、50歳代で4.5%、60歳代で9.6%、70歳代で4.3%となっています。(図表8-1-3-⑭)

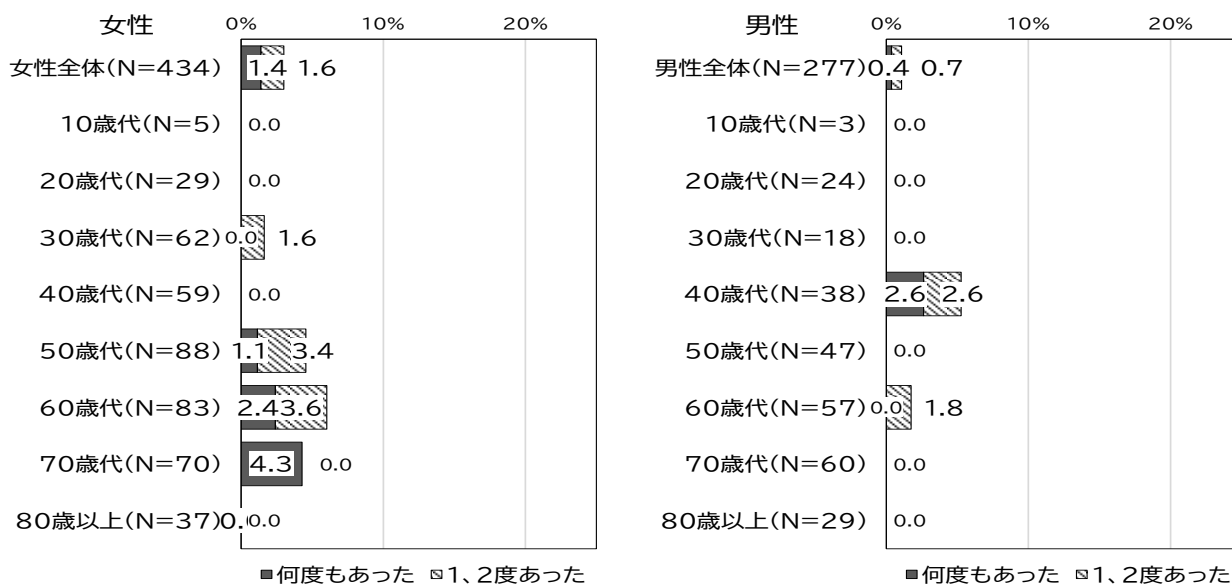
図表 8-1-3-⑭ 生活費を渡してもらえない (性・年代別)



■目の前で子どもに暴力をふるわれる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で1.6%、50歳代で4.5%、60歳代で6.0%、70歳代で4.3%となっています。(図表8-1-3-⑮)

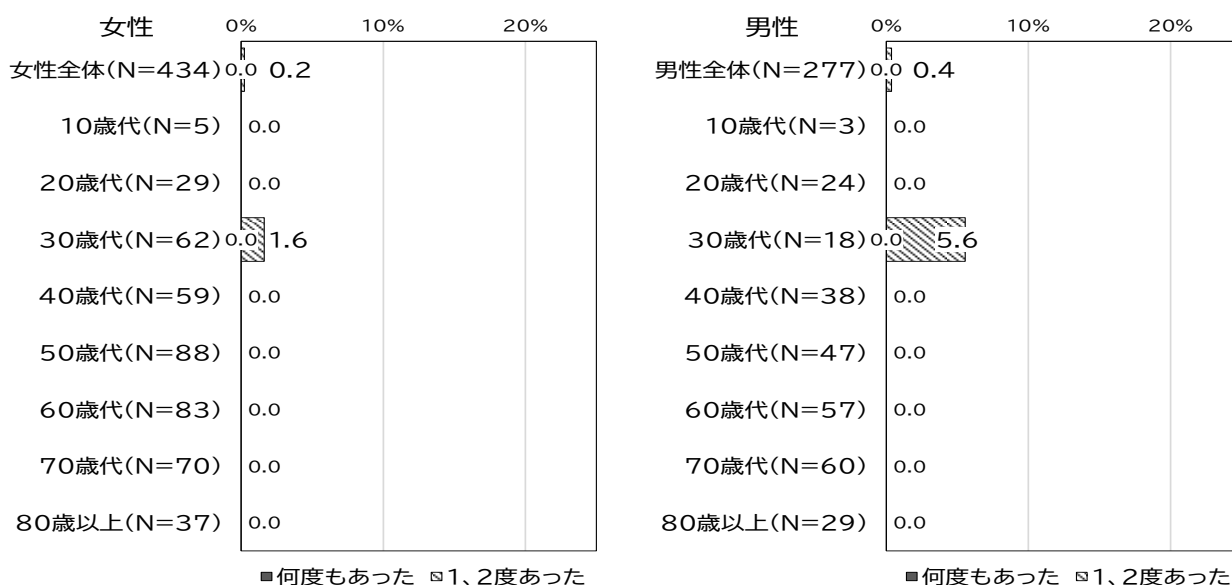
図表 8-1-3-⑮ 目の前で子どもに暴力をふるわれる（性・年代別）



■性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で1.6%となっています。(図表8-1-3-⑯)

図表 8-1-3-⑯ 性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある（性・年代別）



■見たり聞いたりしたこと

【全体】

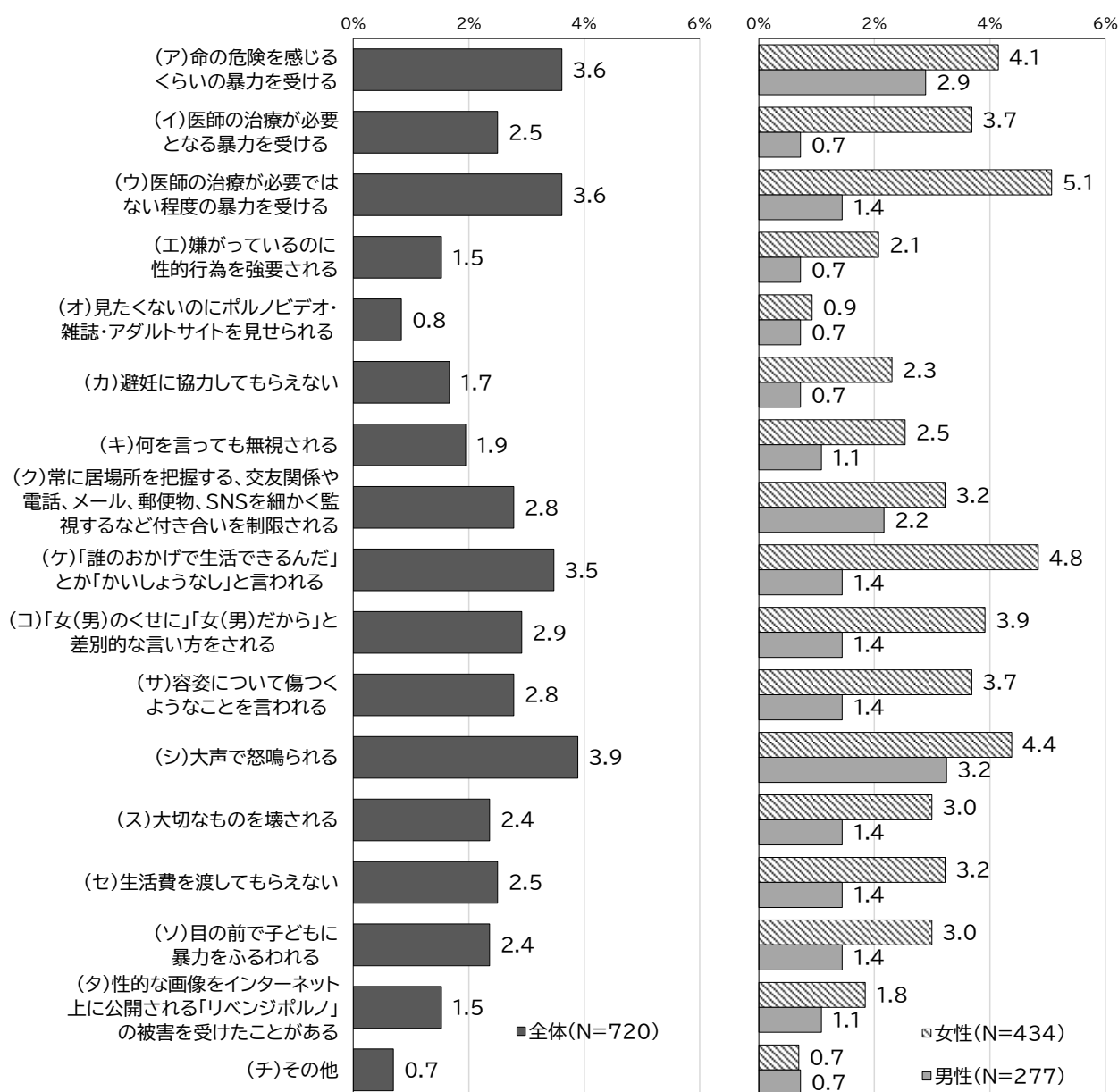
DV(ドメスティック・バイオレンス)を見たり聞いたりしたことがあるかを聞いています。全体では『大声で怒鳴られる(3.9%)』が最も多く、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける(3.6%)』、『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(3.6%)』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(3.5%)』が続いています。(図表8-1-4)

【性別】

性別でみると、女性では『医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(5.1%)』が最も多く、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる(4.8%)』、『大声で怒鳴られる(4.4%)』が続きます。

男性では『大声で怒鳴られる(3.2%)』が最も多く、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける(2.9%)』が続いています。(図表8-1-2)

図表 8-1-4 ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある (全体、性別)

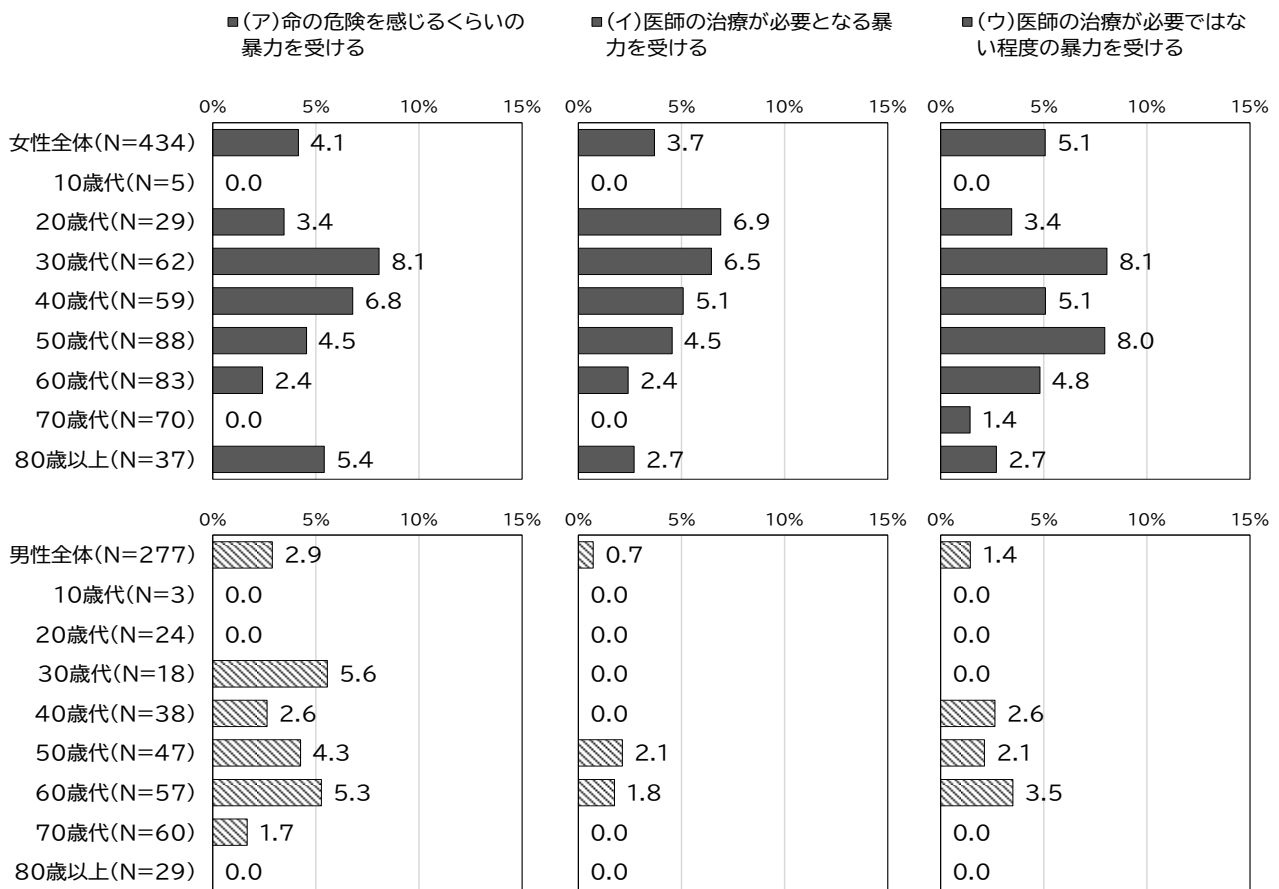


【性・年代別】

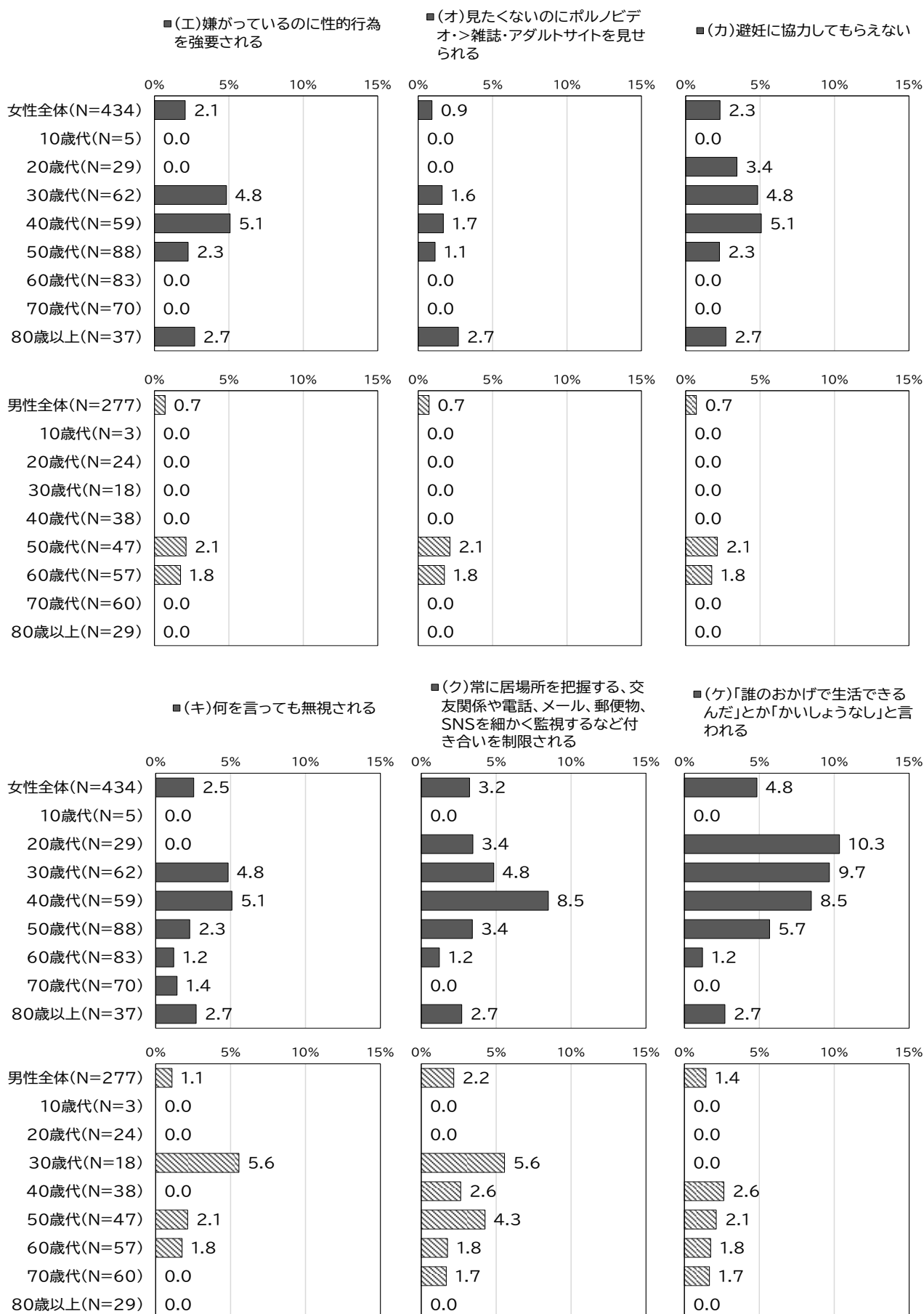
性・年代別にみると、女性は20歳代が「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる」で10.3%、30歳代が「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる」で9.7%、40歳代が「常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される」「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる」「大声で怒鳴られる」「大切なものを壊される」「生活費を渡してもらえない」で8.5%、50歳代と60歳代が「医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける」でそれぞれ8.0%と4.8%となっています。

男性では、30歳代が「大声で怒鳴られる」で11.1%と他の年代とも比べて多くなっています。(図表8-1-5①②③④)

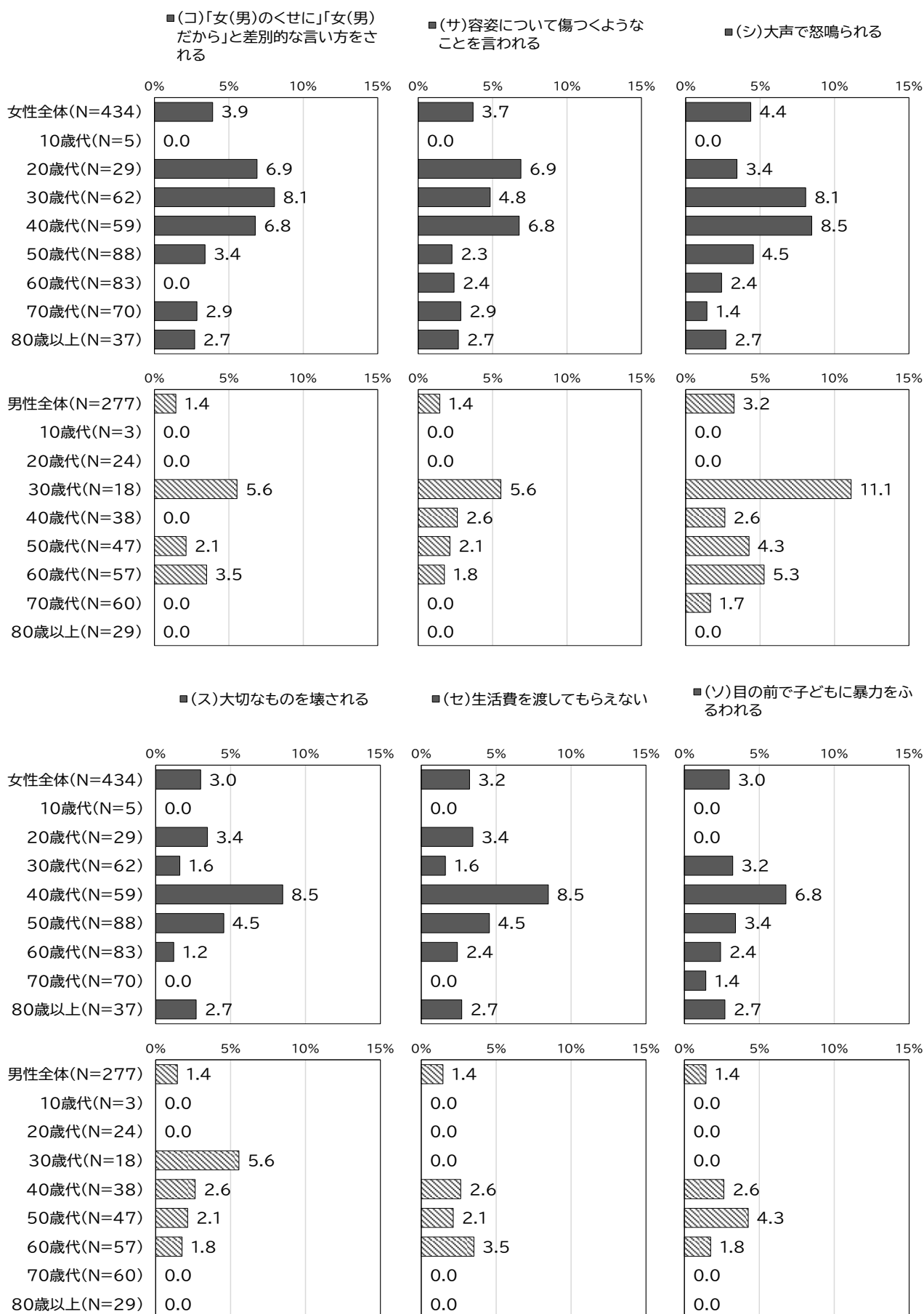
図表 8-1-5-① ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）



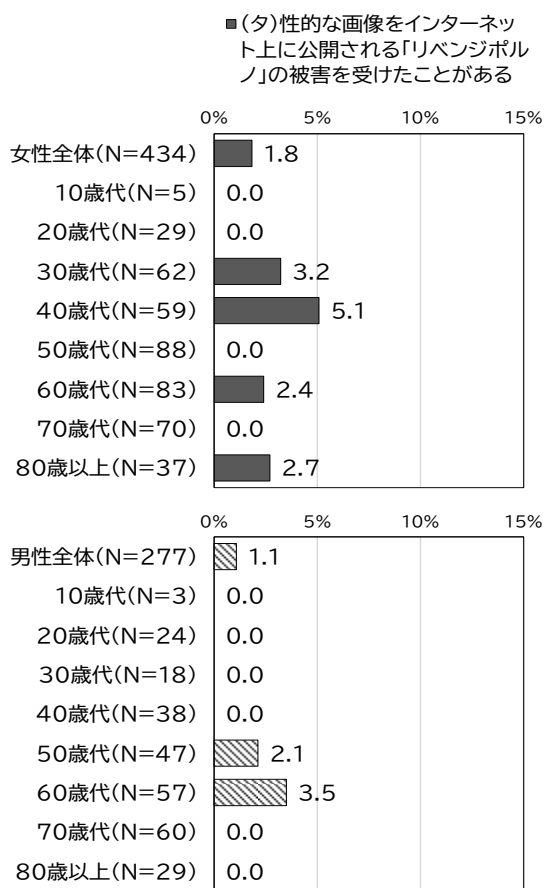
図表 8-1-5-② ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）



図表 8-1-5-③ ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）



図表 8-1-5-④ ドメスティック・バイオレンスを見たり聞いたりしたことがある（性・年代別）

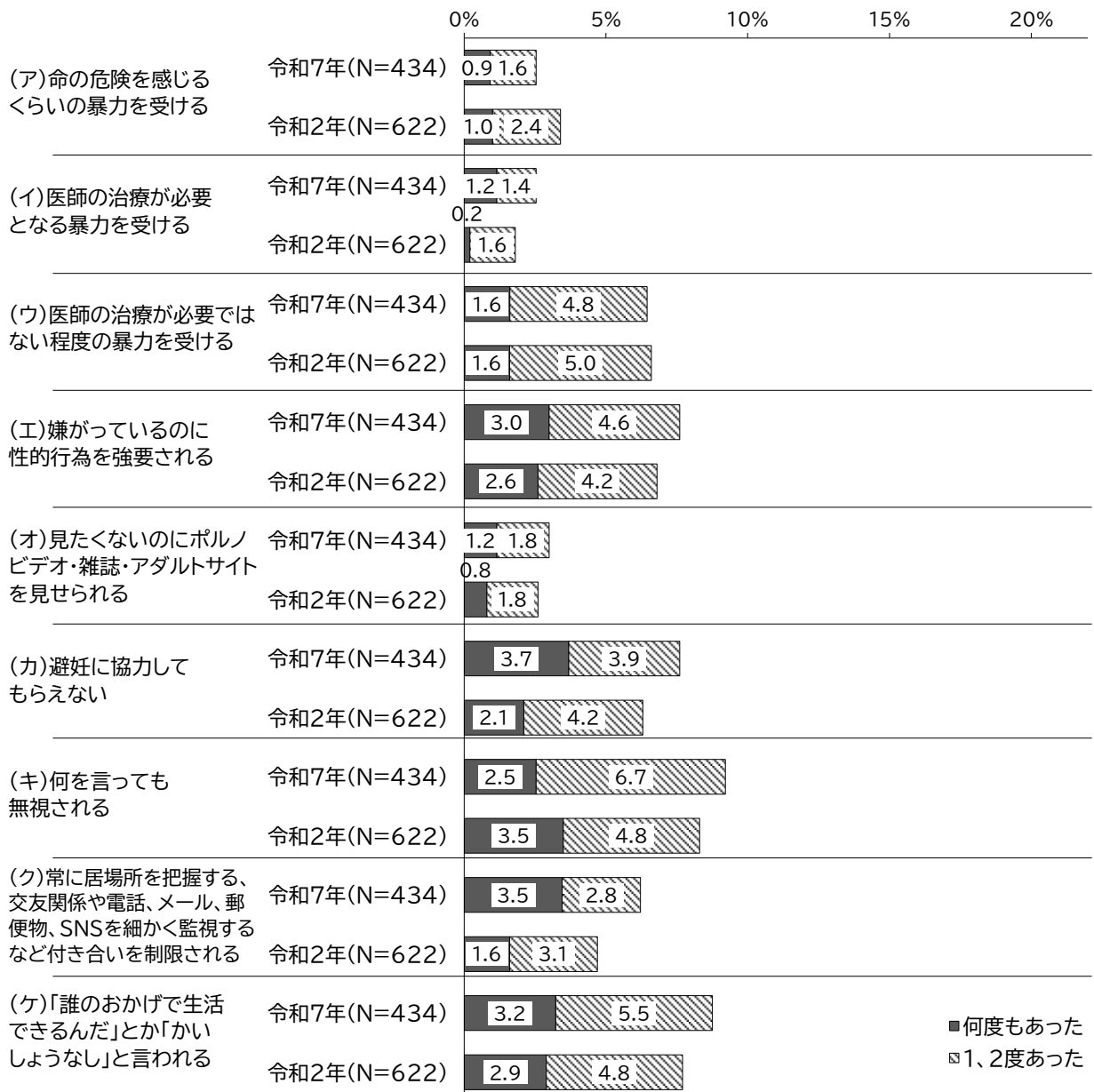


【令和2年調査との比較】

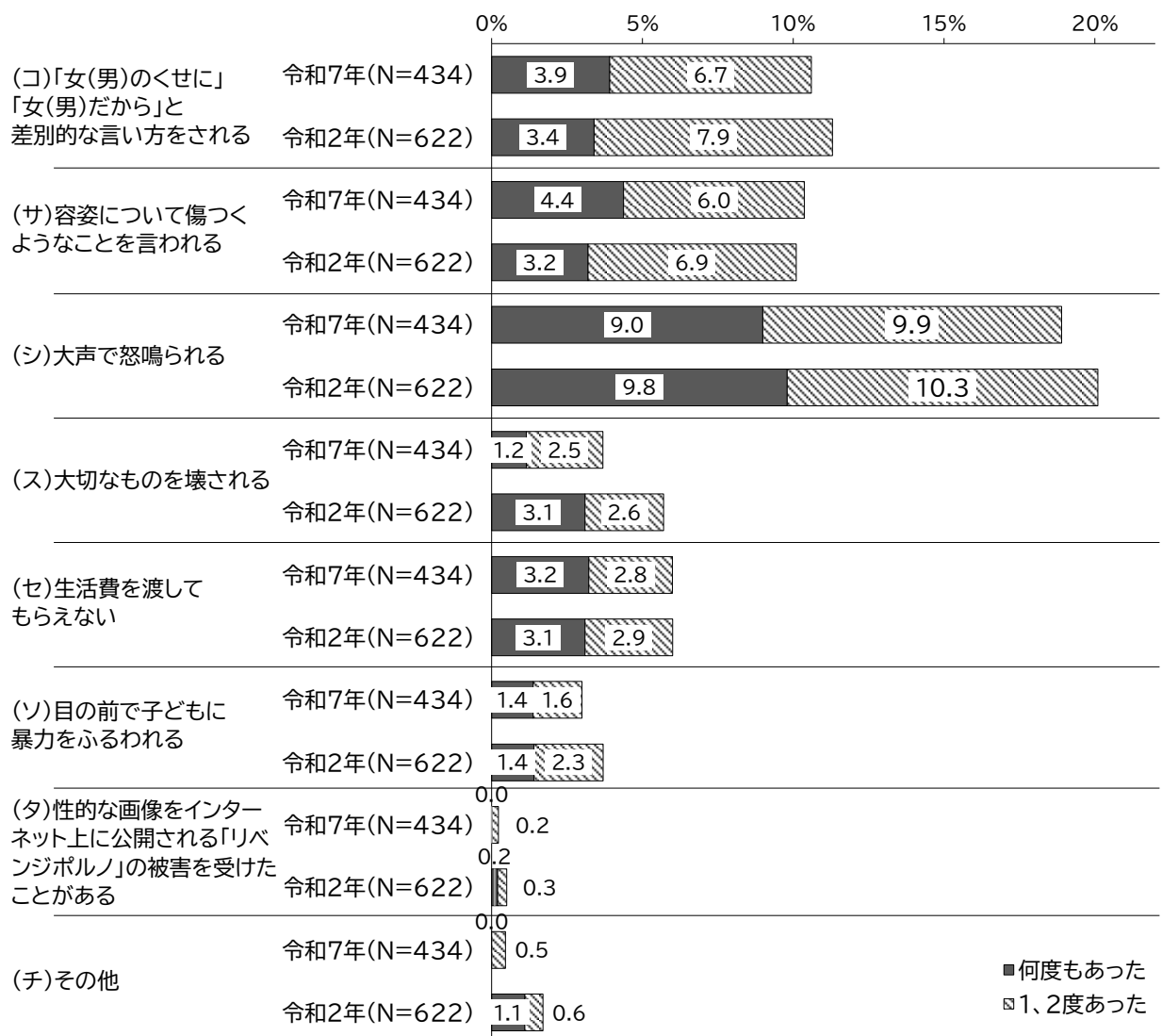
■女性

令和2年調査と比較すると、女性は17項目中8項目で令和2年調査よりも増えています。(図表8-1-6-①②)

図表 8-1-6-① ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、令和7年・令和2年調査）
＜暴力を受けた経験がある人の割合＞



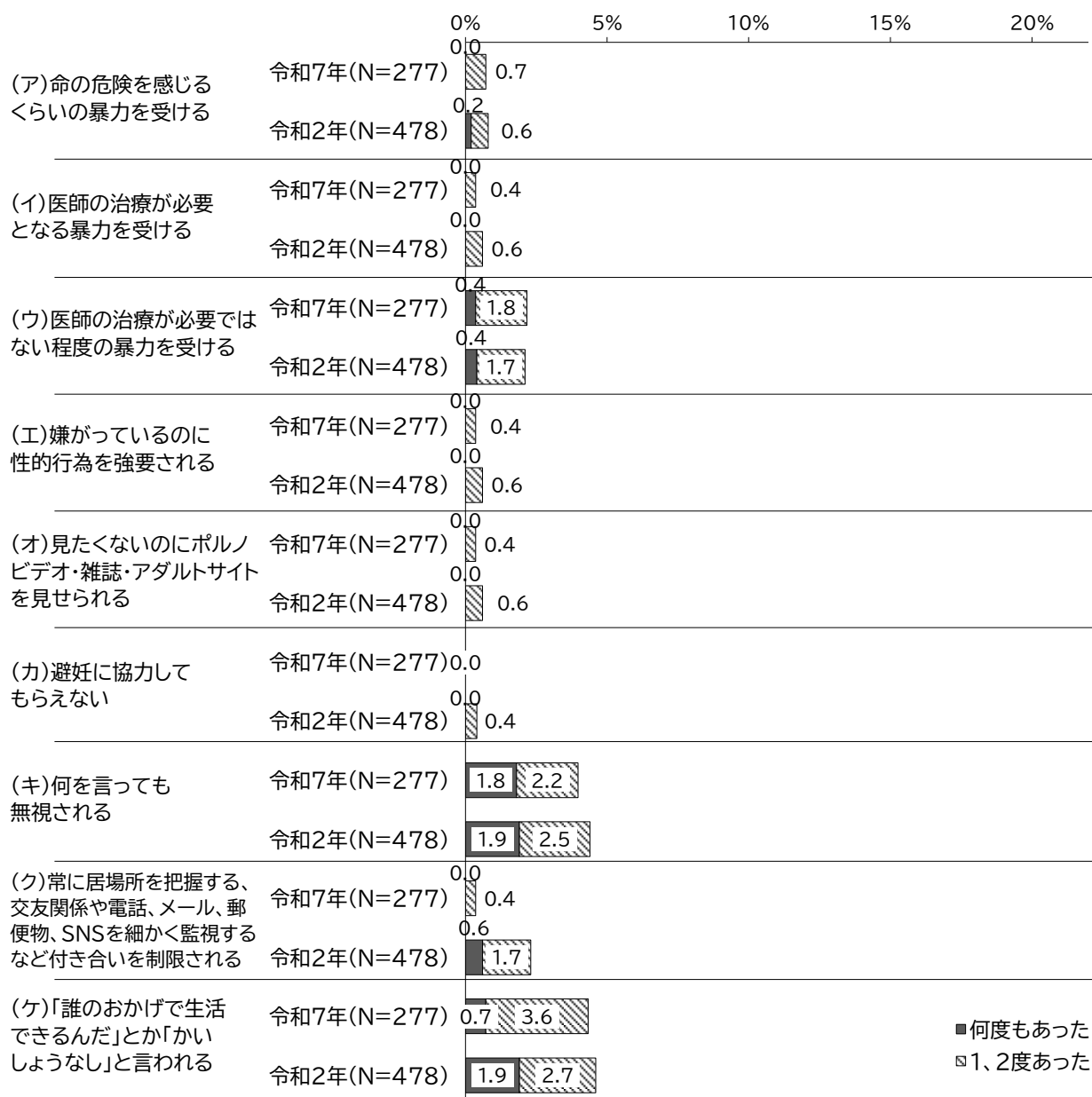
図表 8-1-6-② ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、令和7年・令和2年調査）
 ＜暴力を受けた経験がある人の割合＞



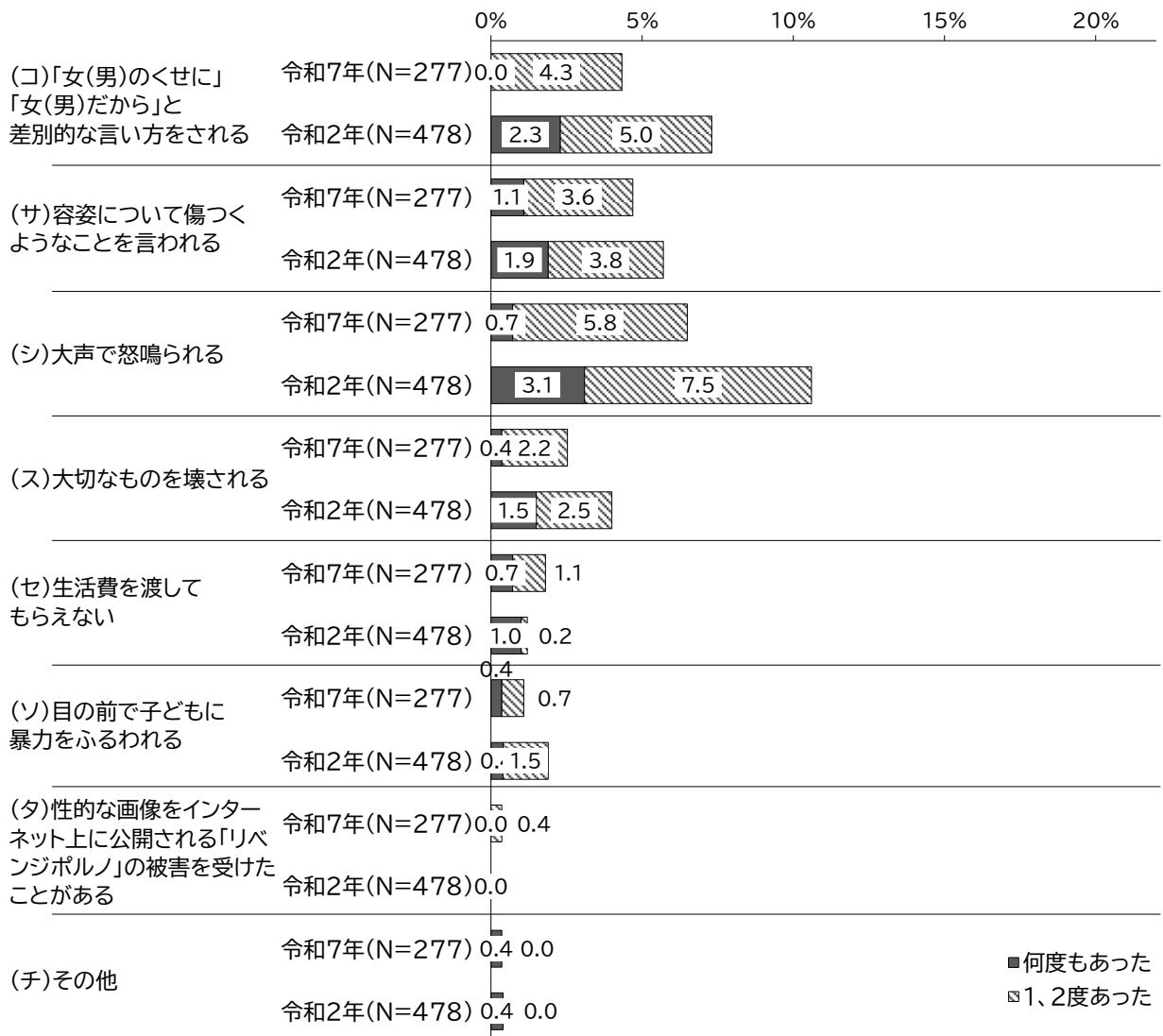
■男性

令和2年調査と比較すると、男性は17項目中3項目で令和2年調査よりも増えています。(図表8-1-6-③④)

図表 8-1-6-③ ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、令和7年・令和2年調査）
＜暴力を受けた経験がある人の割合＞



図表 8-1-6-④ ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、令和7年・令和2年調査）
 ＜暴力を受けた経験がある人の割合＞



(2) 相談の有無

問 17 は、問 16 の(ア)～(チ)の「何度もあった」「1、2度あった」に、1つでも○をつけた方におうかがいします。

問 17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○は1つだけ)

【全体】

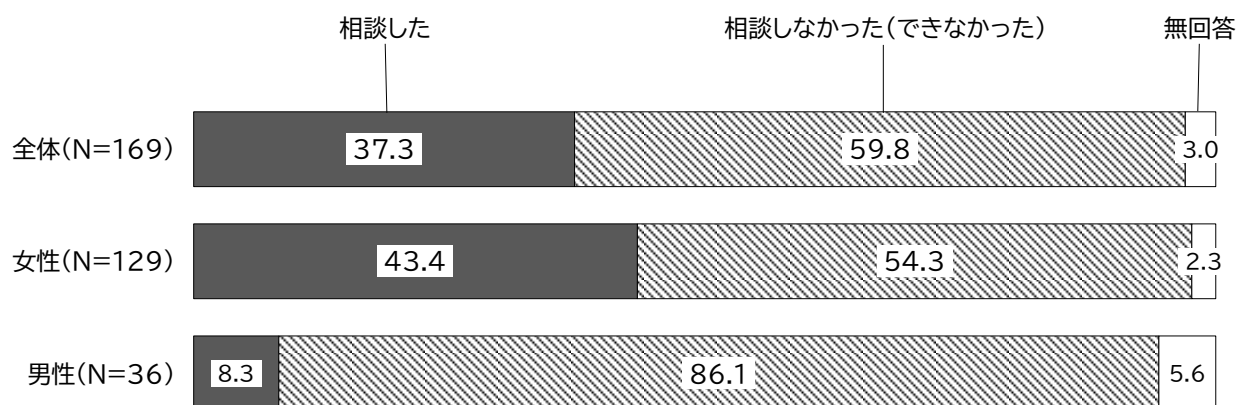
《暴力を受けた経験がある》と回答した人に、相談の有無をたずねました。

全体では、「相談した」が37.3%、「相談しなかった(できなかった)」が59.8%となっています。(図表8-2-1)

【性別】

性別でみると、「相談した」は女性が43.4%、男性が8.3%で、女性が男性を35.1%上回っています。(図表8-2-1)

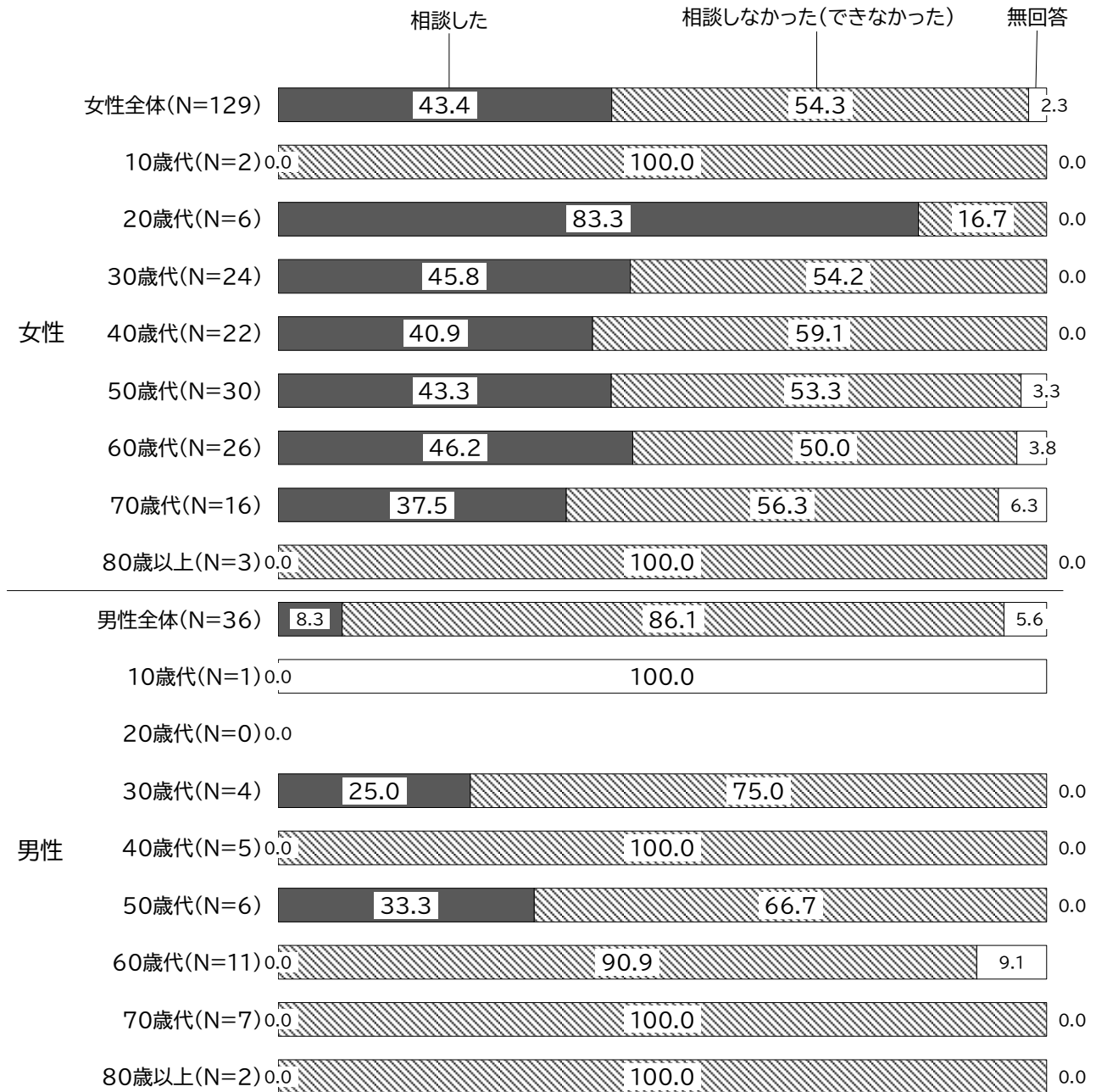
図表 8-2-1 相談の有無（全体、性別）＜暴力を受けた経験がある人＞



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代から70歳代にかけて「相談した」が3割から4割となっています。

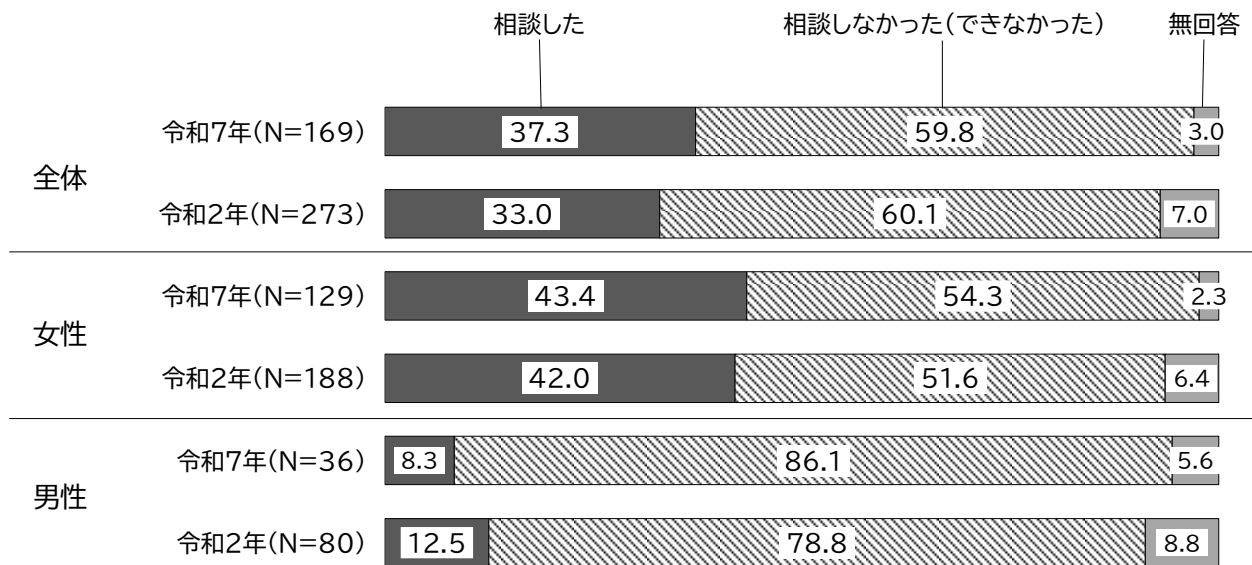
図表 8-2-2 相談の有無（性・年代別）＜暴力を受けた経験がある人＞



【令和2年調査との比較】

「相談した」割合について令和2年調査と比較すると、女性(43.4%)は令和2年調査(42.0%)よりも1.4%増えています。男性(8.3%)は令和2年調査(12.5%)よりも4.2%減っています。(図表8-2-3)

図表 8-2-3 相談の有無（全体、性別、令和7年・令和2年調査）＜暴力を受けた経験がある人＞



(3) 相談先

問 17 で「1. 相談した」とお答えの方に

問 17-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

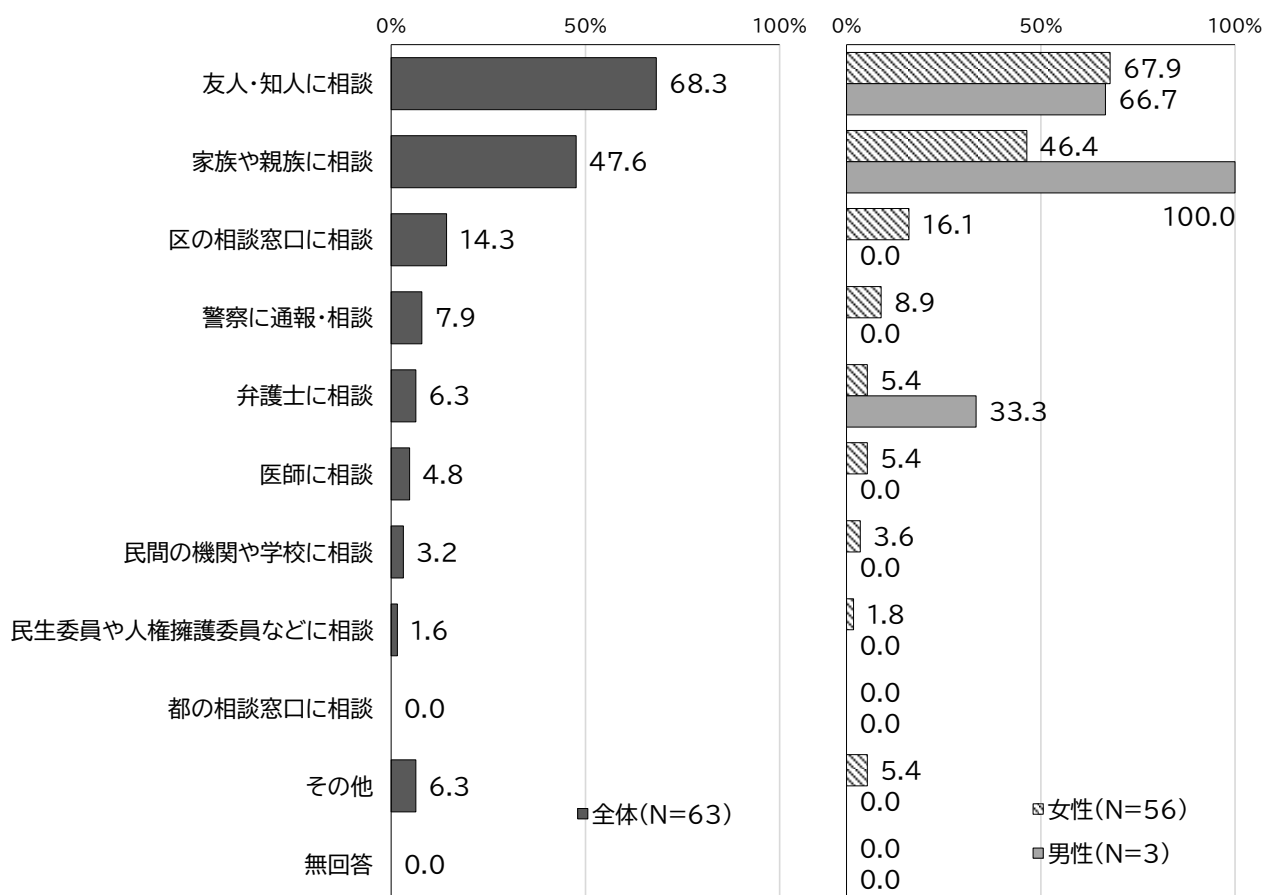
暴力を受けたことを「相談した」と回答した人に、相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談した(68.3%)」が6割台で最も多く、「家族や親族に相談した(47.6%)」が続いています。(図表8-3-1)

【性別】

性別でみると、女性では「友人・知人に相談した(67.9%)」が最も多く「家族や親族に相談した(46.4%)」が続きます。男性では総数が3人のため、グラフのみ記載しています。(図表8-3-1)

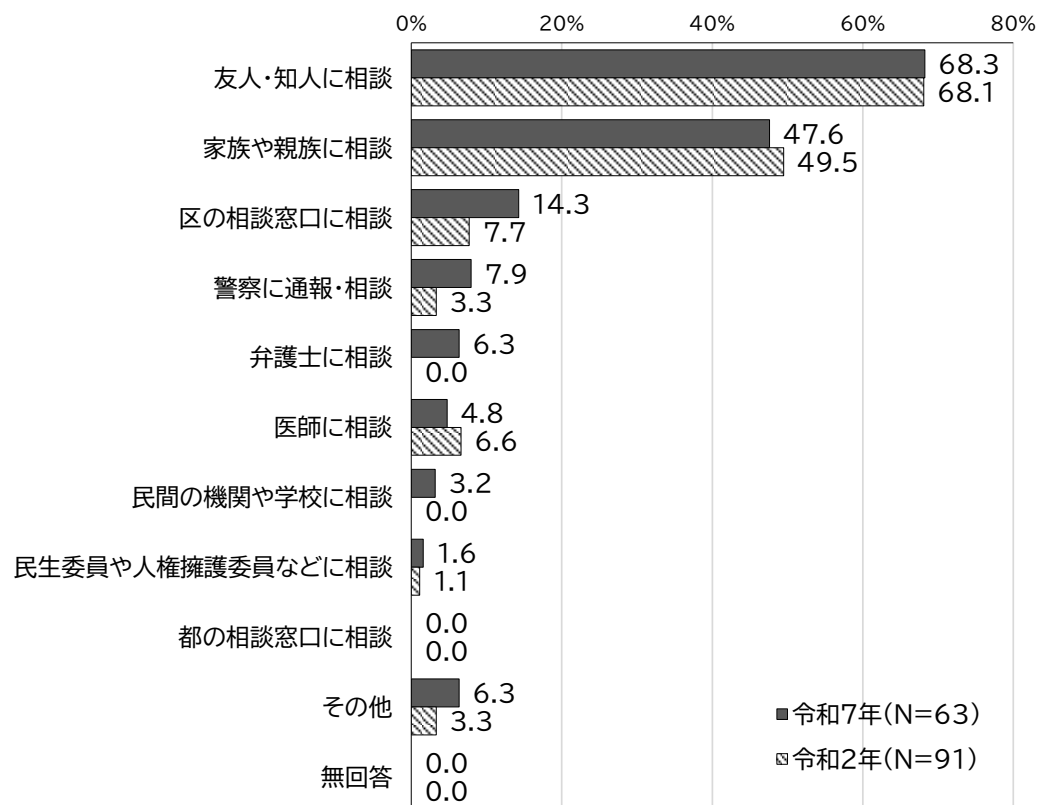
図表 8-3-1 相談先（全体、性別：複数回答）
＜ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「区の相談窓口相談(令和7年調査:14.3%、令和2年調査:7.7%)」、「警察に通報した(令和7年調査:7.9%、令和2年調査:3.3%)」など、6項目で前回の割合よりも増えています。(図表8-3-2)

図表 8-3-2 相談先(全体、令和7年・令和2年調査:複数回答)
＜ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人＞



(4) 相談しなかった、できなかった理由

問 17 で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に
 問 17-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 (○はあてはまるものすべて)

【全体】

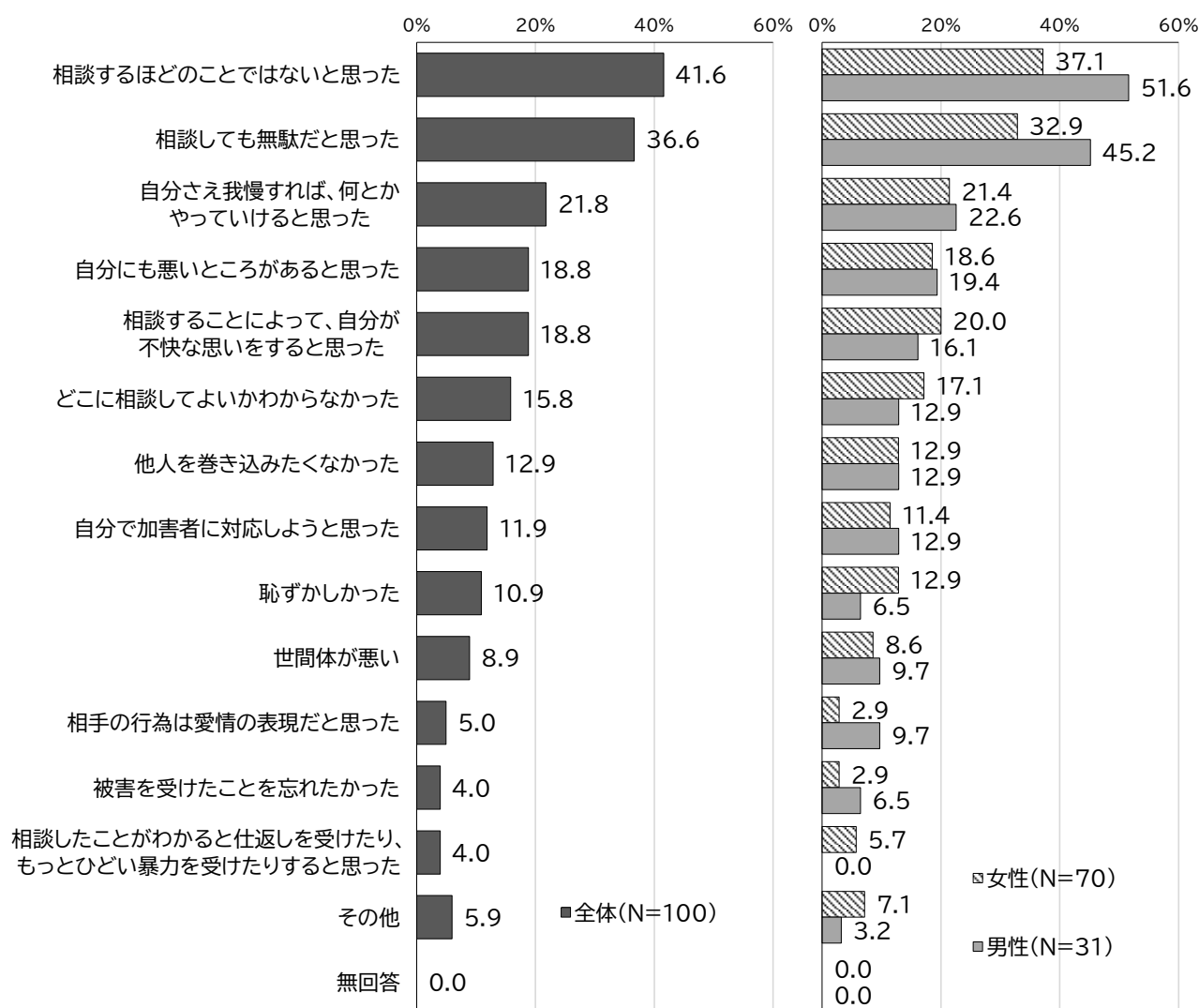
暴力を受けたことを「相談しなかった(できなかった)」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思った(41.6%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(36.6%)」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った(21.8%)」、「自分にも悪いところがあると思った(18.8%)」、「相談することによって自分が不快な思いををすると思った(18.8%)」が続いています。(図表8-4-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った(女性:37.1%、男性:50.0%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思った(女性:32.9%、男性43.3%)」が続いています。(図表8-4-1)

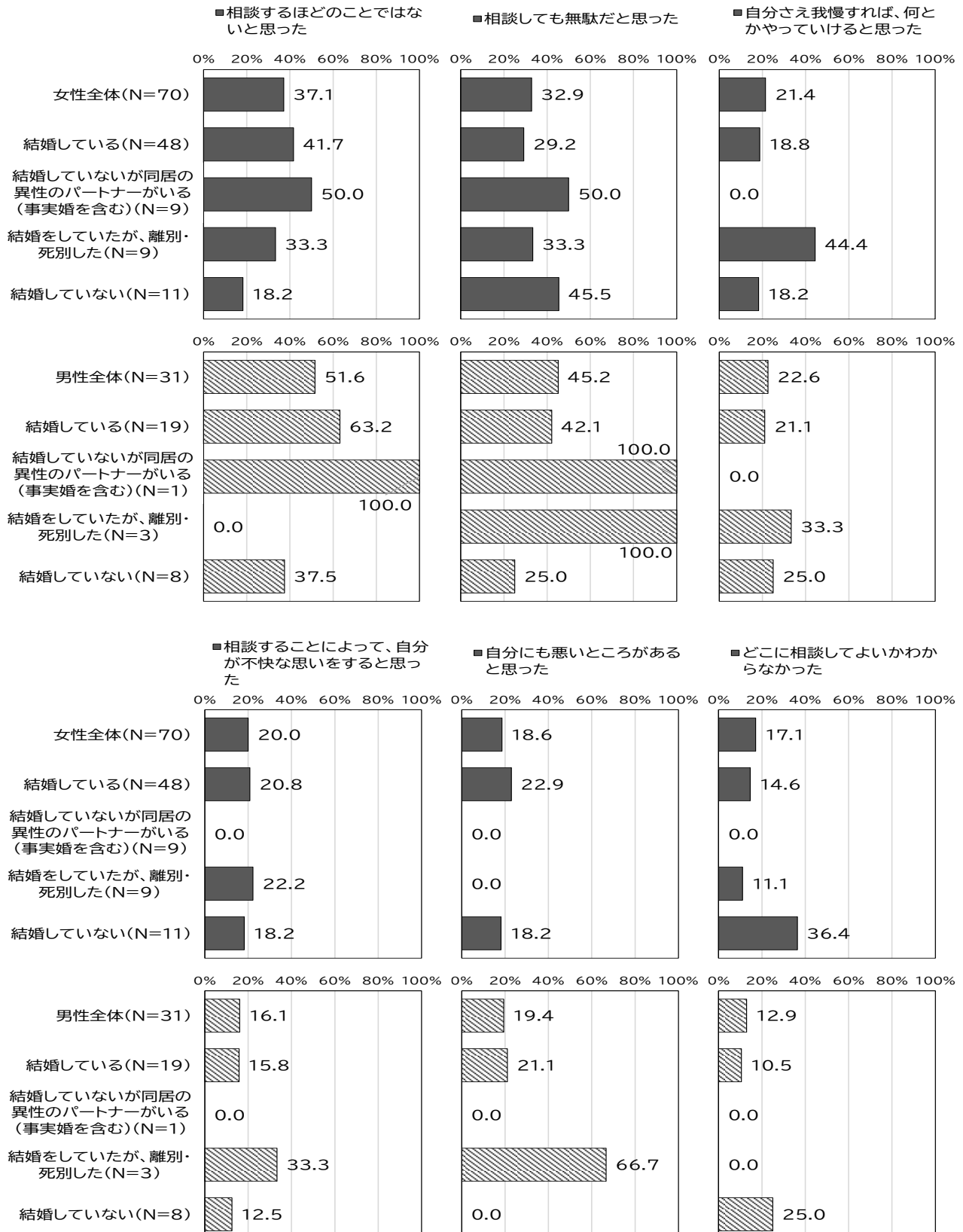
図表 8-4-1 相談しなかった、できなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人>



【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性の既婚は「相談するほどのことではなかった」が41.7%、未婚では「相談しても無駄だと思った」が45.5%と多くなっています。(図表8-4-2)

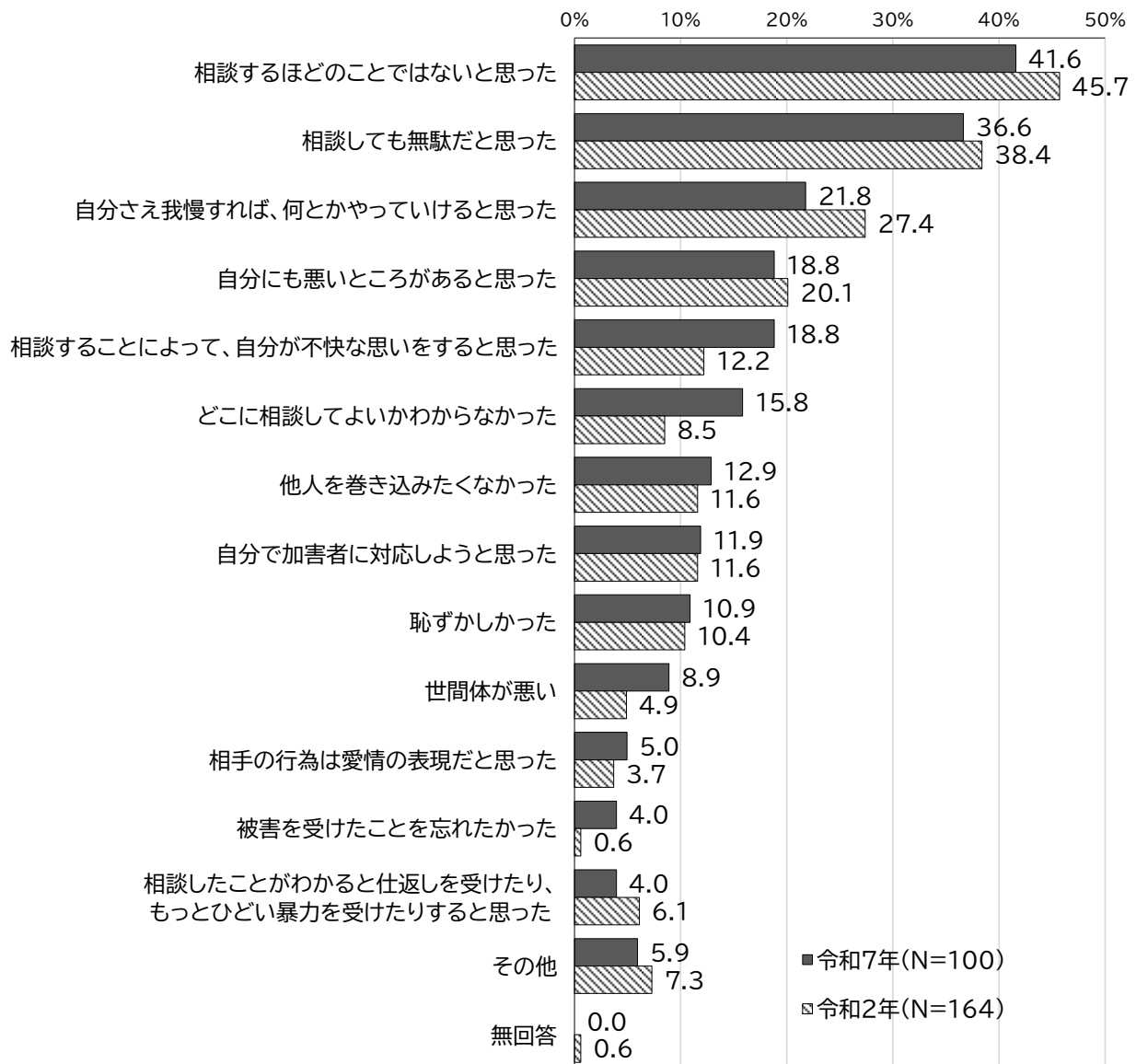
図表 8-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・未既婚別、上位6項目：複数回答）
＜ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人＞



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思った(令和7年調査:41.6%、令和2年調査:45.7%)」、「相談しても無駄だと思ったから(令和7年調査:36.6%、令和2年調査:38.4%)」など6項目が前回の割合よりも下回っています。(図表8-4-3)

図表 8-4-3 相談しなかった、できなかった理由（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）
＜ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人＞



(5) DV（ドメスティック・バイオレンス）の防止及び被害者支援のために必要な対策

問 18 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

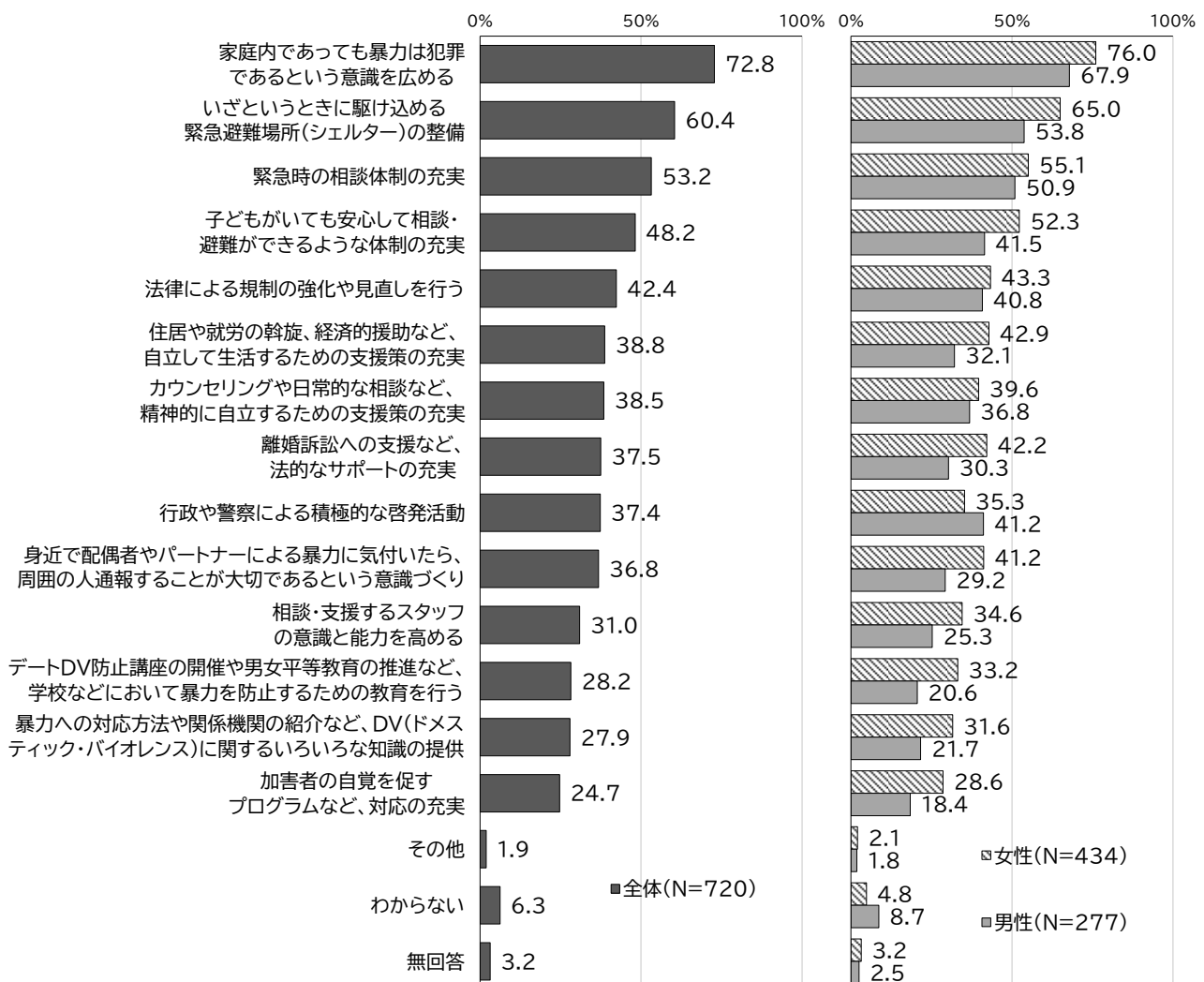
全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(72.8%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(60.4%)」、「緊急時の相談体制の充実(53.2%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実(48.2%)」が続いています。(図表8-5-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「家庭内でであっても暴力は犯罪であるという意識を広める(女性:76.0%、男性:67.9%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、女性は「行政や警察による積極的な啓発活動(女性:35.3%、男性:41.2%)」を除いた項目で割合が男性を上回っています。(図表8-5-1)

図表 8-5-1 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
(全体、性別：複数回答)

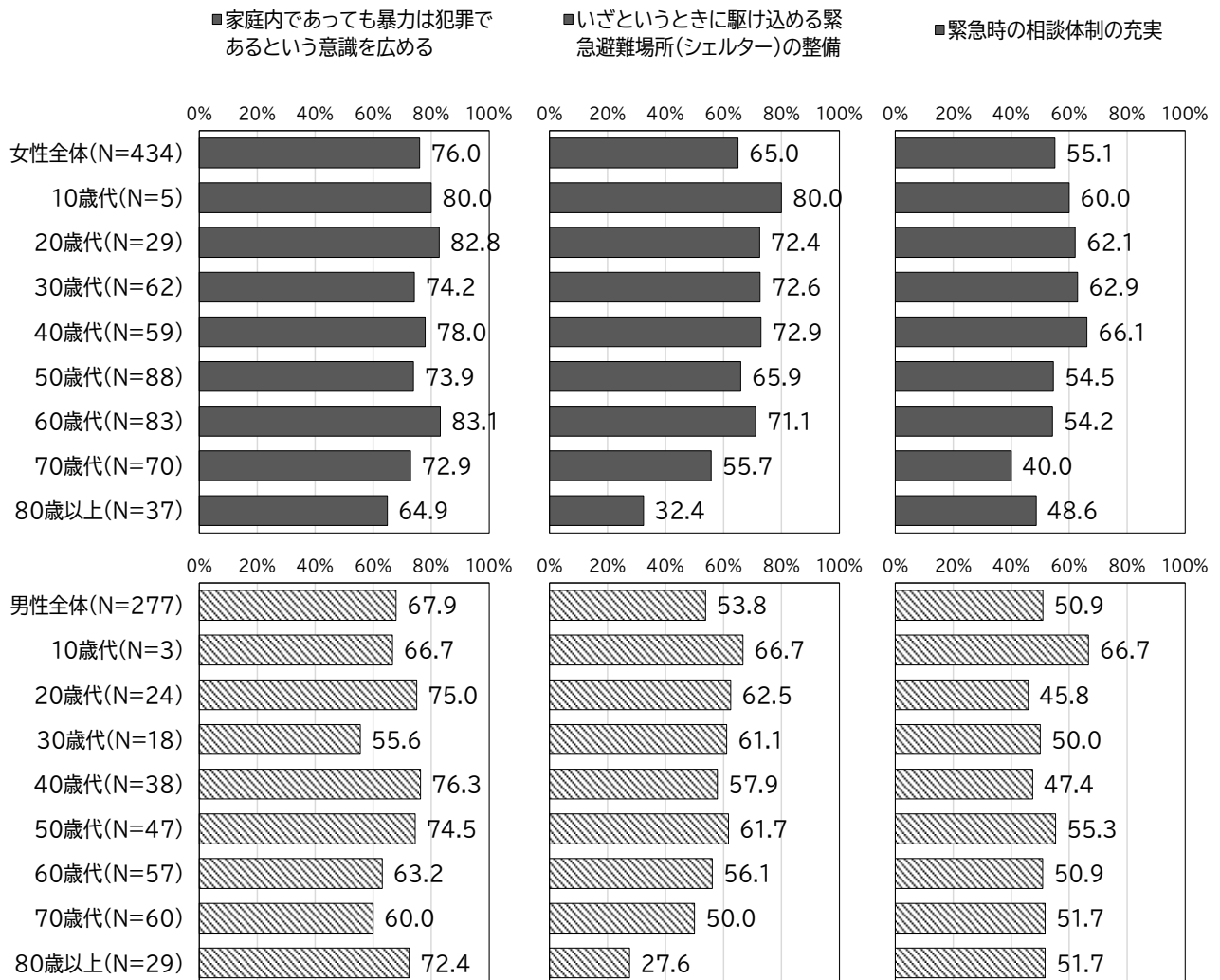


【性・年代別】

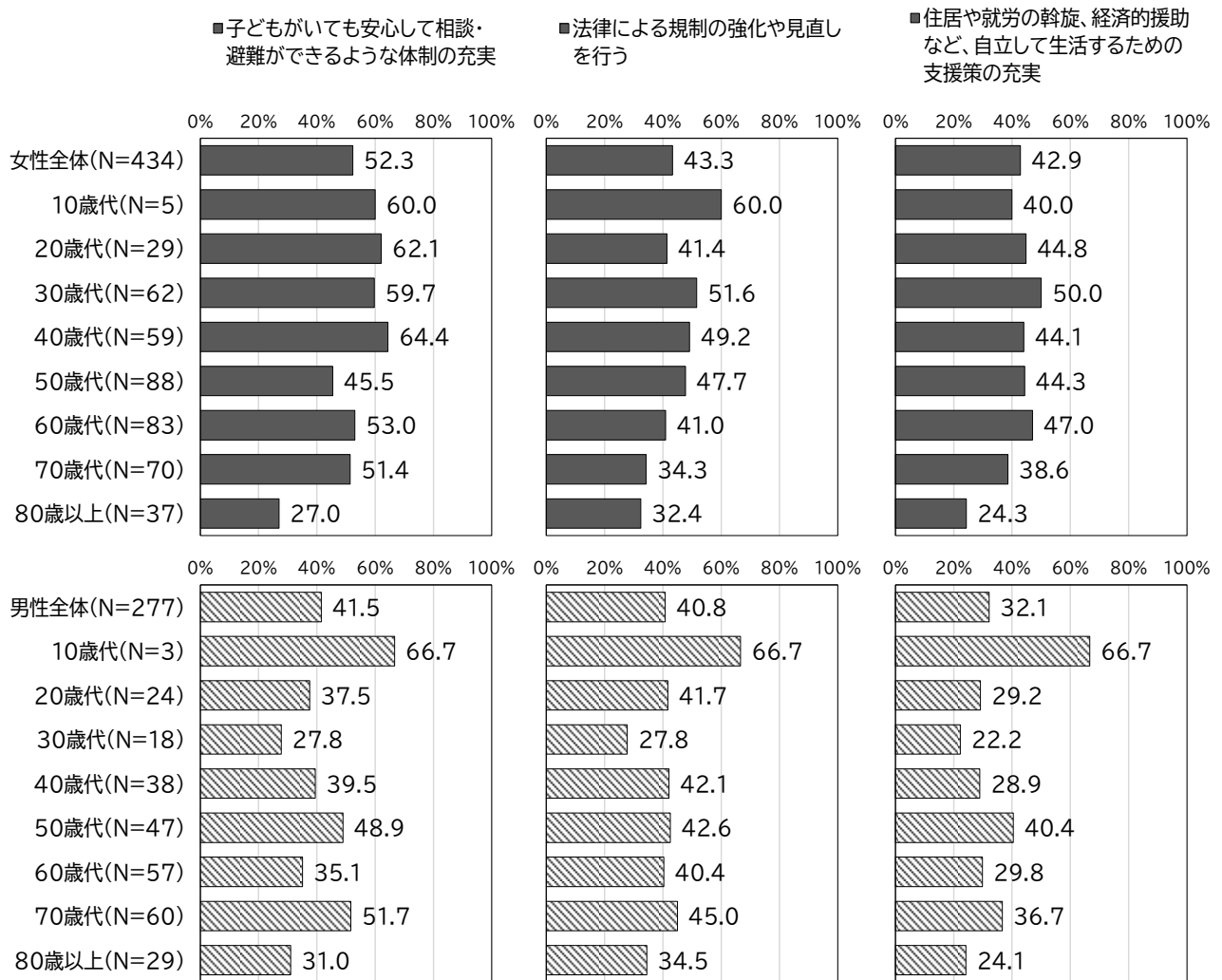
性・年代別にみると、女性は10歳代・20歳代・80歳代で「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める」が8割を超えています。

男性は20歳代・40歳代・50歳代・80歳以上で「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める」が7割を超えています。(図表8-5-2-①②)

図表 8-5-2-① ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



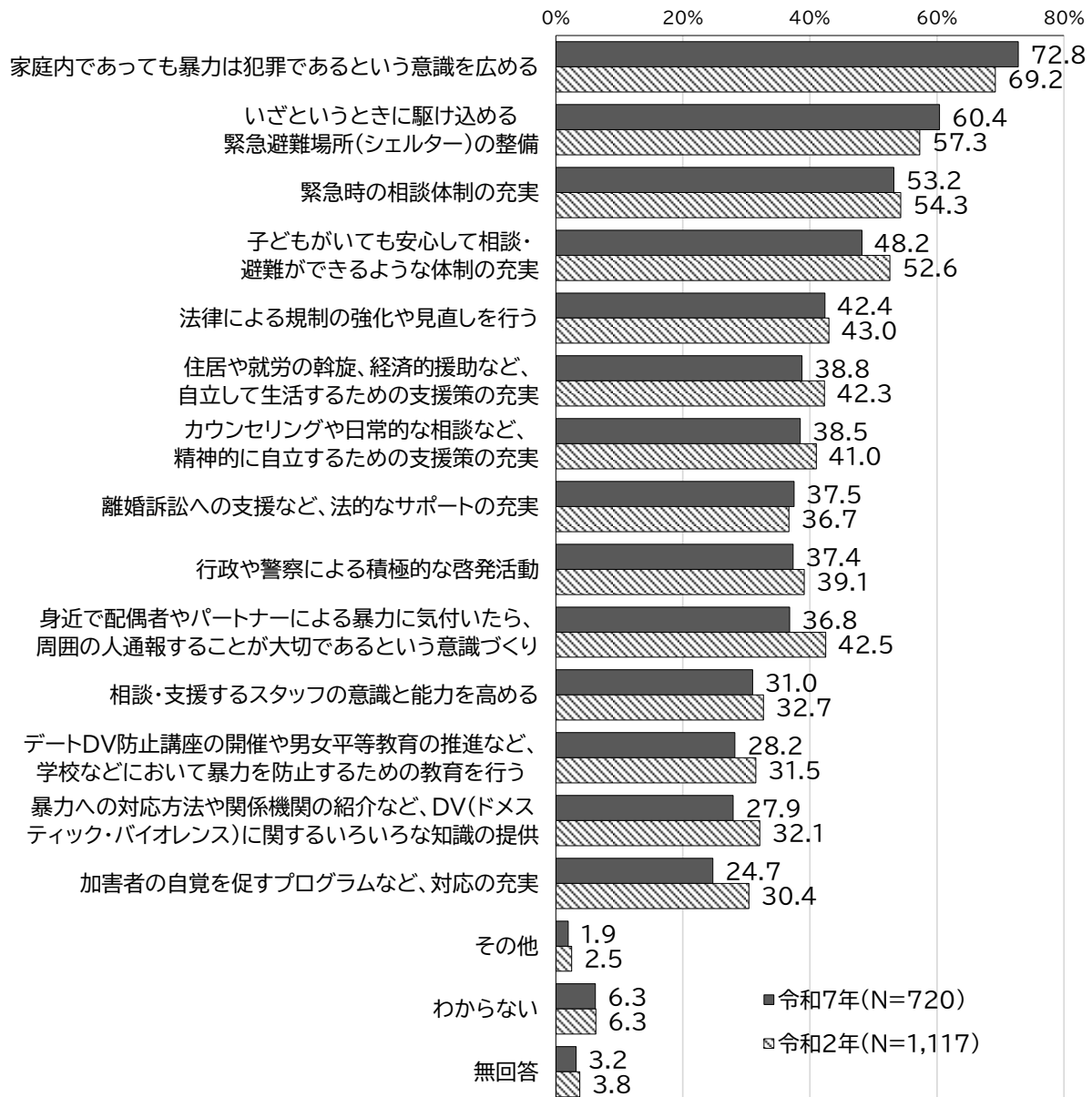
図表 8-5-2-② ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める(令和7年調査:72.8%、令和2年調査:69.2%)」、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備(令和7年調査:60.4%、令和2年調査:57.3%)」など3項目が前回の割合よりも上回っています。(図表8-5-3)

図表 8-5-3 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
(全体、令和7年・令和2年調査:複数回答)



9 性の表現

(1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識

問 19 テレビ、ビデオ、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や、女性に対する暴力、身体、性の表現について、あなたは日頃どのように感じていますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(31.9%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(31.4%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(25.4%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ(24.9%)」が続いています。(図表9-1-1)

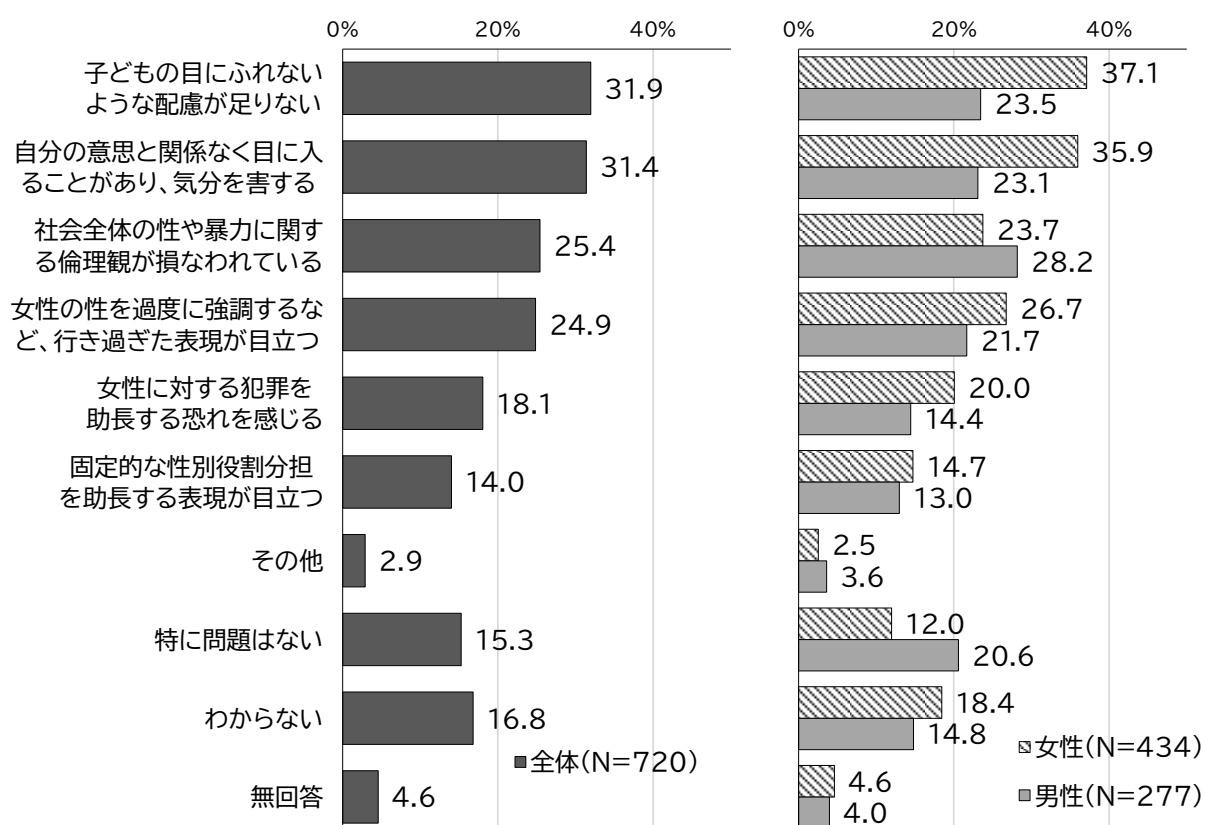
【性別】

性別でみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(37.1%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(35.9%)」、「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ(26.7%)」が続いています。

男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている(28.2%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない(23.5%)」が続いています。

男女の違いをみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない(女性:37.1%、男性:23.5%)」で13.6%、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(女性:35.9%、男性:23.1%)」で12.8%男性を上回っています。また、男性は「特に問題はない(女性:12.0%、男性:20.6%)」で女性を8.6%上回っています。(図表9-1-1)

図表 9-1-1 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（全体、性別：複数回答）

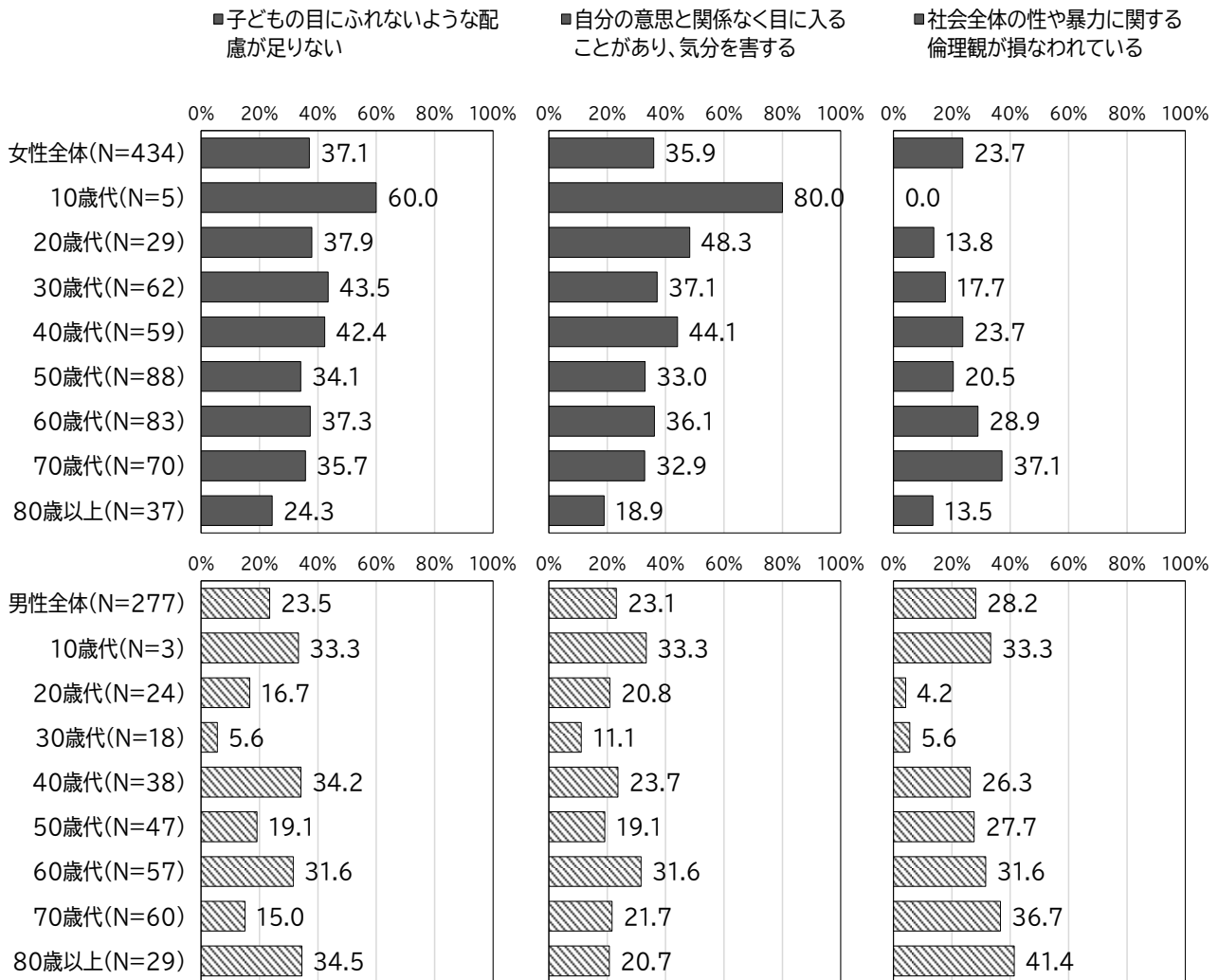


【性・年代別】

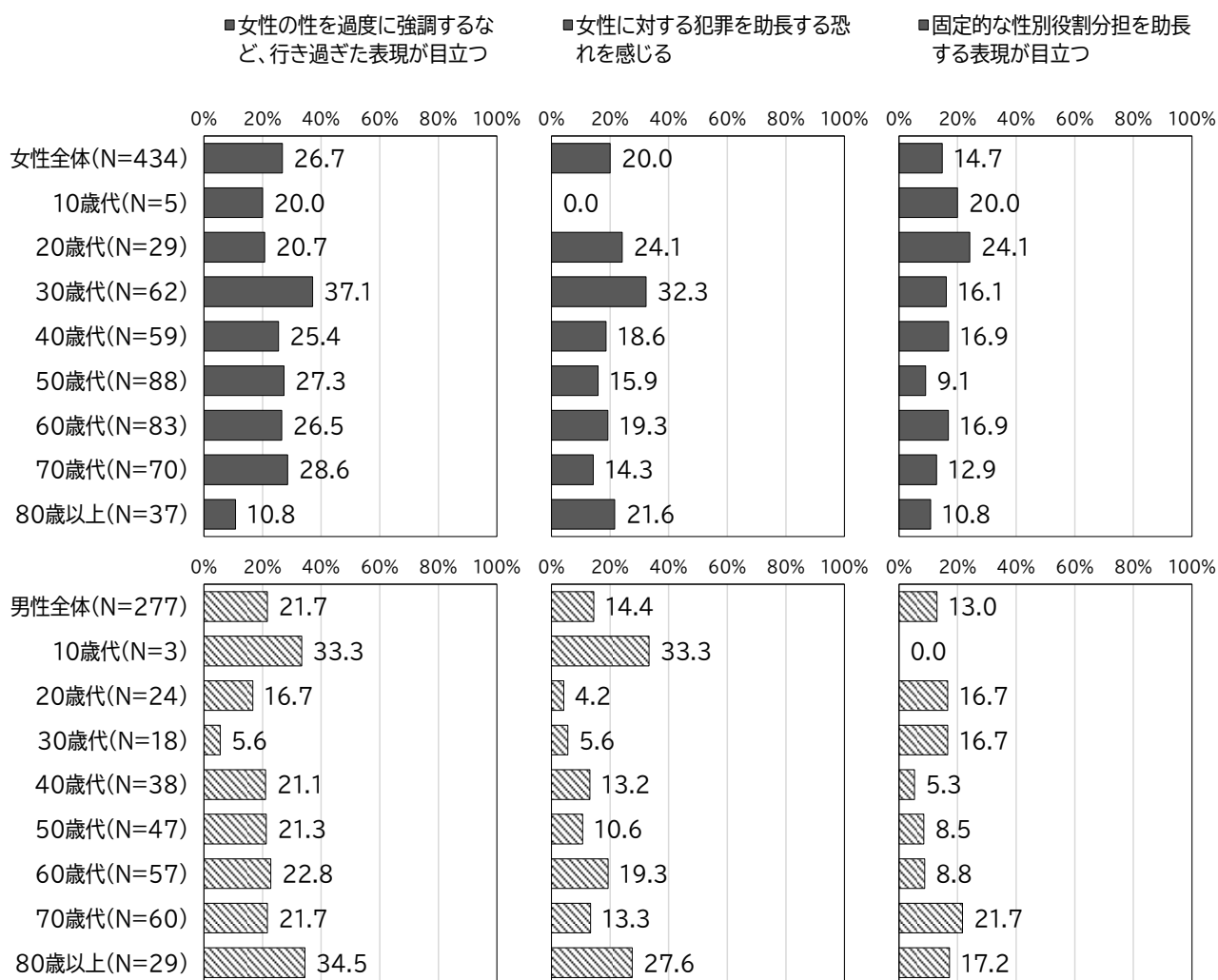
性・年代別にみると、女性は20歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する」が48.3%、30歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない」が43.5%、40歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する」が44.1%、50歳代から70歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない」がそれぞれ34.1%、37.3%、35.7%、80歳以上で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている」が37.7%と多くなっています。

女性は20歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する」が20.8%、30歳代で「固定的な性別役割分担意識を助長する表現が目立つ」が16.7%、40歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない」が34.2%、50歳代で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている」が27.7%、60歳代で「子どもの目にふれないような配慮が足りない」「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する」「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている」が31.6%、70歳代と80歳以上で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている」がそれぞれ36.7%、41.4%と多くなっています。(図表9-1-2-①②)

図表 9-1-2-① 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（性・年代別、上位6項目：複数回答）



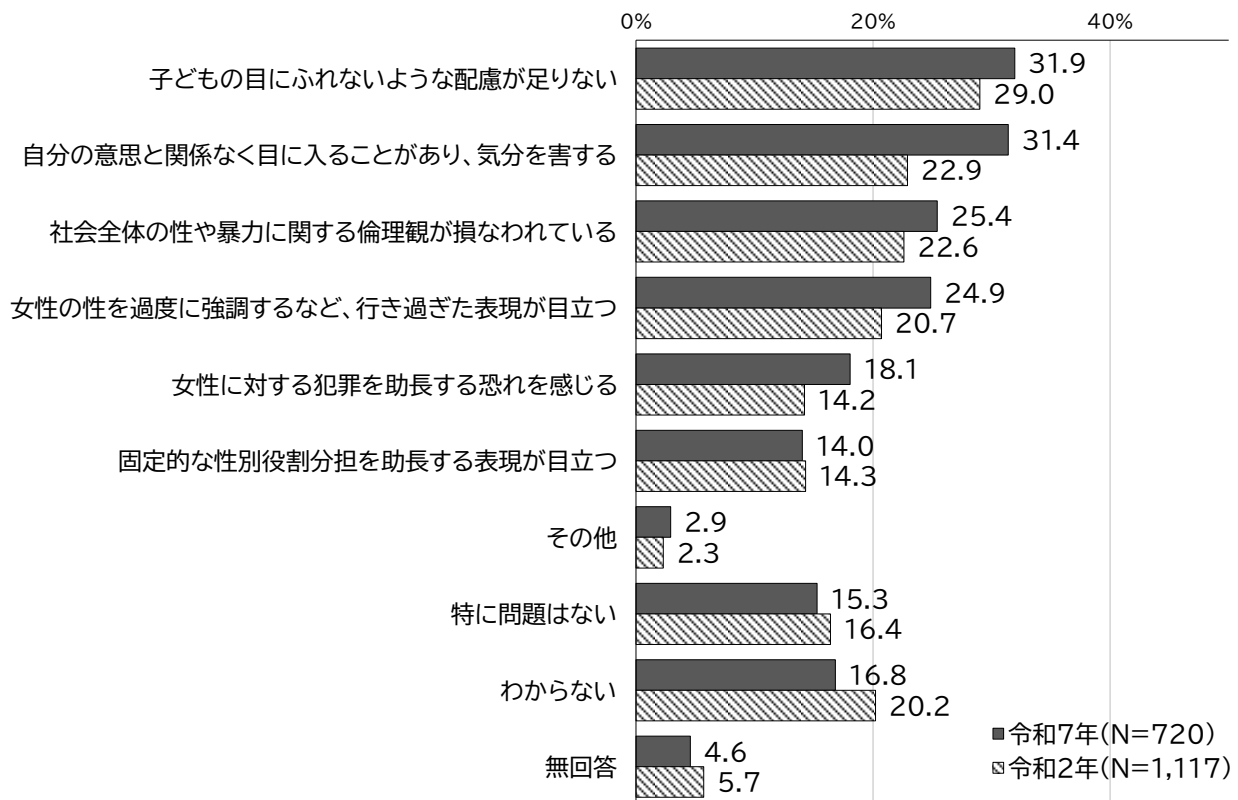
図表 9-1-2-② 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識（性・年代別、上位6項目：複数回答）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、上位5つの項目において割合が増えています。特に、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する(令和7年調査:31.4%、令和2年調査:22.9%)」は8.5%と他の項目と比べて増えています。(図表9-1-3)

図表 9-1-3 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



10 性の多様性

(1) 性自認について悩んだことの有無

問 20 あなたは今まで自分の性別について悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

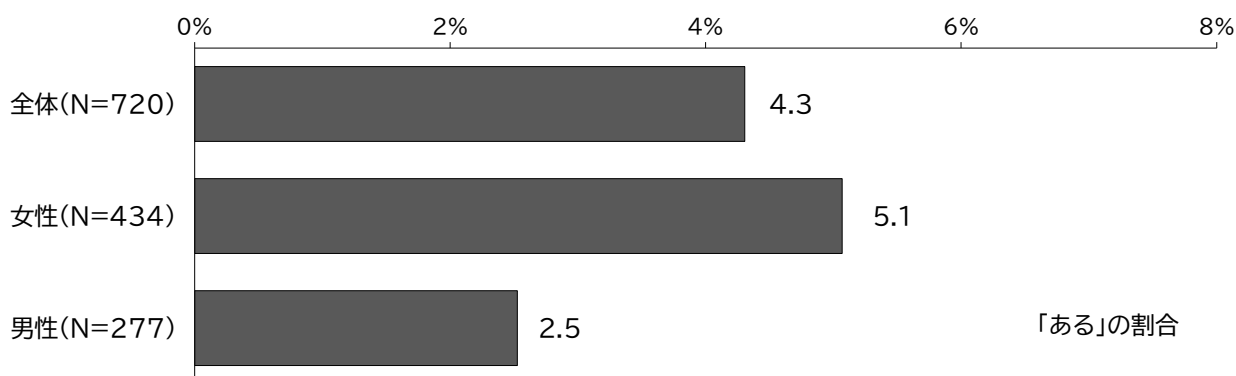
【全体】

全体では、「ある」が4.3%となっています。(図表10-1-1)

【性別】

性別でみると、女性は「ある」が5.1%、男性は「ある」が2.5%となっています。(図表10-1-1)

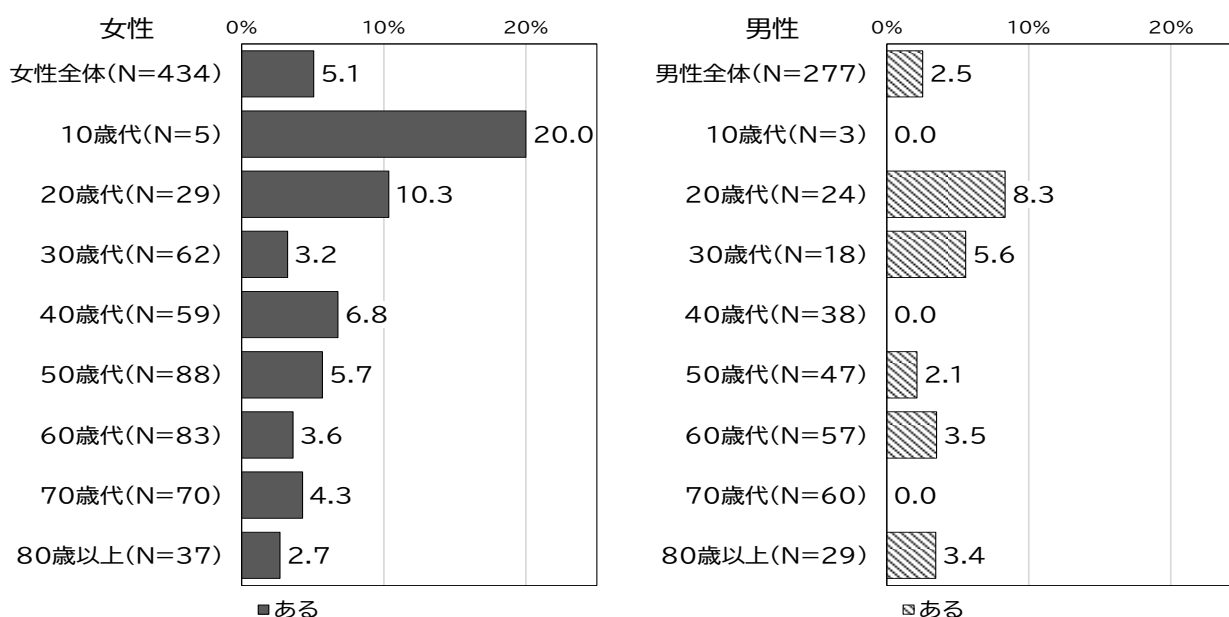
図表 10-1-1 性自認について悩んだことの有無（全体、性別）



【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある」は女性の20歳代で10.3%、男性の20歳代で8.3%と多くなっています。(図表10-1-2)

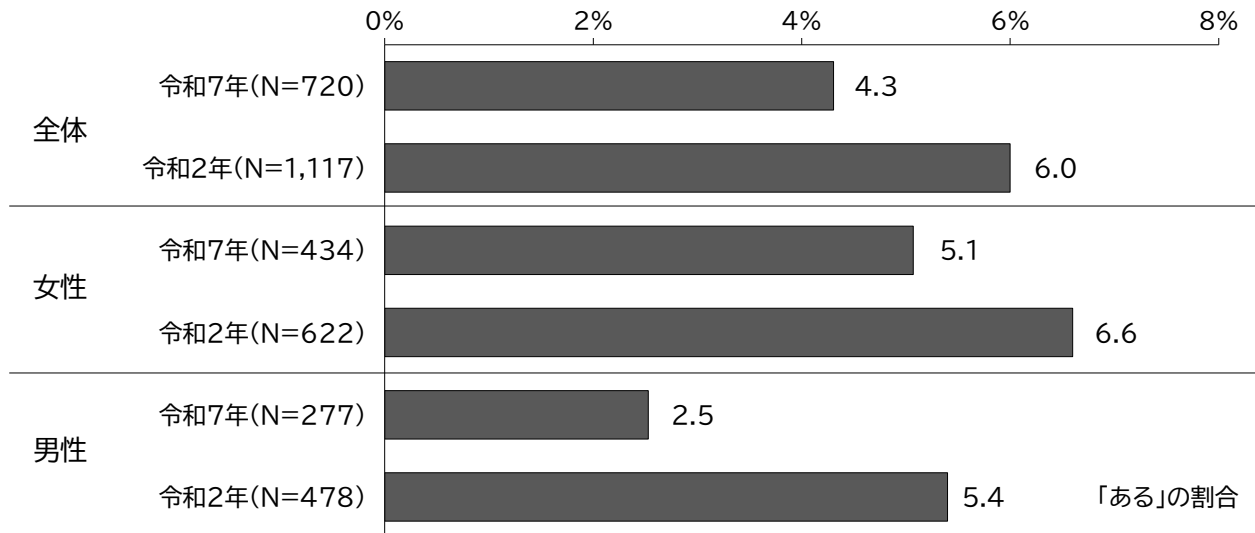
図表 10-1-2 性自認について悩んだことの有無（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比べると、全体、男女ともに「ある」の割合が減っています。(図表10-1-3)

図表 10-1-3 性自認について悩んだことの有無（全体、令和7年・令和2年調査）



問 20 で「1. ある」とお答えの方に

問 20-1 どのようなことで悩みましたか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

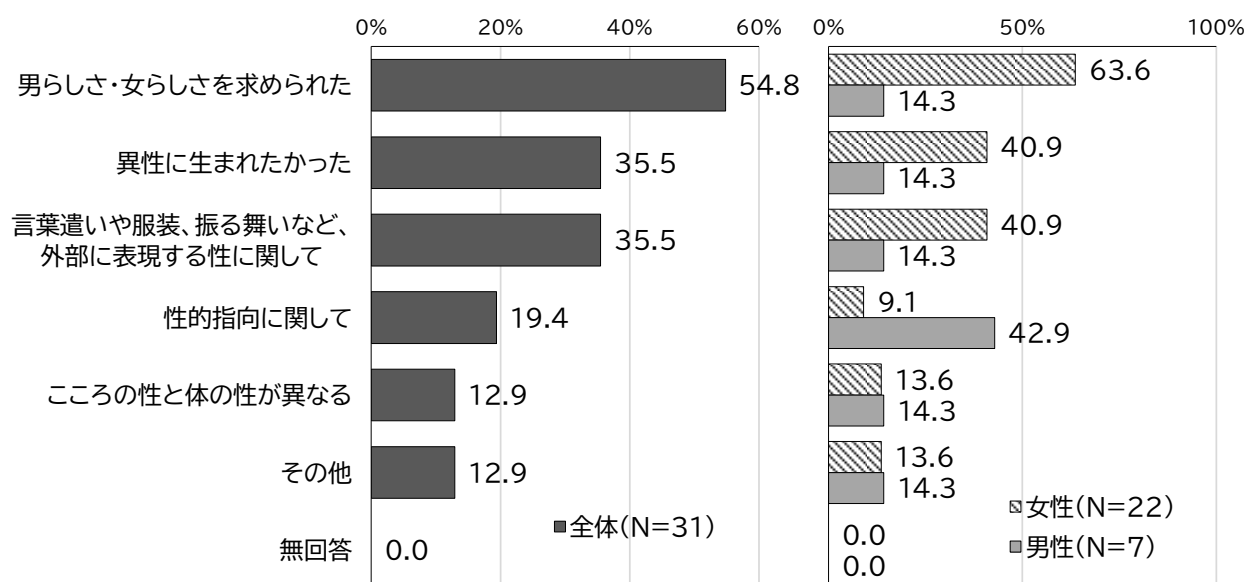
全体では、「男らしさ・女らしさを求められた(54.8%)」が最も多く、「異性に生まれたかった(35.5%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(35.5%)」が続いています。(図表10-1-3)

【性別】

性別でみると、女性は「男らしさ・女らしさを求められた(女性:63.6%、男性14.3%)」、「異性に生まれたかった(女性:40.9%、男性14.3%)」、「言葉遣いや服装、振る舞いなど、外部に表現する性に関して(女性:40.9%、男性14.3%)」が男性よりも上回っています。

男性は「性的指向(女性:9.1%、男性:42.9%)」が女性よりも上回っています。(図表10-1-4)

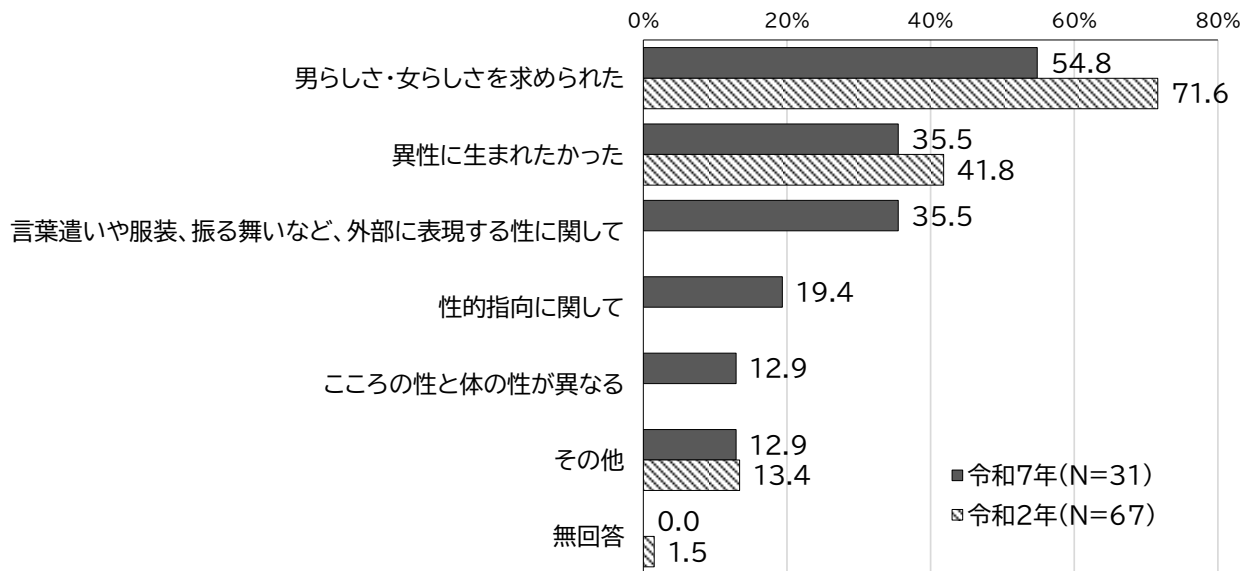
図表 10-1-4 性自認について悩んだ内容（全体、性別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査から選択肢を増やしたため、考慮が必要ですが、「男らしさ・女らしさを求められた」は16.8%、「異性に生まれたかった」は6.3%令和2年調査よりも減っています。(図表10-1-5)

図表 10-1-5 性自認について悩んだ内容（全体、令和7年・令和2年調査）



※値のない項目は、調査時に回答選択肢を設定していない。

(2) L G B T ・ L G B T Q + の認知状況

問 21 あなたはLGBTまたは、LGBTQ+という言葉をご存じですか。(○は1つだけ)

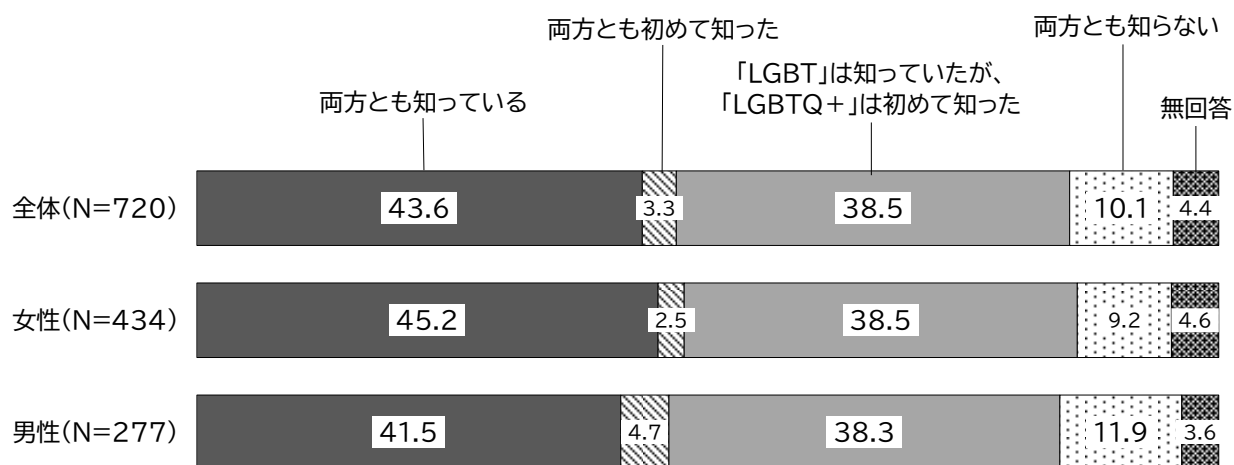
【全体】

全体では、「両方とも知っている」が43.6%、『「LGBT」は知っていたが、「LGBTQ+」は初めて知った』が38.5%となっています。(図表10-2-1)

【性別】

性別でみると、「両方とも知っている(女性:45.2%、男性:41.5%)」では、女性は3.7%上回っています。(図表10-2-1)

図表 10-2-1 L G B T の認知状況（全体、性別）

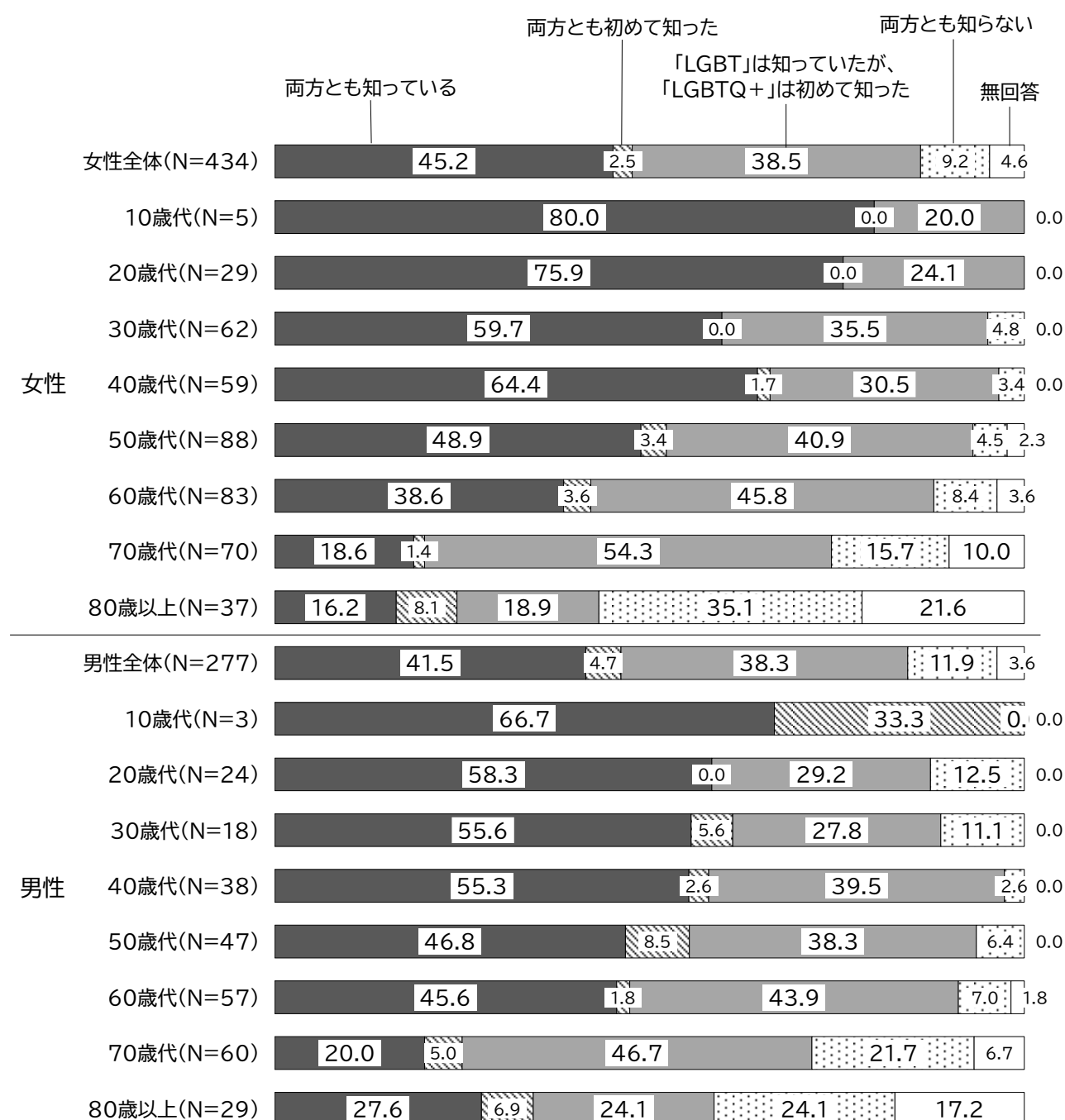


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の10歳代・20歳代で「両方とも知っている」が7割以上となっていますが、年代が上がるほど減少傾向となっています。

男性は10歳代から40歳代で「両方とも知っている」が5割以上となっていますが年代が上がるほど減少傾向となっています。(図表10-2-2)

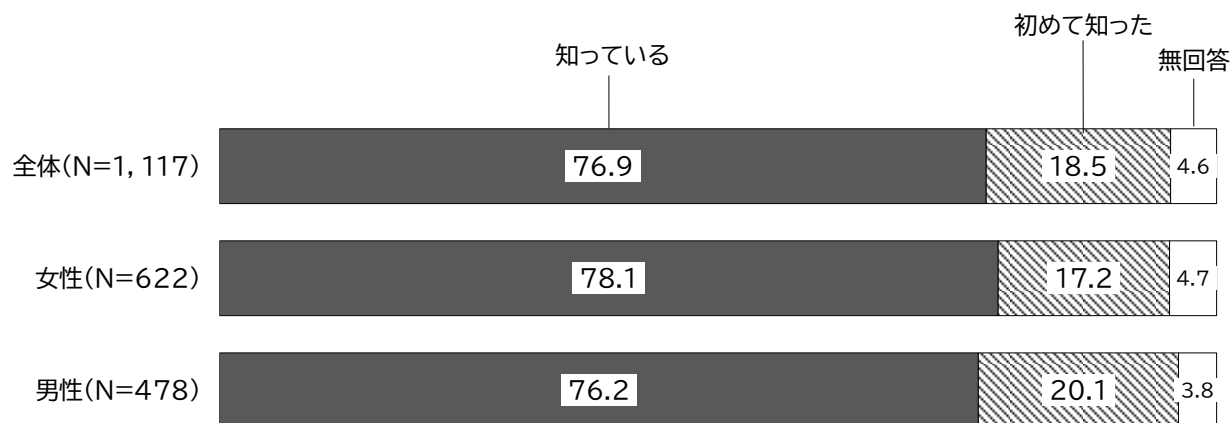
図表 10-2-2 L G B T の認知状況（性・年代別）



【令和2年調査との比較（参考）】

令和2年調査ではLGBTのみ認知のため、考慮が必要ですが、「知っている」は全体、男女ともに7割を超えています。（図表10-2-3）

図表 10-2-3 L G B T の認知状況（全体、令和7年・令和2年調査）参考



11 健康

(1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと

問 22 あなたは、性や妊娠・出産に関して自分で決め、女性が自分の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

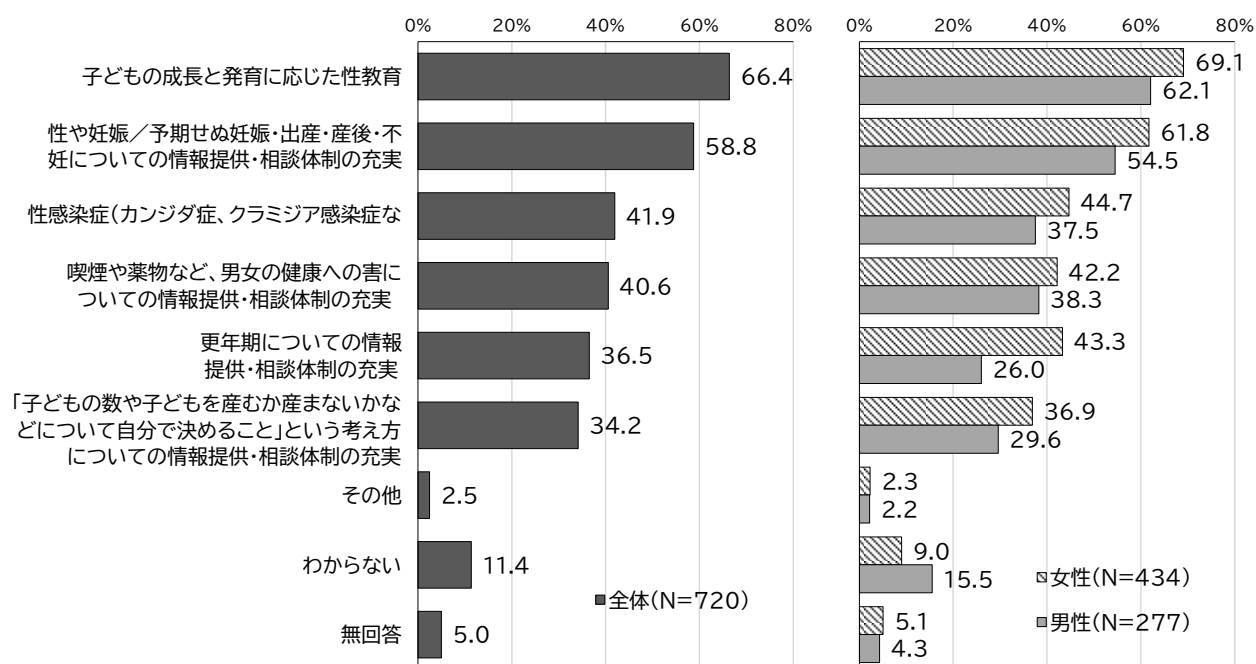
【全体】

全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育(66.4%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(58.8%)」、「性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実(41.9%)」、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(40.6%)」が続いています。(図表11-1-1)

【性別】

性別でみると、「わからない」を除くすべての項目で女性の割合が男性よりも上回っています。特に「更年期についての情報提供・相談体制の充実(女性:43.3%、男性:26.0%)」は17.3%女性が上回っています。(図表11-1-1)

図表 11-1-1 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと（全体、性別：複数回答）

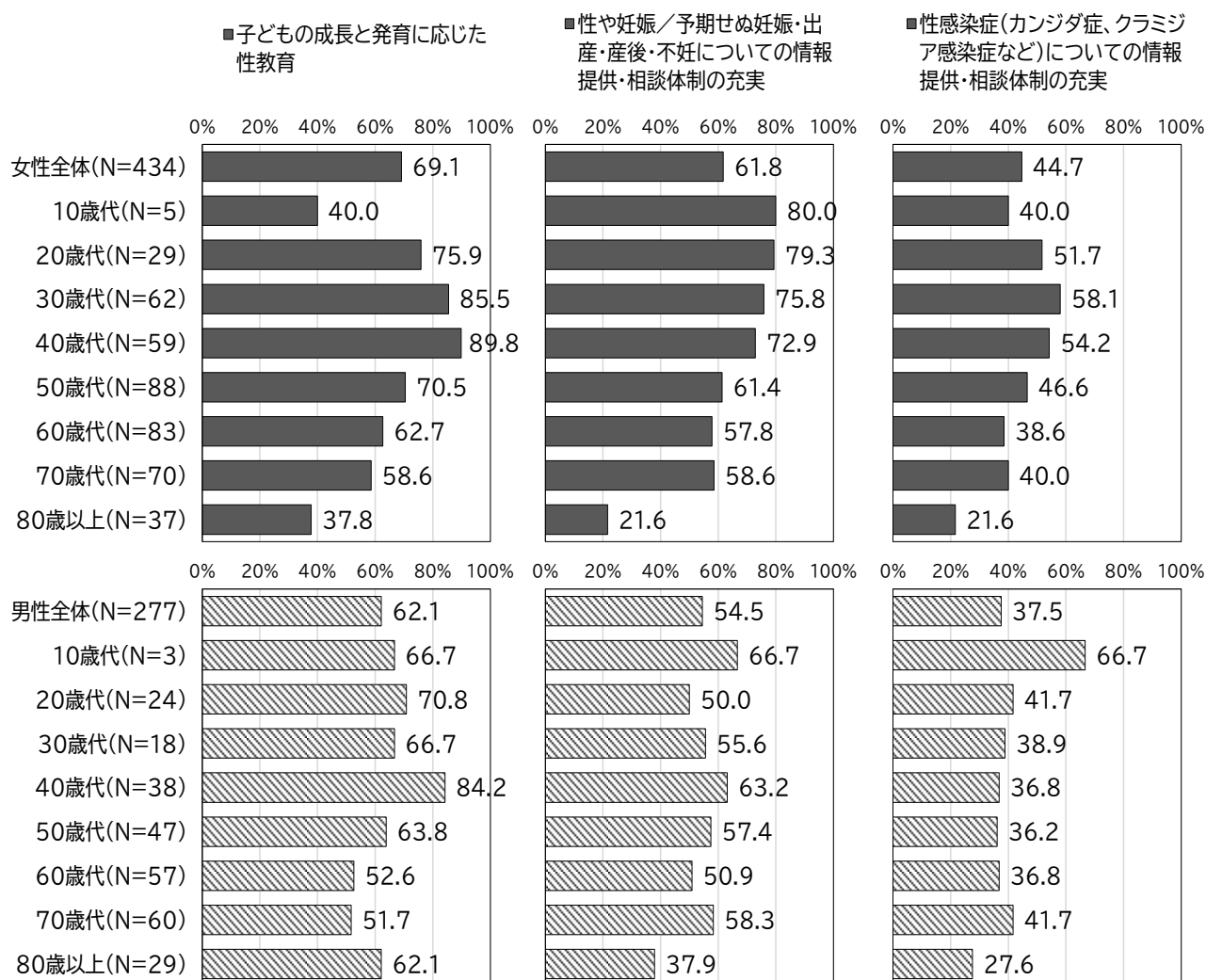


【性・年代別】

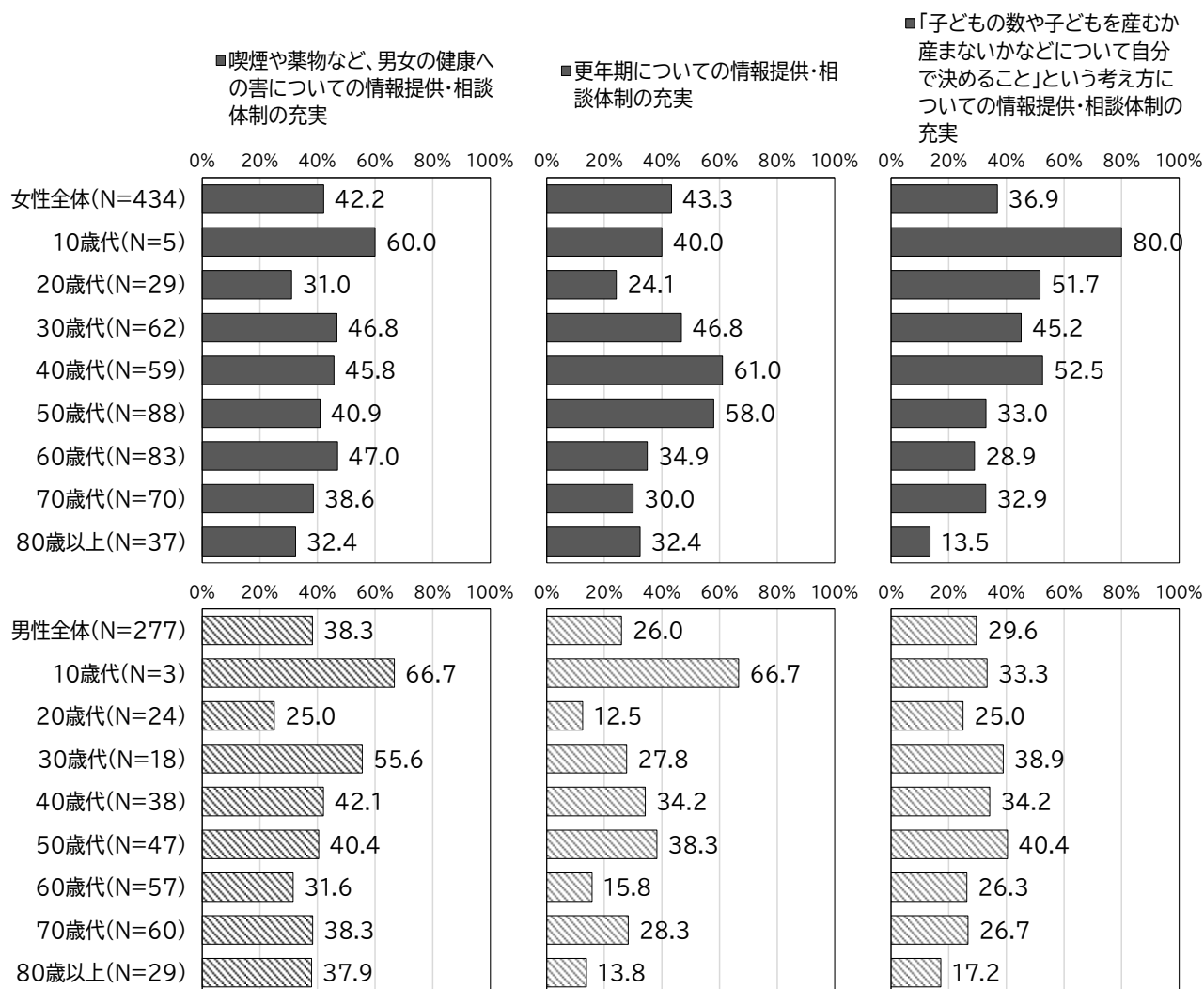
性・年代別にみると、女性は30歳代と40歳代で「子どもの成長と発育に応じた性教育」が8割を超えています。

男性は40歳代で「子どもの成長と発育に応じた性教育」が8割台と他の年代に比べて多くなっています。(図表11-1-2-①②)

図表 11-1-2-1 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



図表 11-1-2-② 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)

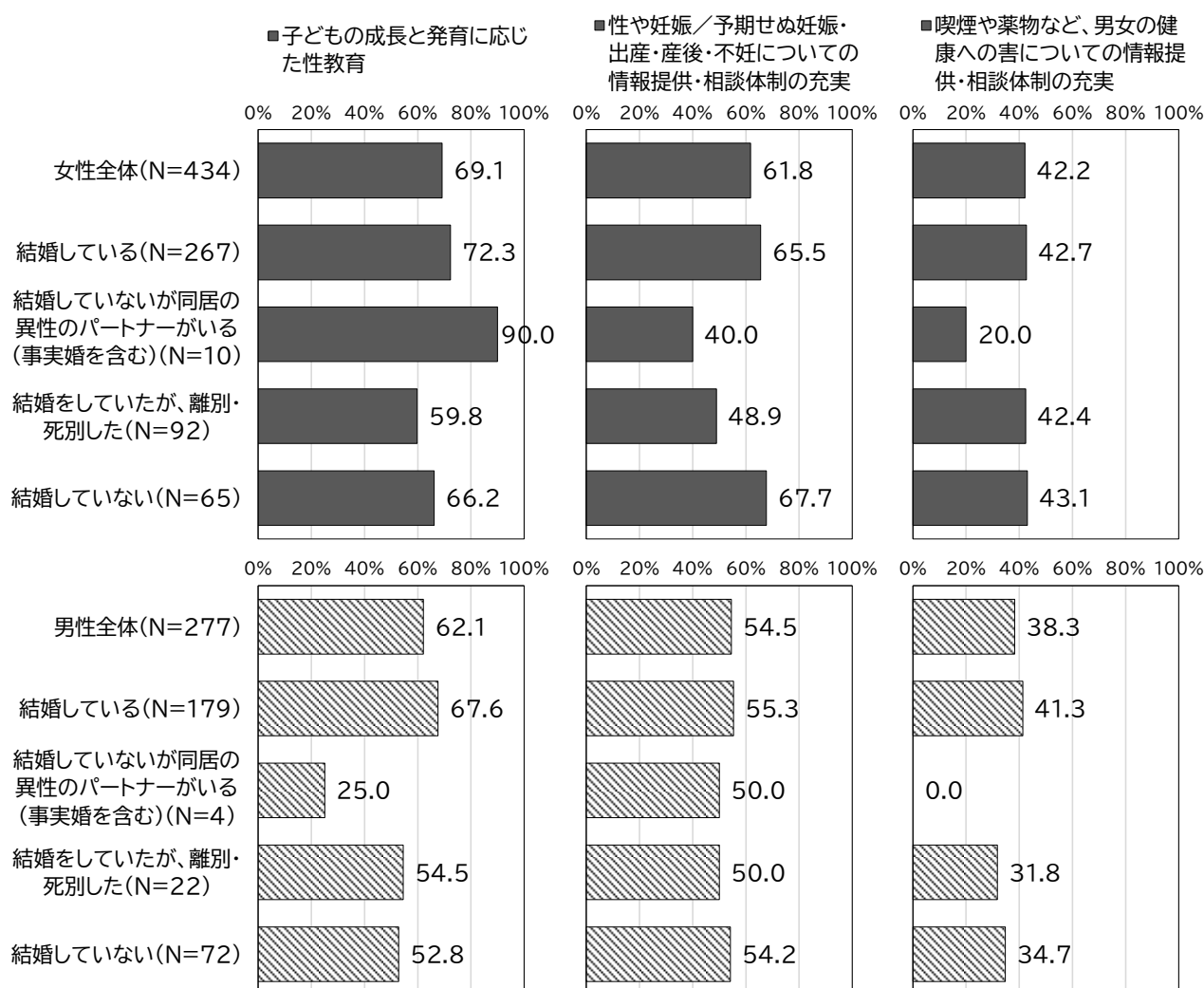


【性・未既婚別】

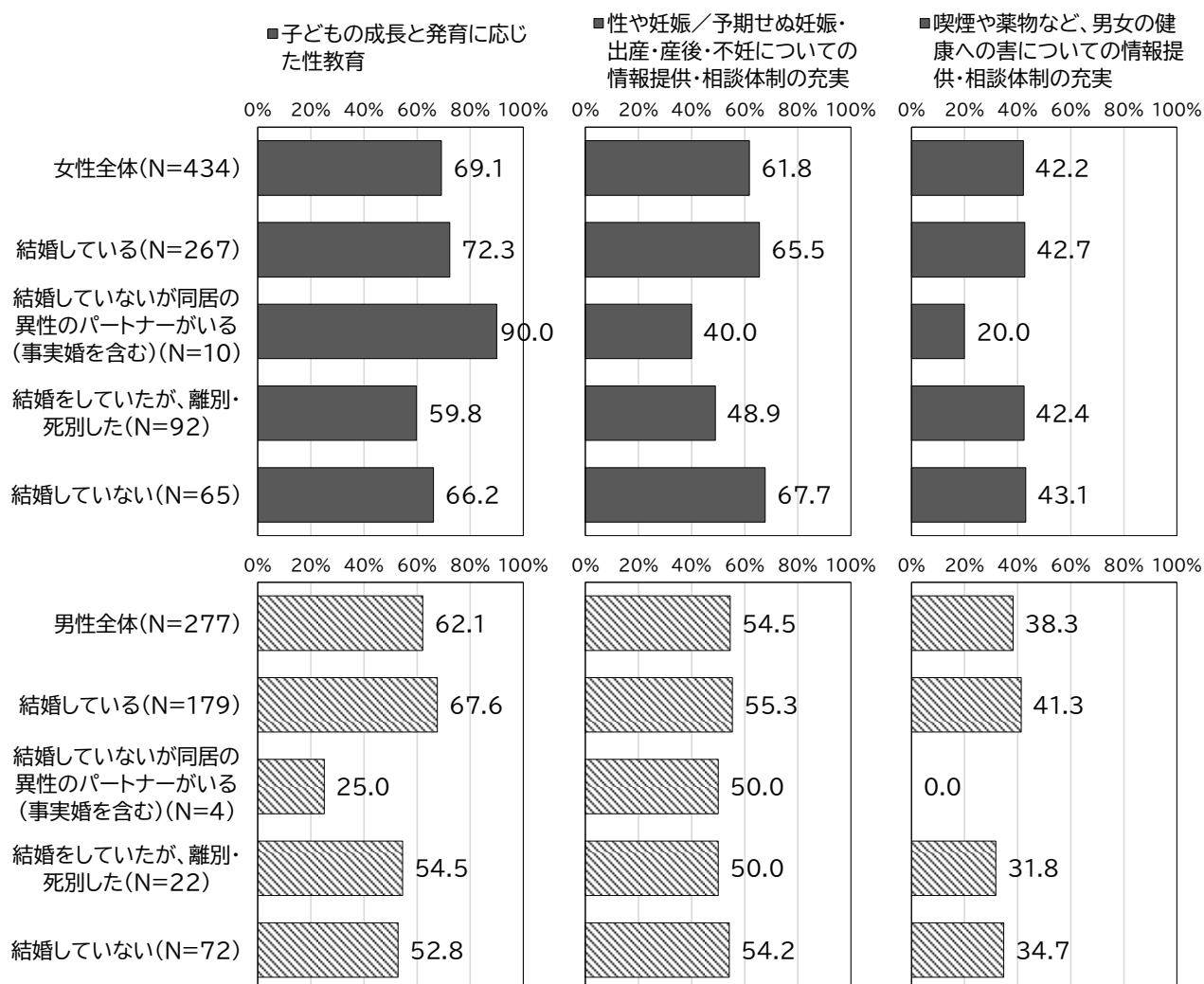
性・未既婚別にみると、女性の既婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が69.1%、未婚では「性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」が67.7%と多くなっています。

男性は、女性と同様に既婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が67.6%、未婚では「性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」が54.2%と多くなっています。
(図表11-1-3-①②)

図表 11-1-3-① 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・未既婚別、上位6項目：複数回答)



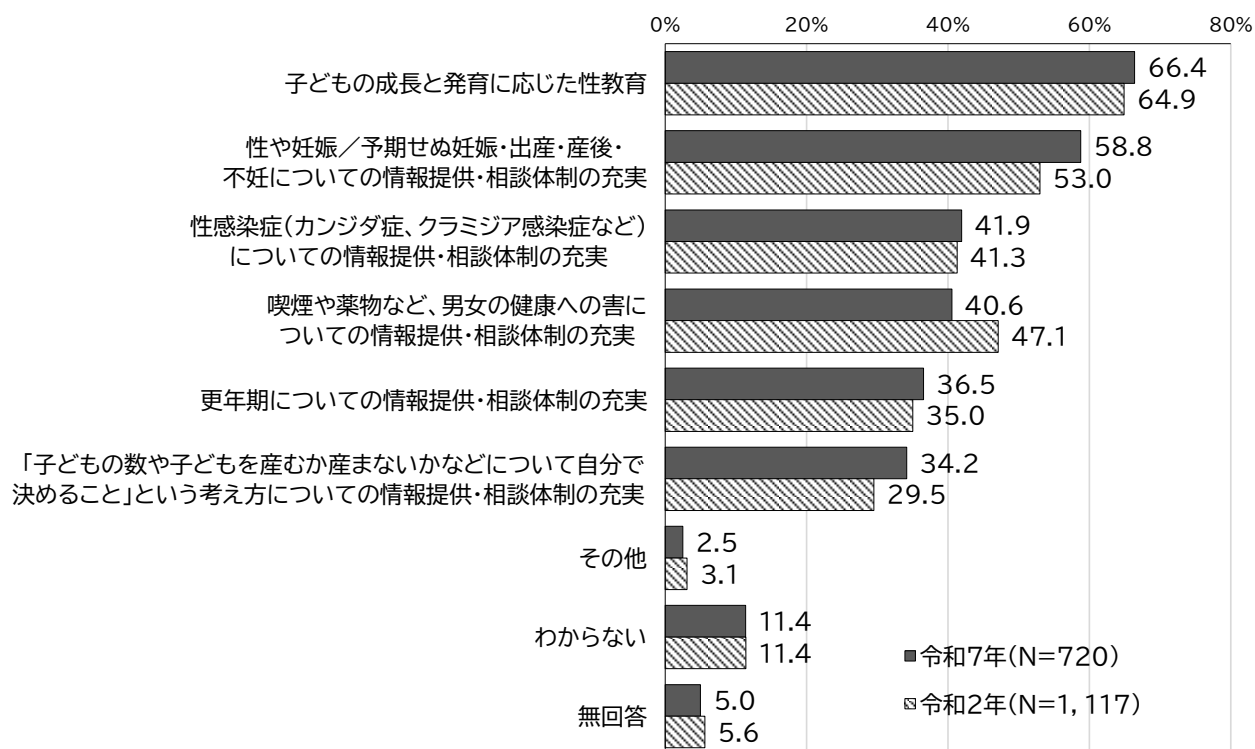
図表 11-1-3-② 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・未婚別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」が減っている以外、全ての項目で令和2年調査よりも増えています。(図表11-1-4)

図表 11-1-4 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



12 学校教育

(1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと

問 23 あなたは、男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

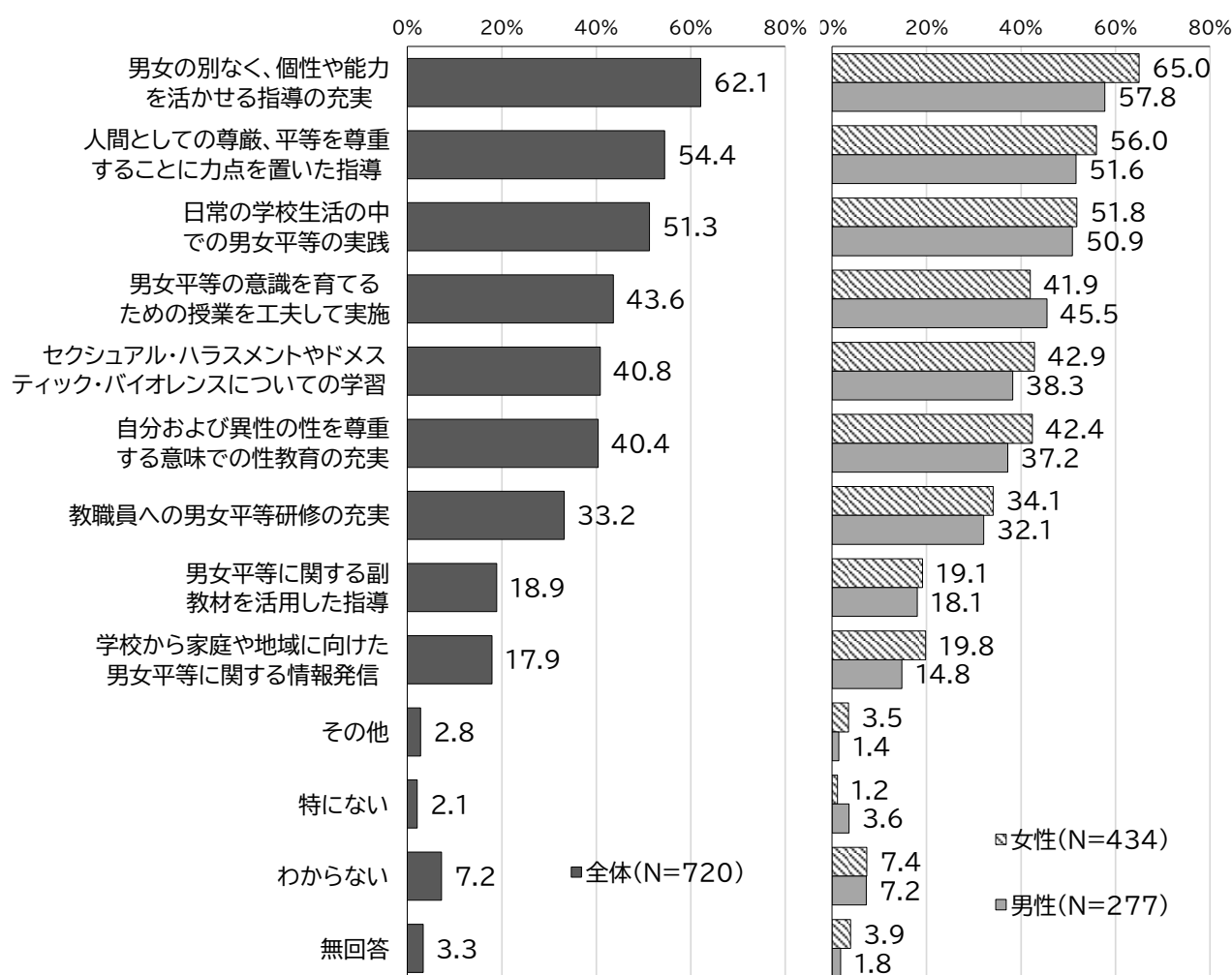
【全体】

全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(62.1%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(54.4%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(51.3%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(43.6%)」「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習(40.8%)」が続いています。(図表12-1-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(女性:65.0%、男性:57.8%)」、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(女性:56.0%、男性:51.6%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(女性:51.8%、男性:50.9%)」が5割以上となっています。(図表12-1-1)

図表 12-1-1 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、性別：複数回答)

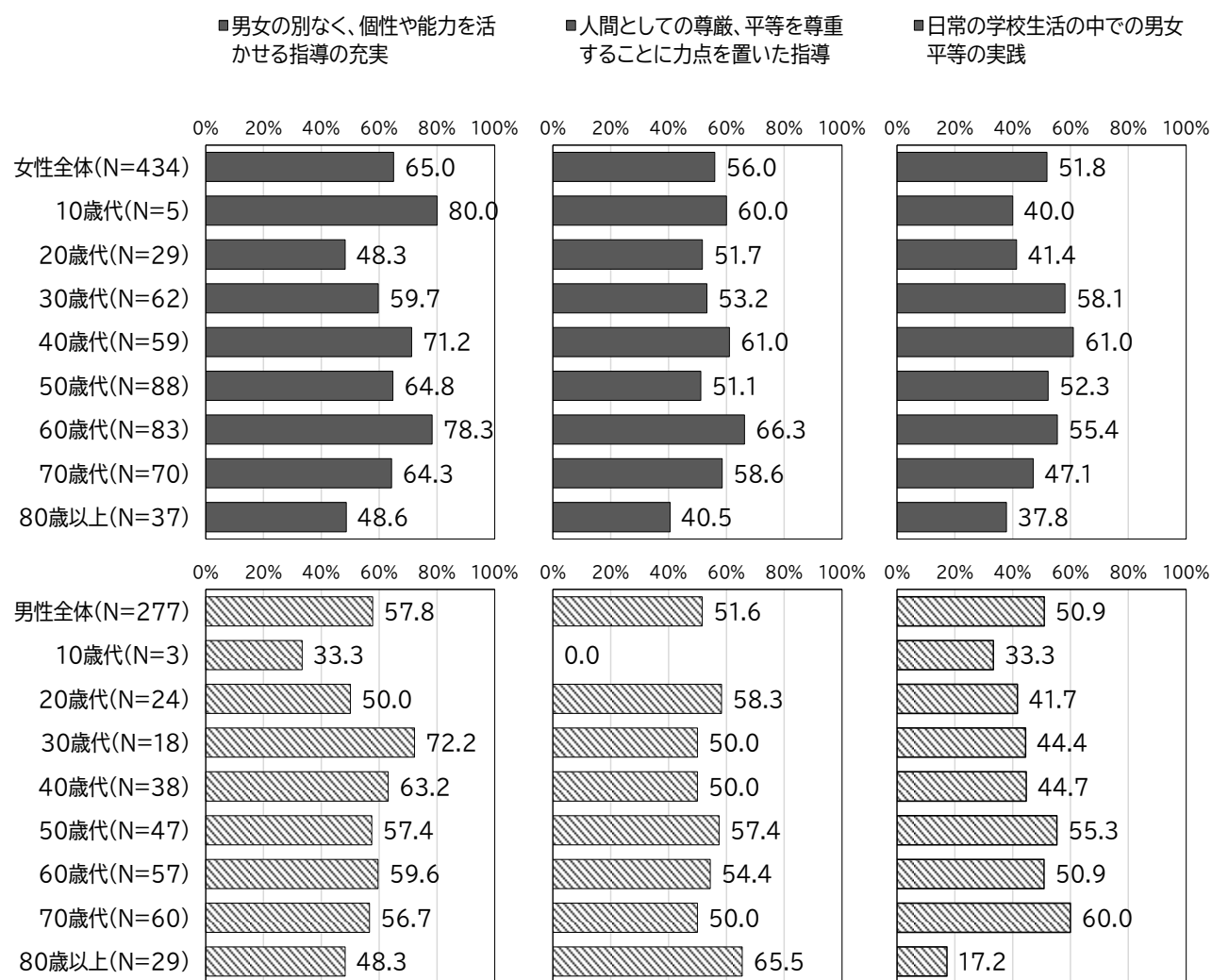


【性・年代別】

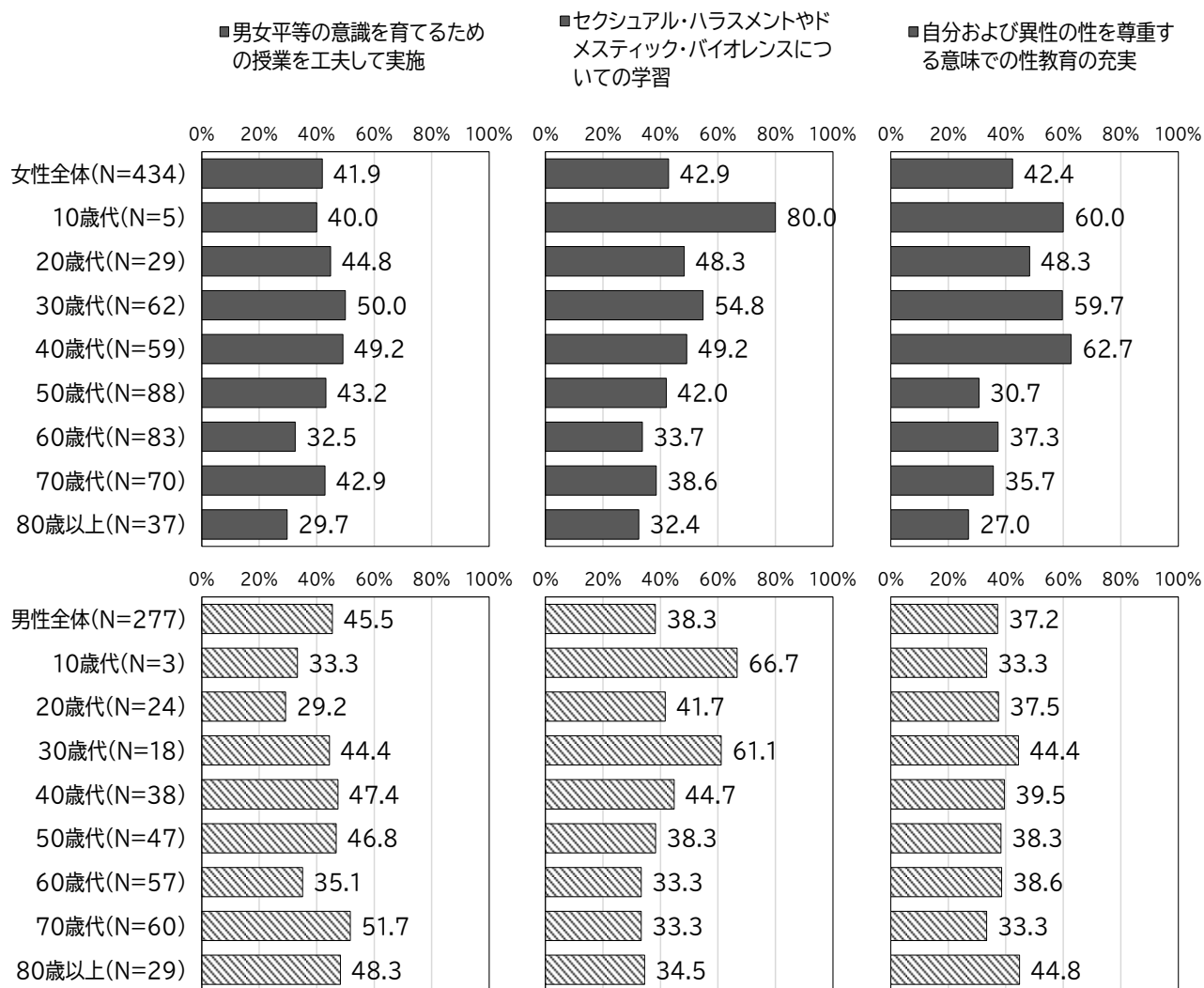
性・年代別にみると、女性は「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」が40歳代で71.2%、60歳代で78.3%と他の年代と比べて多くなっています。

男性は30歳代で「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」が72.2%と他の年代に比べて多くなっています。(図表12-1-2-①②)

図表 12-1-2-① 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



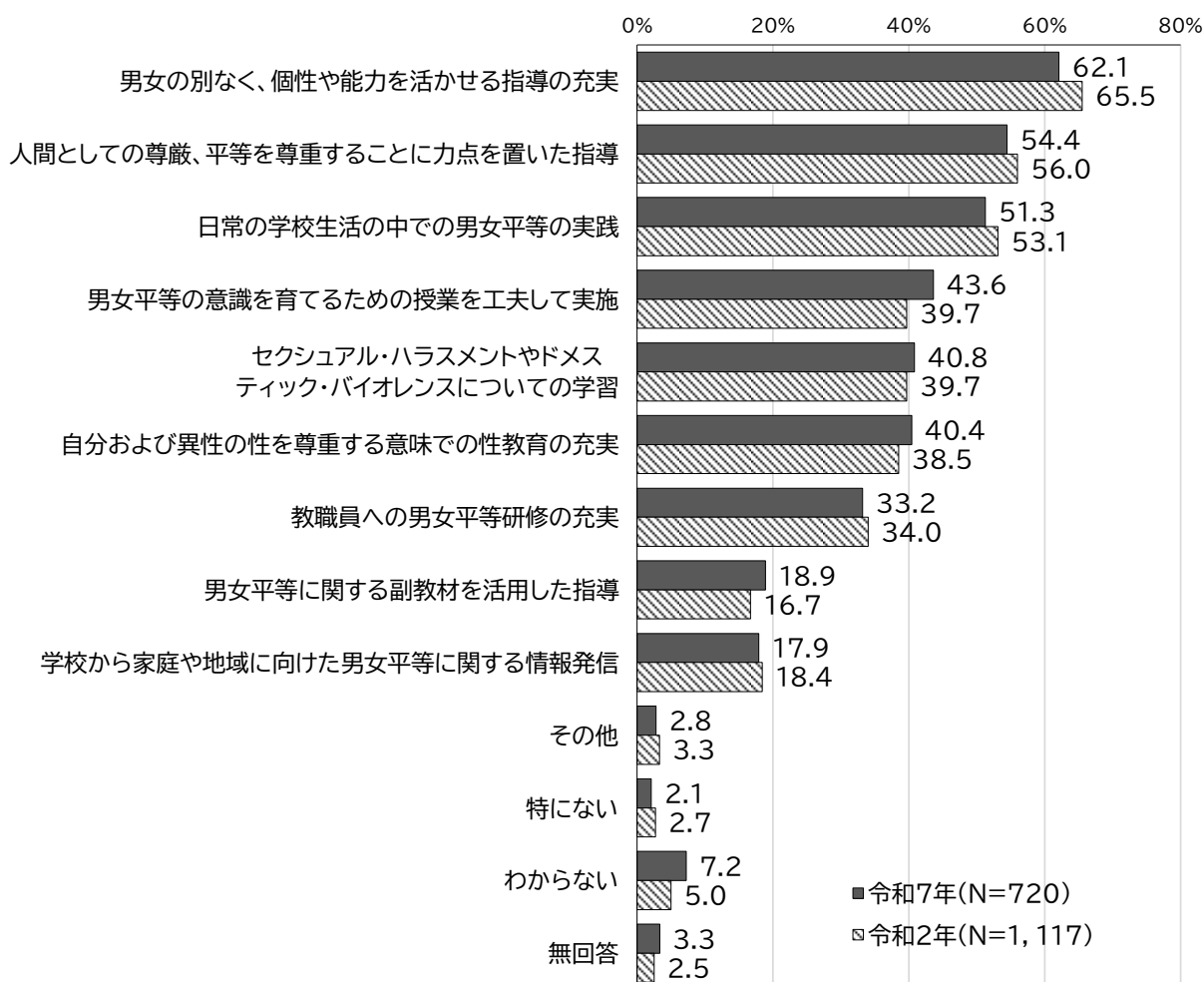
図表 12-1-2-② 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、傾向に大きな変化はありませんが、上位3項目の割合が減っています。(図表12-1-3)

図表 12-1-3 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



13 女性の社会参画

(1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価

問 24 葛飾区では、区の施策に女性の意見が十分に反映されるよう、審議会などの施策・方針決定過程への女性の参画を推進しております。そのため、「葛飾区男女平等推進計画(第6次)」(令和4年度～令和8年度)の計画期間中に審議会などへの女性の参画率を、令和8年度末に40%以上とすることを目標としています。現在、区議会議員の中に占める女性議員の数は39人中13人(33.0%)、審議会などの女性委員は1,063人中324人(30.5%)となっています。あなたは、この状況をどのように思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

全体では、「男女半々くらいまで増えたほうがよい(33.8%)」が最も多く、「もう少し女性が増えたほうがよい(31.3%)」が続いています。

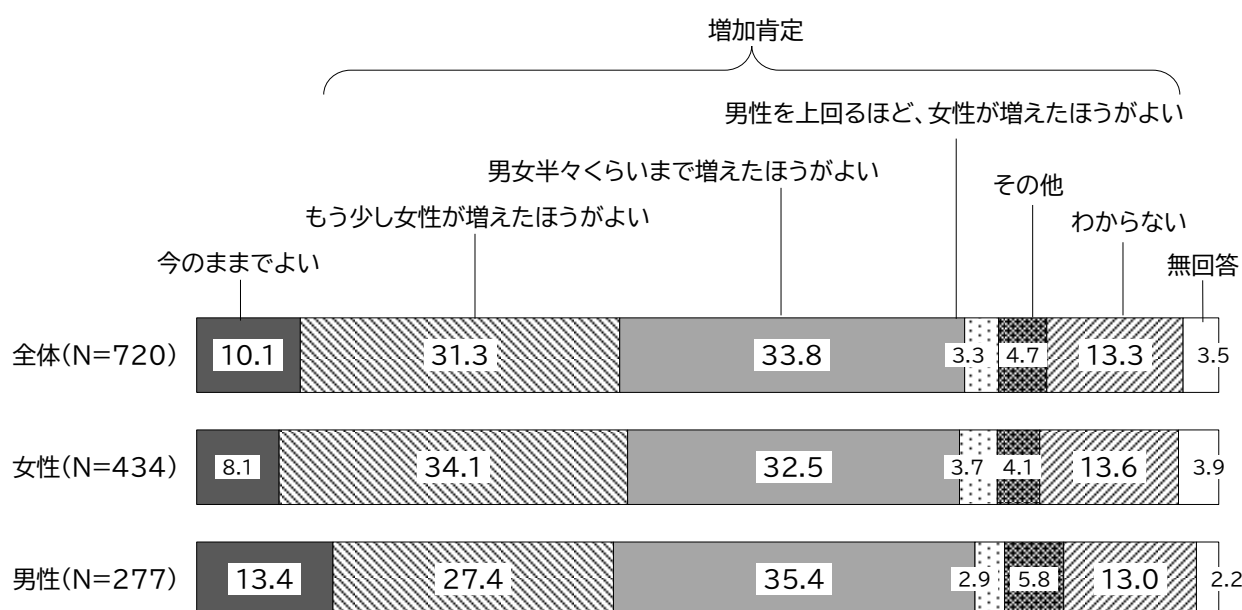
「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、68.4%となっています。(図表13-1-1)

【性別】

性別でみると、女性は「もう少し女性が増えたほうがよい(女性:34.1%、男性:27.4%)」で男性を6.7%上回っています。一方で、男性は「今のままでよい(女性:8.1%、男性:13.4%)」で女性を5.3%上回っています。

《増加肯定》は女性(70.3%)が男性(65.7%)を4.6%上回っています。(図表13-1-1)

図表 13-1-1 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別）

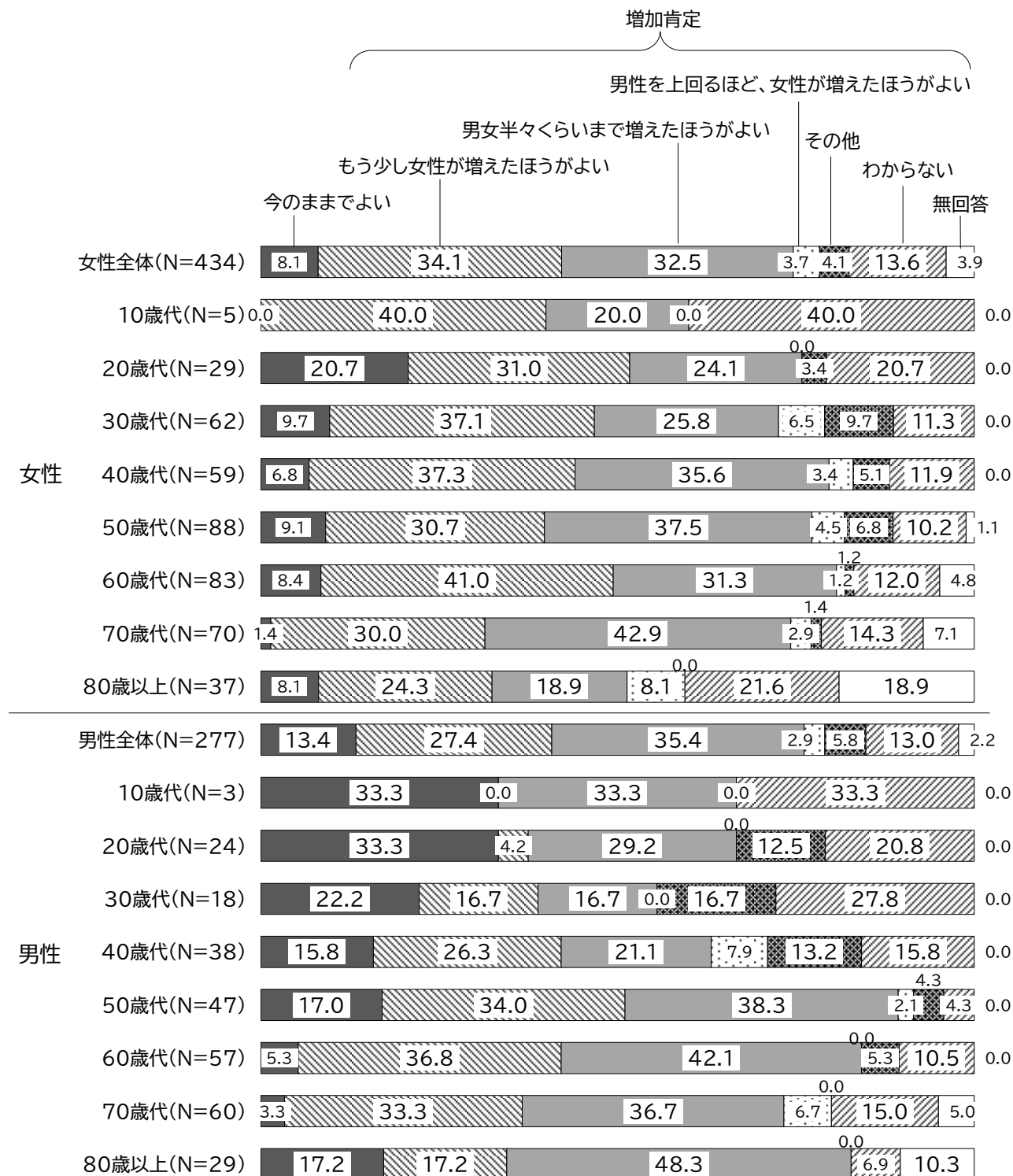


【性・年代別】

性・年代別にみると、《増加肯定》は、女性の40歳代で76.3%、50歳代で72.7%、60歳代で73.5%、70歳代で75.8%、

男性は、50歳代が74.4%、60歳代が78.9%、87歳代が76.7%と7割を超えています。(図表13-1-2)

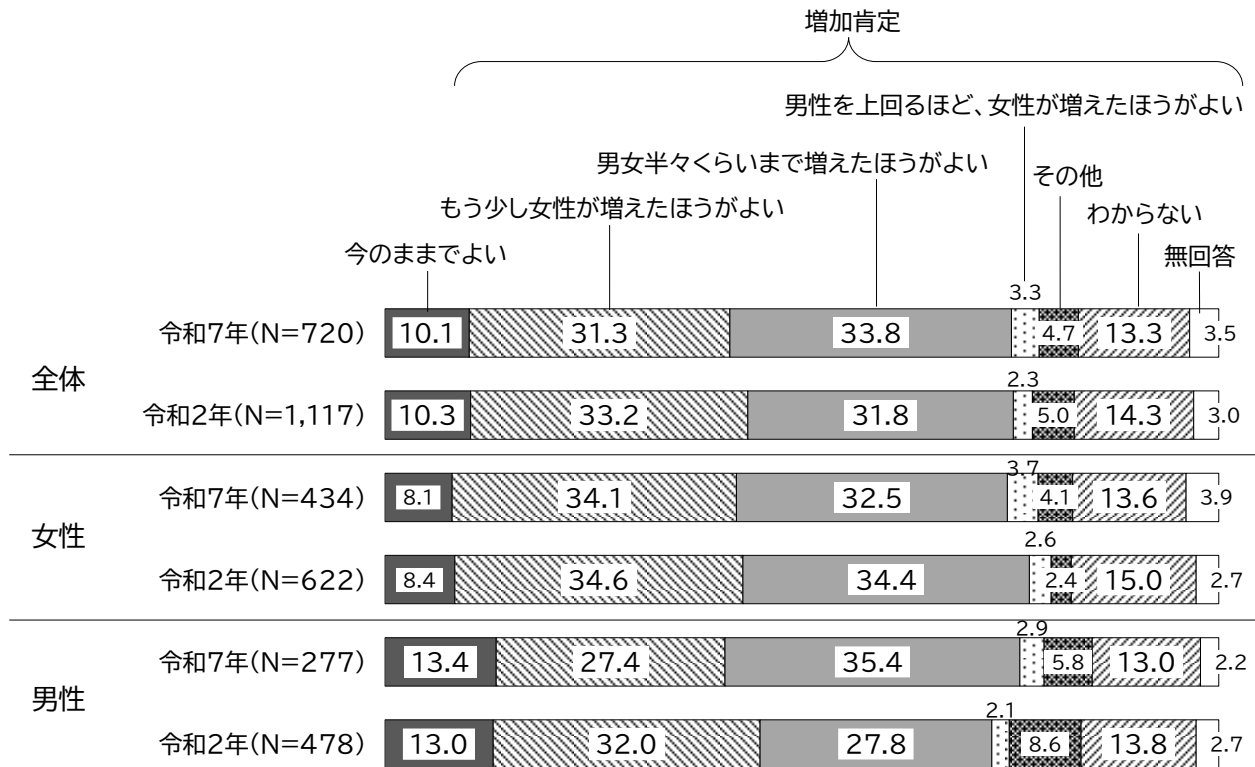
図表 13-1-2 区議会議員等に占める女性議員数の評価（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、《増加肯定》では、女性は令和2年調査の71.6%から70.3%に1.3%減り、男性は令和2年調査の61.9%から65.7%に3.8%増えています。(図表13-1-3)

図表 13-1-3 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別、令和7年・令和2年調査）



(2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因

問 25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

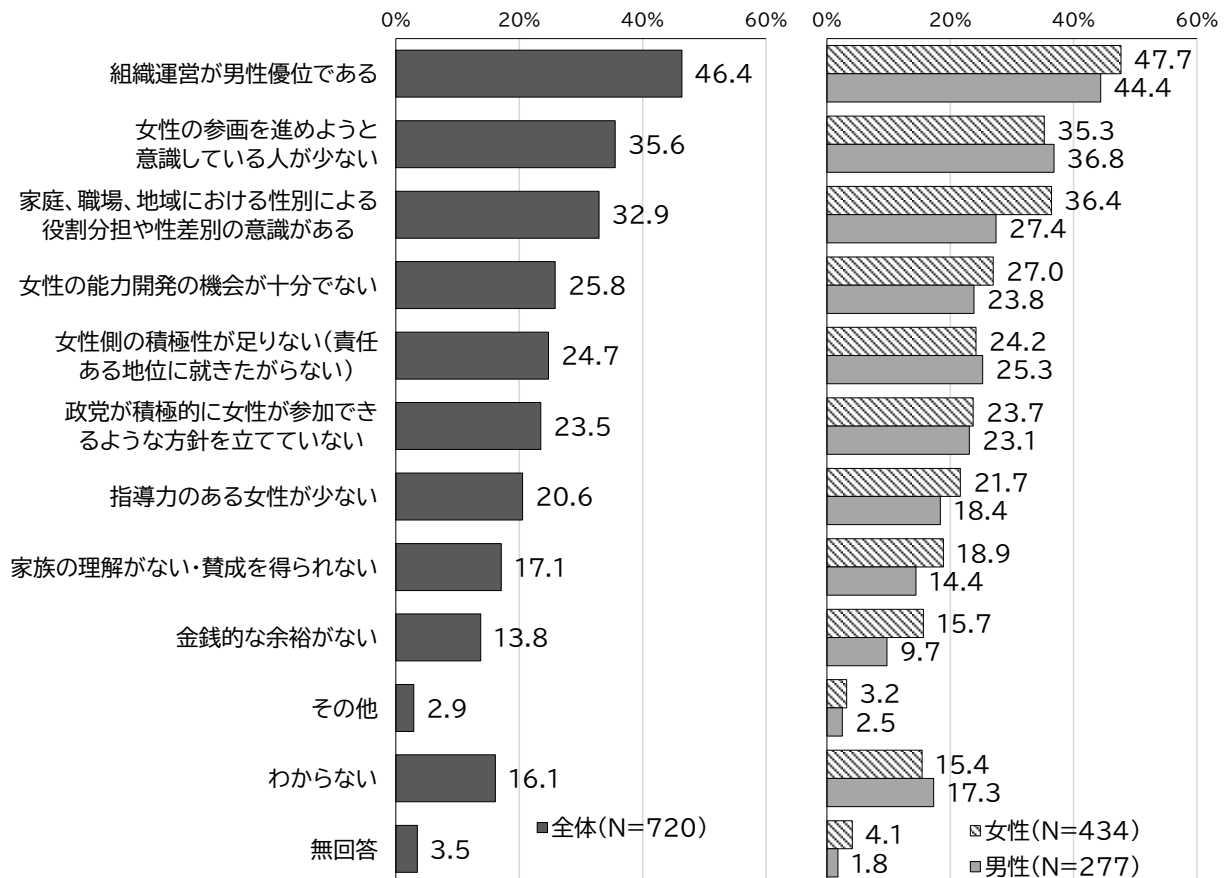
全体では、「組織運営が男性優位である(46.4%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(35.6%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(32.9%)」、「女性の能力開発の機会が十分でない(25.8%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)(24.7%)」が続いています。(図表13-2-1)

【性別】

性別でみると、女性は「組織運営が男性優位である(女性:47.7%、男性:44.4%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある(女性:36.4%、男性:27.4%)」がそれぞれ男性を3.3%、9.0%上回っています。

男性は「女性の参画を進めようと意識している人が少ない(女性:36.8%、男性:35.3%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない)女性:24.2%、男性:25.3%)」が女性を上回っています。(図表13-2-1)

図表 13-2-1 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因（全体、性別：複数回答）

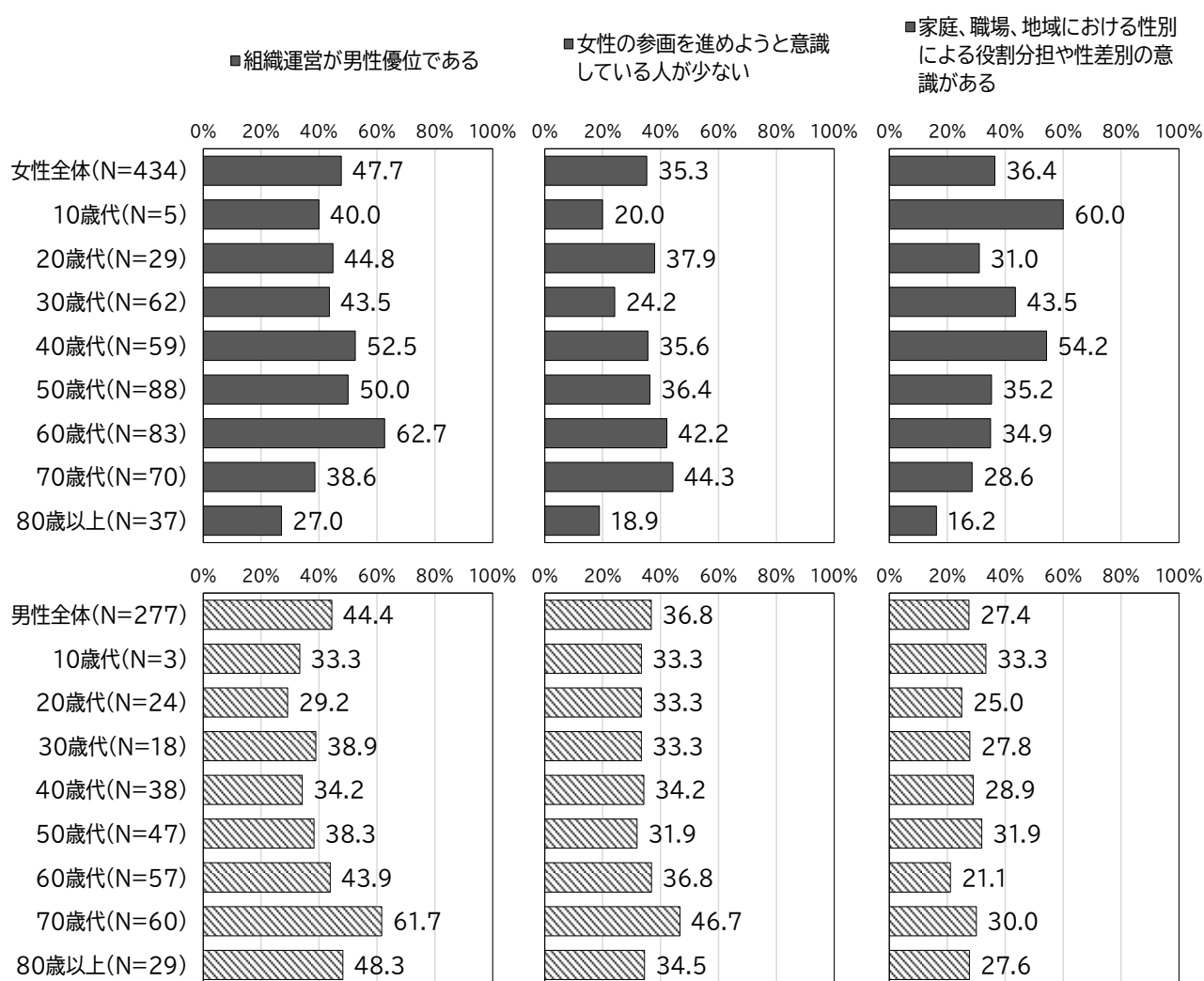


【性・年代別】

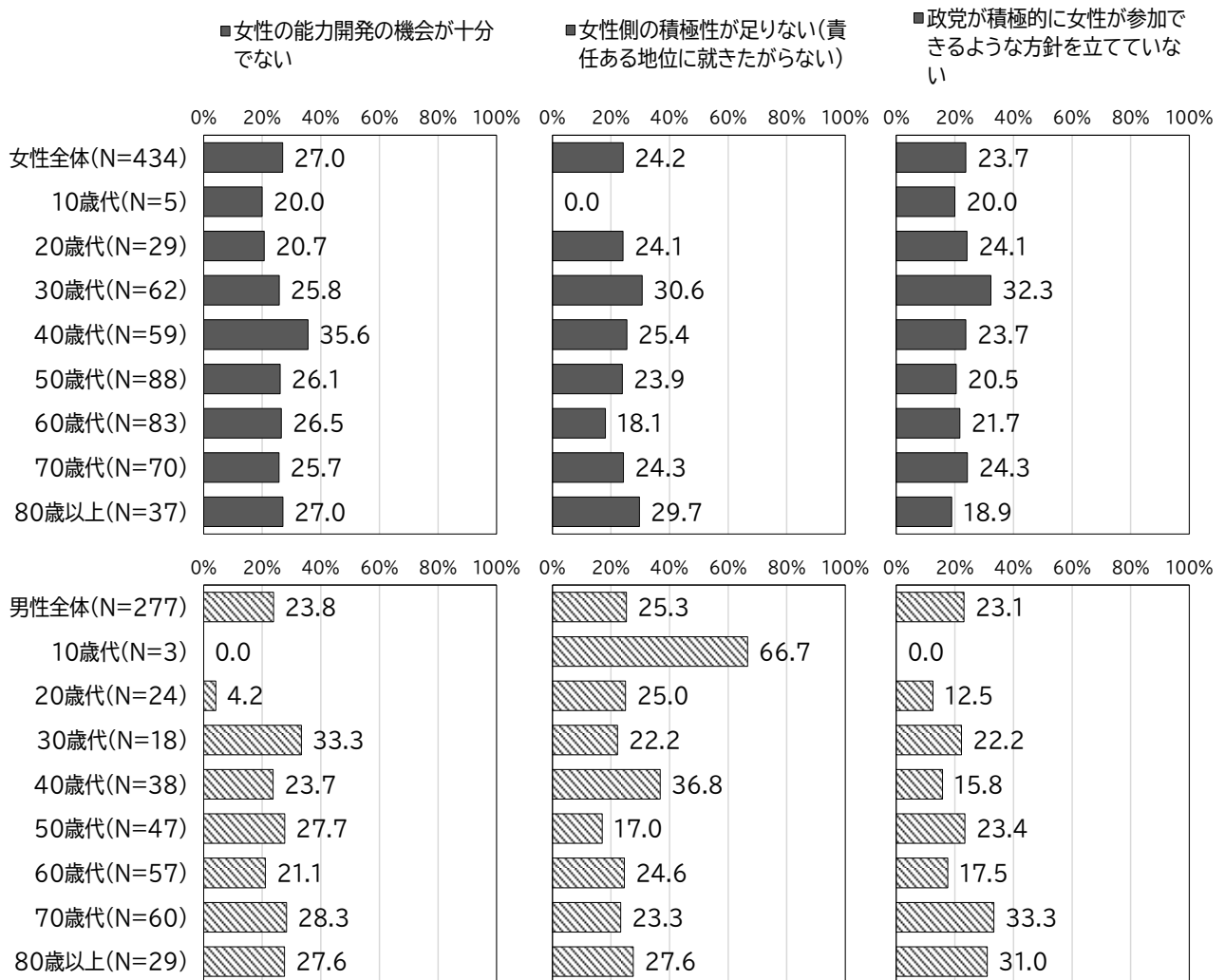
性・年代別にみると、女性は60歳代で「組織運営が男性優位である」が62.7%と他の年代と比べて多くなっており、次いで40歳代の「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」が54.2%となっています。

男性は70歳代で「組織運営が男性優位である」が61.7%と他の年代と比べて多くなっており、次いで「女性の参画を集めようと意識している人が少ない」が46.7%となっています。(図表13-2-1-①②)

図表 13-2-2-① 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



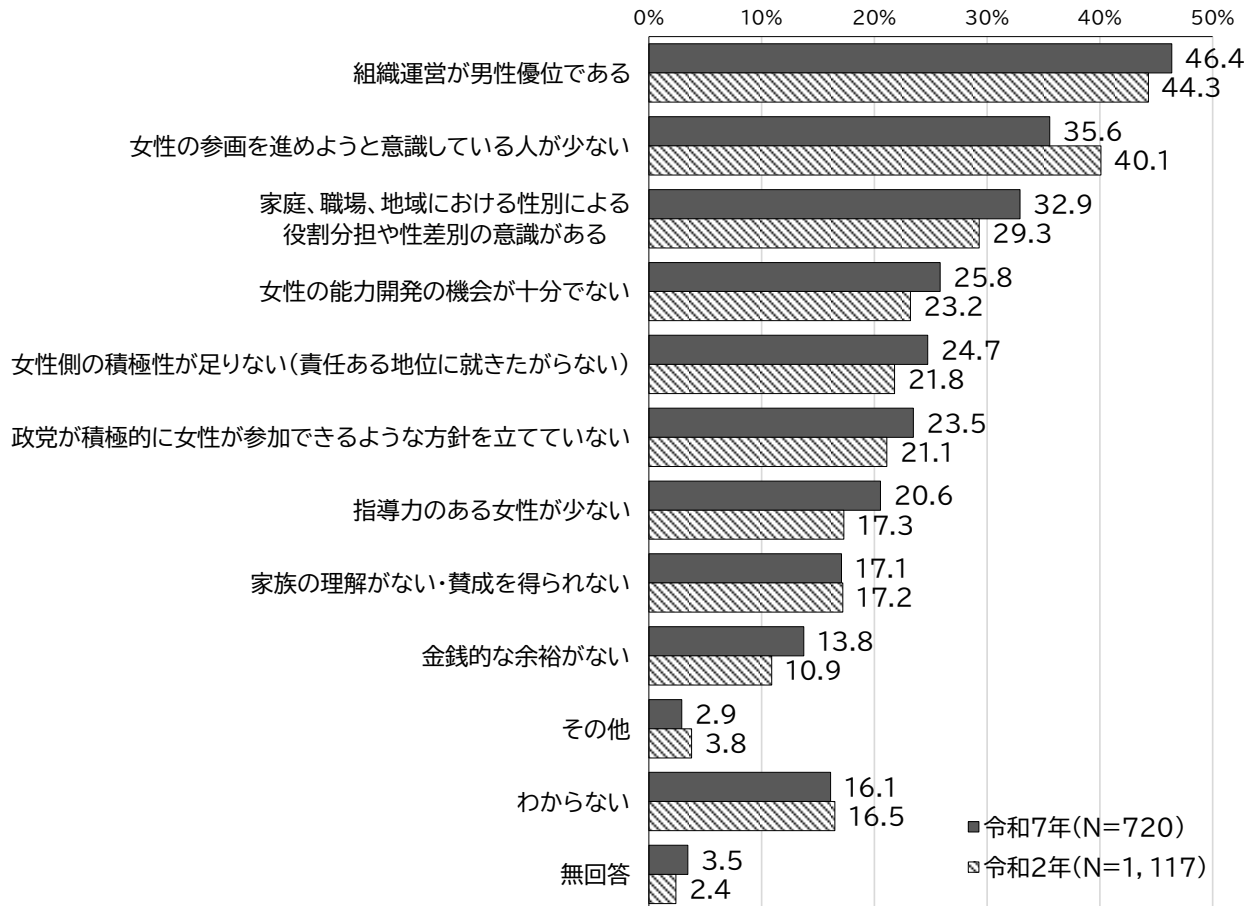
図表 13-2-2-② 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、ほとんどの項目で割合が上回っていますが、「女性の参画を進めよう」と意識している人が少ない」が4.5%減っています。(図表13-2-3)

図表 13-2-3 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



(3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと

問 26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

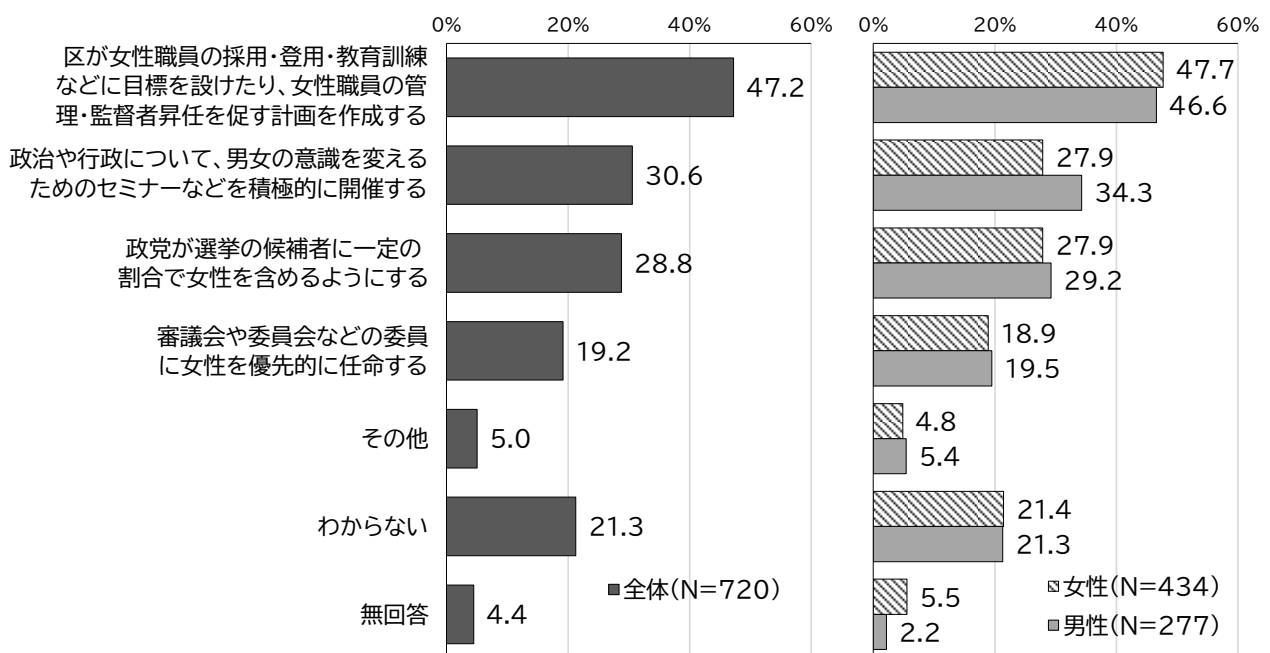
【全体】

全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する(47.2%)」が最も多く、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する(30.6%)」、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(28.8%)」が続いています。(図表13-3-1)

【性別】

性別にみても、全体と同様の結果となっています。(図表13-3-1)

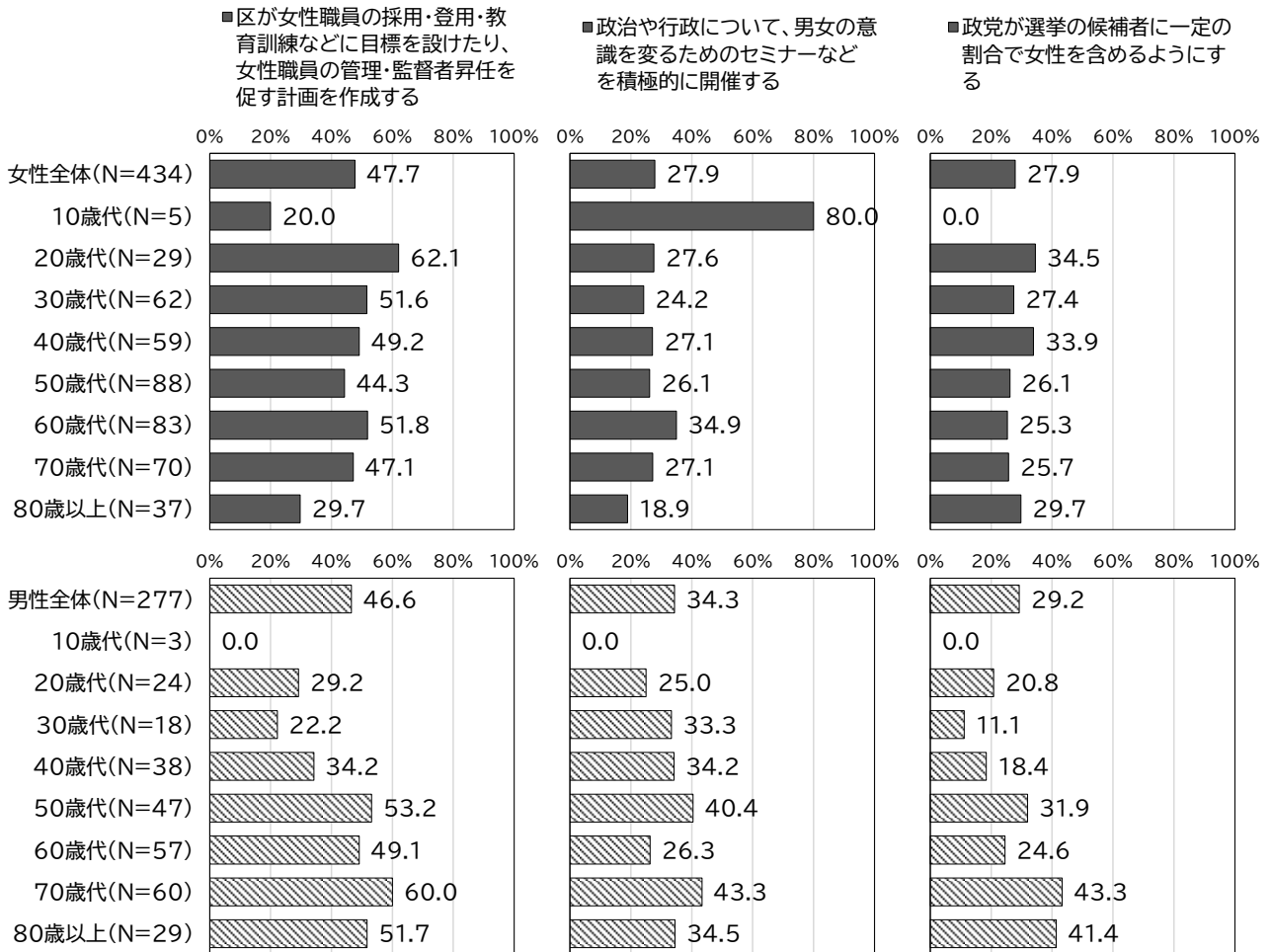
図表 13-3-1 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと（全体、性別）



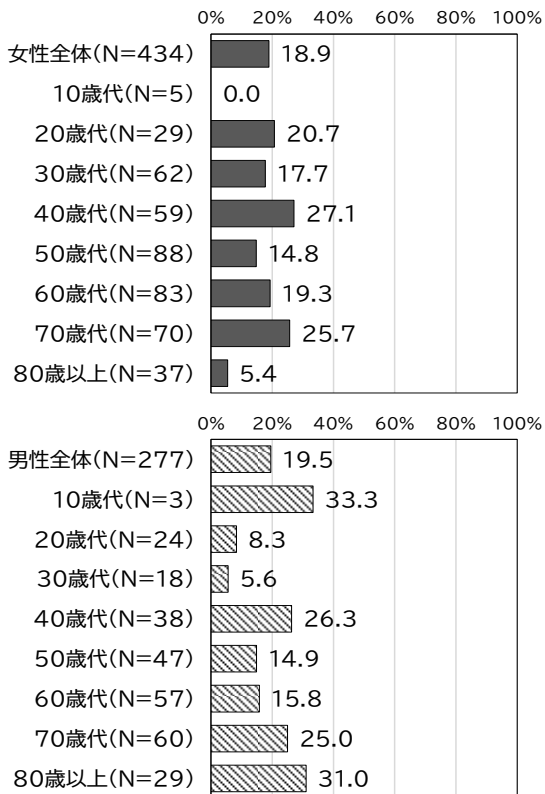
【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の20歳代、30歳代、60歳代、男性の50歳代、60歳代で「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」が5割以上と多くなっています。(図表13-3-2)

図表 13-3-2 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと（性・年代別、上位5項目：複数回答）



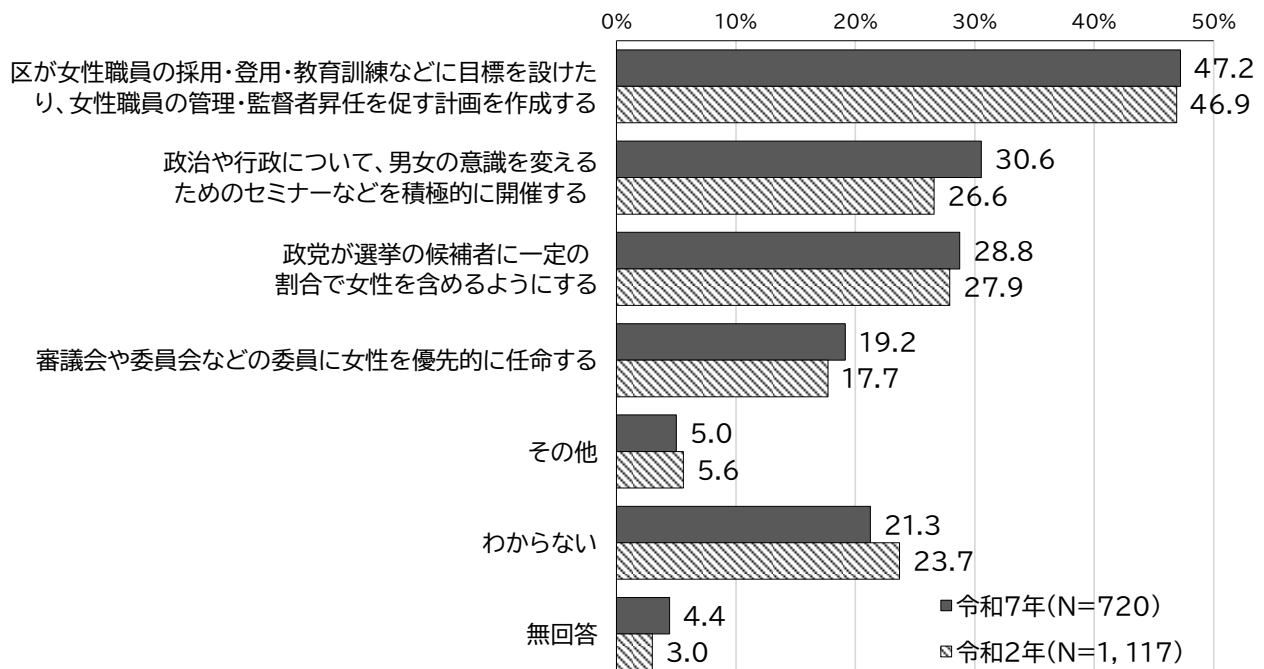
■審議会や委員会などの委員に
女性を優先的に任命する



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する」が4.0%増えているなど、4つの項目の割合が増えています。(図表13-3-3)

図表 13-3-3 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと
(全体、令和7年・令和2年調査：複数回答)



14 防災

(1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと

問 27 東日本大震災の発生以降、能登半島地震においても日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われております。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

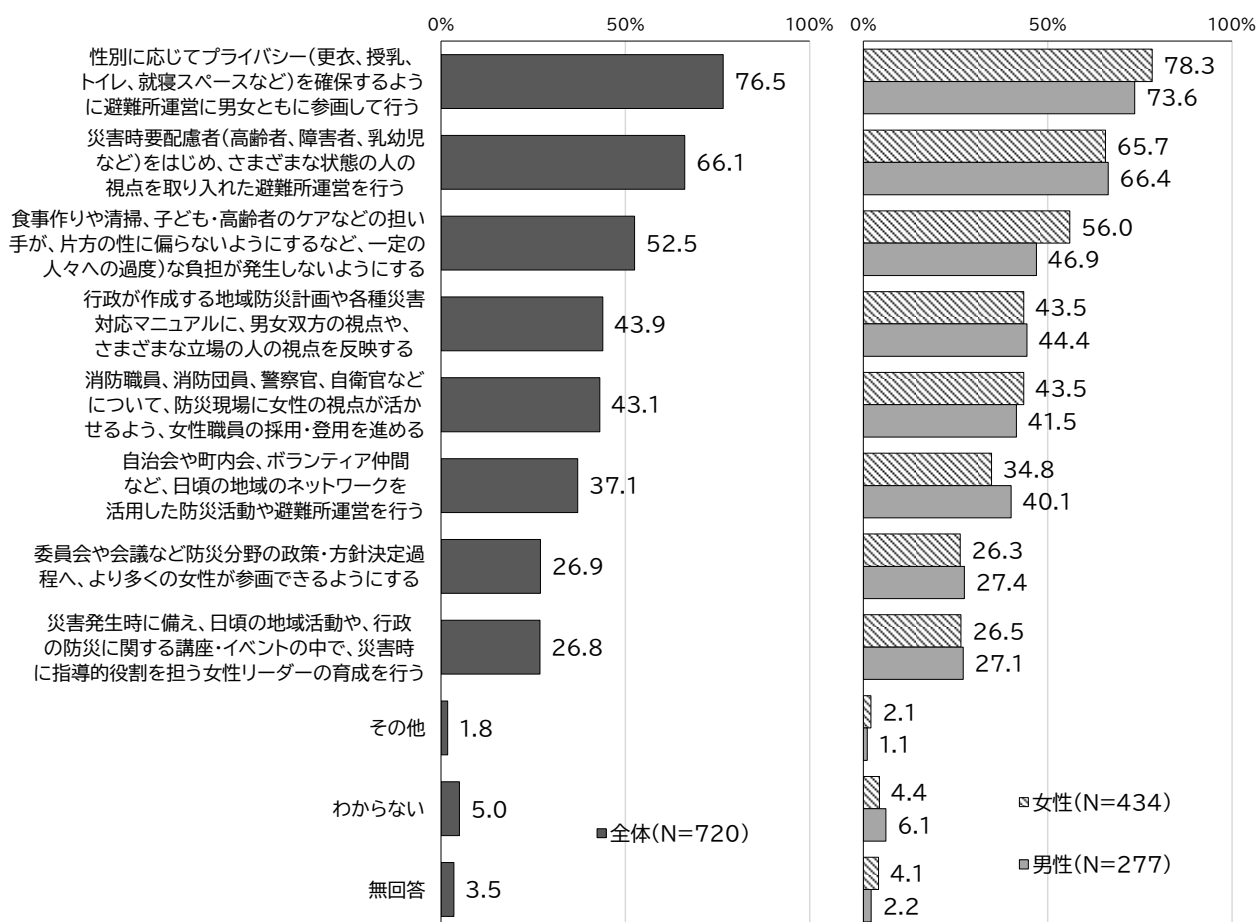
【全体】

全体では、「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(76.5%)」が最も多く、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う(66.1%)」、「食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(52.5%)」が続いています。(図表14-1-1)

【性別】

性別でみると、女性は性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う(女性:78.3%、男性:73.6%)、食事作りや清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにする(女性:56.0%、男性:46.9%)」などで男性を上回っています。(図表14-1-1)

図表 14-1-1 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
(全体、性別：複数回答)

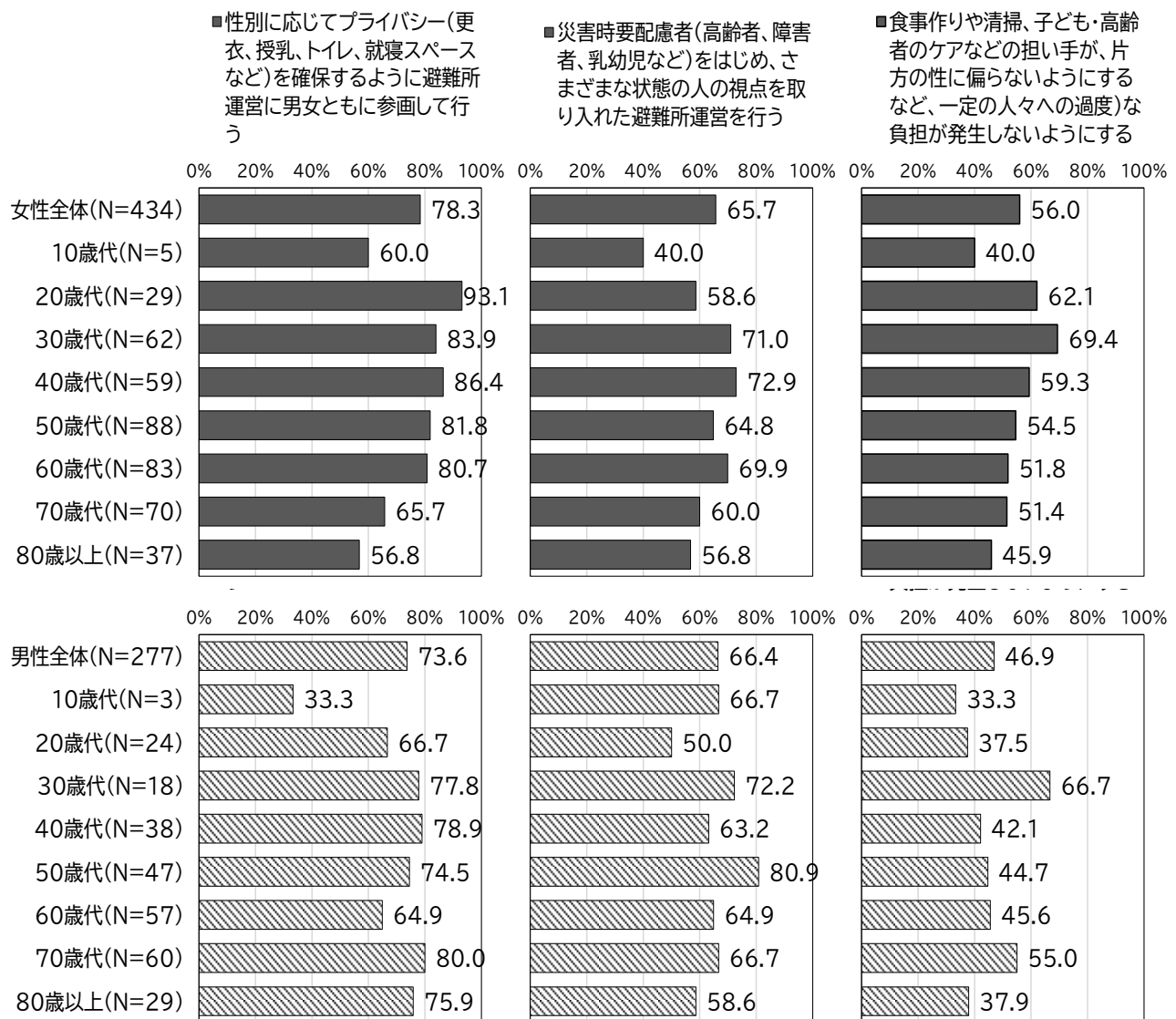


【性・年代別】

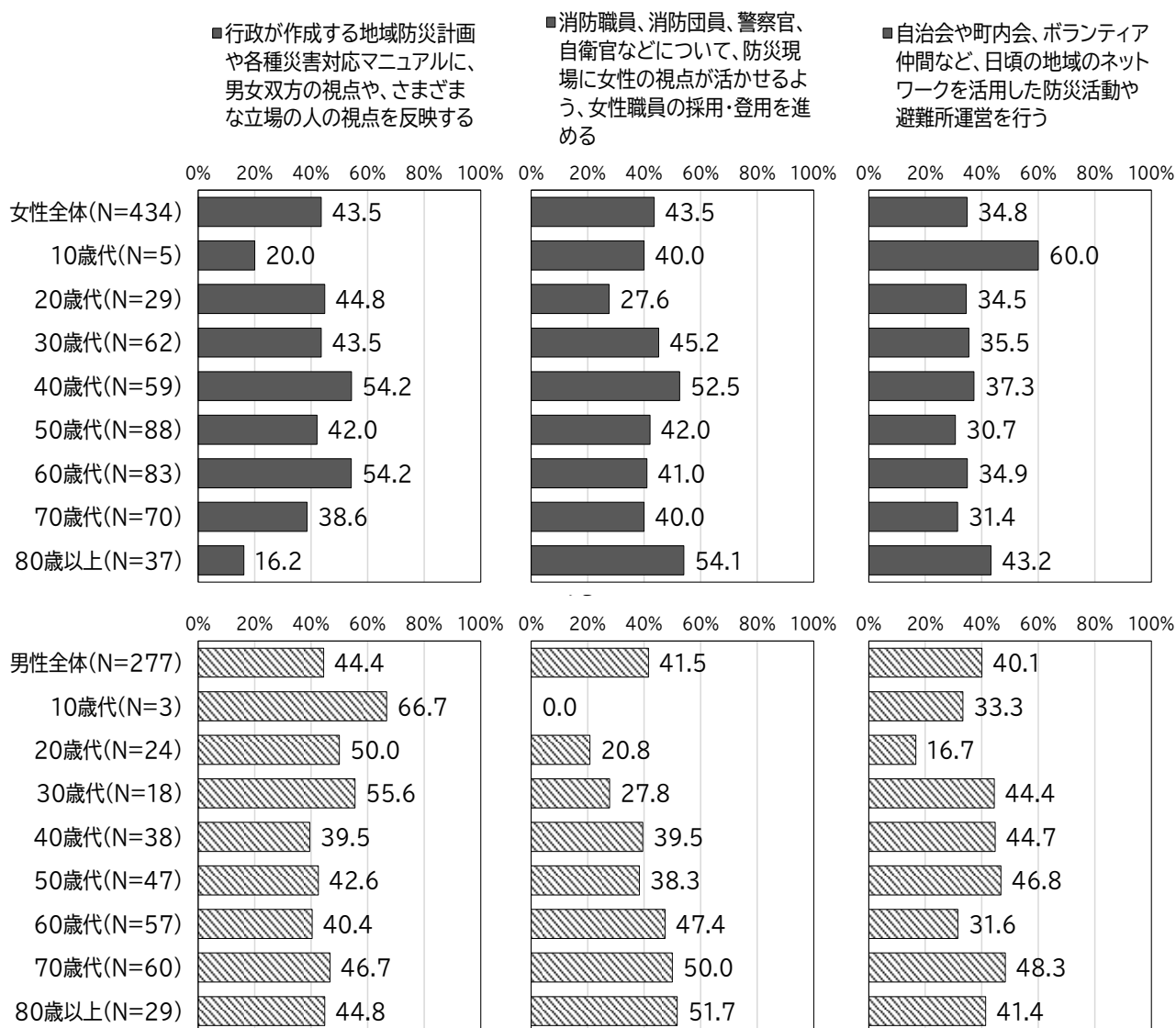
性・年代別にみると、女性の20歳代から60歳代は「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う」が8割以上となっており、特に20歳代は98.1%と多くなっています。また、30歳代、40歳代は「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う」は7割以上となっています。

男性は30歳代から50歳代、70歳代と80歳以上で「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するように避難所運営に男女ともに参画して行う」が7割を超えています。また、30歳代、50歳代で「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う」は7割以上となっています。(図表14-1-2-①②)

図表 14-1-2-① 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



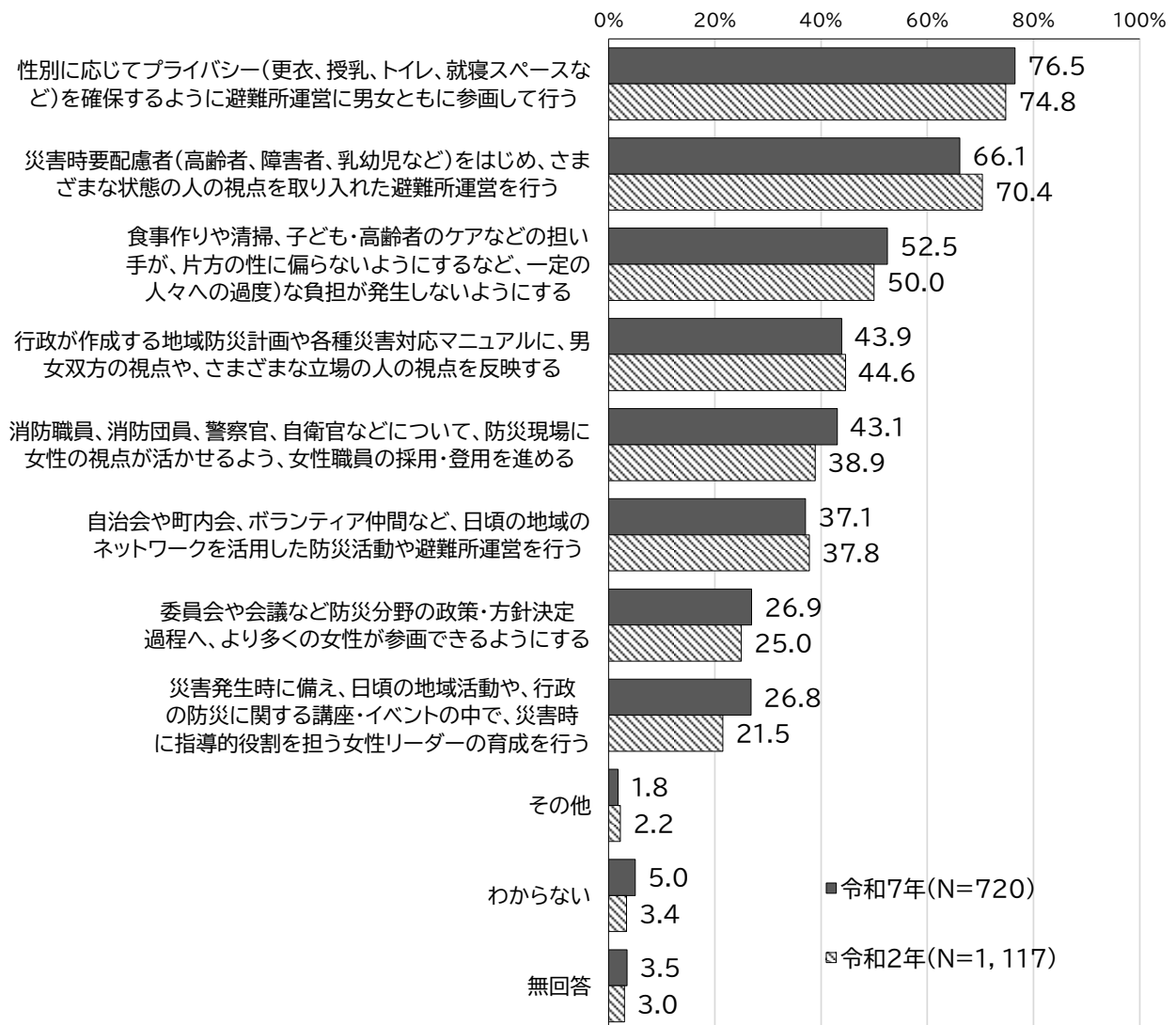
図表 14-1-2-② 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
(性・年代別、上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、傾向に大きな変化はありませんが、「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行う」が4.3%減っています。（図表14-1-3）

図表 14-1-3 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



15 施策や制度など

(1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況

問 28 「葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)」は、誰もが自分らしく生きていける男女平等社会の実現を目指す、学びと交流の場です。あなたは、葛飾区男女平等推進センター(ウィメンズパル)を知っていますか。(○は1つだけ)

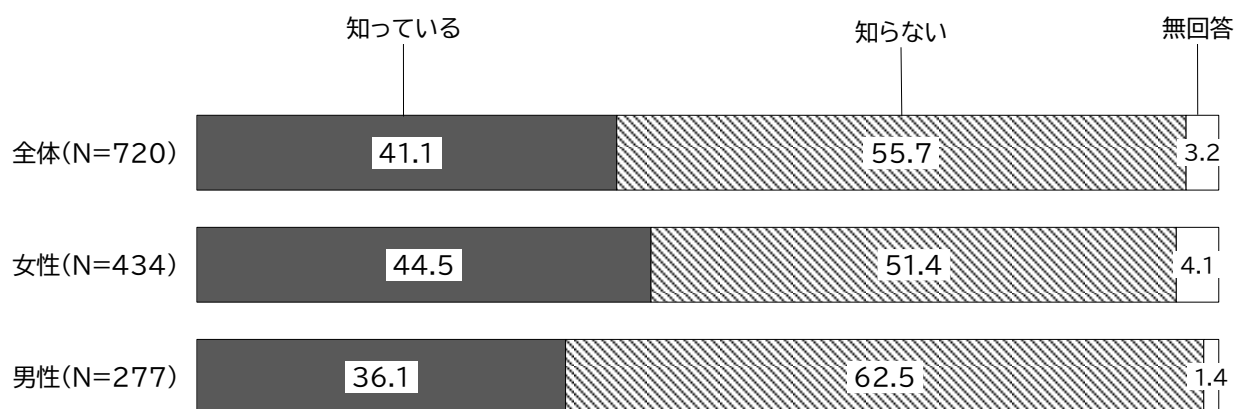
【全体】

全体では、「知っている」が41.1%、「知らない」が55.7%となっています。(図表15-1-1)

【性別】

性別でみると、女性は「知らない(51.4%)」が「知っている(44.5%)」よりも多くなっています。男性は「知らない(62.5%)」が6割を超えています。(図表15-1-1)

図表 15-1-1 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別）

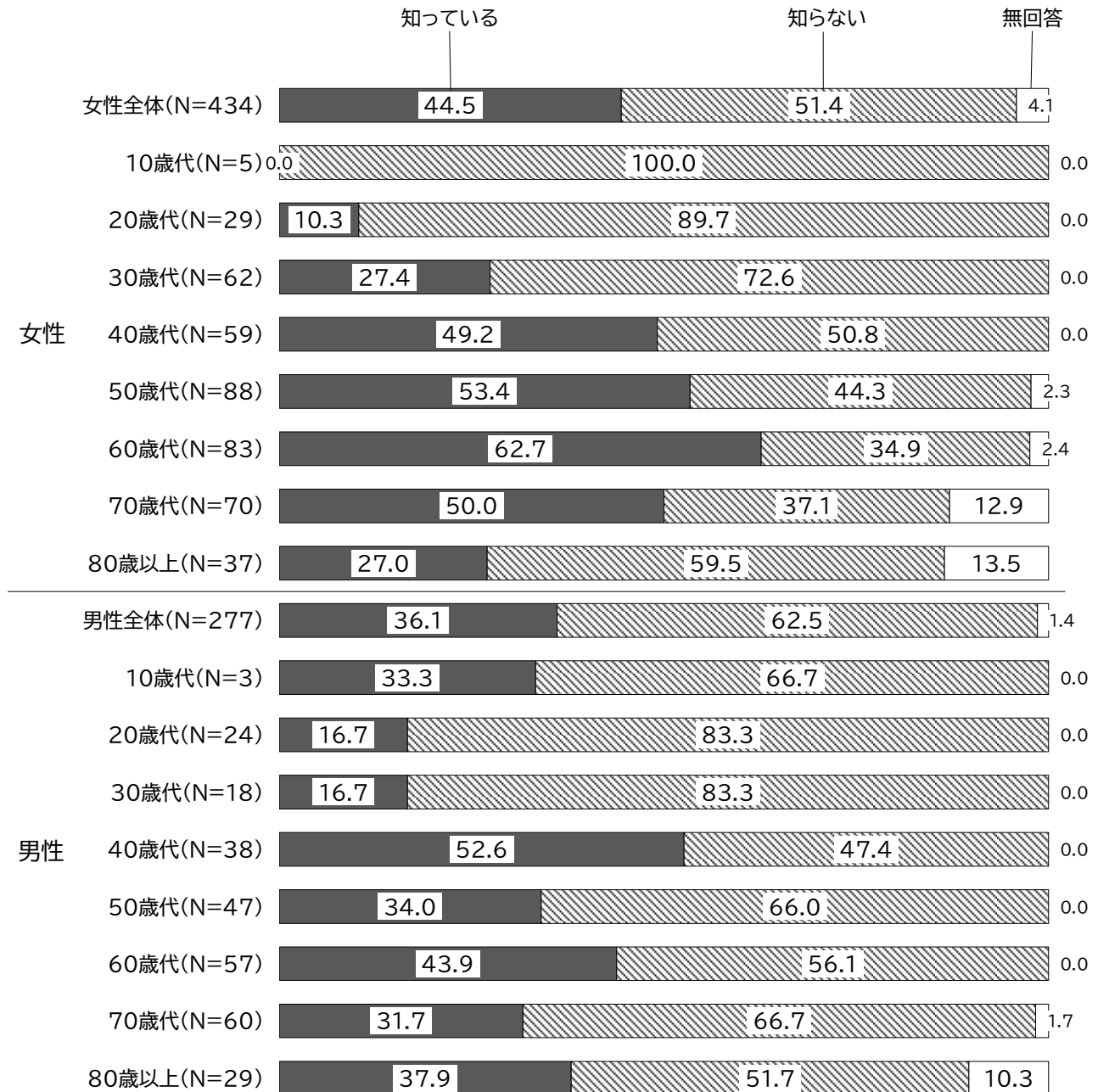


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は50歳代から70歳代で「知っている」が5割を超え、特に60歳代は62.7%と多くなっています。

男性は40歳代で「知っている」が52.6%と多くなっています。(図表15-1-2)

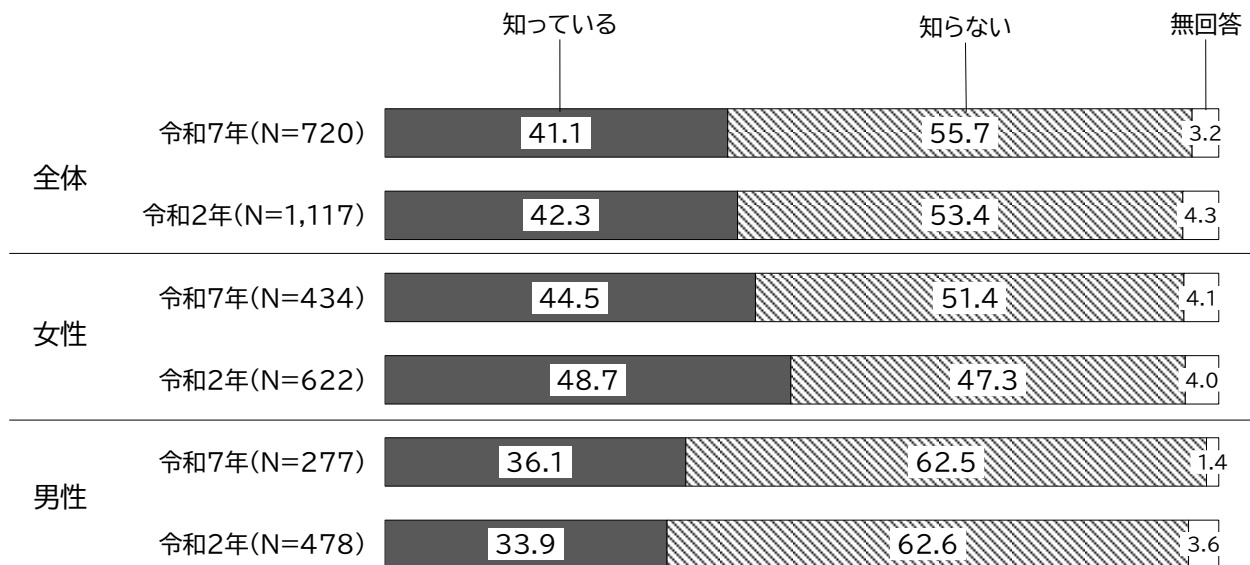
図表 15-1-2 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（性・年代別）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「知っている」は全体(41.1%)では令和2年調査(42.3%)よりも1.2%減っています。性別でみると、女性(44.5%)は令和2年調査(48.7%)よりも4.2%減り、男性(36.1%)は令和2年調査(33.9%)よりも2.2%増えています。(図表15-1-2)

図表 15-1-3 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況
(全体、性別、令和7年・令和2年調査)



(2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向

問 29 葛飾区男女平等推進センターにおいて、あなたが参加または利用してみたいものはどれですか。(○はあてはまるものすべて)

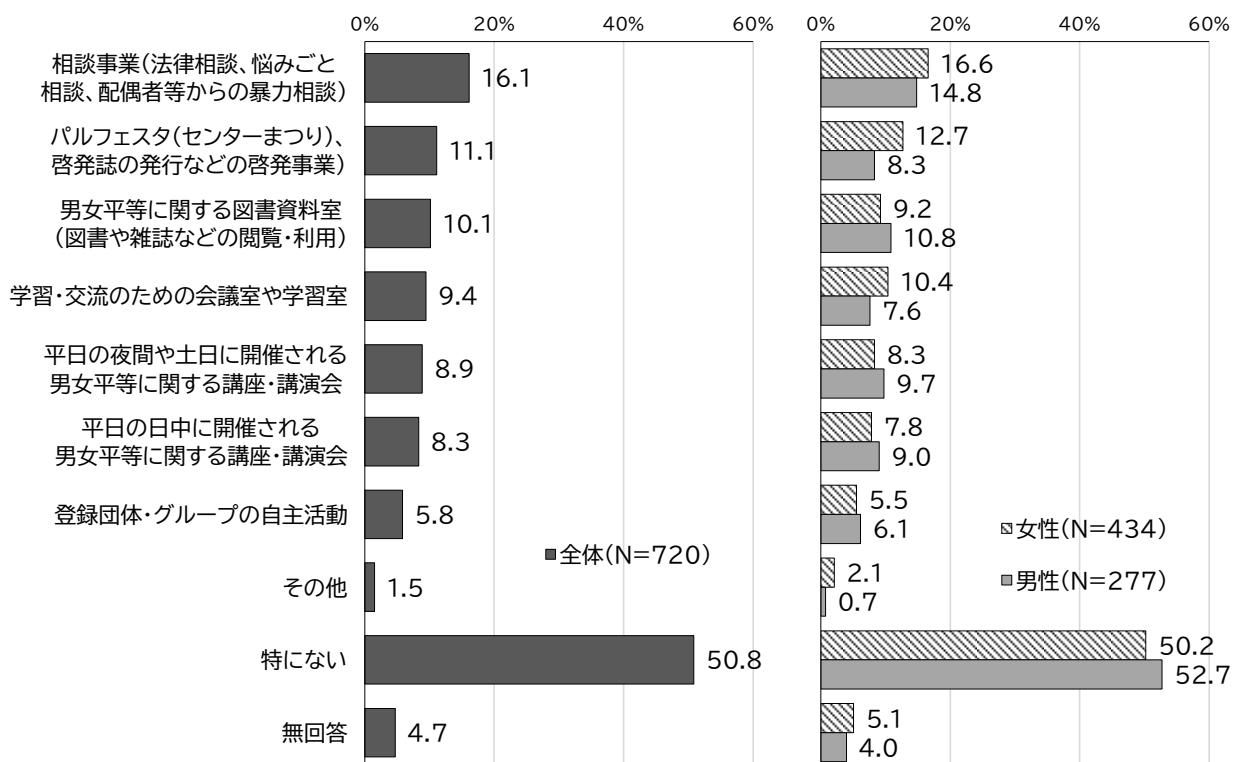
【全体】

全体では、「特にない(50.8%)」が最も多く、「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(16.1%)」、「パルフェスタ(センターまつり)、啓発誌の発行などの啓発事業(11.1%)」「男女平等に関する図書資料室(図書や雑誌などの閲覧・利用など)(10.1%)」が続いています。(図表15-2-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「特にない(女性:50.2%、男性52.7%)」が最も多く、次いで「相談事業(法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談)(女性:16.6%、男性:14.8%)」となっています。(図表15-2-1)

図表 15-2-1 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向（全体、性別：複数回答）

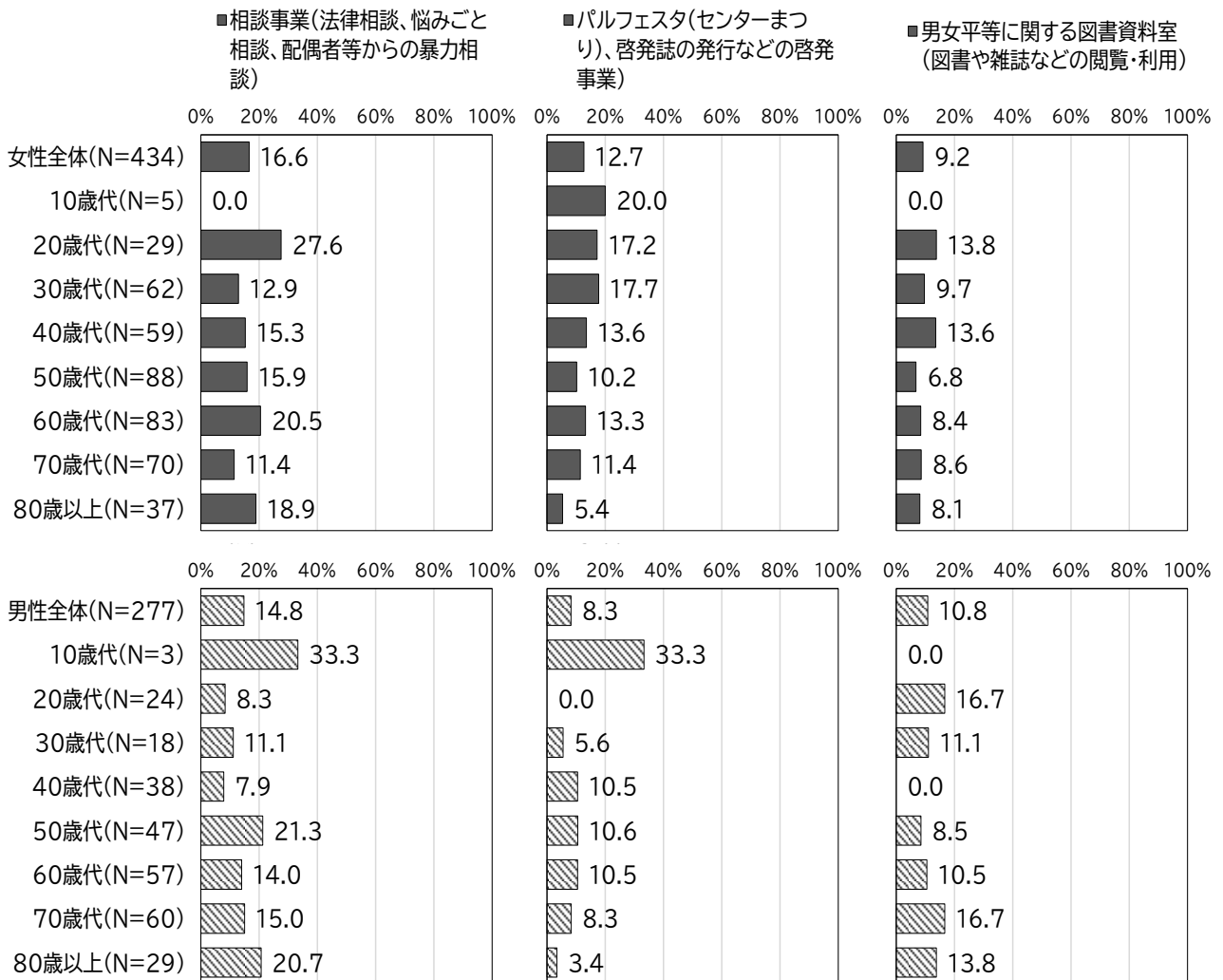


【性別】

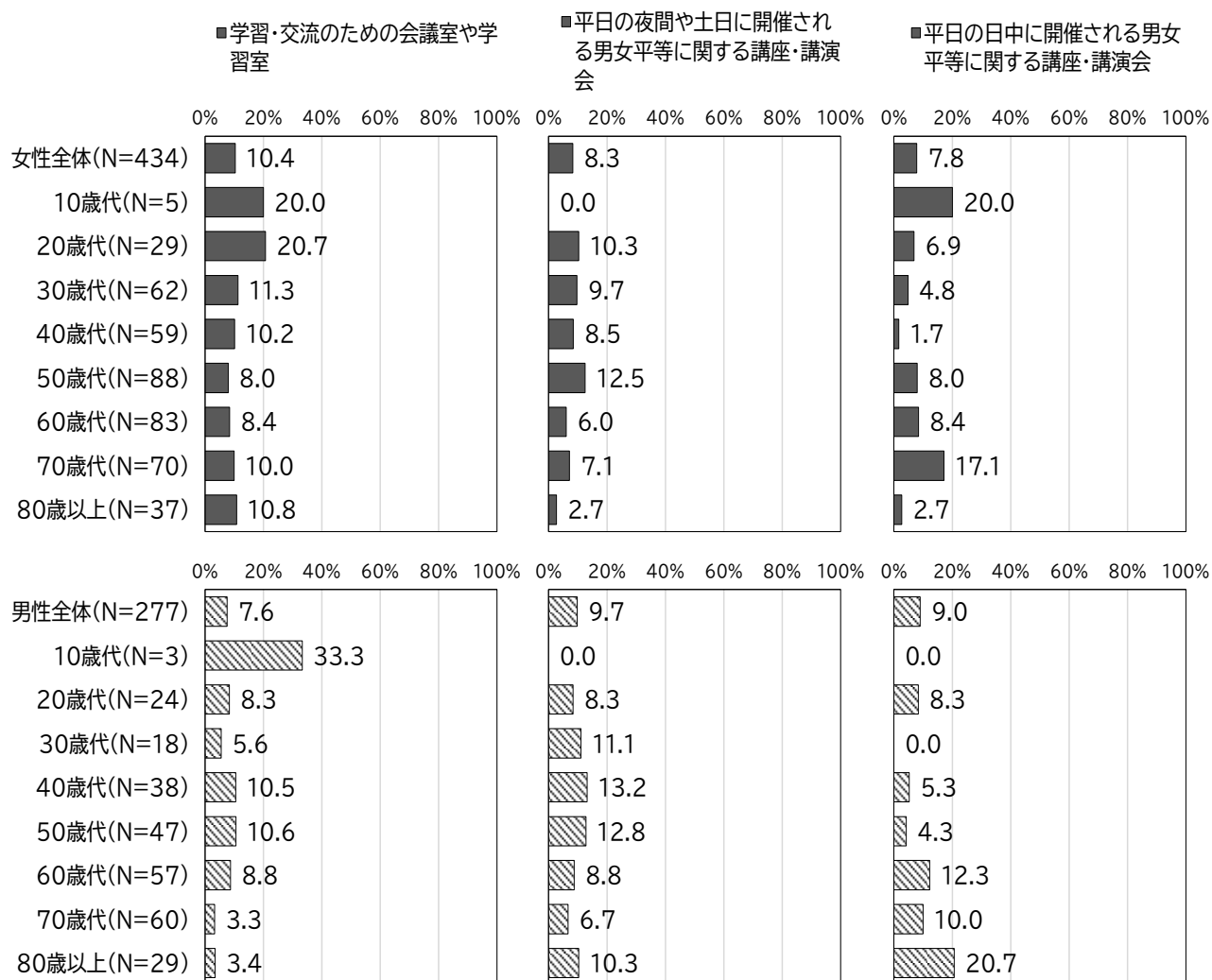
「特にない」を除いた性・年代別にみると、女性は「相談事業（法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談）」が20歳で27.6%、60歳代で20.5%と他の年代に比べて多くなっています。

男性は50歳代、80歳以上で「相談事業（法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談）」がそれぞれ21.3%、20.7%と他の年代に比べて多くなっています。（図表15-2-2-①②）

図表 15-2-2-① 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
（性・年代別、「特にない」を除く上位6項目：複数回答）



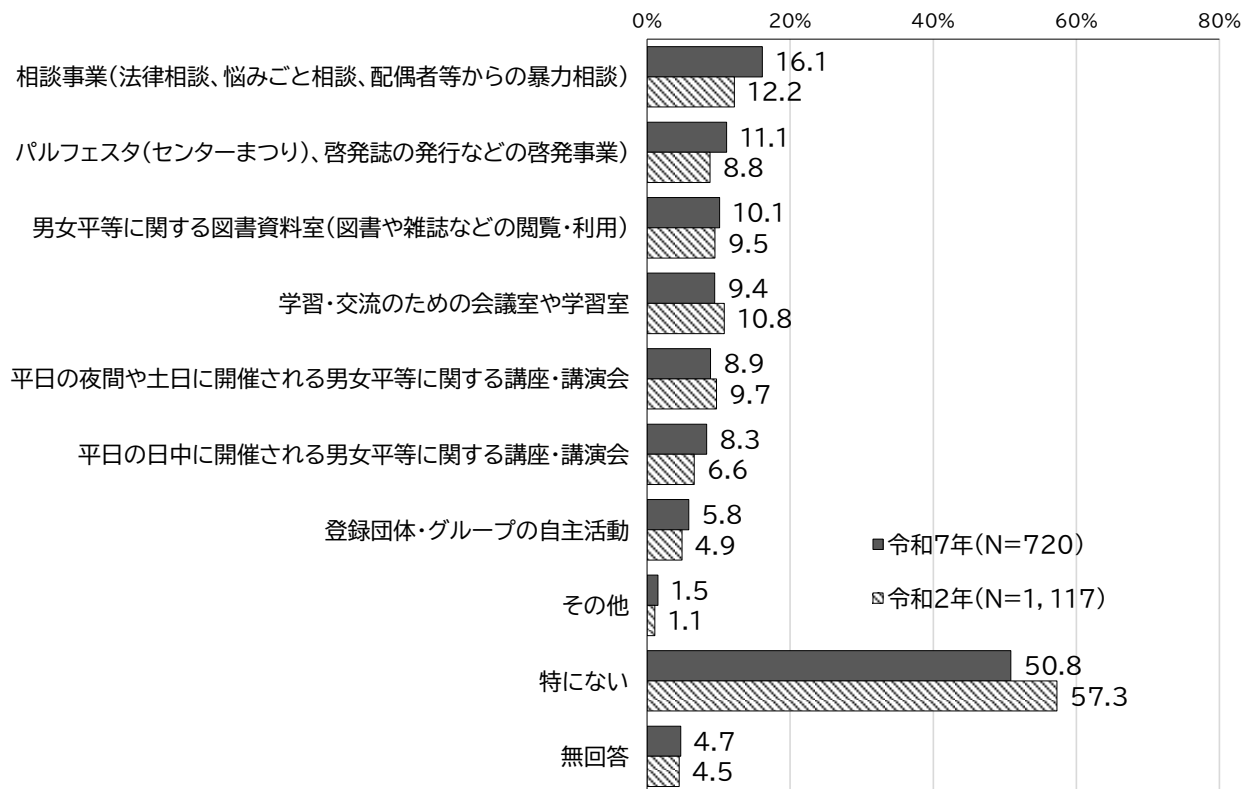
図表 15-2-2-② 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
(性・年代別、「特になし」を除く上位6項目：複数回答)



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、「相談事業（法律相談、悩みごと相談、配偶者等からの暴力相談）」が3.9%増えています。（図表15-2-3）

図表 15-2-3 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



(3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策

問 30 あなたは男女平等社会を実現するために、今後、区ではどのような施策を充実したらよいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

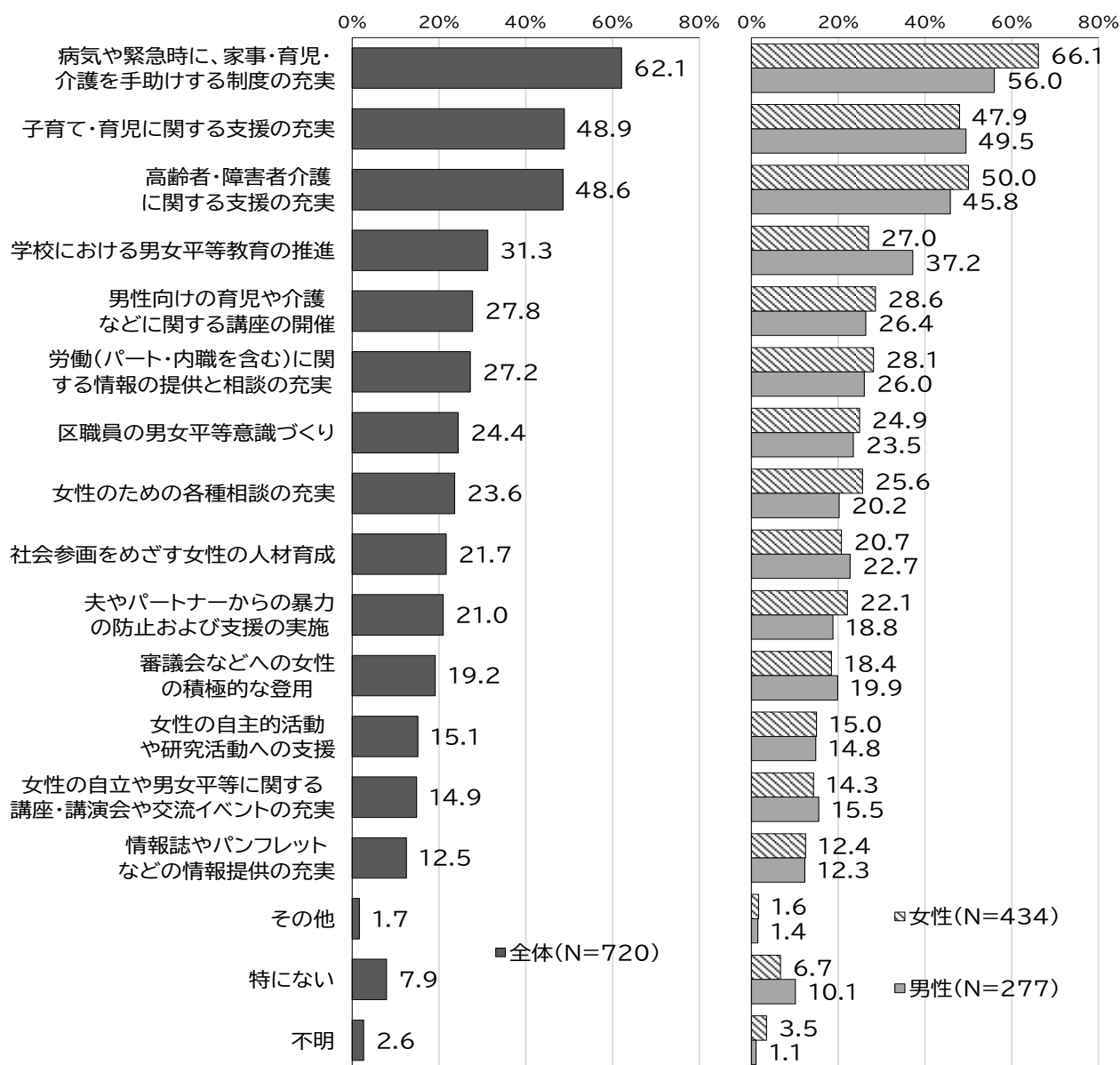
【全体】

全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(62.1%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実(48.9%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(48.6%)」が続いています。(図表15-3-1)

【性別】

性別でみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実(女性:66.1%、男性56.0%)」が最も多く、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(50.0%)」、「子育て・育児に関する支援の充実(47.9%)」が続いています。男性は「子育て・育児に関する支援の充実(49.5%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実(45.8%)」が続いています。(図表15-3-1)

図表 15-3-1 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、性別：複数回答）

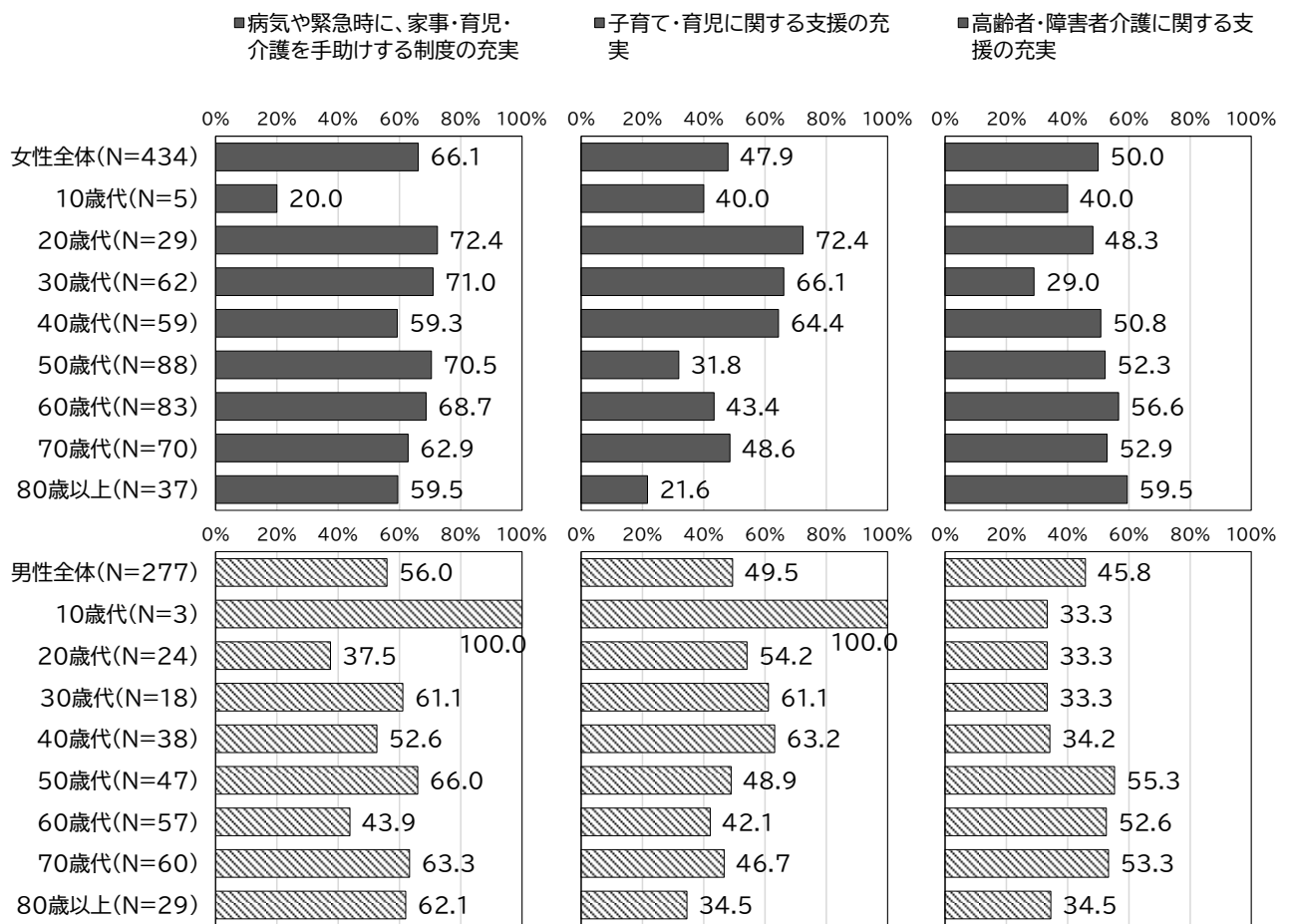


【性・年代別】

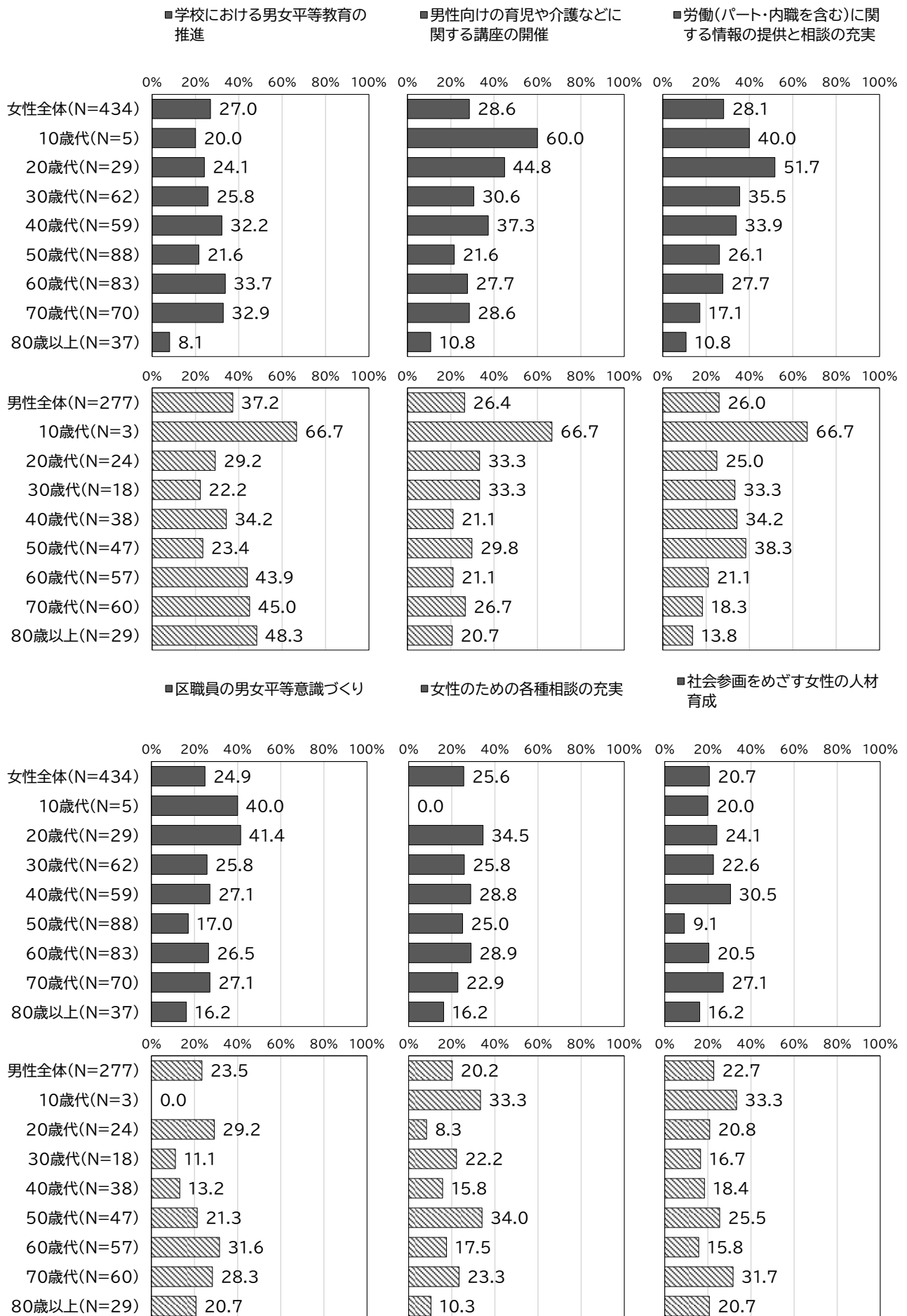
性・年代別にみると、女性は20歳代、30歳代、50歳代で「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」が7割を超えており、特に20歳代は72.4%と多くなっています。また、20歳代から40歳代で「子育て・育児に関する支援の充実」が6割以上となっています。

男性は「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」では30歳代、50歳代、70歳代、80歳以上が6割以上となっており、「子育て・育児に関する支援の充実」では30歳代、40歳代で6割以上で他の年代に比べて多くなっています。(図表15-3-2-①②)

図表 15-3-2-① 男女平等社会実現のために充実すべき施策（性・年代別、上位9項目：複数回答）



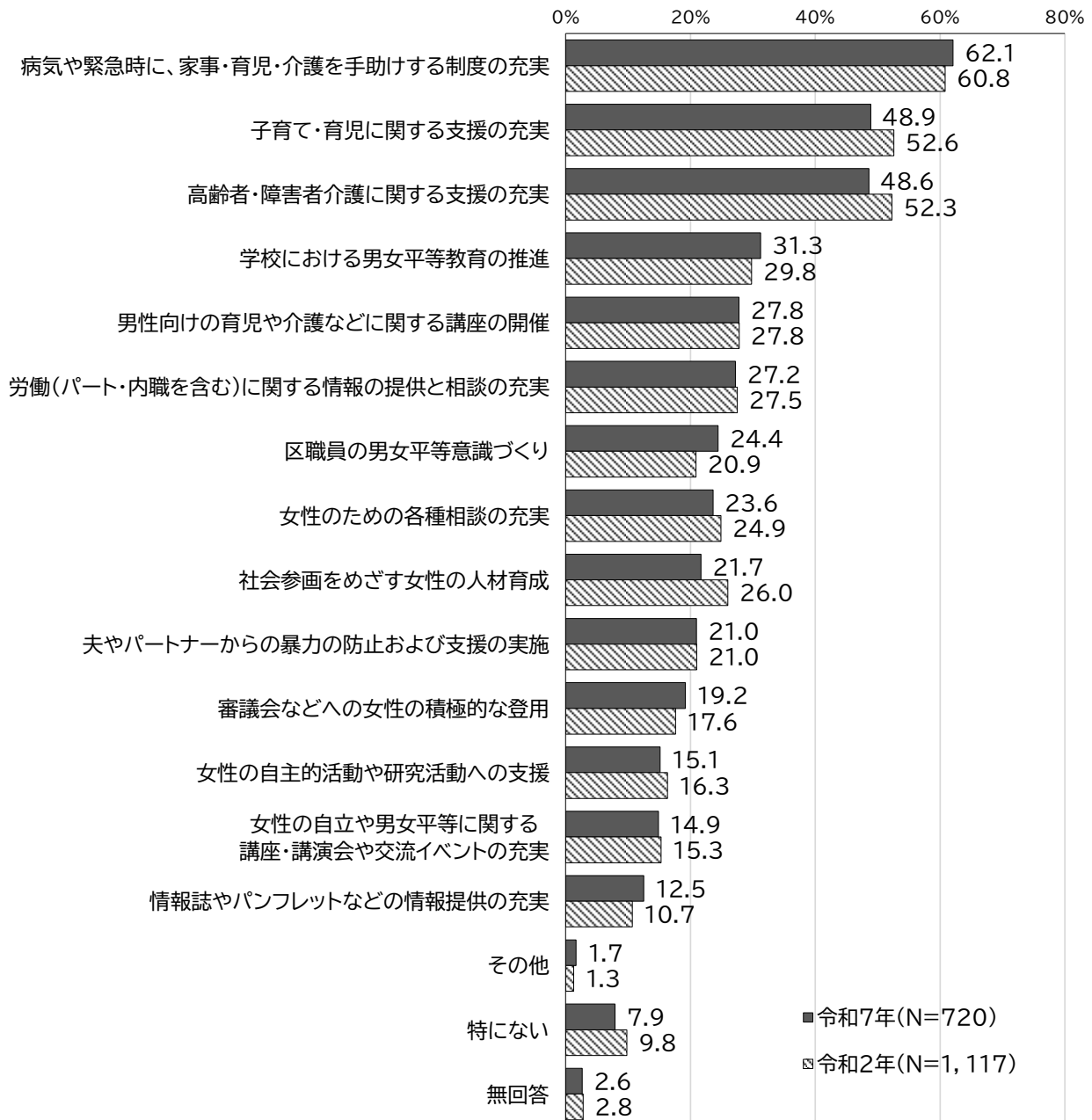
図表 15-3-2-② 男女平等社会実現のために充実すべき施策（性・年代別、上位9項目：複数回答）



【令和2年調査との比較】

令和2年調査と比較すると、令和7年調査、令和2年調査ともに、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」、「子育て・育児に関する支援の充実」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」の3項目が他の項目と比べて多くなっています。(図表15-3-3)

図表 15-3-3 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、令和7年・令和2年調査：複数回答）



16 自由回答

(1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望

問 31 葛飾区の男女平等・共同参画施策全般についてのご意見・ご要望を自由にご記入ください。＜自由回答＞

区の男女平等・共同参画施策全般に対する意見については、149人(女性91人、男性56人、未回答2人)からご回答をいただきました。意見・要望内容について、以下にまとめました。

【意見まとめ】

男女平等の意識・価値観の変化と課題認識

- 「男女平等は当然のこと」「個人の能力が大事」「男女という区分自体が時代遅れ」
- 「男女平等という言葉に違和感」「過剰な平等は逆差別になる」
- 「男女平等は数合わせではなく、機会の平等が重要」
- 「男女平等を言う時点で平等ではない」「女性自身の意識改革も必要」

制度・政策への提案・要望

- 災害時の女性視点を取り入れた避難所運営(衛生管理・情報伝達)
- 第3号被保険者制度の見直し、女性の経済的自立支援
- シニア女性の参画に報酬を出す制度の提案
- 区報やセミナーでの制度周知の強化
- 区の広報物の世帯単位表記の見直し

家庭・子育て・介護に関する意見

- 家事・育児における男性の参加増加とその定着への期待
- 学童保育の不足、始業時間との不一致による退職
- 子育てと仕事の両立困難、保育・学童の充実要望
- 介護と就労の両立支援(制度と職場理解の必要性)

職場・就労に関する課題

- セクハラ・パワハラの経験と意識変革の必要性
- 女性の就労継続の困難さ(体調、育児、制度の不備)
- パート・アルバイトの定義の曖昧さ、就労選択の難しさ
- ワーク・ライフ・バランス設問の分かりにくさ

教育・啓発・情報発信

- 幼少期からの多様性・個人尊重の教育の必要性
- 興味のない人にも届く情報発信の工夫(パンフレット以外の手法)
- 男女平等に関するセミナーや研修の充実
- 区の取り組みが住民に伝わっていないという指摘

高齢者・障害者・弱者への配慮

- 高齢者・障害者への支援強化の要望
- 高齢者の視点からの男女平等への期待と応援
- 福祉窓口での対応に対する不満と改善要望(思いやりの欠如)
- 生活保護受給者への偏見や差別的対応への懸念

多様性・人権・社会全体への視点

- 外国籍住民やLGBTQ+への配慮と共生の必要性
- 社会的弱者への支援と尊重の重要性
- 差別的な風潮や政治的発言への懸念
- 「男社会」や「無意識の偏見」への問題提起

その他、アンケートや行政への意見等

- 設問の表現や選択肢への疑問・改善提案
- アンケート結果の公表希望
- 実態調査の意義や効果に対する懐疑的な意見
- 区の取り組みへの評価と今後への期待
- 区の取り組みへの励ましや感謝の言葉
- 回答を通じて考えるきっかけになったという声
- 「がんばってください」などの激励

第4章 葛飾区男女平等に関する意識と 実態調査票(令和7年度)

